

2007 年度 修 士 論 文

住宅地におけるアクセントカラーの効果分析
Study on effects of the accent colors in residential areas

平松 彩奈
Hiramatsu, Ayana

東京大学大学院新領域創成科学研究科
社会文化環境学専攻

第一章 はじめに

- i 研究の背景・目的
- ii 研究の構成

i 研究の背景・目的



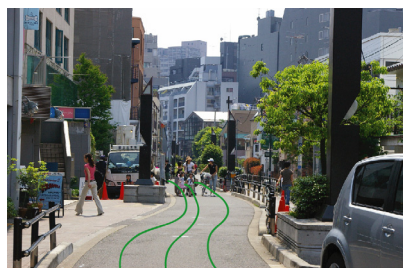
高速道路の高架下



間口が狭く色彩が多様で凹凸が多い下北沢



緑が多く歩道が広い表参道



道が蛇行した渋谷



新宿駅東口の様子

現代の都市において、ヒューマンスケールの欠如が都市に生きる人々を不快にさせている。ヒューマンな空間を形成するために、どのようにしたらよいのか。メディアなどで町歩きの対象として、とりあげられることの多い、5都市を観察してみることにした。

古くから「銀ブラ」と親しまれる銀座、高級ブティックが点在している表参道、ストリートカルチャー中心のまち渋谷、中央線カルチャーの中心地高円寺、サブカルチャーの代表的な都市であり大規模再開発の実施が決定し、反対運動が起こっている下北沢の5つの都市において、「建物の間口が狭い」「歩道が広いまたは車道が歩道化されている」「緑が多い」「色彩が多様である」「建物の凹凸が多い」「道路形状が複雑である（蛇行など）」といった特徴が観察された。これらの特徴のうち、「建物の間口が狭い」「色彩が多様である」「建物の凹凸が多い」「道路形状が複雑である（蛇行など）」は「歩きながら自分が歩いていることを実感できるまち」の創出に関わる特徴であると考えた。そして、これらの特徴がヒューマンな空間を形成する上で重要な要素であると考えた。本研究においては、これらの中から特に、建物の色彩の多様さに注目することにした。なぜなら、色彩心理学という研究領域があることから、色彩は人の心理に訴えやすいと考えたからである。また、建物の色彩を変化させることは形態を変化させることよりも、既存の都市への応用が容易であることも理由の1つである。

観察した5つの都市において見られた「色彩が多様である」という特徴は実は繁華街では比較的多く見られる特徴でもある。例えば、新宿駅東口は大規模な商業ビルが建ち並ぶが、各店舗が看板を目立たせるために多様な色彩を用いている。確かに色彩は多様であるが、この景観を心地よい、あるいはよいと感じている人は少ないはずである。騒色問題と言われ、各地で色彩に関する規制が出来始めていることから、必ずしも多様な色彩が快適な景観をつくるわけではないことが察せられる。

色彩の多様さは、乏しくても過剰であってもよい景観を形成し得ないのである。歩行者がよいと感じる景観を形成するための適切な色彩変化の状態があると考えた。5つの都市における色彩の変化はアクセントカラーとして機能しているが、新宿駅東口などの繁華街における色彩の変化はアクセントカラーとして機能していないのではないかと考えた。

「**アクセント-カラー**【**accent color**】-室内・室外および商品の色彩計画において、主調色であるメインカラーとともに用いられ、メインカラーの効果を強めたり、また補完したりする色のこと。」（「大辞

泉」より)

商業地における屋外広告物が景観評価に与える影響については多数の既存研究がある。「屋外広告物が都市景観の色彩調和・イメージに与える影響」(小柳 参考文献2-⑰)によれば、「景観内で際立った少数の広告物を除去することが色彩の調和度に好評価を与える」としており、全ての色彩を統一する必要性がないことを実証している。また、「公共の色彩を考える会」の一連の研究によれば、屋外広告物を完全に撤去した場合、まちの活気がなくなるとし、ある程度の屋外広告物の存在が快適な景観を形成していることを実証している。このように、商業地においてはある程度の乱雑性や色彩の非統一性がよい景観を形成するとされている。

都市の用途を特定せず、都市の色彩が景観評価に与える影響についての研究は多数存在する。色彩調和や色彩のまとまりに関するものが多い。シーケンスに関する研究ではアクセントカラーや色彩変化について記述したものもあるが、「ある程度の色彩変化がシーケンスをもたらす」といった抽象的な結論に留まっており、シーケンスをもたらす変化量や変化の性質までは検証されていない。

また住宅地を対象とした色彩に関する既存研究は極めて少ない。第3章で詳しく述べるが、住宅地における建築協定や景観条例などの色彩に関する規制の中では、色彩を統一することが美しい景観形成に繋がると記されている。一部アクセントカラーを認めるものもあるが、なければならないに越した事はないといった書き方がされている。その理由には、都市全体としてアクセントカラーをコントロールすることが困難であることが挙げられる。都市から猥雑な空間を排除したいという意思があるようにも考えられる。

「美しい景観を創る会」は自身のホームページ上で「悪い景観100選」なるものを公表している。乱雑、猥雑、テクノスケープ色が強い景観を徹底的に批判している。

日本の住宅地は「景観がよくない」と批判されることが多い。住宅地は住人にとって、最も身近な景観である。アクセントカラーを適切に用いることで、この最も身近な景観がよくなるという仮説の下、色彩の多様さの中から特にアクセントカラーの効果に特化した研究を行うことにした。

ii 研究の構成

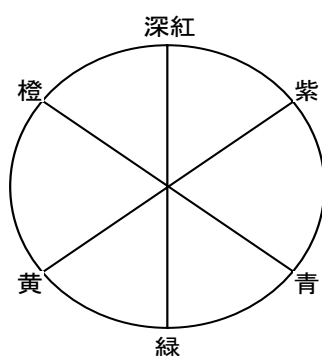
現在の色彩環境設計は色彩調和論に基づいて行われている。そこで、まず第二章では色彩調和論や配色の基本的な理論について文献調査を行った。第三章では日本における色彩計画の歴史を調査し、現在の東京近郊の住宅地における色彩構成に関する調査も行った。それらの結果を踏まえ、第四章では住宅地におけるアクセントカラーの効果を検証する実験を行った。第五章、第六章では第四章の実験結果の分析を行い、最終章では実験結果を踏まえて、住宅地においてよい景観を形成するためにはどのようにしたらよいのか、その手法を提案した。

第二章 色彩に関する既存研究の調査

- i 古典的色彩調和理論
- ii 日本における色彩調和理論の研究
- iii 建築・都市を対象とした色彩研究
 - iv 配色の基本理論
 - v 第二章まとめ

i 古典色彩調和理論

初めて色彩調和理論を唱えた人物はゲーテであると言われている。ゲーテの「色彩論」(1810)の中には「自然人、未開の民族、子どもたちは最高のエネルギーを有する色彩、したがってとくに橙色を非常に好む。彼らはまた雑多な色彩を好む。この雑多な色彩がその最高のエネルギーのまま調和均衡なしに組み合わせられる場合である。しかしこの均衡が本能的あるいは偶然的に守られる場合には、快適な作用が生ずる。」という記述があり、色彩の組み合わせにより快適性が生じるということが述べられている。また、この「色彩論」の中で、補色の残像が現れる現象にも着目している。補色色相を対向位置に配置した彼独自の色相環を用いて、「この色相環は全体として自然に即した仕方で作成されており、ここでもなかなか役に立つのである。というのは、その中で直径上に相対立する色彩は、眼の中で相互に要求し合うものにほかならないからである。そこで黄は紫を、橙は青を、深紅は緑を要求し、またその逆も行われる。このようにあらゆる色調は交互に要求し合い、単純な色彩は複雑な色彩を、複雑な色彩は単純な色彩を要求するのである。」と記している。また、この色相環でひとつおきに2色組み合わせた配色「特徴のある組み合わせ」、色相環でとなり同士の色相による配色を「特徴のない組み合わせ」としている。



ニュートンは「光学」の中で「色の調和および不調和は、音の調和および不調和が空気の振動の比から生ずるように、視神経の繊維を通して脳髄に伝達させられる振動の比から生ずるのではなかろうか？」と記述している。当時、音楽家たちによって音の調和理論が既に体系化されつつあり、色彩は音と比較されていたようだ。しかしながら、色彩は音よりもはるかに複雑で理論化が難しい。ゆえに、色彩調和理論は無数に存在する。その中でも、著名な理論や実際の配色において、よく用いられる理論について記述する。

シュブルール (1786-1889) の調和論は、「色彩調和と同時対比の法則」、「色相とトーンによる調和の概念」が主なもので、調和を「類似の調和」と「対称の調和」の2種類に分類している。「類似の調和」には「同一視着そうで、トーンの違いをつけた配色」、「類似色相を使った類似トーンによる配色」、「色のついたガラス越しに様々な色を眺めたときのような全体が一つの色相に支配された配色」の3つの配色パターンが挙げられている。「対照の調和」には「同一色相を使い、対照的なトーンを使った配色」、「隣接または類似色相を使い、対照的なトーンを使った配色」、「補色色相を使い、対照的なトーンを使った配色」の3つの配色が挙げられている。シュブルールははじめて色立体と調和を組み合わせる本格的な研究を行った人物であ

り、色彩調和論の基礎を築いたとされている。

オストワルトは独自の色立体を完成させた色彩学者として有名である。オストワルトの調和論においては「調和は秩序に等しい」とされ、「W（白）+B（黒）+C（純色）=100%」という概念のもとに「オストワルトシステム」という配色システムにおいて、無彩色である（等価値系列）、等しい純度を持つ（等純系列）、等しい白量を持つ（等白系列）、等しい黒量を持つ（等黒系列）配色の4つの色系列を調和とした。また、ヘリングの心理四原色である赤と緑、黄と青の対を基礎とした24色相からなる色相環を用い、「類似色相調和」、「異色調和」、「反対色の調和」の3つの調和のタイプを挙げた。類似色相調和は色相の差が2～4、異色調和は色相差が6または8、反対色の調和は色相差が12で調和するとしている。

ムーン・スペンサーの調和理論では、色彩調和が定量的に論じられている。実験に基づき、配色を「調和領域」と「不調和領域」に分類した。調和領域には「同一」、「類似」、「対比」の三要素が、不調和領域には「第一曖昧領域」、「第二曖昧領域」、「眩輝」の三要素が定義されている。またムーン・スペンサー「美度」という、美しさを数値で表す尺度を提唱したことでもよく知られている。

1955年にジャッドによって古典色彩調和理論が体系化されている。それによれば、色彩調和は「1.秩序の原理」、「2.なじみの原理」、「3.類似性の原理」、「4.明瞭性の原理」の4つの原理から成るとされている。「1.秩序の原理」は「等間隔性で成り立つ色空間から、秩序のあるまたは単純な幾何学的関係によって選ばれた配色は調和する。」「2.親近性の原理」は「通常見慣れた色の組み合わせはなじみやすい。」「3.共通性の原理」は「構成された配色間にある種の共通性や類似性を持っている配色は調和する。」「4.明白性の原理」は「色があいまいでなく、安定して見える配色は調和する。」という原理である。

また、「マンセル表色系」（1905）でも知られるマンセルは色相、明度、彩度それぞれの属性の視感評価によって色彩の連続変化を等間隔に見えるように尺度化し、その尺度値によってすべての色を表示しようとした。「等歩度性」という「3属性がどの尺度でも隣り合った色同士の差がどの部分でも視感的に均等に感じられるようにできている」という意味の言葉を用い、「それぞれの属性の共通要素の原理」や「知覚的等歩度性」について言及した。3属性のうち、共通する要素が存在していれば、その配色は調和すると述べた。また、「心地よさの感覚はバランスの結果である」と述べ、配色における面積比のつりあいを強調した。色相、彩度が同じときには明度と彩度の尺度値をかけあわせて面積をそれぞれの逆比にとればよく、色

相が異なるときには明度、彩度が同じなら面積を同じにすればよいとしている。色相、彩度が異なる場合は明度と彩度の積が小さい、弱い色ほど面積を大きく、強い色は小面積のアクセントとして用いられればよいとし、アクセントカラーについても言及している。また、マンセルはときにアンバランスな配色が重要になるときもあることを認めている。なお、1943年に発表された「修正マンセル表色系」はJISにも採用されており、マンセル表色系は多くの配色現場において用いられている。

ii 日本における色彩調和理論の研究

西欧では元々色彩調和という概念が社会に定着しているが日本ではそういう訳ではないので、西欧の色彩調和を日本に取り入れてよいのだろうかという疑問を抱き、日本において色彩調和の実験的研究が始められたのは1950年代半ばのことである。

1954～68年、細野尚志ら日本色彩研究所は日本初の色彩の実験的研究を行った。被験者には色彩調和の概念を知っている学生や美術家などが選ばれたが、結果、ムーン・スペンサーの結論やムーン・スペンサーが用いた古典的原理と多くの点で合わないことがわかった。

また1973年に日本色彩研究所が「色彩調和空間に関する総合研究」を行った。950色、136名の被験者データを収集した大規模な研究であった。その結果、色の好みは配色評価に影響するということがわかっている。

ムーン・スペンサーの理論には美度があるが、これを日本において検証した実験もある。1965年に納谷嘉信ほかの研究で、美度と日本人の調和感がどの程度一致するかを調べた。その結果、無関係であったことが報告されている。

色彩調和の一般的な考え方のひとつに「なじみの原理」というのがある。これについては「iv 配色の基本事項」で詳しく記述するが、よく目にする配色を調和していると感じるという原理である。この原理によると、日本人は西欧人と見ている色の環境が異なるので調和していると感じる配色は異なることが推測される。

iii 建築・都市を対象とした色彩研究

建築の分野で色彩の研究がはじまったのは1940年頃である。日本建築学会研究報告を調べてみると「形態・色度と認識距離に就て」(星野昌一 1939)があり、この研究ではオストワルトの色彩調和理論に基づき、都市に存在する色を白明度、色明度などに分け、明度の違いによる認知距離の変化を調べている。ある色とその背景の明度を変化させ、その2色間の距離知覚にどのような影響があるかを調べている。

色彩調和理論に関する研究は1960年頃より色彩調和理論の実証的検討を行った論文が見られはじめる。建築に限った研究ではなく、色彩調和理論に基づいた配色を被験者に見てもらい、調和していると感じるか感じないかを答えてもらう実験などが見られる。また、最近の研究では屋外広告物に焦点をあて、ムーン・スペンサーの色彩調和理論をベースにした都市景観の調和度を定量化しているものもある。(小柳武和 1993 参考文献2-⑰)

色彩が心理に与える影響について研究されはじめたのは1970年頃で、乾正雄らにより心理学の分野では既に頻繁に用いられていたSD法を用いた実験が行われるようになった。以来、建築の内部、外部空間においてSD法を用いた実験が多くの研究で行われている。

現実空間を実験対象としたもの、写真などに加工しカラーシュミレーションした画像を実験対象としたもの、近年ではCGを用いて、二次元の画像や三次元の動画で仮想空間をつくり、それを実験対象としたものがある。どのような色を用いるかの計画が求められるが、ほとんどの研究において古典的な色彩調和理論が用いられている。

多くの研究において色彩を色の三原則である色相、彩度、明度の3要素あるいは色相、トーンの2要素に分解して取り扱っている。なお、トーンは彩度と明度を合わせた概念である。

建築内部の色彩に関する研究では、1970年頃から乾正雄らにより映画館、病院、住宅など様々な空間で色彩が心理に与える影響が調べられている。

近年の都市の色彩に関する研究では、屋外広告物や商業地の外壁を対象としたもの、オフィスビルの外壁を対象としたもの、建物用途を特に定めずに建物の外壁を対象としたものや建物に限らず街路空間を形成する全てを対象としたもの、またデザインガイドラインの有効性を調べたものなどがある。特に色彩の調和や調和の一要素としてのまとまり、目立ち、色の好ましさに着目した研究が多い。

色彩の調和を調べた研究では、商業地において「景観内で際立った少数の広告物を除去することが、色彩の調和度に好影響を与える」という結果が出ている。(小柳武和 1993 参考文献2-⑰) また、

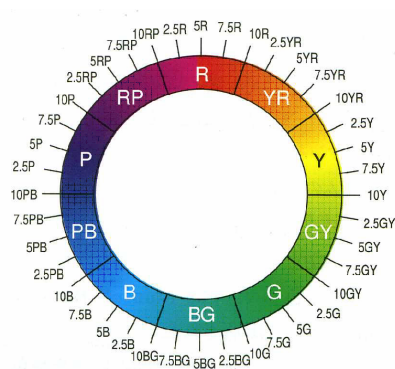
街路を対象とした実験では「調和度は隣り合う建物に色彩に強く影響され、それと色相・明度が近い場合に調和度が高くなる」という結果が出ている。(乾正雄ら 1988 参考文献2-⑬) また、街路景観のデザインガイドラインの有効性を調べた研究では、多くのガイドラインが建物の色彩を統一するよう促しているのに対し「色彩を統一することで、単調さが増す」、「色の均一化に伴い空間の大きさの変化が感じられなくなる」という結果が報告されている。(大野隆造ら 2002 参考文献2-⑫)

まとまりや目立ちを調べた研究では、景観画像を被験者に見てもらい、まとまりを感じる場所や目立ちを感じる場所を画像で示してもらった実験手法が用いられている。実験の結果、「色彩が揃っている」、「遠景」、「カラーイメージのまとまりがある」、「配列からグラデーションやコントラストなどのリズムが生じている」、「景観から連想される街の特徴が一定の街の特徴と一致している」場合にまとまりを感じる実証されている。(木多道宏 1996 参考文献2-④) また、「色彩まとまりは色相がバラけているときに感じられる」(木多道宏 1999 参考文献2-⑥) という結果も導き出されている。目立ちに関しては、屋外広告物や商業地の建築外壁を対象とした実験で「彩度が大きいときに感じられる」、「目立ちは明度の影響が最も大きく、次に彩度の影響が大きい」(稲垣卓造 1993 参考文献2-⑤) という結果が出ている。

好ましさを調べる研究では、用途を特定した建物に対しいくつかの色を着色した画像を提示して、どの色彩が最も好ましいと感じたかを答えてもらう実験が行われている。その結果、「公共性の高い建物には色相 YR、明度7前後、彩度2～6」が、「小学校では高彩度の色」が好まれ、「娯楽性の高い建物では好まれる色相の幅が広がる」という結果が出された。(北本裕之 1993 参考文献2-⑪) 工業地、商業地において色彩調和を調べる実験では「建物用途による差はみられなかった」という結果が出されていたが(稲垣卓造 1993 参考文献2-⑦)、色の好ましさは建物用途の影響を受けることが実証された。

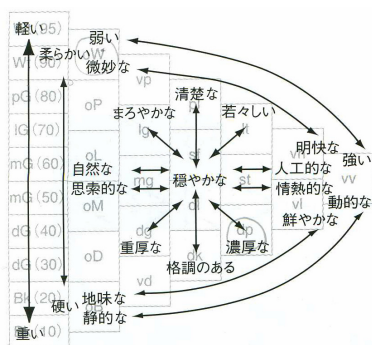
漠然とよい色彩環境とはどのようなものかを調べる研究では SD 法で様々な評定尺度が用いられている。上記のような調和や活動性を調べる実験においても補足的に複数項目の評定尺度が用いられている。これらの実験のほとんどで使用されている形容詞対は「明るい-暗い」、「調和-不調和」、「落ち着く-落ち着かない」、「暖かい-冷たい」、「親しみがある-親しみがない」である。第四章に記した本研究の実験において用いた SD 法の評定尺度はこれらの既存研究を参考にした。

iv 配色の基本理論



マンセル表色系

(参考文献 2-③より引用)



矢印は、トーンの変化によって、次第にそのイメージが増すことを示している

トーン

(参考文献 2-③より引用)

色彩を表す尺度として、最も一般的に用いられているのはマンセル表色系である。「JIS 標準色票」はマンセル表色系を用いている。

マンセル表色系では色を色の3原則である、色相、明度、彩度で表す。色相は赤 (R)、黄 (Y)、緑 (G)、青 (B)、紫 (P) の基本5色相とそれぞれの間色黄赤 (YR)、黄緑 (GY)、青緑 (BG)、青紫 (PB)、赤紫 (RP) をあわせた全10色相を基準に表される。これらの10色相を環状に並べて表したものが色相環である。明度は明るさを示す。最も明るい色が白、最も暗い色が黒でその間を10段階に分割し、0から10の数値で表される。10～8.75が白、2.25～0が黒とされる。一般的に高明度が7以上、中明度が4以上7未満、低明度が4未満とされている。彩度はあざやかさを表す。「同じ明度の無彩色からの隔たりの程度で1、2、3、・・・12、・・・の数値で目盛づけした色記号で表示する」。(参考文献 2-③) 上限に規定はないが、ほぼ14が最高とされている。一般的に高彩度が7以上、中彩度が3以上7未満、低彩度が3未満とされている。

明度と彩度をあわせた概念がトーンで、色の濃さを表す。明度、彩度の代わりにトーンが用いられる場合もある。色相、明度、彩度、トーンは尺度化されており、数値やアルファベットで表される。アルファベットで表す場合が多い。

建築物や洋服、プロダクツなどの配色で一般的に用いられている理論について簡単に記す。

配色には類似系と対称系がある。類似系は配色された色同士が似ているもので、対称系は大きく異なるものである。類似、対称は色の3属性それぞれで決めることができる。

色相差を利用した配色においては類似系に「同一色相の配色」、「隣接色相の配色」、「類似色相の配色」、「見慣れの原理による配色」がある。同一色相はマンセル表色系において色相差0、隣接は1、類似は2～3である。「見慣れの原理による配色」は自然界の光と影によってもたらされる色彩変化を取り入れた配色である。類似系は色がまとまりやすい、色相がもつ感情評価が表現しやすいといった特徴がある。対称系には「中差色相の配色」、「対称色相の配色」、「補色色相の配色」がある。中差色相は色相差3～7の配色でアジアの伝統的な配色である。対称色相は8～10の配色で活動的でダイナミックな印象である。「補色色相の配色」とは色相差が11～12のもので、補色の関係になる配色である。刺激的な印象をもたらす。対称系は統一感を出すためには彩度を揃えればよいといった

特徴がある。

明度差を利用した配色においては、「明度類似系の配色」と「明度対称系の配色」がある。類似系は明度差が1.5程度の配色で軽量感や、硬軟感を表すのに適している。配色の際に生じる境界が曖昧になる。対称系は明度差が2.5以上の配色で明快で力動感が強い印象を与える。

彩度差による配色は「彩度類似系の配色」と「彩度対称系の配色」がある。類似系は彩度差3前後までの配色で統一感を生みやすいといった特徴がある。対称系は彩度差が7以上で明快で調和しやすいといった特徴がある。

これらのよく用いられている配色パターンの中には色彩調和理論で不調和と判断されているものも含まれている。例えば、「色相対称系の配色」の「中差色相の配色」はムーン・スペンサーの色彩調和理論においては「第二の曖昧」と呼ばれる不調和の配色である。しかし、この配色はアジアの伝統的な色使いによく見られるもので、日本、中国、韓国などのお祝いや祭りの色、伝統衣装の色に用いられている。欧米で進化を遂げた色彩調和理論はアジアでは適応されない可能性もあることがわかる。色彩が調和していると感じる、感じないの判断にはその人の育った環境が影響しているという研究報告もあることから、色彩調和理論を日本の都市計画に応用することはもしかすると危険な行為であるかもしれない。

v 第二章まとめ

第二章では建築や都市における色彩に関する既存研究の調査ならびに、それらの多くで用いられている古典的な色彩調和理論について記した。日本における色彩調和の研究結果が西欧のものと不一致なことや、色彩調和理論がアジアの伝統的配色を不調和と判断していることから、色彩調和理論における調和を目指した景観づくりが果たして正しいのかという疑問を抱いた。

既存の都市の色彩に関する研究ではまとも、目立ち、活動性といった都市の特性に焦点を当てたものが多い。そしてこれらの特性の背景には、調和がある。私は調和している、していないに関わらず景観を眺める人がよいと感じる色彩環境を明らかにしたいと考えた。また、色の好ましさを調べる実験で建物用途の影響が出ていることから、漠然と都市景観を対象とするのではなく、都市の性質を特定すべきであると考えた。商業地やオフィス街を対象とした研究は多数存在するが、住宅地を対象としたものはない。ゆえに、住宅地における色彩環境がそれを眺める人に与える影響について調べることにした。

第三章 東京のまちなみの色彩環境

- i 日本における色彩計画の歴史
- ii 東京近郊の住宅地の色彩調査・分析
- iii 第三章まとめ

i 日本における色彩計画の歴史

戦後、日本はアメリカからカラーコンディショニングの概念が導入された。カラーコンディショニングとは、色彩を機能的に用いる手法で主に工場や病院の内装に用いられた。工場では作業効率を高めるために、目にやさしいアイレストグリーンと呼ばれる低彩度の緑色が頻繁に用いられるようになった。病院では手術時に医師が血液の赤を見続けると、その補色であるグリーンが残像として見えてしまうことから、手術室の壁にグリーンが用いられるようになった。



大阪万博のパヴィリオン

(参考文献3-①より引用)

カラーコンディショニングは1960年代半ばから衰退していき、次にスーパーグラフィックが流行した。スーパーグラフィックは建築物に鮮やかな原色を用いて、建築の外壁そのものをグラフィックアートとする手法である。1970年に開催された大阪万博の建築物を見てみると、黄色のパヴィリオンや赤のロープウェイなどスーパーグラフィックが多く用いられていることがわかる。日本においては、このスーパーグラフィックが屋外広告に用いられるようになるが、オイルショックと共に衰退した。

オイルショック以降は白やアースカラーが頻繁に用いられるようになったが商業広告には相変わらず派手な色彩が用いられた。



問題となった都バス

(参考文献3-⑨より引用)

1981年都バスが新しい色に塗り替えられた。派手な色彩塗装をされたバスはすぐに非難の的となる。「騒色」と呼ばれた。この頃、過剰に派手な色彩は景観を悪くすると考えられるようになっていた。スーパーグラフィックも同じく派手な色彩が用いられているが、非難されることなくむしろ高く評価されている。その理由はスーパーグラフィックの色彩が形態と密接に関わり合っているのに対し、都バスは形態に関わりなくまちの中で目立つことを目的とした色彩計画が行われていたことにあるのではないだろうか。

都市計画において、色彩計画が行われるようになったのは1980年代に入ってからと言われている。過剰な商業広告がもたらす騒色という新たな都市公害を解決するために、色彩を規制する動きが見られるようになった。

2004年に景観法が施行されたこともあり、近年景観条例を定めている地域が多い。その中に色彩に関する規制が含まれる場合や、色彩条例が個別に定められている場合が増えてきている。特に、色彩条例は歴史的建造物が多数保全されている地域において積極的に定められた。最近では東京都や市町村レベルでは宮崎市などでも色彩条例が定められている。これらの地域では歴史的景観のある地域だけでなく、どのエリアにも対応している。東京都では、所定の地域に大規模建造物を建設する場合色彩の審査も受けなくてはならない。

全国ではじめて制定された色彩条例である小田原市の色彩条例について詳しく述べる。小田原市は景観法施行を受けて、2005年12月に小田原市景観計画及び景観条例を制定し、翌2006年2月1日に施行した。豊かな自然や宿場町の歴史的なまちなみなどをより活かした景観づくりを目的とした色彩の計画が行われた。「小田原市色彩景観のてびき」によると、建物の低層部やアクセント部分は中彩度色を建物の中高層部や屋根には低彩度色を用い、景観の中になじませるべきだと記されている。アクセントカラーを用いることは認められているが、「面積や場所に十分配慮すること」と記されている。色の三属性である、色相、彩度、明度のうちいずれかもしくは全てを揃えた色彩を用いることで調和した景観をつくることを推奨している。特に、小田原市には暖色系の建物が多いことから、暖色系を用い明度や彩度で色彩の変化をつけることが最もよいとされている。このような考え方を元にして商業地、住宅地などのエリアごとに具体的な好ましい色、避けたい色が挙げられている。また、褪色についても記されており、褪色しやすいパステル系の色を建物の大面積や高層部に用いることを避けるよう促している。

色彩条例の多くがまちの色彩を揃えることを促している。アクセントカラーの存在を容認するものもあるが、アクセントカラーを用いることを積極的に促すものはない。1つの建造物、あるいは一度に開発される都市においては色彩をコントロールしやすいが、個別に建設される建物の集合体としての都市においては、コントロールが困難であるために、奇抜な色彩環境が形成されないよう無難さを求めて、色彩を揃えようと促しているのである。しかし、これでは均一的な色彩環境が形成され、つまらない景観が増えてしまうのではないか。都市の景観に乱雑性を生む装置としてアクセントカラーを取り入れるべきではないかと考えた。

一定の地域で計画的に建物が建設される場合には色彩コントロールが比較的しやすい。集合住宅や新たに開発された戸建て住宅などでは色彩設計が行われたり、建築協定により建物に使用する色が定められていたりする場合がある。



ベルコリーヌ南大沢

色彩設計が行われた集合住宅に「ベルコリーヌ南大沢」がある。南欧の山岳都市のまちなみを再現するというコンセプトを持った集合住宅である。内井昭蔵がマスターアーキテクトと務め、複数の建築家が調整をしながら、担当エリアの設計を行った。この集合住宅では南欧がテーマということで、ベージュがメインカラーで用いられている。屋根や外壁の一部など、所々に濃淡がつけられているが、オレンジ色、茶色などメインカラーと類似する色しか使用され

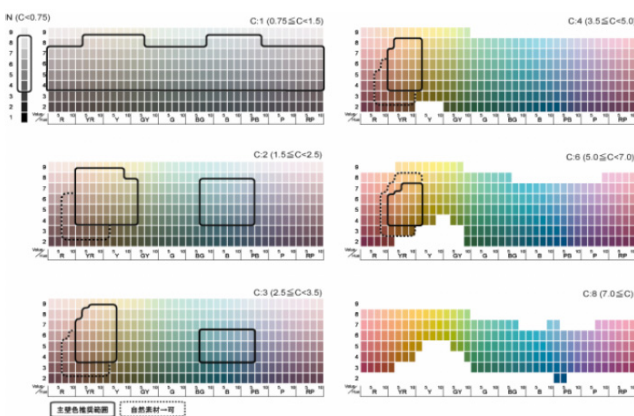
ていない。全体としてのまとまりを強く感じさせる半面、敷地内どこを歩いているのかわからなくなる、建物個々のアイデンティティの希薄さも感じさせる。

建築協定で色彩規制を行っている地域に「コモアしおつ」がある。郊外にある分譲戸建て住宅地で、1991年に販売が開始されている。財団法人日本色彩研究所が屋根、外壁にてそれぞれ推奨色を定めている。建物の塗り替え時に推奨色を使用するよう建築協定で取り決めがある。(推奨色は下図のカラーパレットを参照) この住宅地が自然豊かな郊外に位置していることから、自然と合う落ち着いた色彩が推奨されている。実際にこの地を歩いてみると、確かに落ち着いたが悪く言えば平凡でどこにでもある郊外住宅地という印象を持つ。

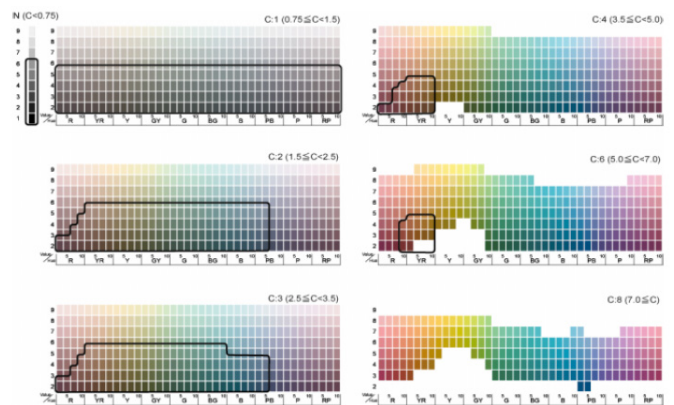


コモアしおつ

<主壁材の推奨色>



<屋根材の推奨色>



(参考文献3-⑩より引用)



東急泉ビレッジ

(参考文献3-①より引用)

個性を持たせた住宅地を目指し、色彩計画が行われた事例に「東急泉ビレッジ」がある。仙台の郊外に位置し1981年に分譲が開始された戸建て住宅地で、人口は6000人程度である。開発当初は和風住宅中心で全体的に無難な色が用いられていたが、住宅の増加に伴い変化の乏しい退屈な景観をつくり出してしまった。そこで、色相に変化を持たせトーンを揃えた色彩を用いる計画が実行された。東急泉ビレッジ内でもいくつかのエリアに分けられており、ショッピングセンターが建つ通りには活気を生み出すことを目的にやや明度、彩度が高い色が用いられ、緑道に面した通りでは落ち着きを出すことを目的に明度、彩度の低い色が用いられた。

色彩設計を意識的に行った事例に川崎臨海部の工業地域がある。川崎市はもともと工業が盛んであるが、工業は公害と結び付けられやすく、あまりよいイメージを持たれなかった。そのあまりよくな

イメージを払拭しようと、工業地域に色彩計画を取り入れることになった。川崎市が作成した臨海部色彩ガイドラインは、「10色相10トーンのためのカラーシステム」が用いられている。10色相10トーンとは吉田慎悟らが推奨している色彩計画手法で、使用してよい色としてマンセル表色系で定められた40色相のうち、マンセルの基本5色相とその中間の色相の10色を定め、この10色相それぞれについて、10のトーンを定める。計100色を系統的に配色していくものである。川崎臨海部では、敷地を更に「一般カラーデザイン地区」、「重点カラーデザイン地区」、「グラフィックデザイン地区」にゾーニングし、各ゾーンで使用する色彩が定められた。

ベルコリーヌ南大沢やコモアしおつでは建物の外壁色のうち特定の部分が目立つことのないように計画されている。東急泉ビレジや川崎臨海部の工業地域では、ある程度特定の部分が目立つことを容認して色彩を調和させるように計画されている。後者の計画に携わった吉田慎悟によれば、調和のつくりかたには3つのパターンがあるという。1つ目は「類似色調和型」である。類似する色彩で統一するものである。2つ目は「色相調和型」で、色相を同一または類似するものだけに限定して使用し、トーンにより変化を持たせるものである。3つ目はトーンを同一または類似するものだけに限定し、色相により変化を持たせるものである。ベルコリーヌ南大沢は色相調和型にあてはまる。コモアしおつ、東急泉ビレジ、川崎臨海部はトーン調和型にあてはまる。しかし、コモアしおつは使用できるトーンの幅が狭く結果的には類似した色彩が多く見られることから類似色調和型に分類されるかもしれない。

歴史的なまちなみを見てみると、建物の色彩が統一されている。類似色調和型に該当する。同じ材料が使用されているから当然と言えば、当然である。歴史的なまちなみを美しいと思う人が多く、歴史的なまちなみに見習って、都市の色彩を揃えようという考え方が蔓延している。しかし、江戸時代の東京の色彩を調べた研究に江戸時代の住宅地は私たちが思っている以上に多様な色彩が用いられていたと報告しているものがある。(参考文献2-①) 日本の建築は開口部が大きい。近代化と共にプライバシーの概念が生じる以前は、街路から住宅の内部が見える状況であった。住宅の内部には色鮮やかな着物や生活用具が置かれ、また建物の外壁にも色鮮やかな広告が張られていたという。果たして建物の色彩を揃えることはよい景観をつくるのだろうか。色彩を統一することは退屈な景観を生み出してしまわないだろうか。現在、都内近郊の住宅地においてどのような色彩環境が形成されているのか調査をすることに



色彩が統一された海野宿のまちなみ

した。

ii 東京近郊の住宅地の色彩調査・分析

① 調査の概要

東京近郊の既存住宅地においてどのような色彩環境が形成されているのかを調べることにした。対象地は東京都中央区月島、東京都杉並区高円寺、東京都調布市調布ヶ丘、千葉県柏市柏の葉、山梨県上野原市コモアしおつの5箇所である。対象地において撮影した写真（使用カメラ：PENTAX istDS レンズ：PENTAX 18-55）を画像の各ピクセルの色彩を認識して、ピクセルの色相・彩度・明度の頻度分布を分析するソフト、「Color Dist View」により解析した。今回は1枚の画像を200×200、計40000ピクセルとして解析した。色の種類は35種類、色相を6種類、明度を3種類、彩度を3種類、トーンを6種類とし、全く同じ色ではなくてもある程度類似している色を同一色と認識するようにした。（表1参照）

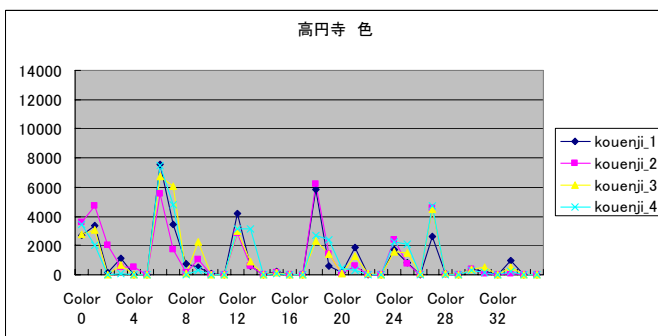
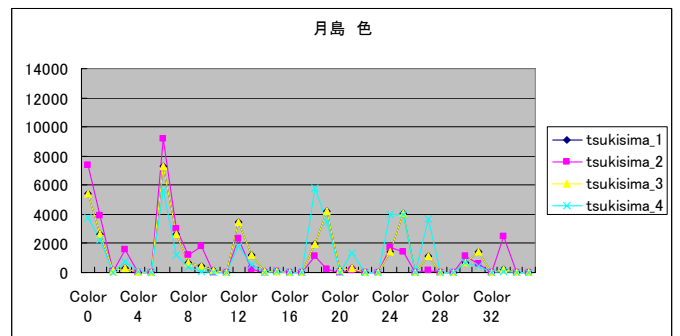
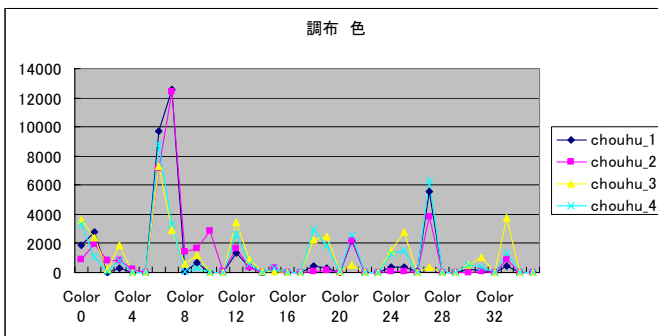
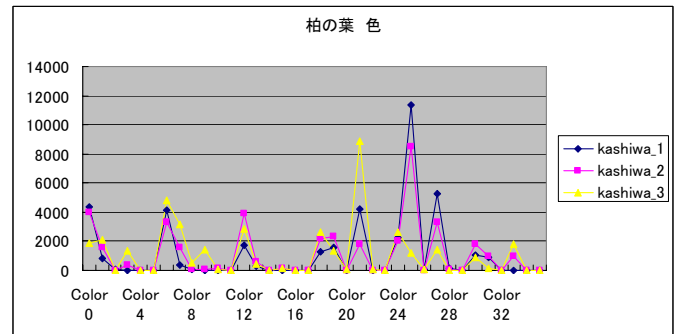
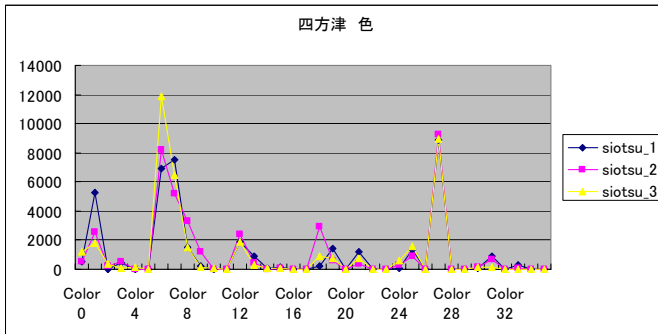
各対象地に対して3～4枚の画像を解析した。画像の選択は私の判断で、対象地を象徴している景観であると感じたものとし、同じような色彩環境の画像が重複しないように配慮した。

ColorNum	HueNum	SaturationNum	ValueNum	SVNum
0	0	0	0	0
1	0	0	1	1
2	0	1	1	2
3	0	0	2	3
4	0	1	2	4
5	0	2	2	5
6	1	0	0	0
7	1	0	1	1
8	1	1	1	2
9	1	0	2	3
10	1	1	2	4
11	1	2	2	5
12	2	0	0	0
13	2	0	1	1
14	2	1	1	2
15	2	0	2	3
16	2	1	2	4
17	2	2	2	5
18	3	0	0	0
19	3	0	1	1
20	3	1	1	2
21	3	0	2	3
22	3	1	2	4
23	3	2	2	5
24	4	0	0	0
25	4	0	1	1
26	4	1	1	2
27	4	0	2	3
28	4	1	2	4
29	4	2	2	5
30	5	0	0	0
31	5	0	1	1
32	5	1	1	2
33	5	0	2	3
34	5	1	2	4
35	5	2	2	5

(表1)

② 結果一色

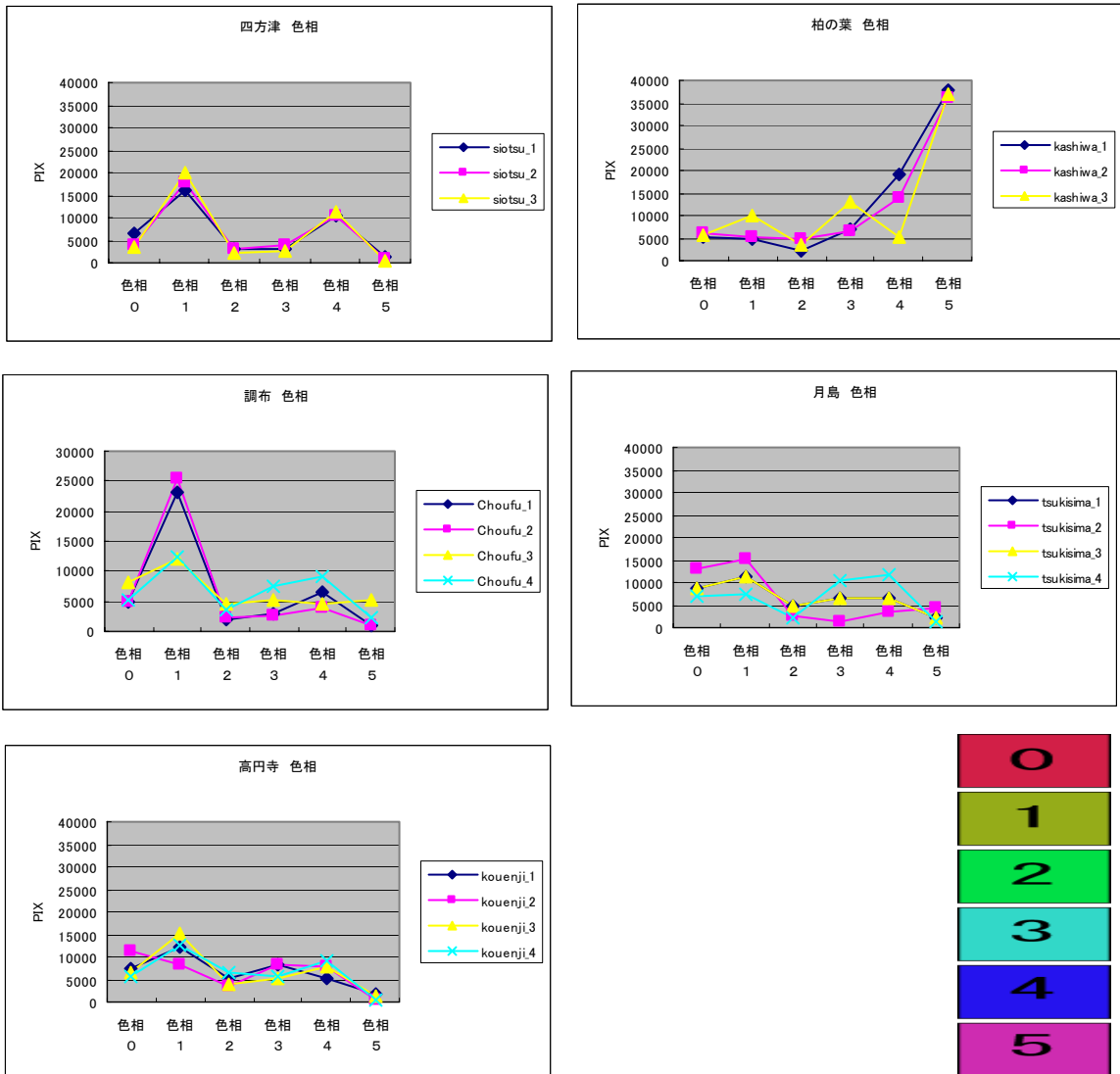
解析結果を色ごとにまとめたものが下図のグラフである。



このグラフは地域ごとに、解析した3～4枚それぞれの画像がどの色のピクセルを何個持っていたかを表したものである。グラフの横軸はカラーナンバーで、右下のカラーパレットに記されたナンバーが対応している。縦軸はピクセル数を表している。全体的にColor6のピクセル数が多い。四方津、調布ではColor27、柏ではColor25も多い。月島、高円寺では色によるピクセル数の差小さく、色々な色が存在していることがわかる。

③ 結果一色相

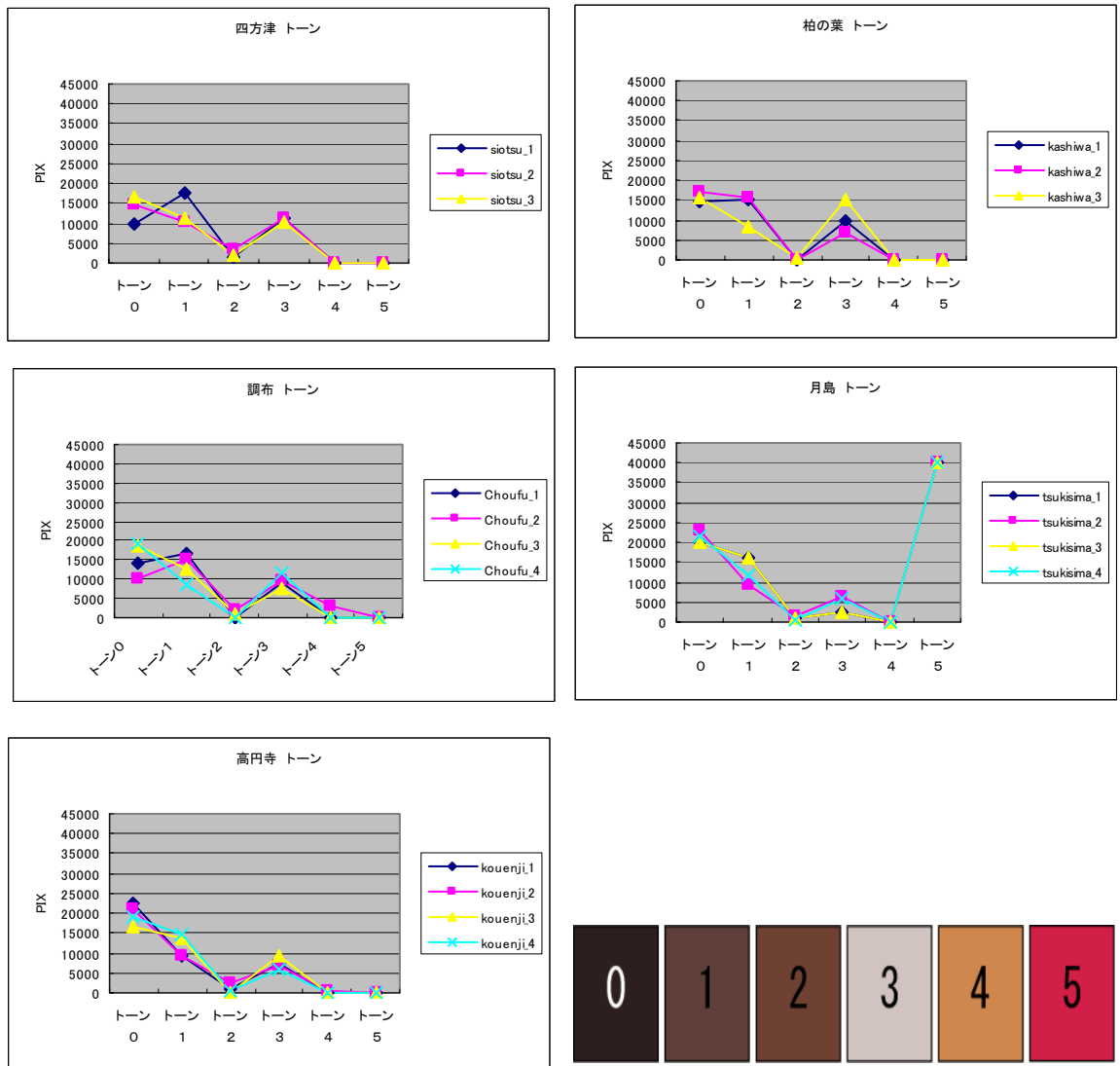
下図は色のうち色相だけを抽出した結果である。グラフの横軸は色相ナンバーを表し、色相ナンバーは右下のカラーパレットと対応している。



四方津、柏では画像による差が極めて小さく、同じ色相が用いられた空間が広がっていることが推測される。また、調布では色相バランスに2つのパターンが見られる。四方津、柏では特定の色相のピクセル数が多い。月島、高円寺では色相別のピクセル数の差が小さく、色々な色相が存在していることがわかる。

④ 結果－トーン

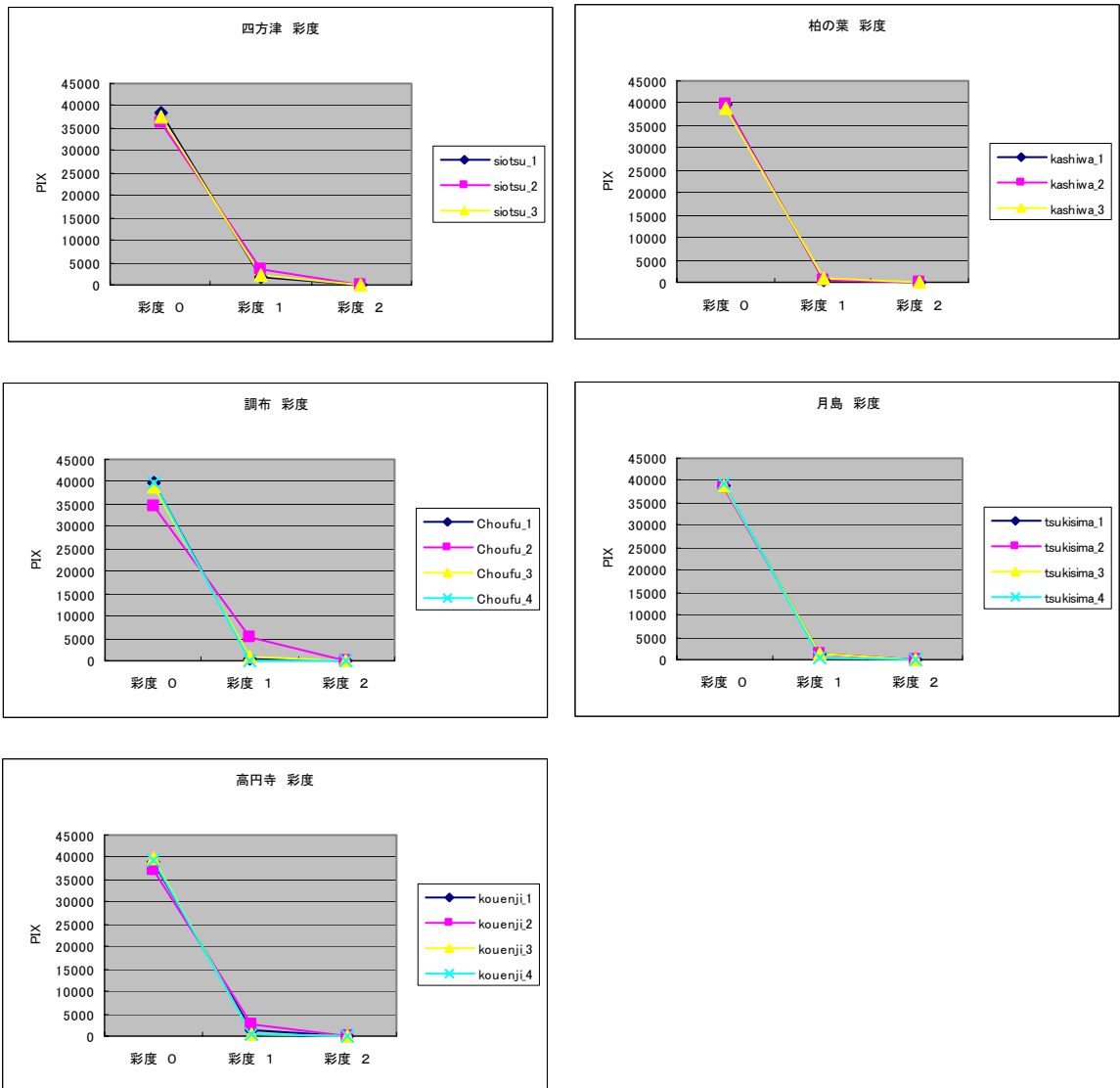
下図は色のトーンだけを抽出した結果である。横軸はトーンナンバーを示し、右下のトーンパレットに対応している。なお、このトーンパレットは色相が赤の場合を表しており、他の色相ではもちろんこの色とは異なるがこのパレットと同じ色の濃さとなる。



柏、調布、高円寺ではトーン0、1、3で大半のピクセル数が占められている。月島のみトーン5のピクセルが存在し、数も多い。

⑤ 結果—彩度

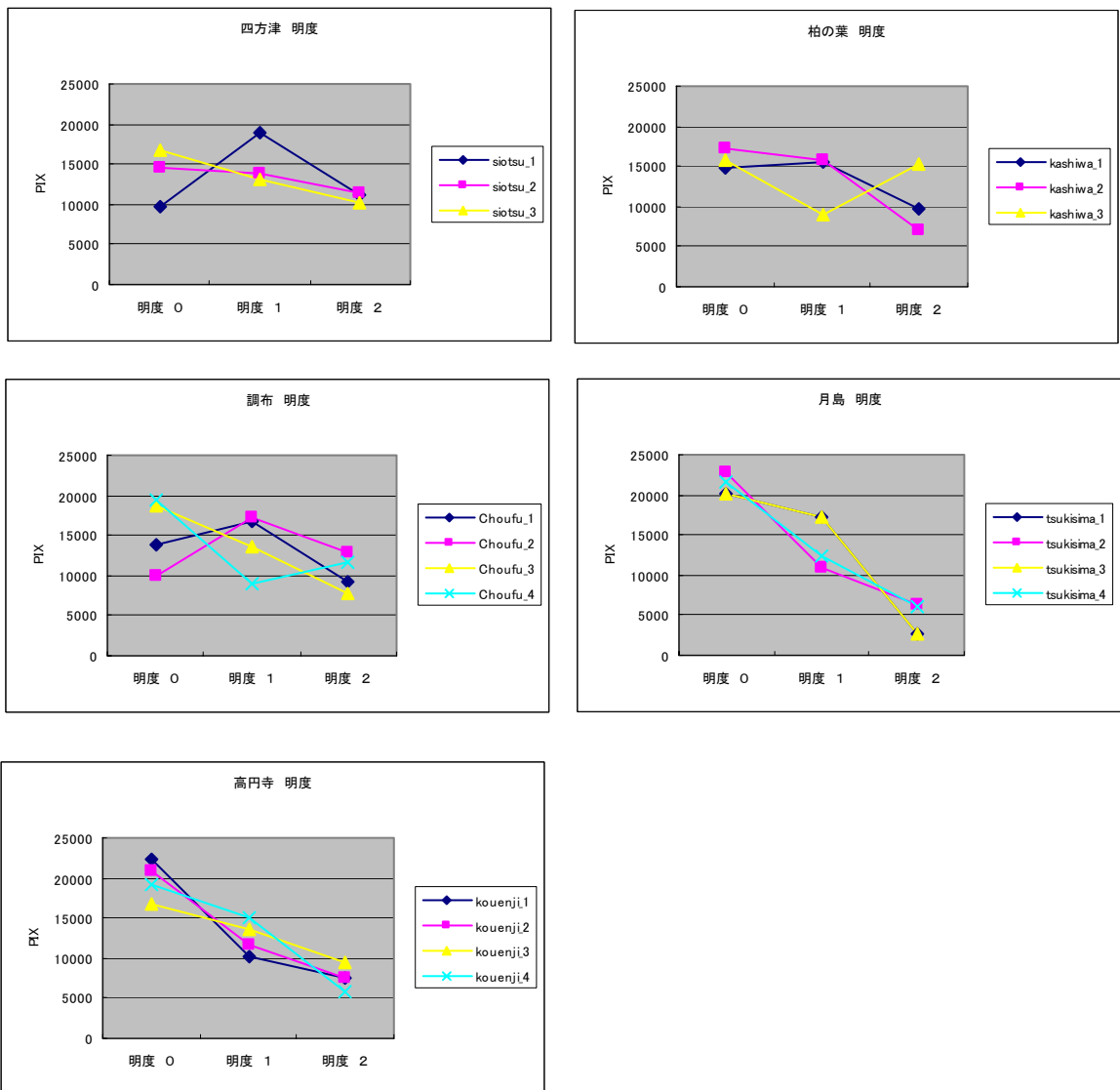
下図はトーンを分解し、彩度だけを抽出した結果である。



彩度に関しては地域による変化が見られなかった。

⑥ 結果—明度

下図は色のトーンを更に分解し、明度だけを抽出した結果である。



四方津、柏、調布では明度によるピクセル数の差が小さく、明度 0、1が多い。また、月島、高円寺では明度によるピクセル数の差が大きく、明度 0 が最も多い。

⑦ 結果一まとめ

四方津では色相の種類が少ない、トーンは0、1、3が多いといった傾向があり、色相が統一され、トーン多様な色彩環境であることが推測される。

柏の葉では色相の種類が少ない、トーンは0、1、3が多いといった傾向があり、四方津と同様、色相が統一され、トーン多様な色彩環境であることが推測される。

調布では色相の種類が少ない、トーンは0、1、3が多いといった傾向があり、四方津、柏の葉と同様に色相が統一され、トーン多様な色彩環境であることが推測される。また、調布では色相の種類が多い、トーンは0、1、3が多いといった傾向を持つ画像もあり、色相、トーン共に多様な色彩環境も存在していることが推測される。

四方津、柏の葉ではコモアしおつ、柏の葉公園住宅というそれぞれ規模の大きい開発型戸建て住宅地で撮影した写真を用いた。調布では、規模の大きい開発型戸建て住宅地がなく、撮影した写真に変化性が見られたと考えられる。

月島では画像による差がある、色相の種類が多い、トーン5が極めて多いがその他のトーンによるピクセル数の差は小さいといった特徴があり、色相は多様でトーンはやや多様といった色彩環境であると考えられる。月島には近年、超高層マンションなどが建ち大規模な開発がされているが、ここでは月島の既存都市の色彩をサンプリングしていることから、画像による差が必ずしも既存市街地と開発地の差とは言い切れない。

高円寺では色相の種類が多い、トーンは0、1、3が多いといった特徴から、色相、トーン共に多様な色彩環境であることが推測される。

色相とトーンで都市の色彩を捉えると、左図のような分類が出来る。多くの色彩条例や建築協定などで最も良い環境とされているのは色彩、トーン共に揃っている環境である(A)。古典的色彩調和理論に基づいて考えられた都市の色彩設計では色相またはトーンいずれかが揃っていることをルールにしていることが多い。左図では緑色に着色した部分がそれにあたり(B、C)、今回の調査対象地では四方津、柏の葉、調布の一部が該当した。条例や協定でも推奨されず、色彩設計でも採用されていない環境が色相、トーン共に揃っていないものである(D)が、これには今回の調査対象地で、月島と高円寺が該当した。では、月島と高円寺には好ましくないまちなみが広がっているのか。両都市が人気の住宅地であることから、そのようには考えにくい。色相、トーン共に揃っていない色彩環境は本当によくないのだろうか。

		色相	
		揃っている	不揃い
トーン	揃っている	ニュータウンの建築協定でもよいとされるまちなみ A	B
	不揃い	調布市 柏の葉公園住宅 コモアしおつ C	月島 高円寺 D

■ 色彩調和論、既存研究、色彩に関する規制などで推奨されているまちなみ

iii 第三章まとめ

第三章では、東京の色彩について色彩計画という概念が生まれてからの歴史を調査し、都市の色彩にどのような影響が起きていたのかを明らかにした。また、東京近郊の住宅地においてどのような色彩環境が形成されているか調査、分析を行い、その結果色彩条例や建築協定が推奨する色彩環境が本当に好ましい景観を生むのかという疑問を抱いた。次章では、実験により本当に好ましい色彩環境とはどのようなものであるのかを明らかにする。

第四章 住宅地におけるアクセントカラーの

効果を検証する実験

1 実験内容

i 実験手法

ii 仮説

iii 実験実施概要

2 結果

i 被験者属性結果

ii 評価結果

- 1 実験内容
 - i 実験手法
 - ① 実験の目的

住宅地におけるアクセントカラーの効果を実験により明らかにする。

- ② 実験方法

住宅地の写真にカラーシミュレーションを施し、被験者に画像を見せ、どのように感じたかを答えてもらう。

- ③ 実験の準備

<実験に用いる画像>

ここで用いた住宅地の写真は東京都調布市の住宅地で撮影したものである。デザイナーズタイプの個性的なデザインの住宅ではなく、また歴史を感じさせる住宅でもなく、どこにでもありそうな建売りの住宅をあえて選んでいる。なぜなら、極力建物形態が与える影響を低くしたいと考えたからである。見慣れた景観の中で色彩だけに変化を持たせることにより、色彩変化がよりダイレクトに被験者の評価に影響すると考えた。

<カラーシミュレーション方法>

実験で用いた全ての画像に同じ写真を使用した。各画像それぞれ3箇所アクセントカラーを着色した。写真の加工にはPhotoshop6.0を用い、カラーシミュレーションのパターンには実験計画法の理論を用いた。「アクセントカラーを着色する部位」、「アクセントカラーの色相」、「アクセントカラーのトーン」、「アクセントカラーの出現場所の規則性」の4つの要因を設けた。静止画像の基調色は、外壁、バルコニーをH(色相)43、S(彩度)21、B(明度)67とした。屋根はH20、S10、B24とした。4つの要因にはそれぞれ2~3の水準を設けた。アクセントカラーを着色する部位は「外壁」、「屋根」、「バルコニー」の3水準、アクセントカラーの色相は基調色と同一色相の「ベージュ」、類似色相の「赤」、対称色相の「青」の3水準、トーンは「基調色と同じ」、「基調色より高い」、「基調色より低い」の3水準、規則性は「なし」、「あり」の2水準とした。色相の「ベージュ」は基調色のHに+0、「赤」は基調色のH-30、「青」は基調色のH+180とし、トーンの「同じ」は基調色のS+0、B+0、「高い」は基調色のS+50、B+60、「低い」は基調色のS+70、B-60とし、不自然な場合には多少の補正を施した。

実験計画法に基づき、これらの4要因2～3水準を2次の交互作用まで検証することを前提とし、27パターンの配色を決定した。(配色パターンはP30の割付表参照)

なお、画像 No.1、No.10、No.19 はアクセントカラーの色相、トーン共に基調色と同じで、アクセントカラーの現れる場所だけが異なるため、実質的にはアクセントカラーがない全く同じ画像となる。そこで、便宜的に画像 No.1 をアクセントカラーがない画像の代表とし、画像 No.10 と No.19 はダミーの画像に差し替えることにした。ダミーの画像は多くの画像を見て、評価する被験者の頭の中をリセットする効果を期待し、他の画像とは形態のことなる住宅の写真を用いている。

A 1 はアクセントカラーを着色する部位が「外壁」、A 2 は「屋根」、A 3 は「バルコニー」、B 1 はアクセントカラーの「色相」が「ベージュ」、B 2 は「赤」、B 3 は「青」、C 1 はアクセントカラーの「トーン」が基調色と「同じ」、C 2 は「高い」、C 3 は「低い」、D 1 はアクセントカラーの出現場所に「規則性」が「なし」、D 2 は「あり」を表す。(実験に用いた画像は付録参照)

(↓割付表)

	部位	色相	トーン	規則性
画像 01	A1	B1	C1	D1
画像 02	A1	B1	C2	D2
画像 03	A1	B1	C3	D1
画像 04	A1	B2	C1	D2
画像 05	A1	B2	C2	D1
画像 06	A1	B2	C3	D1
画像 07	A1	B3	C1	D1
画像 08	A1	B3	C2	D1
画像 09	A1	B3	C3	D2
画像 10	A2	B1	C1	D1
画像 11	A2	B1	C2	D2
画像 12	A2	B1	C3	D1
画像 13	A2	B2	C1	D1
画像 14	A2	B2	C2	D1
画像 15	A2	B2	C3	D2
画像 16	A2	B3	C1	D1
画像 17	A2	B3	C2	D2
画像 18	A2	B3	C3	D1
画像 19	A3	B1	C1	D1
画像 20	A3	B1	C2	D1
画像 21	A3	B1	C3	D2
画像 22	A3	B2	C1	D1
画像 23	A3	B2	C2	D2
画像 24	A3	B2	C3	D1
画像 25	A3	B3	C1	D2
画像 26	A3	B3	C2	D1
画像 27	A3	B3	C3	D1

<SD法>

被験者には全27枚の画像についてそれぞれ下記の項目を6段階で評価してもらった。一般的にSD法では3、5、7など奇数段階で評価してもらうことが多いが、今回は「どちらでもない」という評価をなるべく避けたいと考え、あえて偶数段階で評価してもらった。

楽しい	← (1 2 3 4 5 6) →	つまらない
生活感のある	← (1 2 3 4 5 6) →	生活感のない
住みたい	← (1 2 3 4 5 6) →	住みたくない
癒される	← (1 2 3 4 5 6) →	疲れる
好き	← (1 2 3 4 5 6) →	嫌い
違和感がない	← (1 2 3 4 5 6) →	違和感のある
個性がある	← (1 2 3 4 5 6) →	平凡な
心地よい	← (1 2 3 4 5 6) →	心地悪い
親しみのある	← (1 2 3 4 5 6) →	親しみのない
美しい	← (1 2 3 4 5 6) →	醜い

<実験シート・画像の提示>

下図のような一枚に1つの画像と10の評価項目が印刷されたA4サイズの内紙27シートを一部にまとめ、被験者に渡した。画像を評価する順番は上記の画像No順ではなく、くじびきによって決定し、ランダムになるよう配慮した。



(←実験シート)

<属性に関するアンケート>

画像の評価とは別に、被験者の属性に関するアンケートを行った。質問事項は、年齢、性別、職業、好きな色、好きなまちなみ、居住形態（戸建てか集合住宅か）、戸建て住宅を建てるとしたら何色にしたいか、建築学、都市計画学、色彩学を学んだことがあるかであ

る。(付録参照)

ii 仮説

- ・住宅地においてアクセントカラーを取り入れることにより好ましい景観が形成される
- ・アクセントカラーの出現には規則性がないとよい
- ・基調色とアクセントカラーのトーンは揃っていない方がよい
- ・アクセントカラーは基調色よりトーンが低いとよい
- ・基調色とアクセントカラーは色相が異なるとよい

本実験により以上の4つの仮説を検証する。

iii 実験実施概要

2007年11月20日から29日に、東京大学本郷キャンパスや柏キャンパス、自宅、友人・知人宅などで60名の被験者に実験を依頼し、うち55名分のデータを回収することができた。

被験者には各自のペースで評価してもらった。早い人は10分程度、遅い人は40分程度の時間を要した。

2 結果

i 被験者属性結果

男性32名、女性23名計55名分の回答を得ることができた。被験者の年齢は20歳代が最も多く36名、30歳代は6名、40歳代は1名、50歳代が8名であった。

学習経験に関しては、「あり」、「少しあり」、「なし」の3項目から選んでもらったが色彩学は「あり」と答えた人が3名、「少しあり」が8名、「なし」が44名であった。都市計画学に関しては「あり」と答えた人が19名、「少しあり」が9名、「なし」が27名であった。建築学は「あり」と答えた人が8名、「少しあり」が10名、「なし」が37名であった。環境心理学の実験では、被験者が建築学や都市計画学も学んだ人ばかりになってしまう場合が多く

しばしば批判されているが、今回の実験では建築学、都市計画学、色彩学の全ての項目において、学習経験のない被験者が多く、一般の人データを集めることができた。

好きな色は14色の中から好きな順に1～3色選んでもらった。赤を選んだ人は10名、ピンクは10名、紫は9名、水色11名、青20名、緑10名、黄緑4名、黄は6名、オレンジ7名、ベージュ4名、茶8名、グレー6名、黒は24名、白は17名であった。実験でアクセントカラーとして使用した色はベージュ、赤、青である。好きな色が用いられている画像の評価に影響があるか調べる。

好きなまちなみは19個のまちなみを表す形容詞から該当するものを選択してもらった。複数回答可で1つしか選ばなかった人から9つ選んだ人までいる。回答結果は下図の通りである。

まちなみの特徴	1落ち着いた	2活気のある	3郊外的な	4都会的な	5下町風の	6山手風の	7きれいな	8ごちゃごちゃした	9すっきりした	10歴史を感じる
選択した人数(人)	33	11	10	10	5	8	19	4	13	17
有効回答人数(人)	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
割合(%)	60.0	20.0	18.2	18.2	9.1	14.5	34.5	7.3	23.6	30.9

まちなみの特徴	11ニュータウン	12洋風な	13和風な	14モダンな	15レトロな	16古い	17新しい	18ゆったりした	19密集した
選択した人数(人)	5	5	14	8	11	2	5	18	5
有効回答人数(人)	55	55	55	55	55	55	55	55	55
割合(%)	9.1	9.1	25.5	14.5	20.0	3.6	9.1	32.7	9.1

ii 評価結果

被験者にはダミー画像2枚を含む、全27枚の画像について、各10項目の形容詞対を6段階で評価してもらった。画像により評価が分かれた被験者は55名中51名であった。残る4名はダミーの画像も含めた27枚について全く同じ評価をしていた。4名の内2名にヒアリングを行ったところ、建売住宅はどれも同じに見えるという。色彩の変化が全ての人に影響するわけではないことが明らかとなった。しかしながら、55名中51名、92%の被験者が色彩の変化により評価を変化させていることから、都市において色彩コントロールを行うことは有効であると言える。

この実験では、色彩が心理に与える影響を調べているため、以後の分析では、どの画像に対しても同じ評価をした4名分のデータを除いた51名分のデータを用いる。

iii 第四章まとめ

第四章では住宅地におけるアクセントカラーの効果を調べる実験を行った。次章では結果を分析していく。

第五章 実験結果の分析

ー全被験者のデータを用いた分析ー

- i 要因別の分散分析
- ii 評価項目の相関関係
- iii 評価項目の因子分析
- iv 因子ごとの分析ー住宅地の景観に望まれる因子ー
 - v 仮説の検証
 - vi まとめ

有効な被験者 51 名分のデータを用いて各評価項目について分散分析を行った。結果は以下の通りである。

i 要因別の分散分析

① 要因別の結果 - 「違和感がない」

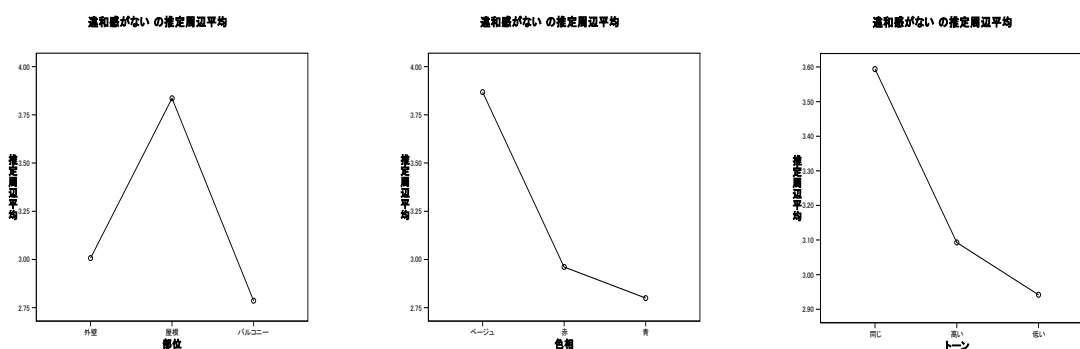
被験者間効果の検定

従属変数: 違和感がない

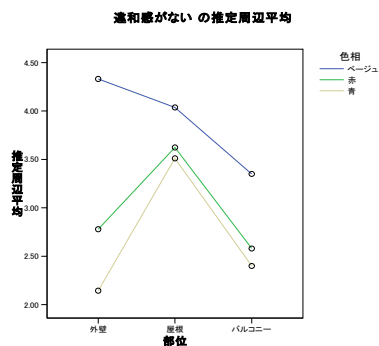
ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	986.722 ^a	25	39.469	24.927	.000
切片	12439.010	1	12439.010	7856.093	.000
部位 * 色相	91.564	4	22.891	14.457	.000
部位 * トーン	84.939	4	21.235	13.411	.000
部位 * 規則性	33.044	2	16.522	10.435	.000
色相 * トーン	19.188	4	4.797	3.030	.017
色相 * 規則性	27.606	2	13.803	8.718	.000
トーン * 規則性	1.501	2	.751	.474	.623
部位	170.400	2	85.200	53.810	.000
色相	294.220	2	147.110	92.910	.000
トーン	75.551	2	37.775	23.858	.000
規則性	2.393	1	2.393	1.511	.219
誤差	2129.617	1345	1.583		
総和	17231.000	1371			
修正総和	3116.338	1370			

a. R2乗 = .317 (調整済みR2乗 = .304)

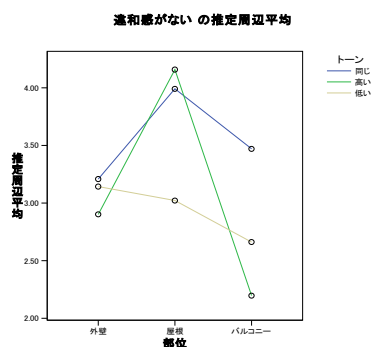
「部位」「色相」「トーン」と「部位*色相」「部位*トーン」「部位*規則性」「色相*規則性」が1%未満で有意だった。「色相*トーン」が5%未満で有意だった。



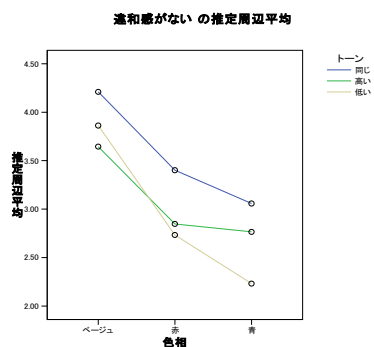
「部位」では「屋根」が最もよい評価で、次が「外壁」、最も評価が低かったのが「バルコニー」であった。「色相」では基調色と同じ「ベージュ」が最もよい評価でついで類似色相である「赤」、最も評価が低かったのが対称色相である「青」となった。「トーン」に関しては基調色と「同じ」が最も高い評価で、「高い」、「低い」間には有意な差が見られなかった。



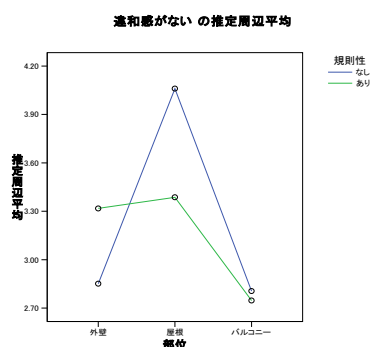
「部位*色相」は「部位」と「色相」の交互作用である。「外壁*ベージュ」が最も高い評価で次いで「屋根」を含むものが高い評価となった。「外壁」では評価値が「ベージュ」>「赤」>「青」。「屋根」では「ベージュ」が高い評価で、「赤」と「青」の間では有意な差が見られなくなった。「バルコニー」でも「屋根」と同様の結果となっている。また、色相ごとに見てみると、「ベージュ」では「外壁」>「屋根」>「バルコニー」となっており、部位単体での「屋根」>「外壁」>バルコニーと比較すると、「外壁」と「屋根」が逆転している。「赤」と「青」では「屋根」が高い評価で、「外壁」と「バルコニー」では有意な差が見られなかった。



「部位*トーン」は「屋根*同じ」、「屋根*高い」が最も高い評価を得た。最下位が「バルコニー*高い」であった。部位ごとに見ていくと、「外壁」では有意な差が見られなかった。「屋根」ではトーンが「同じ」、「高い」が高い評価となった。「バルコニー」では「同じ」>「低い」>「高い」となった。トーン単体では「同じ」>異なるという結果であったが、「バルコニー」ではトーンの「高い」、「低い」の差が有意となっている。トーンごとに見ると、「同じ」、「高い」では「屋根」が最も高い評価で、「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。トーンが「低い」では、「外壁」>「バルコニー」という結果となり、「外壁」、「屋根」と「屋根」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。

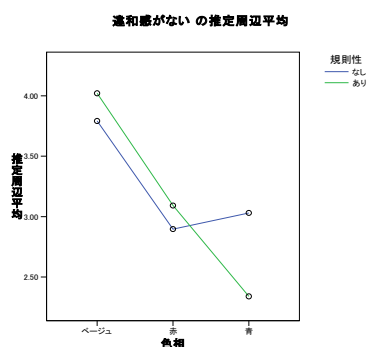


「色相*トーン」は「ベージュ*同じ」、「ベージュ*低い」が最も高い評価を得た。次いで「ベージュ*高い」、その次は「赤*同じ」、「青*同じ」、最下位は「青*低い」であった。色相ごとに見ると、「ベージュ」ではトーンが「同じ」>「高い」という結果になった。「低い」は「同じ」とも「高い」とも有意な差が見られなかった。「赤」では、「同じ」が高い評価となり、「低い」、「高い」では有意な差が見られなかった。「青」では「同じ」、「高い」が高い評価で「低い」の評価が低いという結果になった。トーン単体の結果と比較すると、「赤」は同じ結果であるが、「青」では「高い」「低い」の差が有意となった。トーンごとに見ると、「同じ」、「高い」では「ベージュ」が最も高い評価で「赤」と「青」では有意な差が見られなかった。「低い」では「ベージュ」>「赤」>「青」となり、色相単体の結果と同じになった。



「部位*規則性」では「屋根*なし」が最も高い評価を得た。次いで「外壁*あり」、「屋根*あり」であった。部位単体では「屋根」

> 「外壁」 > 「バルコニー」であったが、規則性が「あり」の場合においては、「外壁」と「屋根」の差異が、規則性が「なし」の場合においては「外壁」と「バルコニー」の差異がなくなることがわかった。また、規則性は単体では有意な差がみられなかったが、部位と組み合わせることにより、「屋根」、「外壁」の場合において評価に影響があることがわかった。「外壁」では「あり」 > 「なし」、「屋根」では「なし」 > 「あり」という結果になった。



「色相*規則性」では、「ベージュ*なし」、「ベージュ*あり」が最もよい評価となり、最下位が「青*あり」であった。色相の「ベージュ」 > 「赤」 > 「青」と比較すると、規則性が「なし」の場合、「赤」と「青」の差異がなくなっている。「ベージュ」、「赤」では規則性の影響が見られないが、「青」では規則性がない方が高い評価となった。

② 要因別の結果 - 「楽しい」

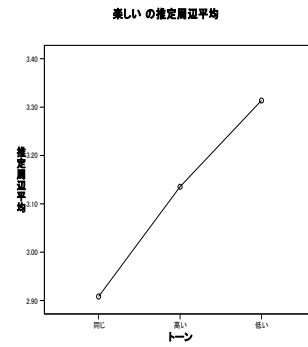
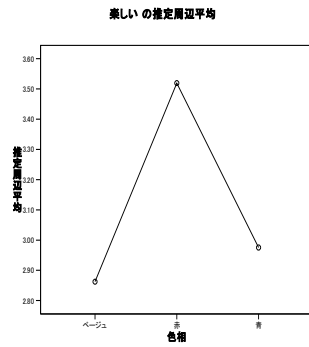
被験者間効果の検定

従属変数: 楽しい

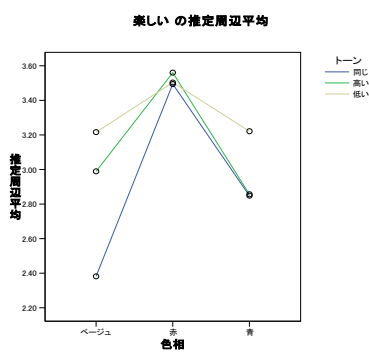
ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	204.592 ^a	25	8.184	7.153	.000
切片	11855.263	1	11855.263	10362.766	.000
部位 * 色相	10.992	4	2.748	2.402	.048
部位 * トーン	3.832	4	.958	.837	.501
部位 * 規則性	1.704	2	.852	.745	.475
色相 * トーン	18.639	4	4.660	4.073	.003
色相 * 規則性	6.198	2	3.099	2.709	.067
トーン * 規則性	6.291	2	3.146	2.750	.064
部位	3.016	2	1.508	1.318	.268
色相	90.320	2	45.160	39.475	.000
トーン	30.194	2	15.097	13.197	.000
規則性	2.487	1	2.487	2.174	.141
誤差	1538.714	1345	1.144		
総和	15211.000	1371			
修正総和	1743.306	1370			

a. R2乗 = .117 (調整済みR2乗 = .101)

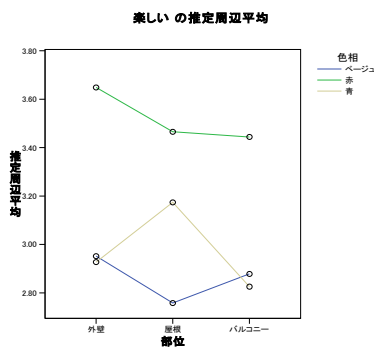
「色相」「トーン」「色相*トーン」が1%未満で「部位*色相」が5%未満で有意だった。



「色相」は「赤」の評価が最も高かった。「青」、「ベージュ」間には有意な差が見られなかった。「トーン」は「高い」と「低い」が「同じ」よりも高い評価となった。



「色相*トーン」では「赤」やトーンが「低い」ものが全体的に高い評価を得た。「ベージュ*同じ」が大きな差をつけて、最も低い評価であった。色相ごとに見てみると、「ベージュ」は「高い」、「低い」が高い評価を得た。「赤」は「トーン」に有意な差が見られなかった。「青」は「低い」が最も高い評価で「同じ」、「高い」では有意な差が見られなかった。「トーン」ごとに見てみると「同じ」、「高い」では「赤」が最も高い評価で「ベージュ」、「青」では有意な差が見られなかった。「低い」では「色相」の有意な差が見られなかった。



「部位*色相」では全体的に「赤」が高い評価となった。部位ごとに見ると、「外壁」は「赤」が最も高い評価で「青」、「ベージュ」では有意な差が見られなかった、「屋根」は「赤」、「青」が高い評価で「ベージュ」が低い評価となった。「バルコニー」は「赤」が最も高い評価で「青」、「ベージュ」では有意な差が見られなかった。色相ごとに見ると、どの色相においても有意な差が見られなかった。

③ 要因別の結果 - 「個性がある」

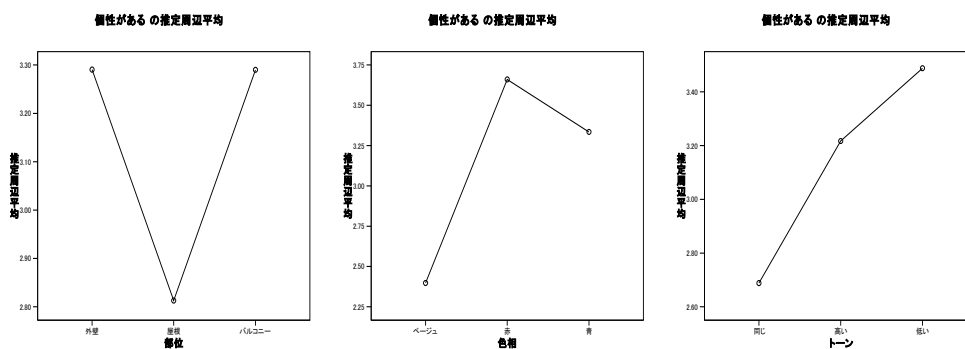
被験者間効果の検定

従属変数: 個性がある

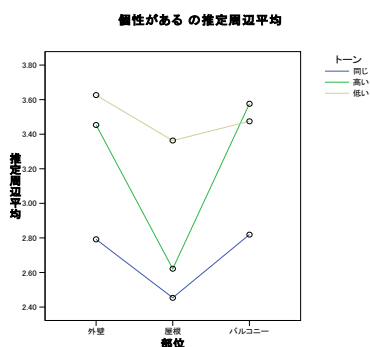
ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	790.106 ^a	25	31.604	24.393	.000
切片	11947.018	1	11947.018	9221.198	.000
部位 * 色相	8.184	4	2.046	1.579	.177
部位 * トーン	25.031	4	6.258	4.830	.001
部位 * 規則性	19.341	2	9.671	7.464	.001
色相 * トーン	32.101	4	8.025	6.194	.000
色相 * 規則性	3.587	2	1.793	1.384	.251
トーン * 規則性	16.361	2	8.180	6.314	.002
部位	55.470	2	27.735	21.407	.000
色相	314.067	2	157.034	121.205	.000
トーン	121.081	2	60.540	46.727	.000
規則性	1.467	1	1.467	1.132	.287
誤差	1742.587	1345	1.296		
総和	16082.000	1371			
修正総和	2532.693	1370			

a. R2乗 = .312 (調整済みR2乗 = .299)

「部位」「色相」「トーン」と「部位*トーン」「色相*トーン」「部位*規則性」「トーン*規則性」が1%未満で有意だった。

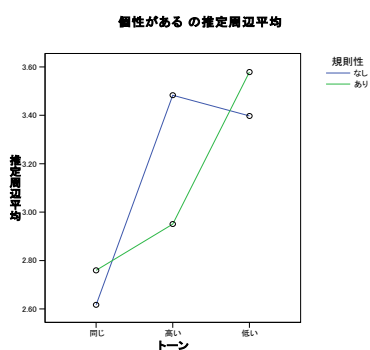
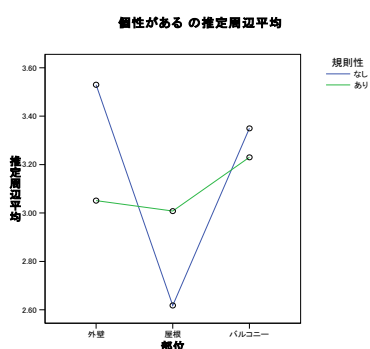
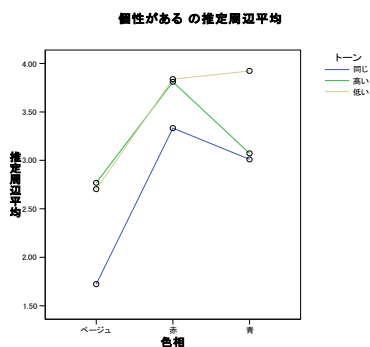


「部位」は「外壁」と「バルコニー」が高い評価で「屋根」が低い評価であった。「色相」は「赤」>「青」>「ベージュ」の順であった。「トーン」は「低い」>「高い」>「同じ」であった。



「部位*トーン」は「トーン」が「低い」ものが高い評価となった。「部位」ごとに見てみると、「外壁」と「バルコニー」では「高い」と「低い」が高い評価、「同じ」が低い評価となった。「屋根」では「低い」が高い評価、「高い」、「同じ」が低い評価となった。「トーン」単体の結果と比較すると、「高い」の評価に変化が見られる。「トーン」ごとに見てみると、「トーン」が「同じ」、「低い」では「部位」による有意な差が見られなかった。「高い」では「外壁」、「バルコニー」の評価が高く、「屋根」の評価が低く、「部位」単体と同じ結果となった。

「色相*トーン」では、「青*低い」、「赤*低い」、「赤*高い」が高い評価を得た。「色相」ごとに見ると「ベージュ」、「赤」では「高い」、「低い」が高い評価で「同じ」が低い評価となった。「青」では「低い」が最も高い評価で「同じ」、「高い」が低い評価となった。「トーン」単独の結果と比較すると、「高い」の評価が多少変化することがわかる。「トーン」ごとに見ると、「同じ」、「低い」では「赤」、「青」が高い評価、「ベージュ」が低い評価となっている。「高い」では「赤」が最も高い評価で「青」、「ベージュ」が低い評価となった。「色相」単独の結果と比較すると、「赤」、「青」の評価が変化することがわかる。



「部位*規則性」は「屋根*なし」が他と大きな差をつけて、低い評価となった。「部位」ごとにみると「外壁」では「なし」が「あり」より高い評価となった。「屋根」では「あり」が「なし」より高い評価、バルコニーでは有意な差はみられなかった。「規則性」が「なし」では、「外壁」と「バルコニー」が高い評価で「屋根」が低い評価で、「部位」単独の結果と同じになった。「あり」では有意な差が見られなかった。

「トーン*規則性」では、「高い*なし」、「低い*なし」、「低い*あり」が高い評価となり、「トーン」が「同じ」ものが最も低い評価となった。「トーン」で見ると、「同じ」、「低い」では有意な差が見られなかったが、「高い」では「なし」が「あり」を大きく上回る評価を得た。「規則性」「なし」では「高い」、「低い」が高い評価で「同じ」が低い評価となった。「あり」では「低い」が最も高い評価で、「高い」、「同じ」では有意な差は見られなかった。この結果から、「トーン」が高い場合には「規則性」の影響が現れると言える。

④ 要因別の結果 - 「好き」

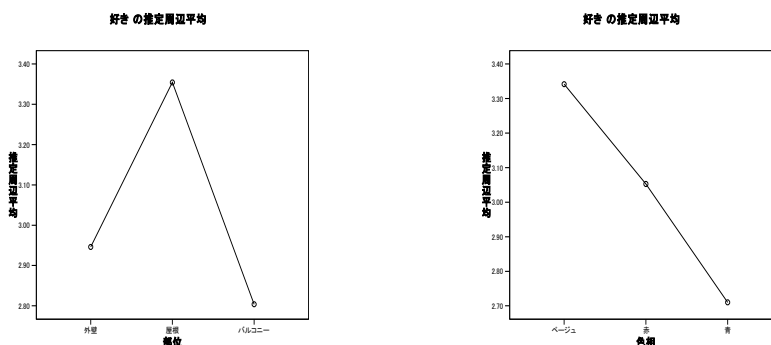
被験者間効果の検定

従属変数: 好き

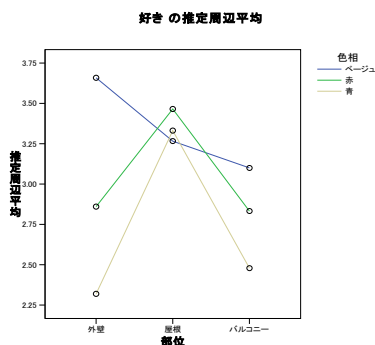
ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	313.042 ^a	25	12.522	8.793	.000
切片	11223.102	1	11223.102	7880.966	.000
部位 * 色相	58.875	4	14.719	10.336	.000
部位 * トーン	30.059	4	7.515	5.277	.000
部位 * 規則性	9.105	2	4.553	3.197	.041
色相 * トーン	17.632	4	4.408	3.095	.015
色相 * 規則性	20.706	2	10.353	7.270	.001
トーン * 規則性	1.641	2	.821	.576	.562
部位	59.602	2	29.801	20.927	.000
色相	72.958	2	36.479	25.616	.000
トーン	8.264	2	4.132	2.901	.055
規則性	3.157	1	3.157	2.217	.137
誤差	1915.384	1345	1.424		
総和	14991.000	1371			
修正総和	2228.426	1370			

a. R2乗 = .140 (調整済みR2乗 = .125)

「部位」、「色相」、「部位 * 色相」、「部位 * トーン」、「色相 * 規則性」が 1%未満で「色相 * トーン」、「部位 * 規則性」が 5%未満で有意だった。

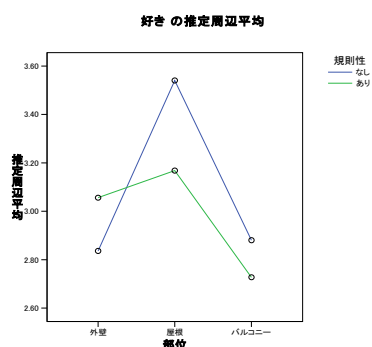
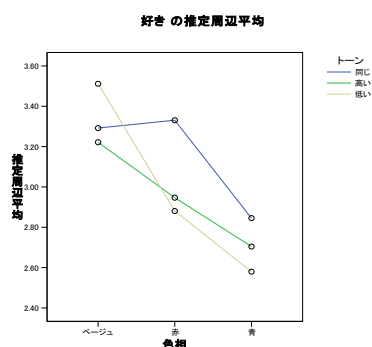
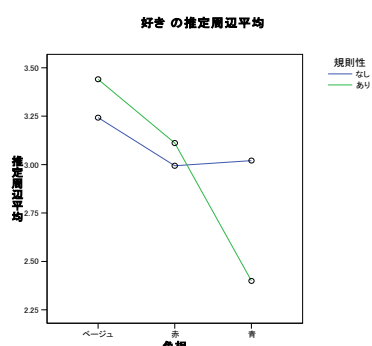
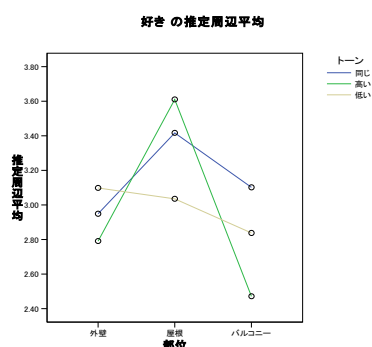


「部位」では「屋根」が最も高い評価で、「外壁」、「バルコニー」では有意な差は見られなかった。「色相」では「ベージュ」 > 「赤」 > 「青」の順であった。



「部位 * 色相」では「外壁 * ベージュ」が最も高い評価であった。次いで「屋根」を含むものが高い評価となっている。「部位」ごとに見ると、「外壁」は「ベージュ」 > 「赤」 > 「青」となり、「色相」単独の結果と同じになった。「屋根」では有意な差が見られなかった。「バルコニー」は「ベージュ」 > 「青」となり、「ベージュ」と「赤」、「ベージュ」と「青」では有意な差が見られなかった。「色相」ごとに見ると「ベージュ」は「外壁」が最も高い評価で「屋根」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「赤」、「青」では「屋根」が最も高い評価で「外壁」、「バルコニー」では有意な差

が見られなかった。



「部位*トーン」では「屋根」が全体的に高い評価となった。「部位」ごとにみると、「外壁」では有意な差が見られなかった。「屋根」「高い」>「低い」、「バルコニー」は「同じ」>「高い」という結果になった。「トーン」単独では有意な差が見られなかったが、「部位」との交互作用では「屋根」、「バルコニー」において影響が見られた。「トーン」ごとに見ると、「同じ」では「屋根」と「バルコニー」が高い評価、「外壁」が低い評価となった。「高い」では「屋根」が高い評価で「外壁」、「バルコニー」が低い評価となった。「低い」では有意な差が見られなかった。「高い」では「部位」単独と同じ結果になったが、「低い」では「バルコニー」と「屋根」の差がなくなっている。

「色相*規則性」は「ベージュ」が高い評価となった。「色相」ごとに見ると、「ベージュ」、「赤」では有意な差が見られなかった。「青」では「なし」が「あり」より高い評価を得た。「規則性」は「なし」で有意な差が見られなかったが「あり」では「ベージュ」と「赤」が「青」より高い評価となった。「規則性」だけでは有意な差が見られなかったが、「色相」が「青」の場合においては影響が見られた。また、「規則性」が「なし」の場合「色相」の影響がなくなり、「あり」の場合は「ベージュ」と「赤」の差がなくなった。

「色相*トーン」は全体的に「ベージュ」を含むもの、「赤*同じ」が高い評価となった。「色相」ごとに見ると「ベージュ」、「青」では有意な差が見られなかった。「赤」では「同じ」>「低い」という結果になった。「トーン」ごとでは「同じ」の場合「ベージュ」、「赤」が「青」を上回る、「高い」では「ベージュ」>「青」、「低い」では「ベージュ」が「赤」、「青」を上回る結果となった。「トーン」だけでは有意な差が見られなかったが、「赤」では影響が現れた。

「部位*規則性」は「屋根*なし」が最も高い評価となった。「部位」ごとに見ると、「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「屋根」は「なし」>「あり」となった。「規則性」が「なし」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価、「あり」は「外壁」、「屋根」が「バルコニー」よりも高い評価となった。「規則性」は単独では有意な差が見られなかったが、「屋根」の場

合には影響を及ぼすことがわかった。また、「規則性」のあるなしにより、「外壁」の評価に影響が出ることがわかった。

⑤ 要因別の結果 - 「住みたい」

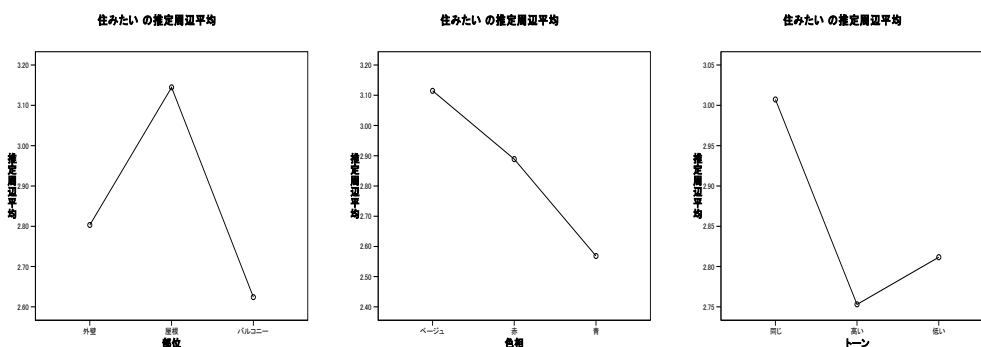
被験者間効果の検定

従属変数: 住みたい

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	303.664 ^a	25	12.147	8.831	.000
切片	9949.257	1	9949.257	7233.514	.000
部位	51.038	2	25.519	18.553	.000
色相	55.038	2	27.519	20.007	.000
トーン	12.966	2	6.483	4.713	.009
規則性	1.746	1	1.746	1.269	.260
部位 * 色相	61.601	4	15.400	11.197	.000
部位 * トーン	38.486	4	9.622	6.995	.000
部位 * 規則性	10.619	2	5.310	3.860	.021
色相 * トーン	14.365	4	3.591	2.611	.034
色相 * 規則性	17.166	2	8.583	6.240	.002
トーン * 規則性	3.025	2	1.512	1.100	.333
誤差	1849.965	1345	1.375		
総和	13442.000	1371			
修正総和	2153.629	1370			

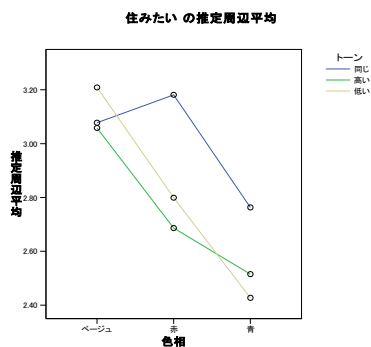
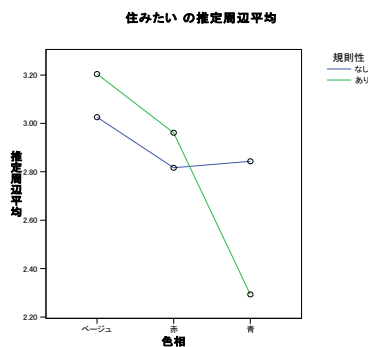
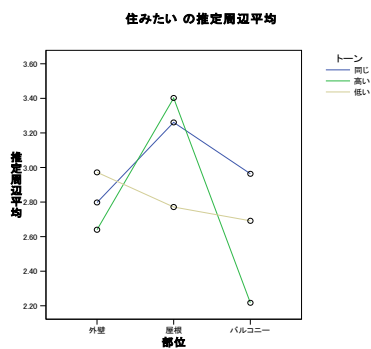
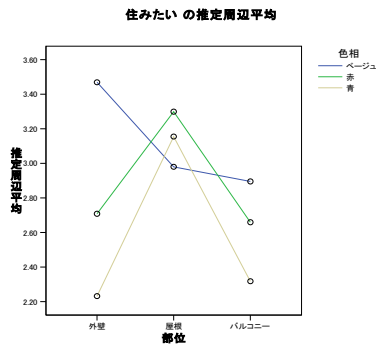
a. R2乗 = .141 (調整済みR2乗 = .125)

「部位」、「色相」、「トーン」、「部位 * 色相」、「部位 * トーン」、「色相 * 規則性」が 1%未満で「色相 * トーン」、「部位 * 規則性」が 5%未満で有意だった。



「部位」では「屋根」が最も高い評価で、「外壁」、「バルコニー」では有意な差は見られなかった。「色相」では「ベージュ」 > 「赤」 > 「青」の順であった。「トーン」では「同じ」 > 「高い」であった。

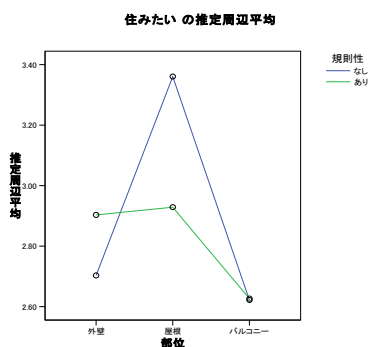
「部位*色相」では「外壁*ベージュ」が最も高い評価であった。次いで「屋根」を含むものが高い評価となっている。「部位」ごとにみると、「外壁」は「ベージュ」>「赤」>「青」となり、「色相」単独の結果と同じになった。「屋根」では有意な差が見られなかった。「バルコニー」は「ベージュ」>「青」となり、「ベージュ」と「赤」、「ベージュ」と「青」では有意な差が見られなかった。「色相」ごとに見ると「ベージュ」は「外壁」が最も高い評価で「屋根」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「赤」、「青」では「屋根」が最も高い評価で「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。



「部位*トーン」では「屋根」が全体的に高い評価となった。「部位」ごとにみると、「外壁」では有意な差が見られなかった。「屋根」 「高い」>「低い」、「バルコニー」は「同じ」、「低い」が「高い」を上回る結果になった。「トーン」ごとに見ると、「同じ」では「屋根」と「バルコニー」が高い評価、「外壁」が低い評価となった。「高い」では「屋根」>「外壁」>「バルコニー」となった。「低い」では有意な差が見られなかった。

「色相*規則性」は「ベージュ」が高い評価となった。「色相」ごとに見ると、「ベージュ」、「赤」では有意な差が見られなかった。「青」では「なし」が「あり」より高い評価を得た。「規則性」は「なし」で有意な差が見られなかったが「あり」では「ベージュ」と「赤」が「青」より高い評価となった。「規則性」だけでは有意な差が見られなかったが、「色相」が「青」の場合においては影響が見られた。また、「規則性」が「なし」の場合「色相」の影響がなくなり、「あり」の場合は「ベージュ」と「赤」の差がなくなった。

「色相*トーン」は全体的に「ベージュ」を含むもの、「赤*同じ」が高い評価となった。「色相」ごとに見ると「ベージュ」、「青」では有意な差が見られなかった。「赤」では「同じ」が「高い」「低い」を上回る結果となった。「トーン」ごとでは「同じ」の場合「赤」が「青」を上回り、「高い」では「ベージュ」>「青」、「低い」では「ベージュ」が「赤」、「青」を上回る結果となった。



「部位*規則性」は「屋根*なし」が最も高い評価となった。「部位」ごとに見ると、「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「屋根」は「なし」>「あり」となった。「規則性」が「なし」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価、「あり」では有意な差が見られなかった。「規則性」は単独では有意な差が見られなかったが、「屋根」の場合には影響を及ぼすことがわかった。

⑥ 要因別の結果 - 「心地よい」

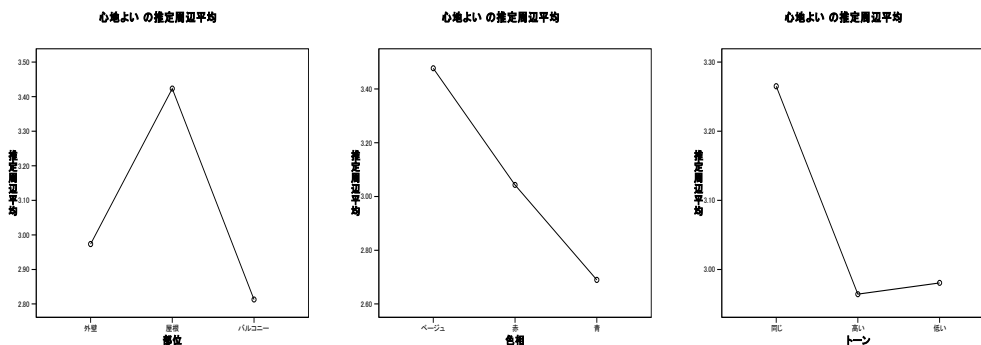
被験者間効果の検定

従属変数: 心地よい

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	421.689 ^a	25	16.868	13.778	.000
切片	11484.403	1	11484.403	9380.601	.000
部位 * 色相	63.373	4	15.843	12.941	.000
部位 * トーン	40.355	4	10.089	8.241	.000
部位 * 規則性	16.397	2	8.198	6.697	.001
色相 * トーン	24.778	4	6.195	5.060	.000
色相 * 規則性	25.460	2	12.730	10.398	.000
トーン * 規則性	3.952	2	1.976	1.614	.199
部位	73.152	2	36.576	29.876	.000
色相	113.596	2	56.798	46.393	.000
トーン	20.961	2	10.481	8.561	.000
規則性	1.194	1	1.194	.975	.324
誤差	1646.645	1345	1.224		
総和	15070.000	1371			
修正総和	2068.334	1370			

a. R2乗 = .204 (調整済みR2乗 = .189)

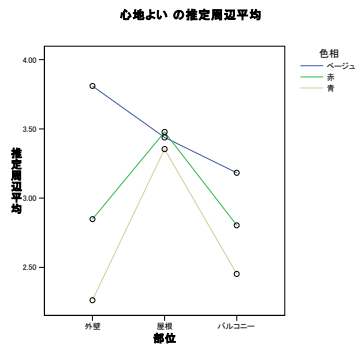
「部位」「色相」「トーン」「部位*色相」「部位*トーン」「部位*規則性」「色相*トーン」「色相*規則性」が1%未満で有意だった。



「部位」では、「屋根」が最も高い評価、「外壁」、「バルコニー」が低い評価となった。「色相」では「ベージュ」が最も高い評価で、次が「赤」、最下位が「青」であった。「トーン」は「同じ」が最も高い評価で、「高い」、「低い」では有意な差が見られなかった。

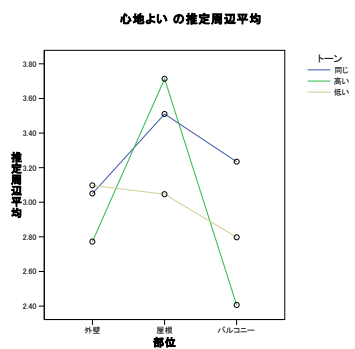
「部位*色相」では「外壁*ベージュ」が他と大きく差をつけて最も高い評価となった。「部位」ごとにみると、「外壁」では「ベージュ」>「赤」>「青」となり、「色相」単独と同じ結果となった。

「屋根」では有意な差が見られなかった。「バルコニー」では「ベージュ」が最も高い評価で「赤」、「青」では有意な差が見られなかった。「色相」ごとに見ると、「ベージュ」では「外壁」が高い評価となり、「屋根」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「赤」、「青」では「屋根」が最も高い評価で「外壁」、「バルコニー」有意な差が見られず、「部位」単独と同じ結果となった。「外壁」と「ベージュ」が組み合わせられることで評価値に影響を与えると言える。

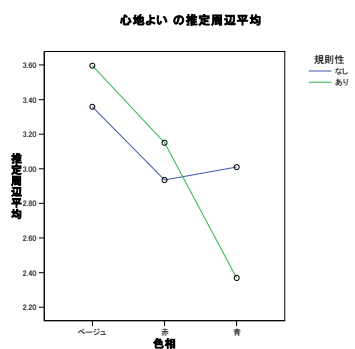


「部位*トーン」では「屋根」が全体的に高い評価となった。

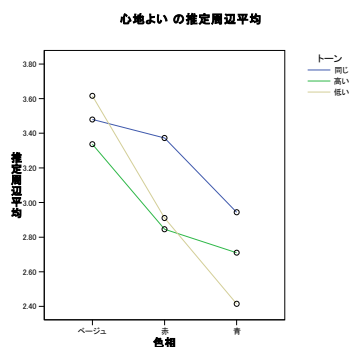
「部位」ごとにみると、「外壁」では有意な差が見られなかった。「屋根」では「同じ」、「高い」が「低い」よりも高い評価となった。「バルコニー」は「同じ」が最も高く、次いで「低い」最下位が「高い」となった。「トーン」単独の結果と比較すると、「高い」、「低い」において、部位の影響が生じていることがわかる。「トーン」ごとに見ると、「同じ」では「屋根」と「バルコニー」が高い評価、「外壁」が低い評価となった。「高い」では「屋根」>「外壁」>「バルコニー」となった。「低い」では有意な差が見られなかった。



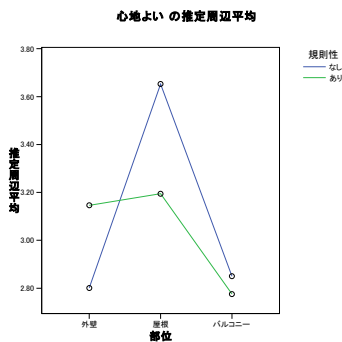
「色相*規則性」は「ベージュ」が高い評価となった。「色相」ごとに見ると、「ベージュ」、「赤」では有意な差が見られなかった。「青」では「なし」が「あり」より高い評価を得た。「規則性」は「なし」では「ベージュ」が高い評価で「赤」と「青」が低い評価となった。「あり」では「ベージュ」>「赤」>「青」となり「色相」単独と同じ結果となっている。「規則性」だけでは有意な差が見られなかったが、「色相」が「青」の場合においては影響が見られた。



「色相*トーン」は全体的に「ベージュ」を含むもの、「赤*同じ」が高い評価となった。「色相」ごとに見ると「ベージュ」では有意な差が見られなかった。「赤」では「同じ」が「高い」「低い」を上回る結果となった。「青」では「同じ」が「低い」よりも高い評価となった。「トーン」ごとでは「同じ」の場合「ベージュ」、「赤」が「青」を上回り、「高い」では「ベージュ」が「赤」、「青」より高い評価に「低い」では「ベージュ」>「赤」>「青」となり、「色相」単独と同じ結果となった。



「部位*規則性」は「屋根*なし」が最も高い評価となった。「部位」ごとに見ると、「外壁」では「あり」が「なし」より高い評価になり、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「屋根」は「なし」>「あり」となった。「規則性」が「なし」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価、「あり」では「屋根」が「バルコニー」より高い評価を得た。「規則性」は単独では有意な差が見られなかったが、「外壁」、「屋根」の場合には影響を及ぼすことがわかった。



⑦ 要因別の結果 - 「親しみのある」

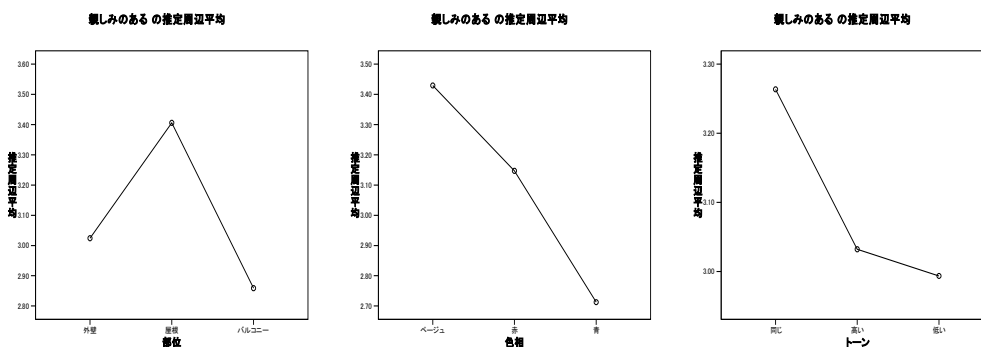
被験者間効果の検定

従属変数: 親しみのある

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	342.977 ^a	25	13.719	10.184	.000
切片	11683.207	1	11683.207	8672.954	.000
部位 * 色相	54.025	4	13.506	10.026	.000
部位 * トーン	23.159	4	5.790	4.298	.002
部位 * 規則性	11.725	2	5.862	4.352	.013
色相 * トーン	21.845	4	5.461	4.054	.003
色相 * 規則性	21.289	2	10.645	7.902	.000
トーン * 規則性	1.945	2	.973	.722	.486
部位	57.444	2	28.722	21.322	.000
色相	95.137	2	47.569	35.312	.000
トーン	15.613	2	7.806	5.795	.003
規則性	1.822	1	1.822	1.353	.245
誤差	1811.829	1345	1.347		
総和	15404.000	1371			
修正総和	2154.807	1370			

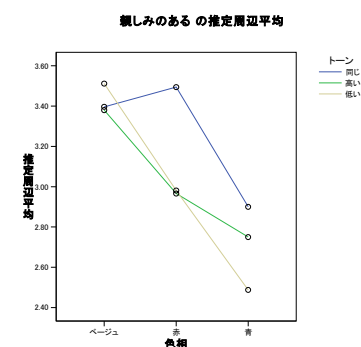
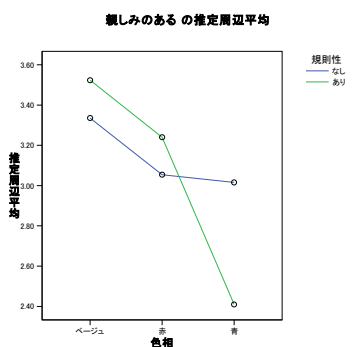
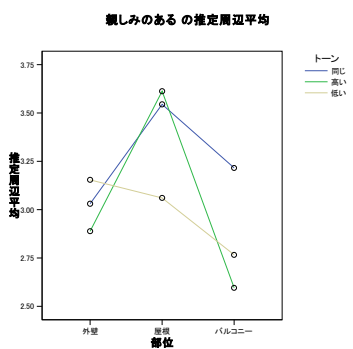
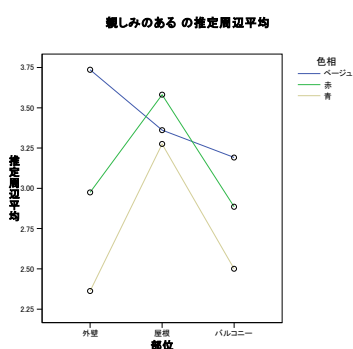
a. R2乗 = .159 (調整済みR2乗 = .144)

「部位」「色相」「トーン」「部位*色相」「部位*トーン」「色相*トーン」「色相*規則性」が1%未満で有意だった。「部位*規則性」が5%未満で有意だった。



「部位」では、「屋根」が最も高い評価、「外壁」、「バルコニー」が低い評価となった。「色相」

では「ベージュ」が最も高い評価で、次が「赤」、最下位が「青」であった。「トーン」は「同じ」が最も高い評価で、「高い」、「低い」では有意な差が見られなかった。



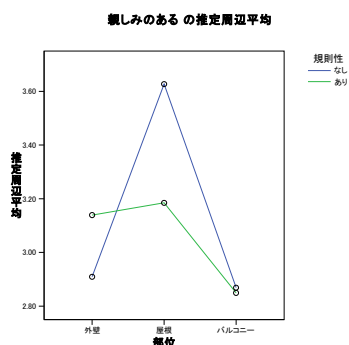
「部位*色相」では「外壁*ベージュ」や「部位」が「屋根」のものが高い評価となった。「部位」ごとにみると、「外壁」では「ベージュ」>「赤」>「青」となり、「色相」単独と同じ結果となった。「屋根」では有意な差が見られなかった。「バルコニー」では「ベージュ」、「赤」が高い評価で、「青」が低い評価となった。「色相」ごとに見ると、「ベージュ」では「外壁」が「バルコニー」よりも高い評価となった。「赤」、「青」では「屋根」が最も高い評価で「外壁」、「バルコニー」有意な差が見られず、「部位」単独と同じ結果となった。「外壁」と「ベージュ」が組み合わせられることで評価値に影響を与えると言える。

「部位*トーン」では「屋根*同じ」、「屋根*高い」、「バルコニー*高い」が高い評価となった。「部位」ごとにみると、「外壁」では有意な差が見られなかった。「屋根」では「同じ」、「高い」が「低い」よりも高い評価となった。「バルコニー」は「同じ」が「低い」、「高い」よりも高い評価となった。「トーン」単独の結果と比較すると、部位の影響が生じていることがわかる。「トーン」ごとに見ると、「同じ」では「屋根」が「外壁」よりも高い評価となった。「高い」では「屋根」が最も高い評価で「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「低い」では「外壁」が「バルコニー」よりも高い評価となった。「高い」では「部位」単独と同じ結果になったが、「低い」では「バルコニー」と「外壁」の差が生じている。

「色相*規則性」は「ベージュ」が高い評価となった。「色相」ごとに見ると、「ベージュ」、「赤」では有意な差が見られなかった。「青」では「なし」が「あり」より高い評価を得た。「規則性」は「なし」では「ベージュ」が高い評価で「赤」と「青」が低い評価となった。「あり」では「ベージュ」>「赤」>「青」となり「色相」単独と同じ結果となっている。「規則性」だけでは有意な差が見られなかったが、「色相」が「青」の場合においては影響が見られた。

「色相*トーン」は全体的に「ベージュ」を含むもの、「赤*同じ」が高い評価となった。「色相」ごとに見ると「ベージュ」では有意な差が見られなかった。「赤」では「同じ」が「高い」「低い」を上回る結果となった。「青」では「同じ」が「低い」よりも高い評価となった。「トーン」ごとでは「同じ」の場合「ベージュ」、「赤」

が「青」を上回り、「高い」では「ベージュ」が「赤」、「青」より高い評価に「低い」では「ベージュ」 > 「赤」 > 「青」となり、「色相」単独と同じ結果となった。



「部位*規則性」は「屋根*なし」が最も高い評価となった。「部位」ごとに見ると、「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「屋根」は「なし」 > 「あり」となった。「規則性」が「なし」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価、「あり」では有意な差が見られなかった。

⑧ 要因別の結果 - 「生活感のある」

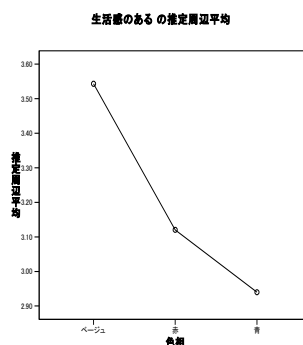
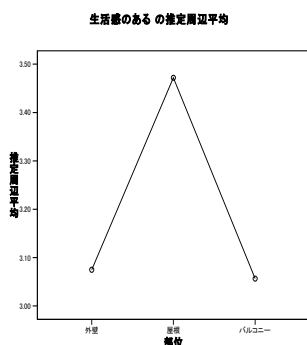
被験者間効果の検定

従属変数: 生活感のある

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	251.939 ^a	25	10.078	7.456	.000
切片	12487.211	1	12487.211	9239.271	.000
部位 * 色相	47.473	4	11.868	8.781	.000
部位 * トーン	24.012	4	6.003	4.442	.001
部位 * 規則性	4.218	2	2.109	1.560	.210
色相 * トーン	8.321	4	2.080	1.539	.188
色相 * 規則性	7.938	2	3.969	2.937	.053
トーン * 規則性	2.531	2	1.265	.936	.392
部位	40.215	2	20.107	14.877	.000
色相	70.009	2	35.004	25.900	.000
トーン	4.215	2	2.108	1.559	.211
規則性	.597	1	.597	.442	.506
誤差	1817.816	1345	1.352		
総和	16178.000	1371			
修正総和	2069.755	1370			

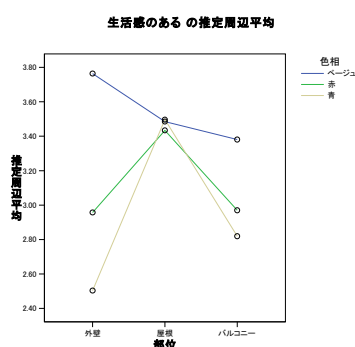
a. R2乗 = .122 (調整済みR2乗 = .105)

「部位」「色相」「部位*色相」「部位*トーン」が1%未満で有意だった。

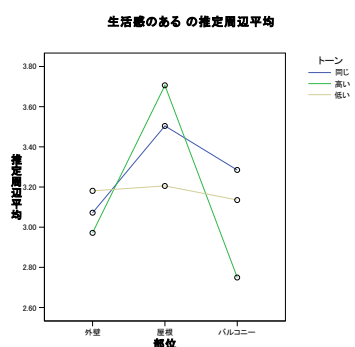


「部位」では「屋根」が最も高い評価で、「外壁」、「バルコニー」では有意な差は見られなかつ

た。「色相」では「ベージュ」が「赤」、「青」よりも高い評価となった。



「部位*色相」では「ベージュ」を含むものや「屋根」を含むものが高い評価であった。「部位」ごとに見ると、「外壁」は「ベージュ」>「赤」>「青」となり、「色相」単独の結果と比較すると「赤」と「青」の評価に差が生じた。「屋根」では有意な差が見られなかった。「バルコニー」は「ベージュ」が「赤」、「青」よりも高い評価となり、「色相」単独の結果と同じになった。「色相」ごとに見ると「ベージュ」は「屋根」が「バルコニー」よりも高い評価、「赤」、「青」では「屋根」が最も高い評価で「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。



「部位*トーン」では「屋根*高い」が最も高い評価、「バルコニー*高い」が最も低い評価となった。「部位」ごとにみると、「外壁」では有意な差が見られなかった。「屋根」は「高い」>「低い」、「バルコニー」は「同じ」、「低い」が「高い」を上回る結果になった。「トーン」ごとに見ると、「同じ」では「屋根」が高い評価、「外壁」が低い評価となった。「高い」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価となった。「低い」では有意な差が見られなかった。「高い」では「部位」単独と同じ結果になったが、「低い」では「部位」による差がなくなっている。

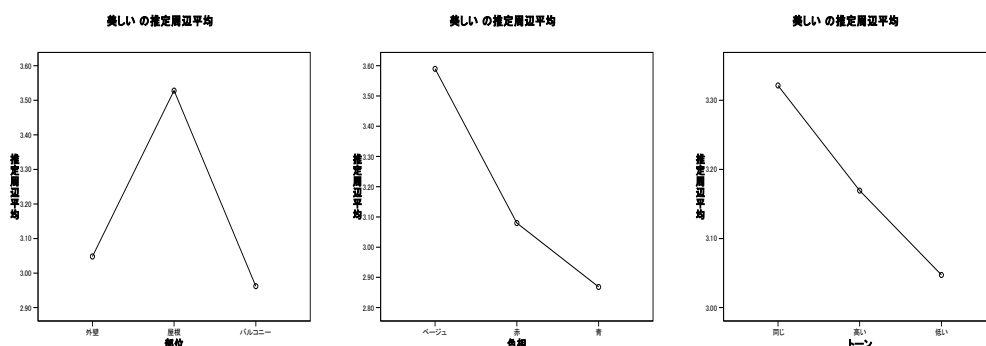
⑨ 要因別の結果 - 「美しい」

被験者間効果の検定

従属変数: 美しい					
ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	340.141 ^a	25	13.606	11.775	.000
切片	12317.678	1	12317.678	10659.881	.000
部位 * 色相	35.815	4	8.954	7.749	.000
部位 * トーン	17.639	4	4.410	3.816	.004
部位 * 規則性	10.455	2	5.228	4.524	.011
色相 * トーン	20.817	4	5.204	4.504	.001
色相 * 規則性	7.832	2	3.916	3.389	.034
トーン * 規則性	1.486	2	.743	.643	.526
部位	67.970	2	33.985	29.411	.000
色相	100.476	2	50.238	43.477	.000
トーン	13.807	2	6.903	5.974	.003
規則性	.403	1	.403	.349	.555
誤差	1554.171	1345	1.156		
総和	15798.000	1371			
修正総和	1894.312	1370			

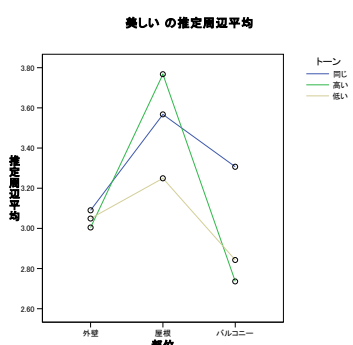
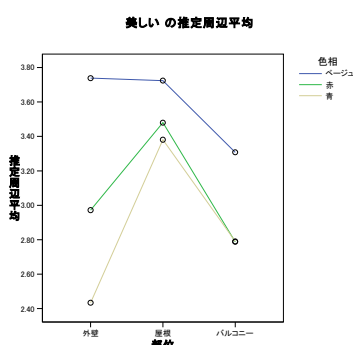
a. R2乗 = .180 (調整済みR2乗 = .164)

「部位」「色相」「トーン」「部位*色相」「部位*トーン」「部位*規則性」「色相*規則性」が1%未満で有意だった。



要因別にみると「部位」では「屋根」が最もよい評価であった。「色相」では基調色と同じ「ベージュ」が最もよい評価でついで「赤」、最も評価が低かったのが「青」となった。「トーン」に関しては基調色と「同じ」が「低い」よりも高い評価となった。

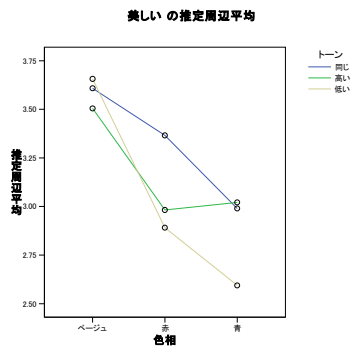
「部位*色相」は「外壁*ベージュ」、「屋根*ベージュ」が高い評価であった。「外壁」では評価値が「ベージュ」>「赤」>「青」となっており、色相単体の結果と同じになっている。「屋根」では有意な差が見られなかった。「バルコニー」では「ベージュ」が「赤」、「青」よりも高い評価となった。「外壁」では「色相」単体の結果と同じになったが、「屋根」では「色相」による差が、「バルコニー」では「赤」と「青」の差がなくなった。また、色相ごとに見てみると、「ベージュ」では「外壁」と「屋根」が「バルコニー」を上回り、「赤」では「屋根」が高い評価で、「外壁」と「バルコニー」では有意な差が見られなかった「青」では「屋根」>「バルコニー」>「外壁」となった。



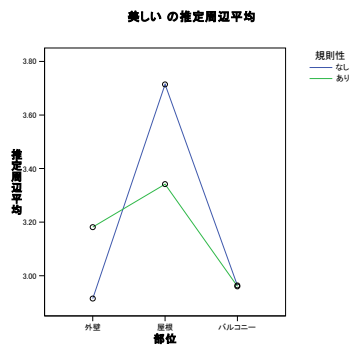
「部位*トーン」は「屋根*同じ」が最も高い評価を得た。部位ごとに見ていくと、「外壁」では有意な差が見られなかった。「屋根」ではトーンが「高い」が「低い」よりも高い評価となった。「バルコニー」では「同じ」が「低い」、「高い」よりも高い評価となった。トーンごとに見ると、「同じ」では「屋根」が「外壁」よりも高い評価となかった。「高い」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価で、トーンが「低い」では、「屋根」>「バルコニー」という結果となった。

「色相*トーン」は「ベージュ」が高い評価を得た。色相ごとに見ると、「ベージュ」では有意な差が見られなかった。「赤」では、「同じ」が高い評価となり、「低い」、「高い」では有意な差が見ら

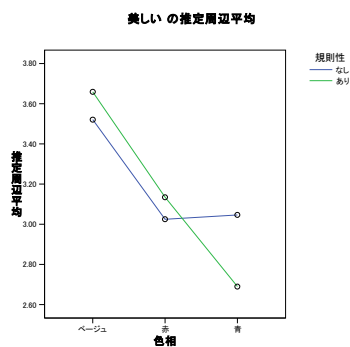
れなかった。「青」では「同じ」、「高い」が高い評価で「低い」の評価が低いという結果になった。トーンごとに見ると、「同じ」では「ベージュ」と「赤」が「青」よりも高い評価となり、「高い」、「低い」では「ベージュ」が最も高い評価で「赤」と「青」では有意な差が見られなかった。



「部位*規則性」では「屋根*なし」が最も高い評価を得た。「部位」ごとに見ると、「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「屋根」では「なし」が「あり」よりも高い評価となった。「規則性」が「なし」の場合は「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価となった。「あり」の場合は、「屋根」が「バルコニー」よりも高い評価となった。規則性は単体では有意な差がみられなかったが、部位と組み合わせることにより、「屋根」で評価に影響があることがわかった。



「色相*規則性」では、「ベージュ*なし」、「ベージュ*あり」が最もよい評価となり、最下位が「青*あり」であった。「色相」ごとに見ると、「ベージュ」、「赤」では有意な差が見られなかった。



「青」では「なし」が「あり」よりも高い評価となった。「規則性」が「なし」では「ベージュ」が「赤」、「青」よりも高い評価、「あり」では「ベージュ」 > 「赤」 > 「青」という結果になった。「規則性」が「ない」場合には「ベージュ」と「赤」の差がなくなることがわかった。

⑩ 要因別の結果 - 「癒される」

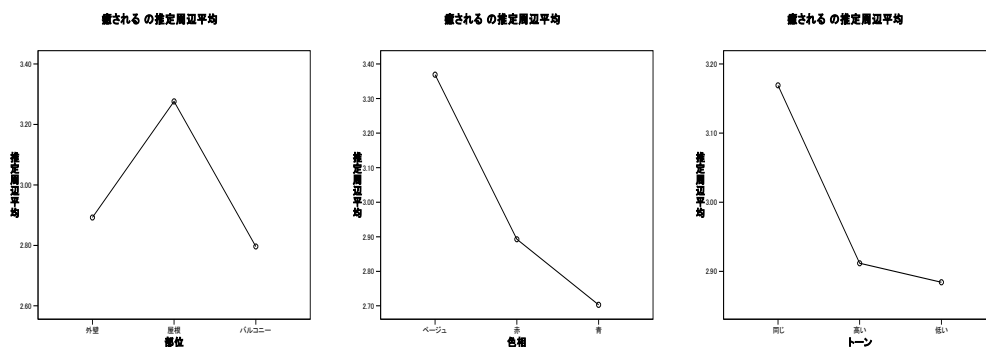
被験者間効果の検定

従属変数: 癒される

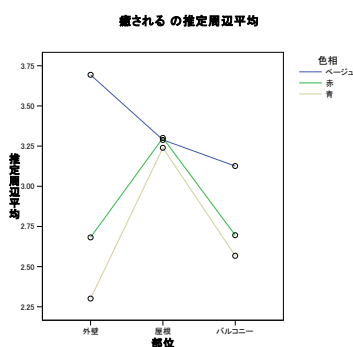
ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	331.826 ^a	25	13.273	11.659	.000
切片	10881.885	1	10881.885	9558.882	.000
部位 * 色相	59.117	4	14.779	12.982	.000
部位 * トーン	32.119	4	8.030	7.053	.000
部位 * 規則性	9.544	2	4.772	4.192	.015
色相 * トーン	22.147	4	5.537	4.864	.001
色相 * 規則性	16.696	2	8.348	7.333	.001
トーン * 規則性	2.116	2	1.058	.929	.395
部位	47.073	2	23.536	20.675	.000
色相	86.019	2	43.009	37.780	.000
トーン	18.090	2	9.045	7.945	.000
規則性	.845	1	.845	.742	.389
誤差	1531.156	1345	1.138		
総和	14172.000	1371			
修正総和	1862.982	1370			

a. R2乗 = .178 (調整済みR2乗 = .163)

「部位」「色相」「トーン」「部位*色相」「部位*トーン」「部位*規則性」「色相*規則性」が1%未満で有意だった。「色相*トーン」が5%未満で有意だった。

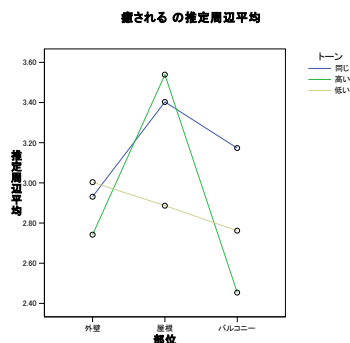


「部位」では、「屋根」が最も高い評価、「外壁」、「バルコニー」が低い評価となった。「色相」では「ベージュ」が最も高い評価で、次が「赤」、最下位が「青」であった。「トーン」は「同じ」が最も高い評価で、「高い」、「低い」では有意な差が見られなかった。

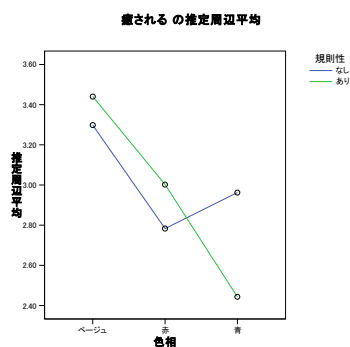


「部位*色相」では「外壁*ベージュ」が他と大きく差をつけて最も高い評価となった。「部位」ごとにみると、「外壁」では「ベージュ」>「赤」>「青」となり、「色相」単独と同じ結果となった。「屋根」では有意な差が見られなかった。「バルコニー」では「ベージュ」が最も高い評価で「赤」、「青」では有意な差が見られなかった。「色相」ごとに見ると、「ベージュ」では「外壁」が高い評価となり、「屋根」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「赤」、

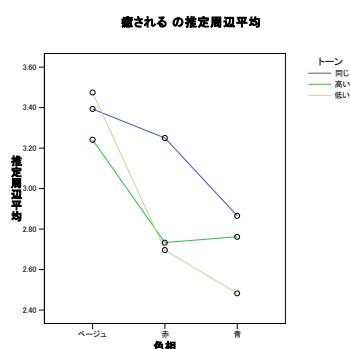
「青」では「屋根」が最も高い評価で「外壁」、「バルコニー」有意な差が見られず、「部位」単独と同じ結果となった。



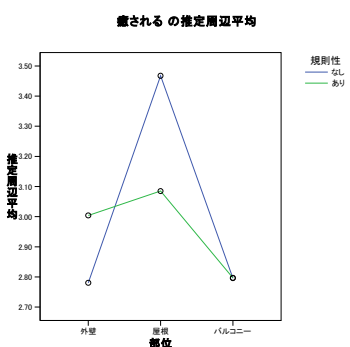
「部位*トーン」では「屋根*高い」、「屋根*同じ」が高い評価となった。「部位」ごとにみると、「外壁」では有意な差が見られなかった。「屋根」では「同じ」、「高い」が「低い」よりも高い評価となった。「バルコニー」は「同じ」が最も高く、「低い」、「高い」では有意な差が見られなかった。「トーン」ごとに見ると、「同じ」では「屋根」が「外壁」よりも高い評価となった。「高い」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価となった。「低い」では有意な差が見られなかった。「高い」では「部位」単独と同じ結果になったが、「低い」では「部位」の差がなくなっている。



「色相*規則性」は「ベージュ」が高い評価となった。「色相」ごとに見ると、「ベージュ」、「赤」では有意な差が見られなかった。「青」では「なし」が「あり」より高い評価を得た。「規則性」は「なし」では「ベージュ」が高い評価で「赤」と「青」が低い評価となった。「あり」では「ベージュ」>「赤」>「青」となり「色相」単独と同じ結果となっている。「規則性」だけでは有意な差が見られなかったが、「色相」が「青」の場合においては影響が見られた。



「色相*トーン」は全体的に「ベージュ」を含むものが高い評価となった。「色相」ごとに見ると「ベージュ」では有意な差が見られなかった。「赤」では「同じ」が「高い」「低い」を上回る結果となった。「青」では「同じ」が「低い」よりも高い評価となった。「トーン」ごとでは「同じ」の場合「ベージュ」、「赤」が「青」を上回り、「高い」、「低い」では「ベージュ」が「赤」、「青」より高い評価となった。



「部位*規則性」は「屋根*なし」が最も高い評価となった。「部位」ごとに見ると、「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「屋根」は「なし」>「あり」となった。「規則性」が「なし」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価、「あり」では「屋根」が「バルコニー」より高い評価を得た。「規則性」は単独では有意な差が見られなかったが、「屋根」の場合には影響を及ぼすことがわかった。

ii 評価項目の相関関係

本実験ではSD法を用いて、被験者に10個の形容詞対について評価をしてもらった。これらの形容詞対同士の相関を調べた。

相関係数

		楽しい	生活感のある	住みたい	癒される	好き	違和感がない	個性がある	心地よい	親しみのある	美しい
楽しい	Pearsonの相関係数	1	.338**	.464**	.331**	.468**	.230**	.492**	.359**	.339**	.365**
	有意確率(両側)		.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371
生活感のある	Pearsonの相関係数	.338**	1	.576**	.647**	.586**	.583**	-.043	.601**	.599**	.567**
	有意確率(両側)	.000		.000	.000	.000	.000	.110	.000	.000	.000
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371
住みたい	Pearsonの相関係数	.464**	.576**	1	.769**	.825**	.666**	.048	.731**	.676**	.683**
	有意確率(両側)	.000	.000		.000	.000	.000	.077	.000	.000	.000
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371
癒される	Pearsonの相関係数	.331**	.647**	.769**	1	.758**	.680**	-.044	.734**	.708**	.674**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000		.000	.000	.101	.000	.000	.000
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371
好き	Pearsonの相関係数	.468**	.586**	.825**	.758**	1	.668**	.055*	.786**	.663**	.744**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000		.000	.041	.000	.000	.000
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371
違和感がない	Pearsonの相関係数	.230**	.583**	.666**	.680**	.668**	1	-.271**	.747**	.678**	.705**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000		.000	.000	.000	.000
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371
個性がある	Pearsonの相関係数	.492**	-.043	.048	-.044	.055*	-.271**	1	-.075**	-.081**	-.088**
	有意確率(両側)	.000	.110	.077	.101	.041	.000		.005	.003	.001
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371
心地よい	Pearsonの相関係数	.359**	.601**	.731**	.734**	.786**	.747**	-.075**	1	.757**	.785**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.005		.000	.000
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371
親しみのある	Pearsonの相関係数	.339**	.599**	.676**	.708**	.663**	.678**	-.081**	.757**	1	.681**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.003	.000		.000
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371
美しい	Pearsonの相関係数	.365**	.567**	.683**	.674**	.744**	.705**	-.088**	.785**	.681**	1
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.001	.000	.000	
	N	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371	1371

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。
 * 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

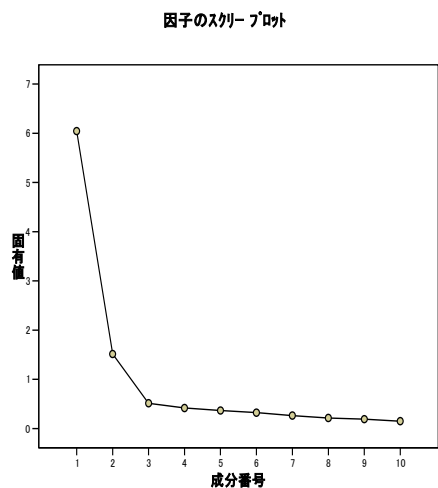
上図において、*がついているところが相関の見られた項目である。「個性がある」以外の項目同士は相関関係があることがわかった。

特に高い相関が見られたのは「好き」と「住みたい」、「好き」と「心地よい」、「美しい」と「心地よい」、「住みたい」と「癒される」、「心地よい」と「親しみがある」、「違和感がない」と「心地よい」、「癒される」と「心地よい」であった。好きなところに住みたいというのは当然の考え方である。また、「心地よい」は多くの項目と高い相関が見られている。

「個性がある」は「楽しい」と「好き」とだけ+の相関がある。その他の項目とは無相関であるか-の相関になっている。「個性がある」は違和感があり、心地悪く、親しみにくく、醜いと判断されていると言える。日本の住宅地はどこにも同じような風景が広がっている。このことはしばしば批判的に捉えられているが、実際には個性がないどこにでもあるような景観が求められているとも考えられる。

iii 評価項目の因子分析

10個の形容詞対について因子分析を行った。因子数は3でバリマックス回転法を用いた。



回転後の成分行列^a

	成分		
	1	2	3
心地よい	.882	.042	.225
好き	.865	.227	.185
美しい	.860	.040	.166
住みたい	.837	.224	.213
違和感がない	.813	-.186	.283
癒される	.773	.070	.402
親しみのある	.765	.027	.359
個性がある	-.149	.908	-.051
楽しい	.353	.788	.156
生活感のある	.438	.074	.879

因子抽出法: 主成分分析

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 4回の反復で回転が収束しました。

第一因子は「心地よい」、「好き」、「美しい」、「住みたい」、「違和感がない」、「癒される」、「親しみのある」である。第二因子は「個性がある」、「楽しい」、第三因子は「生活感のある」となった。相関関係も含めて検討すると、第一因子は被験者が住宅地に望む景観の特性を表す形容詞、つまり住宅地として好ましい景観の特徴を表していると考えられる。第二因子は被験者が住宅には望まない景観の特性を表す形容詞、つまり住宅地としてふさわしくない景観の特徴を表していると考えられる。第三因子は被験者にとって住宅に望みもしないし、特に望んでいない訳でもない、つまり住宅地の景観の特徴としてあってもなくてもいい因子であると考えられる。

iv 因子ごとの分析—住宅地の景観に望まれる因子—

被験者間効果の検定

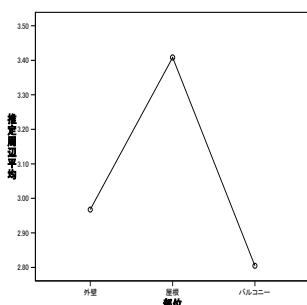
従属変数: 第一因子

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	397.725 ^a	25	15.909	16.864	.000
切片	11410.823	1	11410.823	12095.956	.000
部位	71.141	2	35.570	37.706	.000
色相	105.400	2	52.700	55.864	.000
トーン	19.662	2	9.831	10.422	.000
規則性	1.523	1	1.523	1.615	.204
部位 * 色相	58.499	4	14.625	15.503	.000
部位 * トーン	35.139	4	8.785	9.312	.000
部位 * 規則性	13.450	2	6.725	7.129	.001
色相 * トーン	18.662	4	4.665	4.946	.001
色相 * 規則性	18.925	2	9.463	10.031	.000
トーン * 規則性	1.152	2	.576	.611	.543
誤差	1268.817	1345	.943		
総和	14597.169	1371			
修正総和	1666.542	1370			

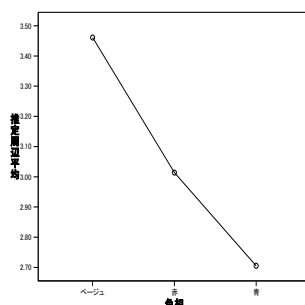
a. R2乗 = .239 (調整済みR2乗 = .225)

第一因子の評価値の合計を従属変数として分散分析を行った。「部位」、「色相」、「トーン」、「部位*色相」、「部位*トーン」、「部位*規則性」、「色相*トーン」、「色相*規則性」が1%未満で有意だった。

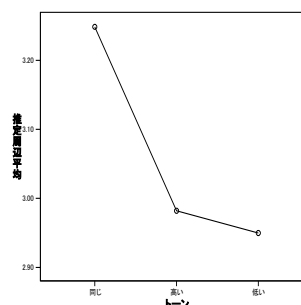
第一因子の推定周辺平均



第一因子の推定周辺平均



第一因子の推定周辺平均



「部位」は「屋根」が最も高い評価で、「外壁」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「屋根」、「壁面」の2分類で考えることができると言える。「色相」では「ベージュ」が最も高い評価で次いで「赤」、「青」という順であった。「トーン」は「同じ」が最も高い評価で、「高い」、「低い」の間に有意な差が見られなかった。「トーン」は「同じ」、「異なる」の2分類で考えることができると言える。

ペアごとの比較

従属変数: 第一因子

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	.945*	.132	.000	.628	1.262
		青	1.483*	.133	.000	1.165	1.800
	赤	ベージュ	-.945*	.132	.000	-1.262	-.628
		青	.538*	.132	.000	.221	.856
	青	ベージュ	-1.483*	.133	.000	-1.800	-1.165
		赤	-.538*	.132	.000	-.856	-.221
屋根	ベージュ	赤	-.019	.132	1.000	-.336	.299
		青	.121	.133	1.000	-.197	.439
	赤	ベージュ	.019	.132	1.000	-.299	.336
		青	.140	.133	.874	-.178	.458
	青	ベージュ	-.121	.133	1.000	-.439	.197
		赤	-.140	.133	.874	-.458	.178
バルコニー	ベージュ	赤	.416*	.133	.005	.098	.734
		青	.664*	.132	.000	.347	.981
	赤	ベージュ	-.416*	.133	.005	-.734	-.098
		青	.248	.132	.185	-.070	.565
	青	ベージュ	-.664*	.132	.000	-.981	-.347
		赤	-.248	.132	.185	-.565	.070

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

ペアごとの比較

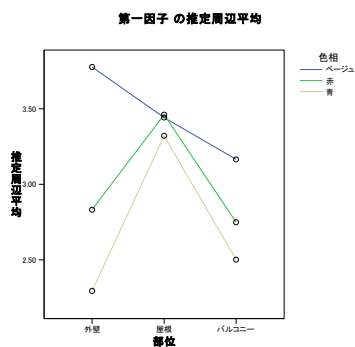
従属変数: 第一因子

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.334*	.132	.035	.017	.652
		バルコニー	.612*	.132	.000	.295	.929
	屋根	外壁	-.334*	.132	.035	-.652	-.017
		バルコニー	.278	.133	.109	-.040	.595
	バルコニー	外壁	-.612*	.132	.000	-.929	-.295
		屋根	-.278	.133	.109	-.595	.040
赤	外壁	屋根	-.629*	.132	.000	-.946	-.312
		バルコニー	.083	.132	1.000	-.234	.401
	屋根	外壁	.629*	.132	.000	.312	.946
		バルコニー	.712*	.133	.000	.395	1.030
	バルコニー	外壁	-.083	.132	1.000	-.401	.234
		屋根	-.712*	.133	.000	-1.030	-.395
青	外壁	屋根	-1.027*	.133	.000	-1.345	-.709
		バルコニー	-.207	.132	.355	-.524	.111
	屋根	外壁	1.027*	.133	.000	.709	1.345
		バルコニー	.820*	.132	.000	.503	1.138
	バルコニー	外壁	.207	.132	.355	-.111	.524
		屋根	-.820*	.132	.000	-1.138	-.503

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.



「部位*色相」は「外壁*ベージュ」が最も高い評価となった。ついで「部位」が「屋根」のものが高い評価を得ている。「部位」別に見てみると、「外壁」、「バルコニー」では「ベージュ」>「赤」>「青」となり、「屋根」では有意な差が見られなかった。「色相」別に見てみると、「ベージュ」の場合「外壁」が「屋根」、「バルコニー」よりも高い評価となった。「赤」、「青」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価となった。「部位」、「色相」単独の分析結果と比較すると、「部位」が「屋根」の場合には「色相」による違いがなくなること、「色相」が「ベージュ」の場合には「外壁」の評価が高くなることがわかった。

ペアごとの比較

従属変数: 第一因子

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^b	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.188	.132	.466	-.129	.506
		低い	-.065	.132	1.000	-.382	.252
	高い	同じ	-.188	.132	.466	-.506	.129
		低い	-.254	.132	.167	-.571	.064
	低い	同じ	.065	.132	1.000	-.252	.382
		高い	.254	.132	.167	-.064	.571
屋根	同じ	高い	-.158	.132	.696	-.476	.159
		低い	.518*	.133	.000	.200	.836
	高い	同じ	.158	.132	.696	-.159	.476
		低い	.676*	.133	.000	.358	.994
	低い	同じ	-.518*	.133	.000	-.836	-.200
		高い	-.676*	.133	.000	-.994	-.358
バルコニー	同じ	高い	.769*	.132	.000	.452	1.087
		低い	.443*	.133	.003	.126	.761
	高い	同じ	-.769*	.132	.000	-1.087	-.452
		低い	-.326*	.132	.042	-.643	-.009
	低い	同じ	-.443*	.133	.003	-.761	-.126
		高い	.326*	.132	.042	.009	.643

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

ペアごとの比較

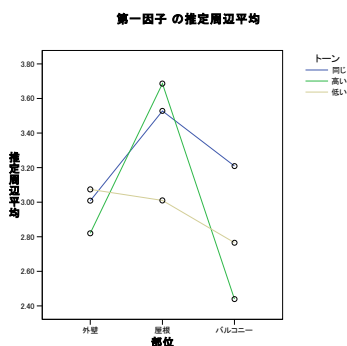
従属変数: 第一因子

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.519*	.132	.000	-.837	-.202
		バルコニー	-.200	.132	.391	-.518	.117
	屋根	外壁	.519*	.132	.000	.202	.837
		バルコニー	.319*	.133	.049	.001	.637
	バルコニー	外壁	.200	.132	.391	-.117	.518
		屋根	-.319*	.133	.049	-.637	-.001
高い	外壁	屋根	-.866*	.133	.000	-1.184	-.548
		バルコニー	.381*	.132	.012	.063	.698
	屋根	外壁	.866*	.133	.000	.548	1.184
		バルコニー	1.247*	.132	.000	.929	1.564
	バルコニー	外壁	-.381*	.132	.012	-.698	-.063
		屋根	-1.247*	.132	.000	-1.564	-.929
低い	外壁	屋根	.064	.132	1.000	-.254	.381
		バルコニー	.308	.132	.060	-.009	.626
	屋根	外壁	-.064	.132	1.000	-.381	.254
		バルコニー	.245	.133	.195	-.073	.562
	バルコニー	外壁	-.308	.132	.060	-.626	.009
		屋根	-.245	.133	.195	-.562	.073

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.



「部位 * トーン」は「屋根 * 同じ」、「屋根 * 高い」が高い評価であった。

「部位」別に見ると、「外壁」では有意な差が見られなかった。「屋根」では、「同じ」、「高い」が「低い」より高い評価となった。「バルコニー」では「同じ」 > 「低い」 > 「高い」となった。「トーン」別に見てみると、「同じ」では「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価となった。「高い」では「屋根」 > 「外壁」 > 「バルコニー」となり、「低い」では有意な差が見られなかった。

「部位」、「トーン」単独の結果と比較すると、「部位」が「外壁」の場合には「トーン」の影響がなくなること、「屋根」の場合には「高い」の評価が高くなること、「バルコニー」の場合には「高い」の評価が低くなることがわかった。また、「トーン」が「高い」では「外壁」、「バルコニー」の差が生じること、「低い」では「部位」の影響がなくなることがわかった。

ペアごとの比較

従属変数: 第一因子

部位	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
外壁	なし	あり	-.279*	.124	.025	-.523	-.035
	あり	なし	.279*	.124	.025	.035	.523
屋根	なし	あり	.447*	.124	.000	.203	.692
	あり	なし	-.447*	.124	.000	-.692	-.203
バルコニー	なし	あり	.044	.124	.725	-.200	.288
	あり	なし	-.044	.124	.725	-.288	.200

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

ペアごとの比較

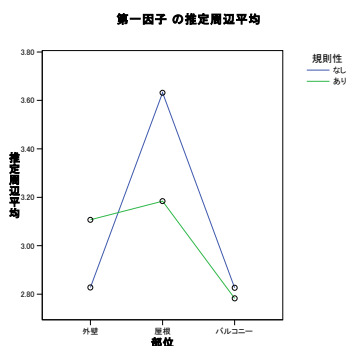
従属変数: 第一因子

規則性	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	外壁	屋根	-.804*	.091	.000	-1.022	-.586
		バルコニー	.001	.091	1.000	-.216	.219
	屋根	外壁	.804*	.091	.000	.586	1.022
		バルコニー	.805*	.091	.000	.587	1.023
	バルコニー	外壁	-.001	.091	1.000	-.219	.216
		屋根	-.805*	.091	.000	-1.023	-.587
あり	外壁	屋根	-.077	.144	1.000	-.422	.267
		バルコニー	.324	.144	.072	-.020	.669
	屋根	外壁	.077	.144	1.000	-.267	.422
		バルコニー	.402*	.144	.016	.057	.746
	バルコニー	外壁	-.324	.144	.072	-.669	.020
		屋根	-.402*	.144	.016	-.746	-.057

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.



「部位 * 規則性」では、「屋根 * なし」が高い評価となった。

「部位」ごとに見ると、「外壁」の場合は「あり」 > 「なし」、「屋根」の場合には「なし」 > 「あり」、「バルコニー」では有意な差が見られなかった。「規則性」で見ると、「なし」の場合には「屋根」が「外壁」、「バルコニー」よりも高い評価、「あり」の場合には「屋根」が「バルコニー」よりも高い評価となった。

「部位」、「規則性」単独の結果と比較してみると、「規則性」は単独では有意でなかったが「部位」が「外壁」、「屋根」の場合に評価値に影響を与えることがわかった。

ペアごとの比較

従属変数: 第一因子

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	.152	.132	.758	-.166	.469
		青	.584*	.132	.000	.266	.901
	赤	ベージュ	-.152	.132	.758	-.469	.166
		青	.432*	.133	.003	.114	.750
	青	ベージュ	-.584*	.132	.000	-.901	-.266
		赤	-.432*	.133	.003	-.750	-.114
高い	ベージュ	赤	.483*	.132	.001	.166	.800
		青	.594*	.133	.000	.276	.912
	赤	ベージュ	-.483*	.132	.001	-.800	-.166
		青	.111	.133	1.000	-.206	.429
	青	ベージュ	-.594*	.133	.000	-.912	-.276
		赤	-.111	.133	1.000	-.429	.206
低い	ベージュ	赤	.708*	.133	.000	.390	1.025
		青	1.090*	.133	.000	.772	1.407
	赤	ベージュ	-.708*	.133	.000	-1.025	-.390
		青	.382*	.132	.012	.065	.699
	青	ベージュ	-1.090*	.133	.000	-1.407	-.772
		赤	-.382*	.132	.012	-.699	-.065

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

ペアごとの比較

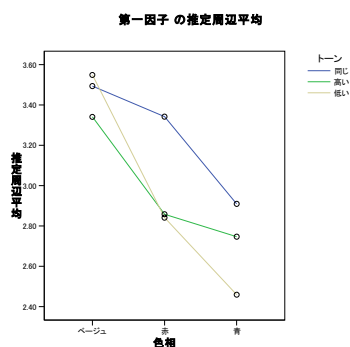
従属変数: 第一因子

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	同じ	高い	.153	.132	.745	-.164	.470
		低い	-.055	.133	1.000	-.373	.262
	高い	同じ	-.153	.132	.745	-.470	.164
		低い	-.208	.133	.350	-.526	.110
	低い	同じ	.055	.133	1.000	-.262	.373
		高い	.208	.133	.350	-.110	.526
赤	同じ	高い	.484*	.132	.001	.166	.801
		低い	.501*	.132	.000	.183	.818
	高い	同じ	-.484*	.132	.001	-.801	-.166
		低い	.017	.132	1.000	-.300	.334
	低い	同じ	-.501*	.132	.000	-.818	-.183
		高い	-.017	.132	1.000	-.334	.300
青	同じ	高い	.163	.133	.660	-.155	.481
		低い	.450*	.132	.002	.133	.768
	高い	同じ	-.163	.133	.660	-.481	.155
		低い	.288	.133	.091	-.030	.605
	低い	同じ	-.450*	.132	.002	-.768	-.133
		高い	-.288	.133	.091	-.605	.030

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.



「色相*トーン」は「色相」が「ベージュ」のものや「赤*同じ」が高い評価となった。

「色相」別に見ると、「ベージュ」は有意な差が見られなかった。「赤」では「同じ」が「高い」、「低い」よりも高い評価となった。「青」では「同じ」が「低い」よりも高い評価となった。「トーン」別に見ると、「同じ」では「ベージュ」と「赤」が「青」よりも高い評価に、「高い」では「ベージュ」が「赤」、「青」よりも高い評価に、「低い」では「ベージュ」 > 「赤」 > 「青」という結果になった。

「色相」、「トーン」単独の評価と比較すると、「色相」が「ベージュ」の場合に「トーン」の影響がなくなること、「赤」の場合には「高い」の評価が高くなることがわかった。「トーン」が「同じ」場合には「ベージュ」と「赤」の差がなくなること、「高い」場合には「赤」と「青」の差がなくなることがわかった。

ペアごとの比較

従属変数: 第一因子

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	なし	あり	-.187	.124	.133	-.431	.057
	あり	なし	.187	.124	.133	-.057	.431
赤	なし	あり	-.170	.124	.172	-.414	.074
	あり	なし	.170	.124	.172	-.074	.414
青	なし	あり	.569*	.124	.000	.325	.813
	あり	なし	-.569*	.124	.000	-.813	-.325

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

ペアごとの比較

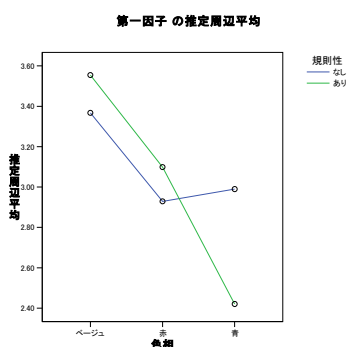
従属変数: 第一因子

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^b	
						下限	上限
なし	ベージュ	赤	.439*	.091	.000	.221	.656
		青	.378*	.091	.000	.160	.595
	赤	ベージュ	-.439*	.091	.000	-.656	-.221
		青	-.061	.091	1.000	-.279	.157
	青	ベージュ	-.378*	.091	.000	-.595	-.160
		赤	.061	.091	1.000	-.157	.279
あり	ベージュ	赤	.456*	.144	.005	.112	.800
		青	1.134*	.144	.000	.789	1.478
	赤	ベージュ	-.456*	.144	.005	-.800	-.112
		青	.678*	.144	.000	.334	1.022
	青	ベージュ	-1.134*	.144	.000	-1.478	-.789
		赤	-.678*	.144	.000	-1.022	-.334

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.



「色相*規則性」は「色相」が「ベージュ」のものが高い評価となった。

「色相」ごとに見ると、「ベージュ」、「赤」では有意な差が見られなかった。「青」では「なし」が「あり」よりも高い評価となった。「規則性」で見ると、「なし」では「ベージュ」が「赤」、「青」よりも高い評価となり、「あり」では「ベージュ」>「赤」>「青」となった。

「色相」、「規則性」単独の結果と比較すると、「規則性」単独では有意な結果が出なかったが「色相」が「青」の場合に影響があることがわかった。また、「規則性」が「なし」の場合には「赤」と「青」の差がなくなることがわかった。

以上の結果をまとめると、

- ・ アクセントカラーを着色する「部位」は「屋根」の評価が高い
- ・ アクセントカラーの「色相」は基調色に似ているほど評価が高い
- ・ アクセントカラーの「トーン」は基調色と「同じ」の評価が高い
- ・ アクセントカラーの出現場所の「規則性」は影響しない
- ・

ただし、例外として

- ・ アクセントカラーの「色相」が「ベージュ」の場合には着色する部位が「外壁」の方が評価が高い

- アクセントカラーの着色部位が「屋根」の場合には「トーン」が「高い」方が評価が高い
- アクセントカラーの着色部分の「規則性」は「色相」が「青」の場合、「部位」が「外壁」、「屋根」の場合に影響し、「青」、「屋根」では「なし」が「あり」よりも、「外壁」では「あり」が「なし」よりも評価が高い
- アクセントカラーの「色相」が「赤」の場合には「トーン」が「高い」方が評価が高い

ことが言える。

v 仮説の検証

本実験において、下記の4つの仮説をたてた。以下、仮説を検証する。

仮説1：住宅地においてアクセントカラーを取り入れることにより好ましい景観が形成される

仮説2：アクセントカラーの出現には規則性がないとよい

仮説3：基調色とアクセントカラーのトーンは揃っていない方がよい

仮説4：アクセントカラーは基調色よりトーンが低いとよい

仮説5：基調色とアクセントカラーは色相が異なるとよい

まず、仮説で使われている「好ましい」や「よい」の定義を明確にする。形容詞対の因子分析により第一因子が「心地よい」、「好き」、「美しい」、「住みたい」、「違和感がない」、「癒される」、「親しみのある」、第二因子が「個性がある」、「楽しい」、第三因子の「生活感のある」となったが、「iii 評価項目の因子分析」で記述した通り、第一因子を住宅地の好ましい、よい景観を形容するもの、第二因子を住宅地に好ましくない、よくない景観を形容するもの、第三因子をどちらでもない、つまり好ましさやよさには影響しない形容詞と捉える。この仮説の検証において、「好ましい」、「よい」は第一因子の評価が高いことを意味する。

<仮説1> 住宅地においてアクセントカラーを取り入れることにより好ましい景観が形成される

アクセントカラーを取り入れた画像と取り入れていない画像を比較する。第一因子に該当する評価項目の評価値を得点化する。例えば、「心地よい」であれば最も心地よい評価が6、心地悪い評価が1であるが、この6や1を得点として、全被験者の評価値の合計平均を求める。アクセントカラーを用いていない画像1は3.33であった。これは全25枚の画像のうち8番目に高いポイントであった。(下図参照)アクセントカラーを取り入れることが必ずしもよい景観を生むとは言えないことが明らかとなった。しかし、アクセントカラーを取り入れていない画像よりも高い評価値を記録した画像が7枚あり、これらの画像にアクセントカラーを取り入れることによりよい景観を生む要因が隠れていると推測される。仮説1は特定の条件において成立すると言える。では、特定の条件とはどのような条件なのか。画像1よりも高い評価値を得た、画像11、15、13、3、2、14、21を分析する。

	楽しい	生活感の ある	住みたい	癒される	好き	違和感 がない	個性があ る	心地よい	親しみ のある	美しい	第一因子
画像 11	2.86	3.90	3.53	3.73	3.63	4.55	2.20	3.92	3.78	4.00	3.88
画像 16	3.16	3.86	3.62	3.64	3.78	4.42	2.66	3.94	3.86	3.80	3.87
画像 13	3.25	3.71	3.65	3.65	3.76	4.27	2.61	3.78	4.00	3.82	3.85
画像 03	3.16	3.76	3.61	3.86	3.76	4.24	2.80	3.80	3.78	3.65	3.82
画像 02	3.02	3.82	3.49	3.63	3.65	4.41	2.45	3.78	3.78	3.82	3.80
画像 14	3.45	3.78	3.59	3.55	3.80	4.12	3.10	3.84	3.80	3.76	3.78
画像 21	3.22	3.80	3.24	3.40	3.46	3.62	2.86	3.58	3.46	3.54	3.47
画像 01	2.41	3.35	2.90	3.24	3.16	4.00	1.84	3.29	3.24	3.49	3.33
画像 10	2.41	3.35	2.90	3.24	3.16	4.00	1.84	3.29	3.24	3.49	3.33
画像 19	2.41	3.35	2.90	3.24	3.16	4.00	1.84	3.29	3.24	3.49	3.33
画像 04	3.71	3.08	3.14	3.22	3.27	3.25	3.43	3.41	3.43	3.31	3.29
画像 18	3.49	3.39	3.20	3.22	3.37	3.27	3.63	3.27	3.27	3.24	3.26
画像 12	3.08	3.20	2.76	3.14	3.12	3.60	2.28	3.26	3.20	3.68	3.25
画像 17	2.67	3.35	2.90	3.12	3.12	3.53	2.39	3.10	2.98	3.39	3.16
画像 22	3.40	3.18	2.88	2.98	3.18	3.20	3.40	3.18	3.24	3.26	3.13
画像 15	3.73	3.10	2.78	2.76	2.98	2.76	4.02	3.04	3.14	3.10	2.94
画像 25	2.53	3.02	2.55	2.76	2.49	2.71	2.96	2.65	2.63	2.90	2.67
画像 20	3.25	3.00	2.43	2.65	2.69	2.39	3.49	2.71	2.86	2.94	2.67
画像 26	3.06	2.76	2.35	2.73	2.67	2.39	3.69	2.65	2.73	2.90	2.63
画像 24	3.31	2.98	2.63	2.49	2.71	2.37	3.71	2.61	2.59	2.47	2.55
画像 06	3.45	2.84	2.55	2.39	2.59	2.33	4.08	2.51	2.71	2.65	2.53
画像 27	3.25	2.80	2.45	2.59	2.69	2.29	3.84	2.47	2.47	2.63	2.51
画像 07	2.84	2.75	2.39	2.43	2.49	2.49	3.39	2.51	2.55	2.53	2.48
画像 05	3.84	2.88	2.39	2.33	2.57	2.24	4.47	2.39	2.59	2.65	2.45
画像 08	3.26	2.50	2.28	2.42	2.42	2.12	3.96	2.38	2.52	2.60	2.39
画像 23	3.33	2.57	2.18	2.33	2.43	2.10	4.00	2.29	2.55	2.53	2.34
画像 09	3.02	2.51	2.18	2.18	2.27	1.98	3.90	2.16	2.27	2.33	2.20

画像 11 は「部位」が「屋根」、「色相」が「ベージュ」、「トーン」が「同じ」、「規則性」が「あり」の画像である。「部位」、「色相」、「トーン」でそれぞれ最も評価が高かった要因を含んでいる。

画像 15 は「部位」が「屋根」、「色相」が「赤」、「トーン」が「低い」、「規則性」が「あり」である。「部位」は最も評価が高かった「屋根」を含むが、「色相」は2番目に評価の高かった「赤」、「ト

ーン」は評価の低かった「低い」である。「赤」に関しては、「部位」が「屋根」の場合には「色相」による影響がなくなることが作用していることが考えられる。

画像13は「部位」が「屋根」、「色相」が「赤」、「トーン」が「同じ」、「規則性」が「なし」である。「赤」に関しては画像15と同様のことが考えられる。

画像3は「部位」が「外壁」、「色相」が「ベージュ」、「トーン」が「低い」、「規則性」が「なし」であった。「ベージュ」の影響が強く、高い評価に結びついたと考えられる。

画像2は「部位」が「外壁」、「色相」が「ベージュ」、トーンが「高い」、「規則性」が「なし」である。画像3と同様に「ベージュ」の影響が強いと考えられる。

画像14は「部位」が「屋根」、「色相」が「赤」、「トーン」が「高い」、「規則性」が「なし」である。「屋根」と「赤*高い」の影響で評価が高くなったと考えられる。

画像21で評価値の下がりが大きくなる。画像21は「部位」が「バルコニー」、「色相」が「ベージュ」、「トーン」が「低い」、「規則性」が「あり」である。「ベージュ」以外は評価を上げる要因がない。本実験では2次の交互作用までしか検討しなかったが、2次まででは明らかにできない3次以上の交互作用が存在しているのかもしれない。

このように、評価の高かった画像の多くに高い評価をもたらす要因が複数含まれていることがわかった。

<仮説2>アクセントカラーの出現には規則性がないとよい

この仮説を全ての状況においては、実証することができなかった。しかし、アクセントカラーの着色「部位」が「屋根」の場合とアクセントカラーの色相が基調色の対称色である「青」の場合に限り成立することがわかった。

本実験では「規則性」のつけ方をアクセントカラーの出現場所で行った。「規則性」が「あり」では1軒とばしに着色し、「なし」では1軒とばし2軒とばしに着色した。「規則性」のつけ方は他にも無数にある。また、出現場所以外にも、「規則性」を生む要因はある。「規則性」のつけ方を変えると、また違った結果が出るかもしれない。

<仮説3>基調色とアクセントカラーのトーンは揃っていない方がよい

実験の結果、揃っている方がよいということがわかった。しかし、アクセントカラーの着色「部位」が「屋根」の場合、アクセントカラーの「色相」が「赤」の場合には「トーン」が「高い」方がよいという結果になった。

<仮説4>アクセントカラーは基調色よりトーンが低いとよい

「トーン」が「低い」とよい状況はなかった。しかし、画像21の評価が高いことから、3次の交互作用を調べると、この仮説が成立する条件が見つかるかもしれない。

<仮説5>基調色とアクセントカラーは色相が異なるとよい

「色相」が「同じ」方がよいという結果になった。

vi まとめ

仮説を全ての状況において立証することはできなかったが、特定の条件下では成立する仮説もあることがわかった。第四章の住宅地の色彩構成を調査した結果では、高円寺や月島に条例や協定、多くの研究で推奨されていない色相、トーンともにバラけた色彩環境があることを明らかにした。実験の結果、「楽しい」景観や「個性がある」景観をつくる場合に限っては、色相、トーン共に異なる景観がよいことが明らかとなった。

これまでの分析は被験者の属性を考慮に入れずに行ってきたが、もしかすると被験者属性によりことなる結果が出るかもしれない。次は被験者属性による差異を検証する。

第六章 実験結果の分析

一属性による差異一

- i 性別による差異
- ii 学習経験による差異
- iii 色の好みを与える影響
- iv 属性による差異のまとめ

i 性別による差異

< t 検定 >

男女で各項目の評価値に有意な差が見られるか調べるために t 検定を行った。結果、「美しい」以外の評価項目について有意な差が見られたので、「美しい」以外の評価項目について分散分析を行った。

< 分散分析 >

全体的に男性の結果の方が有意な差の生じる要因が多くなった。「違和感がない」、「個性がある」、「好き」、「親しみのある」でその傾向が見られ、反対に男性よりも女性の方が有意な差を生じる要因が多い評価項目はなかった。

全被験者のデータを用いた分析では「規則性」は単独で有意とならないが、他の要因と組み合わせられることで複数の評価項目について有意となっていた。男女別でも「規則性」単独で有意な結果となった評価項目はなかった。「規則性」を含む交互作用を見ると、男性だけ有意となる評価項目が多数あることがわかった。「好き」、「住みたい」、「心地よい」、「親しみのある」、「癒される」がこれに該当する。

これらの結果から、男性の方がアクセントカラーに影響されやすいこと、男性の方がアクセントカラーの出現場所の「規則性」に影響されやすいことが言える。

また評価項目「楽しい」では、男女で「屋根」の評価が大きく異なった。男性では「屋根」の評価が高く、女性では低い。この傾向は「楽しい」以外の評価項目では見られなかった。

評価項目「好き」、「心地よい」では、男女で「トーン」の評価が分かれた。両項目で女性は「高い」「トーン」よりも「低い」「トーン」の評価が高く、男性は「高い」「トーン」が「低い」「トーン」よりも高い評価となった。

「違和感のない」、「生活感のある」の項目では男女による差異がほとんど見られなかった。

< 因子分析 >

男女別の因子分析にも多少の差異が見られた。

男性では第一因子に「住みたい」、「好き」、「癒される」、第二因子に「親しみのある」、「心地よい」、「違和感がない」、「美しい」、「生活感のある」、第三因子に「個性がある」、「楽しい」という項目が抽出された。第一因子は住宅地の景観に最も求めている形容詞であると考えられる。「好き」なところに「住みたい」。「好き」なところは「癒される」ところである。第二因子は住宅地の景観にあつたらよい、できればこうであると良い、けれどもどうしても条件では

ない形容詞と考えることができる。第三因子は住宅地には望まれない景観を表す形容詞と考えることができる。

女性では第一因子に「心地よい」、「美しい」、「違和感がない」、「好き」、「親しみのある」、第二因子に「住みたい」、「生活感のある」、「癒される」、第三因子に「個性がある」、「楽しい」という項目が抽出された。第一因子は住宅地の景観の理想を現す形容詞、第二因子は住宅地の景観に最も求める形容詞、第三因子は住宅地の景観には求められない形容詞と考えることができる。

全体で行った因子分析と比較すると、第三因子の住宅地には望まれない景観を表す形容詞以外に差異が見られた。「好き」などところに「住みたい」男性と、「生活感のある」ところに「住みたい」女性という結果が出たと考えられる。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
住みたい	.827	.374	.091
好き	.798	.404	.146
癒される	.657	.509	-.003
美しい	.602	.570	.032
親しみのある	.495	.652	.050
心地よい	.619	.652	-.001
違和感がない	.510	.647	-.256
生活感のある	.325	.546	.046
個性がある	-.083	-.224	.753
楽しい	.238	.294	.695

因子抽出法: 主因子法
回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
a. 5 回の反復で回転が収束しました。

(男)

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
心地よい	.866	.283	.104
美しい	.844	.249	.080
違和感がない	.773	.386	-.054
好き	.760	.393	.280
親しみのある	.682	.464	.033
住みたい	.645	.514	.299
生活感のある	.593	.502	.102
癒される	.558	.785	.100
個性がある	-.111	.013	.809
楽しい	.346	.138	.704

因子抽出法: 主因子法
回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
a. 4 回の反復で回転が収束しました。

(女)

<まとめ>

既存研究の多くで、色彩が与える心理的作用に男女の差異はないとしているが、本実験では多少の差異が見られた。しかし、この差異は実際に色彩設計を行う際に特に留意するほどのものではないと言える。

ii 学習経験による差異

< t 検定 >

学習経験の有無で各項目の評価値に有意な差が見られるか調べるために t 検定を行った。結果、「生活感のある」、「心地よい」以外の評価項目について有意な差が見られたので、「生活感のある」、「心地よい」以外の評価項目について分散分析を行った。

<分散分析>

学習経験別の分散分析を各評価項目について行った。学習経験の有無は全ての被験者に「色彩学」、「都市計画学」、「建築学」について、それぞれ「1 なし」、「2 少しあり」、「3 あり」の中から選択して回答してもらった。3項目について、この回答の数字である1、2、3をポイントとして合計し、合計ポイントが3～4の被験者を学習経験なし、5以上の被験者を学習経験ありとした。学習経験なしは26名、25名であった。

学習経験ありの方が有意な差の生じる要因が多くなった。「違和感がない」、「住みたい」、「親しみがある」、「美しい」、「癒される」の評価において、このような結果となった。反対に学習経験なしの方が有意な差の生じる要因が多かった評価項目は「個性がある」1つであった。

また、学習経験ありの方が、要因内での水準差が生じやすいという傾向も見られた。これは、「楽しい」、「親しみがある」の2つの項目で見られた。

これらの結果から学習経験がある人の方が、色彩の影響が生じやすいと言える。

また、「住みたい」では「屋根*赤」の評価項目が学習経験なしで評価が高くなるという特徴が見られた。よく目にする住宅の絵では屋根が赤く塗られる場合が多いことから、「赤い屋根」というイメージが形成されていて、このような結果が生じたものと考えられる。

<因子分析>

因子分析の結果学習経験の有無では差が見られなかった。

<まとめ>

既存研究では学習経験のある被験者ばかりで実験が行われていた。本実験では経験のある被験者、ない被験者がちょうど半々であった。学習経験のある被験者の方が、色彩の変化に敏感であるという結果にはなったが、要因の評価が逆転するような現象は見られなかった。ただし、学習経験なしで「屋根*赤」の評価が高まっていることから、学習経験なしの被験者は世間の一般論の影響を受けやすい特徴があると考えられる。

男性と学習経験ありで有意な評価項目が多くなるという共通する特徴が見られた。男性で学習経験ありは18名、なしは12名女性で学習経験ありは7名、なしは14名である。性別による差というよりも学習経験の有無による差がこのような結果を引き起こしたと考えた方がよいかもしい。

iii 色の好みを与える影響

本実験ではアクセントカラーとして、ベージュ、赤、青の色相を用いた。好きな色を調べたアンケートにおいてベージュや赤、青を好きだと回答した被験者とそうでない被験者で評価に違いがあるのかを調べた。

< t 検定 >

ベージュ、赤、青を好きだと回答した被験者とそうでない被験者で評価に差があるかを調べるために t 検定を行った。

ベージュでは「生活感のある」と「親しみのある」以外の項目で有意な差が見られた。赤では「楽しい」の評価において有意な差が見られた。青では「楽しい」、「生活感のある」、「個性がある」、「美しい」の評価において有意な差が見られた。有意な差が見られた評価項目について分散分析を行い、色の好みの影響を調べる。

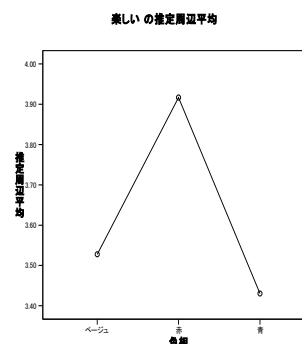
<分散分析>

ベージュを好きと回答した被験者と好きと回答しなかった被験者のデータで分散分析を行い結果を比較した。

推定値

従属変数: 楽しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.528	.234	3.062	3.994
赤	3.917	.234	3.451	4.383
青	3.431	.234	2.964	3.897

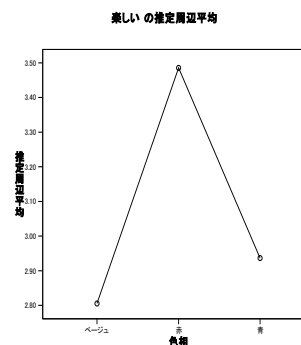


↑ ベージュを好きと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 楽しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	2.805	.056	2.695	2.916
赤	3.485	.056	3.375	3.596
青	2.936	.056	2.826	3.047



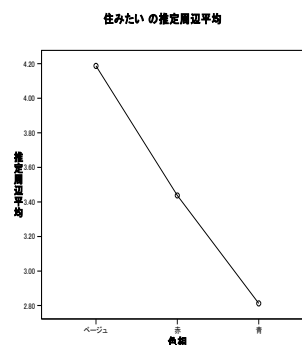
↑ ベージュを好きと回答しなかった被験者のデータ

「楽しい」ではベージュを好きと回答した被験者データの方が「ベージュ」の評価がやや高くなった。

推定値

従属変数: 住みたい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	4.188	.286	3.618	4.757
赤	3.437	.286	2.868	4.007
青	2.812	.286	2.243	3.382

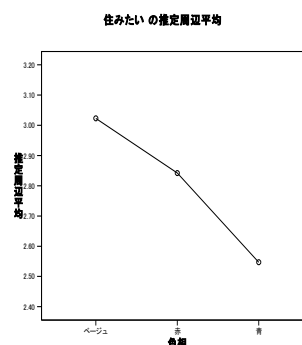


↑ ページュを好きと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 住みたい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	3.023	.060	2.905	3.141
赤	2.842	.060	2.724	2.960
青	2.547	.060	2.429	2.665



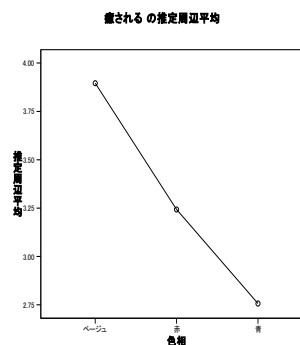
↑ ページュを好きと回答しなかった被験者のデータ

「住みたい」ではページュを好きと回答した被験者データの方が「ページュ」の評価が高くなった。

推定値

従属変数: 癒される

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	3.896	.245	3.409	4.383
赤	3.243	.245	2.756	3.730
青	2.757	.245	2.270	3.244

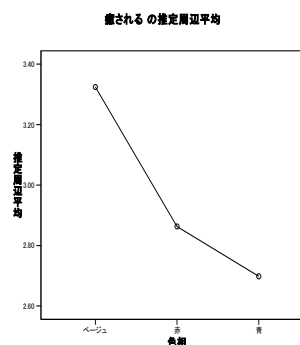


↑ ページュを好きと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 癒される

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	3.324	.056	3.215	3.434
赤	2.863	.056	2.753	2.972
青	2.698	.056	2.588	2.808



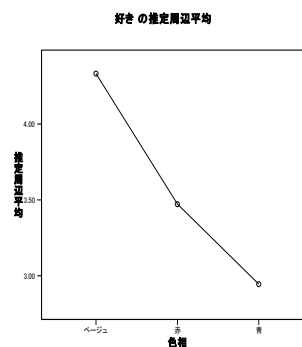
↑ ページュを好きと回答しなかった被験者のデータ

「癒される」ではページュを好きと回答した被験者データの方が「ページュ」の評価がやや高くなった。

推定値

従属変数: 好き

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	4.333	.275	3.786	4.881
赤	3.472	.275	2.924	4.020
青	2.944	.275	2.397	3.492

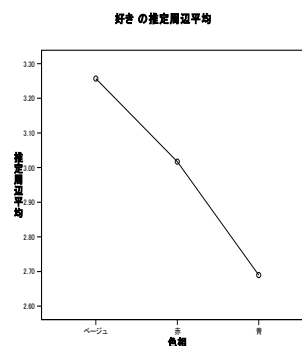


↑ ページュを好きと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 好き

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	3.257	.062	3.136	3.378
赤	3.017	.062	2.896	3.138
青	2.690	.062	2.568	2.811



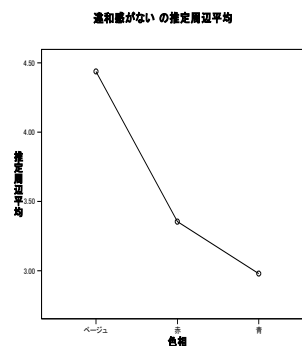
↑ ページュを好きと回答しなかった被験者のデータ

「好き」ではページュを好きと回答した被験者データの方が「ページュ」の評価が高くなった。

推定値

従属変数: 違和感がない

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	4.437	.303	3.834	5.041
赤	3.354	.303	2.751	3.958
青	2.979	.303	2.376	3.583



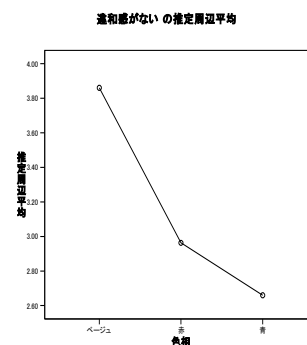
↑ ページュを好きと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 違和感がない

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	3.860	.066	3.731	3.990
赤	2.963	.066	2.834	3.092
青	2.660	.066	2.530	2.789

↑ ページュを好きと回答しなかった被験者のデータ



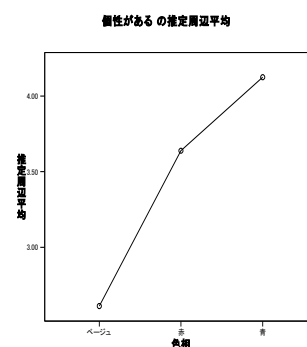
「違和感がない」では差が見られなかった。

推定値

従属変数: 個性がある

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	2.611	.277	2.060	3.163
赤	3.639	.277	3.087	4.190
青	4.125	.277	3.573	4.677

↑ ページュを好きと回答した被験者のデータ

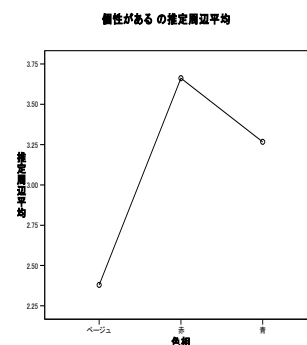


推定値

従属変数: 個性がある

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	2.380	.059	2.263	2.496
赤	3.662	.059	3.546	3.778
青	3.267	.059	3.151	3.384

↑ ページュを好きと回答しなかった被験者のデータ



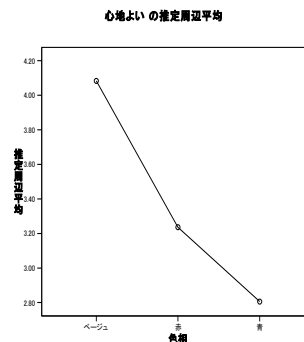
「個性がある」ではページュを好きと回答した被験者データの方が「ページュ」の評価がやや高くなった。

推定値

従属変数: 心地よい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	4.083	.262	3.562	4.605
赤	3.236	.262	2.714	3.758
青	2.806	.262	2.284	3.327

↑ ベージュを好きと回答した被験者のデータ

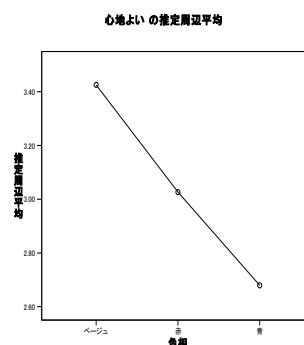


推定値

従属変数: 心地よい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.425	.058	3.312	3.539
赤	3.026	.058	2.913	3.140
青	2.679	.058	2.566	2.793

↑ ベージュを好きと回答しなかった被験者のデータ



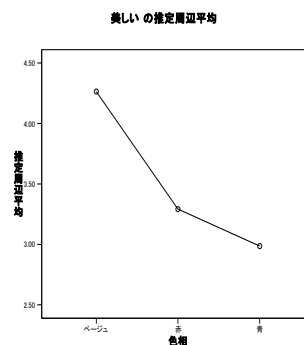
「心地よい」ではベージュを好きと回答した被験者データの方が「ベージュ」の評価がやや高くなった。

推定値

従属変数: 美しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	4.264	.258	3.751	4.777
赤	3.292	.258	2.779	3.805
青	2.986	.258	2.473	3.499

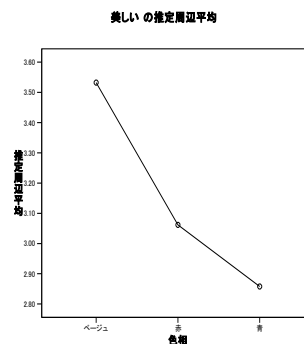
↑ ベージュを好きと回答した被験者のデータ



推定値

従属変数: 美しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.532	.056	3.422	3.642
赤	3.062	.056	2.952	3.171
青	2.858	.056	2.748	2.968



↑ ベージュを好きと回答しなかった被験者のデータ

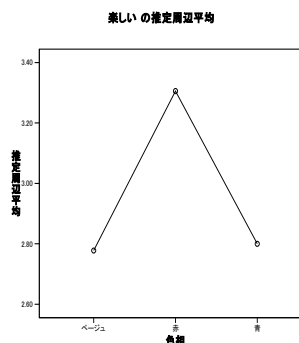
「美しい」ではベージュを好きと回答した被験者データの方が「ベージュ」の評価が高くなった。

赤を好きだと回答した被験者と赤が好きだと回答しなかった被験者の「楽しい」の評価値を用いて分散分析を行った。

推定値

従属変数: 楽しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	2.778	.133	2.516	3.039
赤	3.306	.133	3.044	3.567
青	2.800	.133	2.538	3.062

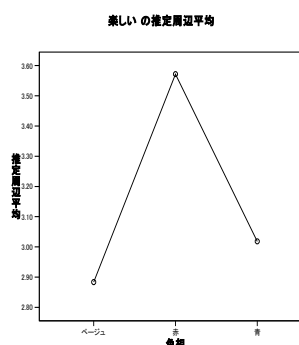


↑ 赤を好きだと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 楽しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	2.884	.060	2.765	3.002
赤	3.572	.060	3.453	3.690
青	3.018	.060	2.900	3.137



↑ 赤を好きだと回答しなかった被験者のデータ

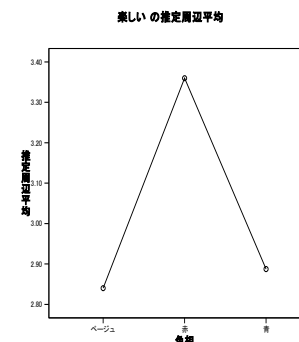
「色相」の評価値の平均値を比較してみると、赤を好きだと回答した被験者の方が「赤」の評価が低くなっていることがわかった。

次に、青を好きだと回答した被験者とそうでない被験者の「楽しい」、「生活感のある」、「個性がある」、「美しい」の項目における評価値を用いた分散分析を行った。

推定値

従属変数: 楽しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	2.840	.093	2.657	3.024
赤	3.360	.093	3.176	3.543
青	2.888	.093	2.704	3.071

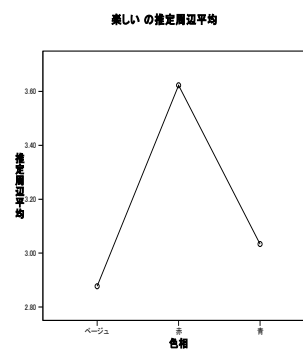


↑ 青を好きだと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 楽しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	2.877	.068	2.744	3.011
赤	3.623	.068	3.490	3.756
青	3.034	.068	2.900	3.167



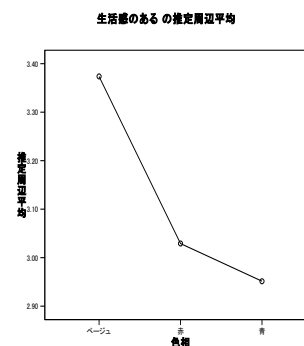
↑ 青を好きだと回答しなかった被験者のデータ

「楽しい」で「色相」の評価値の平均値を比較してみると、青を好きだと回答した被験者のデータの方がやや「青」の評価が低くなっていることがわかった。

推定値

従属変数: 生活感のある

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.374	.098	3.182	3.566
赤	3.029	.098	2.837	3.221
青	2.951	.098	2.759	3.143

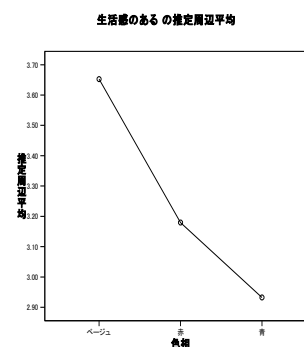


↑ 青を好きだと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 生活感のある

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.653	.076	3.504	3.802
赤	3.180	.076	3.031	3.328
青	2.932	.076	2.783	3.082



↑ 青を好きだと回答しなかった被験者のデータ

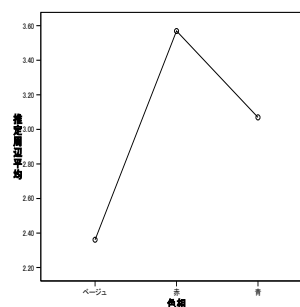
「生活感のある」では「青」の評価値に差が見られなかった。

推定値

従属変数: 個性がある

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	2.361	.086	2.192	2.530
赤	3.569	.086	3.400	3.739
青	3.069	.086	2.900	3.239

個性があるの推定周辺平均



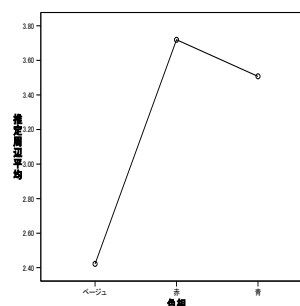
↑ 青を好きだと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 個性がある

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	2.422	.078	2.268	2.576
赤	3.719	.078	3.566	3.873
青	3.508	.078	3.354	3.662

個性があるの推定周辺平均



↑ 青を好きだと回答しなかった被験者のデータ

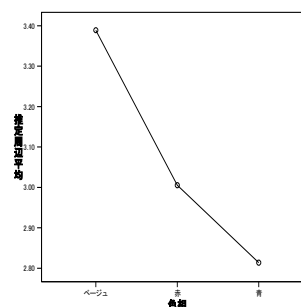
「個性がある」では「青」を好きだと回答しなかった被験者の平均値の方がやや「青」の評価が高くなった。

推定値

従属変数: 美しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.389	.090	3.212	3.566
赤	3.006	.090	2.829	3.182
青	2.814	.090	2.637	2.991

美しいの推定周辺平均



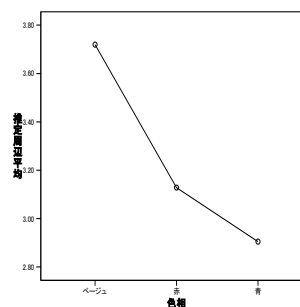
↑ 青を好きだと回答した被験者のデータ

推定値

従属変数: 美しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.720	.070	3.582	3.857
赤	3.128	.070	2.991	3.265
青	2.905	.070	2.767	3.042

美しいの推定周辺平均



↑ 青を好きだと回答しなかった被験者のデータ

「美しい」では「青」の評価値に差が見られなかった。

<まとめ>

ベージュでは多くの評価項目で好きと回答した人のデータが好きと回答しなかった人のデータよりも高い評価値となった。しかし、赤や青では同様の結果とならなかった。本実験では建物の基調色をベージュにしてあるので、アクセントカラーがベージュの画像は基調色、アクセントカラー共にベージュである。ベージュは赤や青に比較して使われる面積が広くなったために、色の好みの結果に反映したと考えられる。

色彩調和理論の研究で色彩調和は色の好みを反映するという結果を出しているものが多数あるが、建物の色彩においては、アクセントカラーのみに使用する色彩の評価に色の好みは反映されることはないと言える。

iv 属性による差異のまとめ

男女や学習経験による差異が多少見られたが、都市景観の色彩計画において留意するほどの大きな違いは見られなかった。色の好みはアクセントカラーのみでは反映されず、基調色、アクセントカラー共に好きな色が使用されている場合にのみ反映されることがわかった。この結果から、色彩計画を行う際には基調色の選定に好みが出やすいので計画者やアドバイザーはその点に配慮すべきである。

第七章 住宅地においてよい色彩環境を形成する手法

- i よい景観のつくり方
- ii 住宅地に望まれる景観とは
- iii 形容詞別よい景観のつくり方
- iv 例外から見る要因の特徴

i よい景観のつくり方

第五章行った因子分析により、住宅地に望まれる景観を表す形容詞が明らかとなった。それらの形容詞の評価値を用いた分散分析結果から、よい景観をつくるにはどのようにしたよいか明らかとなった。

- ・ アクセントカラーを着色する「部位」は「屋根」にする。
- ・ アクセントカラーの「色相」は基調色に似ているほどよい。
- ・ アクセントカラーの「トーン」は基調色と「同じ」にする。
- ・ アクセントカラーの出現場所の「規則性」には配慮しなくてよい。

ただし、例外として

- ・ アクセントカラーの「色相」が「ベージュ」の場合には着色する部位が「外壁」の方がよい。
- ・ アクセントカラーの着色部位が「屋根」の場合には「トーン」が「高い」方がよい。
- ・ アクセントカラーの着色部分の「規則性」は「色相」が「青」の場合、「部位」が「外壁」、「屋根」の場合に影響し、「青」、「屋根」では「なし」が「あり」よりも、「外壁」では「あり」が「なし」よりもよい。
- ・ アクセントカラーの「色相」が「赤」の場合には「トーン」が「高い」方がよい。

ことが言えるので、以上の点にも注意しなければならない。

ii 住宅地に望まれる景観とは

回転後の成分行列^a

	成分		
	1	2	3
心地よい	.882	.042	.225
好き	.865	.227	.185
美しい	.860	.040	.166
住みたい	.837	.224	.213
違和感がない	.813	-.186	.283
癒される	.773	.070	.402
親しみのある	.765	.027	.359
個性がある	-.149	.908	-.051
楽しい	.353	.788	.156
生活感のある	.438	.074	.879

因子抽出法: 主成分分析

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 4 回の反復で回転が収束しました。

男女別に行った因子分析の結果では男性の第一因子に「住みたい」、「好き」、「癒される」、女性の第二因子に「住みたい」、「生活感のある」、「癒される」が抽出された。男女合わせた因子分析の結果では第一因子に「心地よい」、「好き」、「美しい」、「住みたい」、「違和感がない」、「癒される」、「親しみのある」が抽出されたが、「心地よい」、「好き」、「美しい」の相関はそれぞれ0.882, 0.865, 0.860で、「住みたい」の0.837以下の形容詞とは多少の差が見られる。この結果から「住みたい」まちなみとは「癒される」まちなみであり、美しさよりも癒される景観をつくることが住人を喜ばせることにつながることがわかった。「住みたい」と同じ因子となった形容詞は住人として望む景観であるとも考えることができる。男性の第二因子、女性の第一因子は来訪者として望む景観要素と考えることもできる。

i で述べた「よい景観」をつくる手法は住人にとっての「よい景観」であるとするならば、来訪者にとって「よい景観」をつくる必要がある場合もあり、以下には形容詞別の「よい景観」のつくりかたを記す。

iii 形容詞別よい景観のつくり方

「違和感がない」景観をつくるためには

- ・ アクセントカラーを取り入れる「部位」は「屋根」が最もよく、次に「外壁」がその次に「バルコニー」がよい。
- ・ アクセントカラーの「色相」は「ベージュ」が最もよく、次に「赤」、その次に「青」がよい。
- ・ アクセントカラーの「トーン」は「同じ」にするとよい。
- ・ アクセントカラーの出現の「規則性」は配慮しなくてよい。

ということが言える。ただし、例外として

- ・ 「色相」が「ベージュ」の場合には「部位」を「外壁」にする方が、「屋根」よりもよい。
- ・ 「色相」が「青」の場合には、「規則性」に配慮しなくてはならず「ない」方がよい。
- ・ 「部位」が「外壁」の場合には「トーン」に配慮しなくてよい。
- ・ 「部位」が「外壁」の場合には「規則性」の影響があり、「あり」の方がよい。
- ・ 「部位」が「屋根」の場合には「トーン」が「高い」が「同じ」同程度までよくなる。
- ・ 「部位」が「屋根」の場合には「規則性」の影響があり、「なし」の方がよい。
- ・ 「部位」が「バルコニー」の場合には「トーン」が「低い」方が「高い」よりもよい。
- ・ 「トーン」が「同じ」、「高い」場合には「部位」の「外壁」、「バルコニー」が同等の効果をなす。
- ・ 「トーン」が「同じ」、「高い」場合には「色相」の「青」が「赤」と同程度までよくなる。

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

「楽しい」景観をつくるためには

- ・ 「部位」、「規則性」には配慮しなくてよい。
- ・ 「色相」は「赤」が最もよく、「ベージュ」か「青」であればどちらでも変わりはない。
- ・ 「トーン」は「低い」か「高い」がよく、「同じ」はあまりよくない。

ということが言える。ただし、例外として

- ・「色相」が「赤」の場合には「トーン」に配慮しなくてよい。
- ・「色相」が「青」の場合には「トーン」が「低い」が最もよく、「同じ」、「高い」があまりよくない。
- ・「トーン」が「低い」場合には「色相」に配慮しなくてよい。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「青」が「赤」と同程度までよくなる。

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

「個性がある」景観をつくるためには

- ・「部位」は「外壁」と「バルコニー」がよく、「屋根」はよくない。
- ・「色相」は「赤」が最もよく、次に「青」がよい。「ベージュ」はよくない。
- ・「トーン」は「低い」が最もよく、次に「高い」がよい。「同じ」はよくない。

ということが言える。ただし、例外として

- ・「部位」が「外壁」、「バルコニー」の場合には、「トーン」が「高い」が「低い」と同程度の効果をなす。
- ・「部位」が「外壁」の場合には「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりよい。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「トーン」が「高い」がよくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「規則性」の影響があり、「あり」が「なし」よりよい。
- ・「色相」が「ベージュ」、「赤」の場合には「トーン」 「高い」が「低い」と同程度までよくなる。
- ・「色相」が「青」の場合には「トーン」 「高い」がよくなる。
- ・「トーン」が「同じ」、「低い」場合には「青」が「赤」と同程度までよくなる。
- ・「トーン」が「同じ」、「低い」の場合には「部位」による影響がなくなる。
- ・「トーン」が「高い」場合には「青」があまりよくなる。
- ・「トーン」が「高い」では「規則性」の影響があり、「なし」が

- 「あり」よりよい。
- ・「規則性」が「なし」では「トーン」「高い」が「低い」と同程度までよくなる。

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

「好き」な景観をつくるためには

- ・「部位」は「屋根」がよい。
- ・「色相」は「ベージュ」が最もよく、次に「赤」、「青」はあまりよくない。

ということが言える。ただし、例外として

- ・「部位」が「屋根」の場合には「色相」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「トーン」の影響があり「高い」より「低い」方がよい。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「部位」が「バルコニー」の場合には「トーン」が「同じ」より「高い」方がよい。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合には「部位」が「屋根」よりも「外壁」の方がよくなる。
- ・「色相」が「赤」の場合には「トーン」の影響を受け、「同じ」方が「低い」よりもよい。
- ・「色相」が「青」の場合には「規則性」の影響を受け、「なし」より「あり」のがよい。
- ・「トーン」が「同じ」場合には「部位」「バルコニー」が「屋根」と同程度までよくなる。
- ・「トーン」が「同じ」場合には「色相」「赤」が「ベージュ」と同程度までよくなる。
- ・「トーン」が「低い」場合には「部位」の影響がなくなる。
- ・「規則性」が「あり」の場合には「色相」「赤」が「ベージュ」と同程度までよくなる。
- ・「規則性」が「あり」の場合には「部位」「外壁」が「屋根」と同程度までよくなる。

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

「住みたい」景観をつくるためには

- ・「部位」は「屋根」がよい。
- ・「色相」は「ベージュ」が最もよく、次に「赤」、「青」はあまりよくない。
- ・「トーン」は「同じ」がよく「高い」はよくない。

ということが言える。ただし、例外として

- ・「部位」が「外壁」の場合には「トーン」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合は「色相」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合は「部位」「外壁」の評価が高くなる。
- ・「色相」が「青」では「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「色相」が「ベージュ」、「青」の場合には「トーン」の影響がなくなる。
- ・「トーン」が「同じ」場合には「部位」「バルコニー」が「屋根」と同程度までよくなる。
- ・「トーン」が「同じ」場合には、「色相」「赤」が「ベージュ」と同程度までよくなる。
- ・「トーン」が「高い」では「部位」「外壁」がややよくなる。
- ・「規則性」が「あり」では「色相」「赤」が「ベージュ」と同程度までよくなる。
- ・「規則性」が「あり」の場合、「部位」の影響がなくなる

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

「心地よい」景観をつくるためには

- ・「部位」は「屋根」がよい。
- ・「色相」は「ベージュ」が最もよく、次に「赤」、「青」はあまりよくない。
- ・「トーン」は「同じ」がよく「高い」、「低い」はよくない。

ということが言える。ただし、例外として

- ・「部位」が「外壁」の場合には「トーン」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「外壁」の場合には「規則性」の影響があり、「あり」が「なし」よりもよい。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「トーン」「高い」が「同じ」と同程度までよくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「色相」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「部位」が「バルコニー」の場合には「トーン」「低い」がややよくなる。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合には「部位」「外壁」の評価が高くなる。
- ・「色相」が「青」では「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合には「トーン」の影響がなくなる。
- ・「トーン」が「同じ」場合には「部位」「バルコニー」が「屋根」と同程度までよくなる。
- ・「トーン」が「高い」では「部位」「外壁」がややよくなる。
- ・「トーン」が「同じ」場合には、「色相」「赤」が「ベージュ」と同程度までよくなる。

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

「親しみのある」景観をつくるためには

- ・「部位」は「屋根」がよい。
- ・「色相」は「ベージュ」が最もよく、次に「赤」、「青」はあまりよくない。
- ・「トーン」は「同じ」がよく「高い」、「低い」はよくない。

ということが言える。ただし、例外として

- ・「部位」が「外壁」の場合には「トーン」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「トーン」「高い」が「同じ」と同程度までよくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合は「色相」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合は「部位」「外壁」の評価が高くなる。
- ・「色相」が「青」では「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合には「トーン」の影響がなくなる。
- ・「トーン」が「同じ」場合には、「色相」「赤」が「ベージュ」と同程度までよくなる。
- ・「規則性」が「あり」の場合には「部位」の影響がなくなる。

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

「生活感のある」景観をつくるには

- ・「部位」は「屋根」がよい。
- ・「色相」は「ベージュ」が最もよく、「赤」、「青」はあまりよくない。
- ・「トーン」の影響はない。
- ・「規則性」の影響はない。

ということが言える。ただし、例外として

- ・「部位」が「屋根」の場合には「色相」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「トーン」の影響があり「低い」

より「高い」方がよい。

- ・「部位」が「屋根」の場合には「トーン」の影響があり、「高い」が「低い」よりよい。
- ・「部位」が「バルコニー」の場合には「トーン」が「高い」より「同じ」、「低い」の方がよい。
- ・「トーン」が「低い」場合には「部位」の影響がなくなる。

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

「美しい」景観をつくるには

- ・「部位」は「屋根」がよい。
- ・「色相」は「ベージュ」が最もよく、次に「赤」、「青」はあまりよくない。
- ・「トーン」は「同じ」がよく「低い」はよくない。

ということが言える。ただし、例外として

- ・「部位」が「屋根」の場合は「色相」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「部位」が「バルコニー」の場合には「色相」「青」がややよくなる。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合には「トーン」の影響がなくなる。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合は「部位」「外壁」の評価が高くなる。
- ・「色相」が「青」では「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「色相」が「青」では「部位」「バルコニー」がややよくなる。
- ・「色相」が「青」では「トーン」「高い」が「同じ」と同程度までよくなる。
- ・「トーン」が「同じ」場合には、「色相」「赤」が「ベージュ」と同程度までよくなる。
- ・「トーン」が「高い」場合には「色相」「青」がややよくなる。
- ・「トーン」が「低い」場合には「色相」「赤」がややわるくなる。
- ・「規則性」が「なし」では「青」が「赤」と同程度までよくなる。

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

「癒される」景観をつくるには

- ・「部位」は「屋根」がよい。
- ・「色相」は「ベージュ」が最もよく、次に「赤」、「青」はあまりよくない。
- ・「トーン」は「同じ」がよく「高い」、「低い」はよくない。

ということが言える。ただし、例外として

- ・「部位」が「外壁」の場合には「トーン」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「トーン」「高い」が「同じ」と同程度までよくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合は「色相」の影響がなくなる。
- ・「部位」が「屋根」の場合には「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「部位」が「バルコニー」の場合には「色相」「青」が「赤」と同程度までよくなる。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合は「部位」「外壁」の評価が高くなる。
- ・「色相」が「青」では「規則性」の影響があり、「なし」が「あり」よりもよい。
- ・「色相」が「ベージュ」の場合には「トーン」の影響がなくなる。
- ・「トーン」が「同じ」場合には、「色相」「赤」が「ベージュ」と同程度までよくなる。
- ・「トーン」が「高い」場合には「色相」「青」がややよくなる。
- ・「トーン」が「低い」場合には「色相」「赤」がややわるくなる。
- ・「トーン」が低い場合には「部位」の影響がなくなる。
- ・「規則性」が「なし」の場合には「色相」「青」が「赤」と同程度までよくなる。

が言えるので、以上の点にも配慮しなくてはならない。

iv 例外から見る要因の特徴

複数の評価項目に共通して見られる例外がある。「規則性」の交互作用に関するもの、「トーン」の影響がなくなるもの、「トーン」の「同じ」、「高い」に差がなくなるもの、「色相」の影響がなくなるもの、「色相」の「ベージュ」、「赤」に差がなくなるものがそれに該当する。

< 「規則性」の交互作用に関するもの >

「色相」が「青」の場合「なし」が「あり」よりも高い評価となる評価項目は「違和感がない」、「好き」、「住みたい」、「心地よい」、「親しみのある」、「美しい」、「癒される」の7つであった。「部位」が「屋根」の場合に「なし」が「あり」よりも高い評価となる評価項目は「違和感がない」、「好き」、「住みたい」、「心地よい」、「親しみのある」、「美しい」、「癒される」の6つであった。

このことから、「青」と「屋根」が「規則性」を感じさせやすい状況に結びつくことが推測される。

< 「トーン」の影響がなくなるもの >

「部位」が「外壁」の場合に「トーン」の影響がなくなる評価項目は、「違和感がない」、「住みたい」、「心地よい」、「親しみのある」、「癒される」の5つであった。このことから、「外壁」へ用いるアクセントカラーの「トーン」は違いが感じられにくいことが推測される。

「色相」が「ベージュ」の場合に「トーン」の影響がなくなる評価項目は「住みたい」、「心地よい」、「親しみのある」、「美しい」、「癒される」の5項目であった。「ベージュ」は全体として高い評価になっていることから、「ベージュ」であれば「トーン」に限らず、比較的よい色彩環境が構成されることが推測できる。

< 「トーン」「高い」が「同じ」と同程度の評価となるもの >

「部位」が「屋根」の場合「トーン」が「高い」と「同じ」の評価が同程度になる、つまり「トーン」「高い」の評価がよくなる評価項目には「違和感がない」、「心地よい」、「親しみのある」、「癒される」の4項目が該当している。

「屋根」は基調色の「トーン」が比較的低いことから、あまりに「低すぎる」色が嫌がられ、「高い」と「同じ」が高い評価となったことが推測される。

<「色相」の影響がなくなるもの>

「部位」が「屋根」の場合に「色相」の影響がなくなる評価項目には「住みたい」、「心地よい」、「親しみのある」、「生活感のある」、「美しい」、「癒される」の6項目が該当した。「屋根」は基調色のトーンが低いため、「色相」の違いが感じられにくい状況が生じたことも考えられる。

<「赤」が「ベージュ」と同程度の評価となるもの>

「トーン」が「同じ」場合に「赤」と「ベージュ」の評価が同程度になる評価項目には「好き」、「住みたい」、「心地よい」、「親しみのある」、「美しい」「癒される」の6項目があった。これら6項目では「色相」が暖色のものが高い評価を得ていると考えることができる。

共通する例外から、特定の要因の特徴が明らかとなった。これらの特徴にも配慮した色彩計画が望まれる。

本実験では「部位」の水準として、「外壁」、「屋根」、「バルコニー」の3つを設定した。「部位」による差異が見られたが、これはアクセントカラーの着色面積による差であるのか、着色部分の高さの差であるのか、「部位」の形態による差であるのかを明らかにすることができなかった。「屋根」に関しては、基調色自体が「外壁」、「バルコニー」とは異なるために、その影響が出た可能性もある。「外壁」と「バルコニー」では多くの評価項目において、「外壁」の方が高い評価を得ていることから、面の部分にアクセントカラーを配する時には、ある程度の大きさの面全体に配することが好ましいと言える。

また、本実験ではアクセントカラーを1枚の画像につき1色しか用いなかった。ダミーの画像で3色のアクセントカラーを取り入れた写真を提示し、それも評価してもらったが、いずれの評価項目でも高い評価を得ている。この画像は元の住宅写真が異なるため、住宅の形態の影響が評価に影響を与えている可能性もあるが、アクセントカラーは1色よりも複数色の方がよい可能性もあると言える。

おわりに

第四章の住宅地の色彩構成を調査した結果では、高円寺や月島に色相、トーンともにバラけた色彩環境があることを明らかにした。これは、条例や協定、多くの研究で推奨されていない色彩環境である。実験の結果、「楽しい」景観や「個性がある」景観をつくる場合とアクセントカラーの「色相」が「赤」の場合に限っては、色相、トーン共に異なる景観がよいことが明らかとなった。実験で用いた10の評価項目について因子分析を行った結果、住人が住宅地に求めている景観に「楽しい」や「個性がある」は含まれなかった。住宅地の景観として、最も望まれていたのは「住みたい」と強い相関関係にある「癒される」であった。「美しい国づくり」など、「美しい」景観を創ることが目標とされることが多いが、住宅地においては美しさよりも癒しに重点を置くべきである。

単調な色彩環境は見る者を退屈にさせていると考え、このような研究を行うことを考え付いたが、実験を行ってみると不適当なアクセントカラーを用いるよりは、アクセントカラーがない方がよいという結果となった。本実験では実証されない仮説もあったが、住宅地に望まれるアクセントカラーのタイプや、評価項目別に高い評価を得るアクセントカラーのタイプを明らかにすることができた。この結果を住宅地の色彩設計に応用することが可能だと考えている。

本実験ではアクセントカラーの要因を「部位」、「色相」、「トーン」、「規則性」の4つとした。「規則性」はアクセントカラーの出現場所が規則的であるか、そうでないかの2つの水準としたが、「規則性」のつけ方には他にも方法があり、今回「規則性」だけで有意な差を生じる分散分析結果を得ることが出来なかったことから、他の方法での検証の余地がある。また、アクセントカラーを1枚の画像につき、1色しか用いなかった。実験で用いたダミー画像にはアクセントカラーを複数色配したものをを用いたが、高い評価を得ている。画像の元となる住宅写真が異なるので、単に色の差異によるものとは断定できないが、アクセントカラーが複数色の場合も今後検討の余地があると言える。

謝辞

この論文を書くにあたり指導して下さった浅見泰司教授、石川徹准教授、第三章の住宅地の色彩環境の分析で用いたソフト、ColorDistView 製作者の古澤 徹さん、アドバイスをしてくれた浅見研究室・石川研究室的のメンバー、また貴重な時間を割いて実験に協力してくれた全ての被験者の方々に心から感謝の意を表します。

参考文献

第一章

- ① 戸沼 幸市：人間尺度論，彰国社，272p，1978. 6.
- ② 篠原 一男：篠原一男経由 東京発東京論，鹿島出版会，262p，2001. 8.
- ③ 吉見 俊哉・若林 幹夫：東京スタディーズ，紀伊国屋書店，285p，2005. 4.
- ④ 材野 博司：かいわいー日本の都市空間，鹿島出版会，225p，1978. 1.
- ⑤ 材野 博司：庭園から都市へーシークエンスの日本，鹿島出版会，219p，1997. 11.
- ⑥ 五十嵐 太郎：美しい都市・醜い都市ー現代景観論，中央公論新社，270p，2006. 10.

- ⑦ 恒松良純：街並みの「ゆらぎ」の物理量分析，日本建築学会計画系論文集，No.542，pp137-144，2001.4.
- ⑧ P.Thiel：A Sequence Experience Notation，Town Planning Review，vol april，1961
- ⑨ 亀井栄治ほか：スカイラインのゆらぎとその快適感に関する研究，日本建築学会計画系論文集，No. 432，pp105-111，1992. 2.
- ⑩ 速水研太ほか：街路シークエンス景観の定量記述手法に関する研究，日本建築学会計画系論文集，No502，pp155-162，1997. 12.
- ⑪ 益岡了ほか：シークエンス景観における歩行者の行動と反応の研究，日本建築学会計画系論文集，No. 502，pp163-169，1997. 12.
- ⑫ 末繁雄一・両角光男：都市空間における来訪者の回遊行動を誘発・抑止する視覚情報の分析ー熊本市の中心市街地における視覚情報と来訪者の回遊行動の関係に関する研究一，日本建築学会計画系論文集，No. 614，pp191-197，2007. 4.
- ⑬ 朴喜潤・佐藤滋：中心市街地における都市空間構成と歩行者回遊行動に関する研究ー歩行者追跡調査結果と回遊単位概念を用いてー，日本建築学会計画系論文集，No. 605，pp143-150，2006. 4.
- ⑭ 小林茂雄：昼夜の遊歩道における店舗開口部の特徴と歩行者の注視行動との関係 原宿キャットストリートを対象にしたケーススタディ，日本建築学会計画系論文集，No. 575，2004. 1.

- ⑮ 「美しい景観を創る会」HP <http://www.utsukushii-keikan.net/index.html>
- ⑯ 「SAVE THE 下北沢」HP <http://www.stsk.net/>

第二章

- ① 福田 邦夫:色彩調和論, 朝倉書店, 164p, 1996. 2.
- ② 星野昌一:色彩調和と配色, 丸善, 258p, 1957
- ③ 東京商工会議所:カラーコーディネーションの基礎, 中央経済社, 222p, 2001. 5.

- ④ 木多道宏ほか:都市景観における色彩の視覚的「まとまり」に関する研究, 第31回都市計画学会学術研究論文集, pp31-35, 1996.
- ⑤ 稲垣卓造:景観整備を目的とした都市の色彩評価に関する実験的研究, 日本建築学会計画系論文報告集, No. 451, pp29-39, 1993. 9.
- ⑥ 木多道宏ほか:街路景観における色彩の心理効果—連続する建物群の基調色および単一建物の強調色の変化と「まとまり」評価等の関係—, 日本建築学会計画系論文集, No522, pp239-246, 1999. 8.
- ⑦ 稲垣卓造:建築の外部色彩の評価に関する実験的研究—地域・高さを実験変数に含んだケース—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp1123-1124, 1993. 9
- ⑧ 稲垣卓造:景観要素の色彩評価に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp51-52, 1988. 10
- ⑨ 和田卓・榎究・中村芳樹・乾正雄:街路景観評価に与える色彩の影響 その1:街路景観モデルによる色彩配列効果の把握, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp1119-1120, 1993. 9.
- ⑩ 和田卓・榎究・中村芳樹・乾正雄:街路景観評価に与える色彩の影響 その2:街路景観のカラーシミュレーション, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp1121-1122, 1993. 9.
- ⑪ 北本裕之ほか:建物の外壁色に関する基礎的研究—オフィスビルについて—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp1125-1126, 1993. 9.
- ⑫ 中島光平・添田昌志・大野隆造:街路景観に関するデザインガイドライン規定項目の有効性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp909-910, 2002. 8.
- ⑬ 榎究・乾正雄ほか:街路景観の色相調和その2 —隣り合う建物の色相相互関係—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp53-54, 1988. 10.
- ⑭ 佐藤仁人・中山和美・名取和幸:壁面色の面積効果に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, No. 555, pp15-20, 2002. 5.
- ⑮ 高瀬達夫ほか:色彩のフラクタル次元を用いた景観評価手法に関する研究, 都市計画論文集, No. 40-3, pp613-618, 2005. 1.
- ⑯ 木多道宏・奥俊信ほか:建築壁面の色彩配列および修景操作と心理効果の関係—都市景観における色彩評価構造に関する研究— その2, 日本建築学会計画系論文集, No. 516, pp177-183, 1999. 2.
- ⑰ 小柳武和ほか:屋外広告物が都市景観の色彩調和・イメージに与える影響, 第28回都市計画学会学術研究論文集, pp523-528, 1993.
- ⑱ 奥 俊信ほか:色彩の様相に基づく都市景観の分析, 第28回日本都市計画学会学術研究論文集, pp529-534, 1993.

第三章

- ① 吉田 慎悟:まちな色をつくる 環境色彩デザインの手法, 建築資料研究社, 206p, 1998. 10.
- ② 小林 重順:景観の色とイメージ, ダヴィッド社, 222p, 1994. 4.
- ③ 公共の色彩を考える会:公共の色彩を考える, 青娥書房, 182p, 1989. 9.
- ④ 乾正雄:建築の色彩設計, 鹿島出版会, 266p, 1976. 1.
- ⑤ 尾崎 真理・佐久間 彰三:風土色による色彩学のすすめ—建築・まち・美しい景観の創造, 彰国社, 117p, 2006. 9.

- ⑥小田原市 HP <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/>
- ⑦宮崎市 HP <http://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/>
- ⑧東京都 HP <http://www.metro.tokyo.jp/>
- ⑨「公共の色彩を考える会」HP <http://www.sgcpp.jp/index.htm>
- ⑩「コモアしおつ景観色彩ガイドライン」

第四章

- ① 中村 義作:よくわかる実験計画法, 近代科学社, 191p, 1997. 5.
- ② 田口 玄一:実験計画法(上), 丸善, 533p, 1976. 12.
- ③ 百里美和:街路景観における印象評価指標の体系化, 2006年度東京大学大学院修士論文, 2007. 2.

第五章

- ① 小塩 真司:SPSS と Amos による心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで, 東京図書, 247p, 2004. 5.

付録

- i 実験で用いた画像・アンケート
 - ii 実験結果
- iii 全被験者のデータを用いた分散分析結果
 - iv 男女別の分析結果
 - v 学習経験別の分析結果

i 実験で用いた画像・アンケート

実験で用いた画像

1



2



3



4



5



12



13



14



15



16



6



7



8



9



11



17



18



20



21



22



23



24



25



26



27



ダミー画像 10



ダミー画像 11



<アンケート>

No. _____

質問1 年齢 _____ 歳 性別 男 ・ 女 職業 (簡単に) _____

質問2 好きな色は何色ですか?○をつけて下さい。(複数回答可)

赤 ・ ピンク ・ 紫 ・ 水色 ・ 青 ・ 緑 ・ 黄緑 ・ 黄色

オレンジ ・ ベージュ ・ 茶 ・ グレー ・ 黒 ・ 白 ・ その他 ()

上で選んだ色を好きな順に並べてください。

質問3 家を建てたことがある方:

何色の家を建てましたか?なぜその色を選びましたか?

屋根の色 _____ 外壁の色 _____ その他 _____

理由 _____

家を建てたことのない方:

家を建てるとしたら何色がよいですか?なぜその色を選びましたか?

屋根の色 _____ 外壁の色 _____ その他 _____

理由 _____

質問4 今までどのようなタイプの住居に住んできましたか?住んだことがあるタイプの住宅を選択し、居住していた年数を大まかに記入して下さい。

戸建て住宅 (_____ 年) ・ 集合住宅 (_____ 年) ・ その他 (_____ 年)

質問5 どんなまちなみが好きですか？該当するものに○をつけて下さい。（複数回答可）

落ち着いた ・ 活気のある ・ 郊外的な ・ 都会的な ・ 下町風の ・

山手風の ・ きれいな ・ ごちゃごちゃした ・ すっきりした ・

歴史を感じる ・ ニュータウン ・ 洋風な ・ 日本的な ・ モダンな ・

レトロな ・ 古い ・ 新しい ・ ゆったりした ・ 密集した

質問6 色彩学、都市計画学、建築学について学んだことはありますか？

色彩学： あり ・ 少しあり ・ なし

都市： あり ・ 少しあり ・ なし

建築： あり ・ 少しあり ・ なし

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

アンケートの内容を研究以外の目的で用いることはありません。

プライバシーに配慮し、個人が特定されることのないよう十分注意い

評価結果

画像1

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの湧きやすい
1	4	3	4	4	4	4
2	4	5	4	5	6	3
3	2	3	4	4	5	4
4	2	5	4	4	6	5
5	1	2	3	3	4	2
6	2	3	4	4	4	3
7	2	4	3	3	2	2
8	3	4	4	3	4	3
9	2	3	3	2	4	3
11	4	4	3	3	4	4
12	3	4	4	3	5	3
13	2	4	4	4	5	4
14	1	6	2	2	5	2
16	4	3	5	4	6	4
17	2	4	3	3	4	4
18	2	5	3	4	6	3
19	1	5	1	4	2	5
20	2	4	2	4	4	2
21	4	4	4	4	6	4
22	2	4	4	4	5	4
23	1	3	1	3	1	2
24	3	5	2	3	2	3
25	2	2	2	2	2	3
26	1	3	1	5	3	3
27	2	2	2	2	4	3
28	3	3	2	2	3	3
29	2	2	2	2	2	2
30	2	2	2	2	2	2
32	3	3	1	1	4	1
33	2	3	3	3	3	3
36	2	3	3	4	4	4
38	1	1	1	1	2	1
40	1	1	1	1	6	6
41	3	3	3	3	3	3
42	3	4	3	4	2	4
43	3	5	5	5	6	5
44	3	6	6	6	6	6
45	3	3	3	4	4	3
46	2	2	2	4	4	2
47	4	3	3	5	3	2
51	2	3	2	3	2	3
52	4	4	5	4	6	4
53	2	2	2	3	5	3
54	2	2	2	2	2	2
56	3	4	3	3	4	3
57	2	3	2	2	4	2
58	2	5	4	4	6	5
59	5	4	4	4	4	4
60	3	2	3	3	2	2
61	3	3	3	3	5	4
62	2	5	2	4	5	4
平均値	2.411765	3.352941	2.901961	3.235294	3.156863	3.490196
分散	0.887059	1.512941	1.370196	1.143529	1.534902	1.254902
標準偏差	0.941838	1.230017	1.170554	1.068359	1.238912	1.120224
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	5	6	6	5	6	6
最頻値	2	3	3	4	4	3
中央値	2	3	3	3	4	3
標本数	51	51	51	51	51	51

画像2

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの湧きやすい
1	4	4	4	4	4	4
2	4	6	5	5	6	5
3	4	5	5	4	5	5
4	3	5	5	5	6	4
5	3	4	4	4	4	4
6	3	4	5	4	5	4
7	3	5	6	6	6	5
8	4	3	2	2	3	4
9	3	4	4	4	3	4
11	4	4	3	3	4	4
12	3	4	4	4	5	4
13	3	5	4	4	5	5
14	3	5	2	2	6	4
16	5	5	6	5	5	5
17	3	5	3	5	5	3
18	3	5	4	4	5	4
19	4	4	3	4	6	4
20	2	2	4	4	4	4
21	3	4	4	3	5	4
22	3	4	4	4	4	5
23	3	4	4	4	5	5
24	3	5	3	3	3	3
25	3	3	3	3	4	3
26	1	6	5	5	5	5
27	3	5	4	4	2	3
28	3	5	4	4	5	4
29	2	2	2	2	2	2
30	1	1	1	2	2	2
32	2	2	1	1	1	3
33	4	4	3	3	4	3
36	3	5	4	3	4	2
38	1	1	1	2	1	1
40	1	1	1	1	1	1
41	3	2	2	2	3	3
42	4	4	3	4	4	4
43	4	4	4	4	6	5
44	5	5	6	4	6	4
45	3	4	4	4	6	5
46	4	3	3	4	3	4
47	1	2	2	2	1	1
51	3	3	1	3	3	2
52	4	5	5	5	6	4
53	4	4	4	4	5	4
54	2	3	2	2	2	2
56	3	4	4	4	5	3
57	3	3	4	5	6	5
58	4	5	5	5	6	6
59	3	4	4	4	5	4
60	3	2	3	3	6	5
61	3	5	4	4	4	4
62	3	6	3	6	2	6
平均値	3.019608	3.823529	3.490196	3.627451	3.647059	3.784314
分散	0.819608	1.748235	1.774902	1.278431	2.007059	1.372549
標準偏差	0.905322	1.322208	1.332254	1.130677	1.416707	1.171558
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	5	6	6	6	6	6
最頻値	3	4	4	4	5	4
中央値	3	4	4	4	5	4
標本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像3

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	運和感が個性が心地よい	親しみの深さ
1	3	4	4	4	4	4
2	5	4	5	5	5	5
3	3	3	2	2	1	2
4	4	4	4	4	5	4
5	3	4	4	5	3	4
6	4	4	4	4	5	4
7	3	4	4	4	3	4
8	3	4	4	4	4	4
9	3	4	3	4	5	3
11	4	4	4	4	3	4
12	4	5	5	5	5	4
13	4	4	5	5	6	4
14	2	3	2	3	2	3
16	5	4	6	6	4	5
17	3	4	4	5	3	5
18	2	4	2	4	3	3
19	3	5	5	5	2	5
20	3	5	4	4	4	4
21	3	4	3	4	5	3
22	4	3	5	4	5	4
23	3	5	5	5	3	4
24	3	5	2	4	3	4
25	3	3	3	3	3	4
26	5	5	5	5	6	6
27	4	2	4	4	5	3
28	4	4	4	4	3	4
29	3	2	2	2	2	2
30	3	3	3	3	3	3
32	2	1	1	1	2	1
33	4	3	4	4	3	3
36	2	5	5	5	4	3
38	1	1	1	1	2	1
40	1	1	1	1	1	1
41	3	3	3	3	4	4
42	3	4	3	4	3	3
43	5	4	6	6	6	6
44	6	6	6	6	6	6
45	5	5	5	5	4	5
46	2	4	2	3	2	3
47	4	4	5	5	5	4
51	2	3	3	3	2	3
52	3	4	3	3	3	3
53	4	4	4	4	4	4
54	2	2	2	2	2	2
56	2	3	3	3	2	2
57	1	2	3	4	3	4
58	3	5	4	4	5	5
59	2	3	4	2	3	4
60	3	3	2	3	5	3
61	3	4	3	4	3	4
62	3	5	4	4	3	5
平均値	3.156863	3.764706	3.607843	3.862745	3.764706	3.803922
分散	1.054902	1.423529	1.683137	1.440784	1.663529	1.743529
標準偏差	1.027084	1.193118	1.297558	1.200327	1.289779	1.320428
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	5	6	6	6	6	6
中央値	3	4	4	4	4	4
標本数	51	51	51	51	51	51

画像4

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	運和感が個性が心地よい	親しみの深さ
1	4	4	4	4	4	4
2	5	2	2	2	1	2
3	4	4	4	4	5	4
4	4	3	4	4	4	4
5	4	3	3	3	2	3
6	4	4	4	4	4	4
7	4	3	3	4	5	5
8	3	4	2	3	3	4
9	5	2	1	2	1	2
11	3	3	3	4	3	4
12	3	3	3	3	2	3
13	3	3	3	3	4	3
14	3	2	2	2	2	2
16	4	4	5	5	6	4
17	5	4	5	4	5	5
18	5	2	4	3	3	3
19	3	4	5	4	2	4
20	4	3	4	4	3	4
21	3	3	3	3	4	3
22	4	3	5	4	5	4
23	6	5	5	4	5	5
24	3	4	2	3	2	2
25	4	2	2	2	3	3
26	6	6	6	6	5	4
27	4	2	2	3	4	4
28	3	3	3	3	2	3
29	3	2	2	2	2	2
30	3	3	3	3	3	3
32	2	2	1	1	1	1
33	3	4	3	3	4	3
36	5	2	4	4	4	5
38	1	1	1	1	1	1
40	1	1	1	1	1	1
41	3	2	2	2	3	2
42	4	3	3	4	3	3
43	4	3	3	3	4	4
44	6	4	4	4	4	4
45	5	5	6	5	6	5
46	4	3	4	4	4	4
47	5	4	5	5	5	4
51	3	3	3	2	2	3
52	4	2	3	3	3	3
53	4	3	3	4	4	4
54	2	1	2	2	2	2
56	3	3	2	2	2	3
57	2	2	2	3	1	3
58	5	4	4	4	5	4
59	4	4	4	4	4	4
60	3	2	2	2	3	3
61	4	4	4	4	3	4
62	3	5	3	3	3	4
平均値	3.705882	3.078431	3.137255	3.215686	3.431373	3.411765
分散	1.251765	1.183725	1.440784	1.132549	1.523137	1.633725
標準偏差	1.118823	1.082577	1.200327	1.064213	1.234154	1.278173
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6
中央値	4	3	3	3	3	3
標本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像5

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない心地よい	親しみの抱きたい
1	5	4	3	2	3	3
2	5	2	2	2	4	2
3	3	3	2	3	5	2
4	5	3	2	3	6	3
5	4	3	2	2	5	2
6	5	4	3	4	6	4
7	2	3	5	3	5	3
8	4	3	3	3	5	3
9	4	3	2	2	5	3
11	3	2	4	3	3	3
12	4	2	2	3	5	2
13	4	3	3	3	5	3
14	4	6	2	2	6	4
16	5	4	4	3	5	2
17	4	1	1	2	5	2
18	4	3	3	2	5	3
19	6	5	5	3	6	5
20	4	3	1	1	1	2
21	4	3	2	2	5	2
22	3	3	3	2	5	2
23	4	2	2	2	4	2
24	3	4	2	2	3	2
25	5	3	2	3	5	3
26	6	5	2	2	6	2
27	4	2	2	2	6	3
28	2	2	1	1	1	2
29	3	2	3	2	3	3
30	4	3	4	3	3	4
32	3	2	1	1	2	1
33	2	2	1	2	4	2
36	4	4	3	2	6	3
38	1	1	1	1	3	1
40	1	1	1	1	6	1
41	3	3	1	2	2	3
42	4	3	3	3	4	3
43	6	2	1	2	6	1
44	3	4	3	3	4	3
45	5	3	4	3	5	2
46	6	2	4	3	5	4
47	4	3	2	2	5	2
51	3	3	3	3	3	3
52	3	2	2	1	6	1
53	4	5	3	5	3	4
54	2	1	2	2	2	2
56	4	3	1	1	6	1
57	5	2	3	3	6	3
58	5	3	1	2	6	2
59	5	4	3	2	4	3
60	3	3	2	2	4	3
61	5	3	4	4	3	5
62	2	2	1	1	5	3
平均値	3.843137	2.882353	2.392157	2.333333	2.568627	2.647059
分散	1.494902	1.145882	1.203137	0.746667	1.210196	1.103529
標準偏差	1.222662	1.070459	1.096676	0.864089	1.05049	1.036682
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	5	5	6	5
中央値	4	3	2	2	3	3
標準本数	51	51	51	51	51	51

画像6

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない心地よい	親しみの抱きたい
1	5	2	2	2	4	3
2	4	2	3	2	4	4
3	1	2	1	1	6	1
4	6	4	4	2	6	5
5	3	3	2	2	2	2
6	5	5	4	3	5	3
7	4	2	4	3	4	4
8	4	2	2	2	2	2
9	2	1	1	1	6	1
11	4	3	4	4	3	4
12	4	3	3	2	6	2
13	5	3	3	2	5	3
14	4	3	2	3	2	2
16	4	4	5	5	4	4
17	4	2	1	1	5	3
18	3	4	2	2	3	2
19	5	4	2	2	5	4
20	2	4	4	3	2	3
21	4	4	3	3	4	3
22	2	3	2	2	1	2
23	4	4	2	2	5	2
24	4	3	3	4	4	4
25	3	3	2	3	3	3
26	6	1	1	1	6	1
27	4	2	3	3	2	3
28	4	4	2	2	4	3
29	3	2	1	1	2	2
30	3	2	2	2	3	2
32	2	2	1	1	2	2
33	3	3	3	3	3	3
36	4	4	4	2	5	2
38	1	1	1	1	2	1
40	1	1	1	1	1	1
41	2	2	1	2	1	2
42	3	3	2	2	2	2
43	5	3	3	3	4	4
44	5	3	4	3	5	4
45	2	2	1	1	5	3
46	4	3	4	3	5	4
47	4	4	4	4	4	4
51	3	3	3	3	3	3
52	3	2	2	3	5	2
53	4	4	3	3	4	3
54	2	3	2	3	2	2
56	4	4	2	3	4	3
57	2	2	4	3	2	3
58	4	1	2	2	5	2
59	3	2	2	2	3	2
60	3	3	4	3	2	3
61	4	4	4	4	3	3
62	2	4	2	3	2	3
平均値	3.45098	2.843137	2.54902	2.392157	2.588235	2.705882
分散	1.452549	1.014902	1.212549	0.883137	1.367059	1.094902
標準偏差	1.205217	1.007423	1.101158	0.939754	1.169213	1.04875
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	5	5	5	5	5
中央値	4	3	2	2	2	2
標準本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像7

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの持てる
1	4	2	2	3	3	3
2	4	1	2	2	4	1
3	1	1	1	1	6	1
4	5	4	3	4	4	3
5	3	2	2	2	5	3
6	4	3	2	2	5	2
7	3	2	2	2	6	2
8	4	2	2	1	4	3
9	5	3	3	4	3	4
11	3	3	3	4	4	3
12	4	3	3	3	5	3
13	4	4	4	4	4	4
14	5	1	4	4	5	4
16	4	5	4	4	4	4
17	5	2	2	2	4	3
18	4	2	1	2	5	3
19	1	1	1	1	6	1
20	2	2	2	2	5	1
21	3	2	2	2	5	2
22	3	2	1	2	6	2
23	3	3	4	4	4	4
24	3	4	2	2	3	2
25	3	2	1	1	3	1
26	6	6	6	6	6	6
27	4	1	2	1	5	3
28	4	4	2	3	5	2
29	3	1	2	2	2	2
30	3	3	3	3	3	3
32	2	1	1	1	2	1
33	4	4	3	3	4	3
36	3	3	3	2	4	4
38	1	1	1	1	3	1
40	1	1	1	1	1	1
41	2	2	2	2	3	2
42	2	2	2	3	2	2
43	3	2	1	2	1	1
44	2	1	1	1	6	1
45	3	2	1	1	6	1
46	5	3	2	2	4	2
47	3	3	2	2	2	1
51	3	2	2	2	4	2
52	2	2	2	2	4	2
53	4	4	4	4	3	4
54	2	1	2	2	2	2
56	3	2	2	2	4	2
57	4	2	4	4	4	3
58	3	2	2	2	4	2
59	4	3	3	2	2	3
60	3	3	3	3	3	3
61	4	3	4	3	4	3
62	3	2	1	2	2	3
平均値	3.254902	2.490196	2.27451	2.411765	2.117647	2.509804
分散	1.275725	1.214802	1.243137	1.287059	1.225882	1.438431
標準偏差	1.129594	1.102226	1.114961	1.134486	1.107196	1.254951
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6
中央値	3	2	2	2	2	3
標準本数	51	51	51	51	51	51

画像8

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの持てる
1	3	3	3	3	3	3
2	4	2	2	2	2	2
3	2	1	2	1	1	2
4	4	2	2	2	2	2
5	3	3	2	2	2	3
6	5	4	3	3	4	4
7	4	2	2	3	3	2
8	3	2	2	1	2	2
9	5	2	1	1	1	2
11	5	2	3	2	2	2
12	4	2	2	2	3	2
13	3	3	2	2	3	2
14	2	2	1	1	5	2
16	4	4	3	3	3	2
17	2	2	2	2	1	2
18	2	2	2	1	1	1
19	3	3	3	3	2	3
20	3	4	4	2	4	4
21	3	4	4	4	3	3
22	2	4	2	3	2	2
23	3	3	2	2	5	2
24	3	4	2	2	2	2
25	3	2	2	2	1	1
26	3	1	1	1	6	1
27	3	2	2	2	2	3
28	2	3	2	2	3	1
29	2	2	1	2	2	2
30	2	3	3	2	2	2
32	2	2	1	1	1	2
33	4	4	3	3	3	3
36	3	2	1	1	6	1
38	1	1	1	1	1	1
40	1	1	1	1	1	1
41	2	2	1	2	2	2
42	2	2	2	2	2	2
43	4	3	2	2	1	2
44	5	2	3	3	3	3
45	2	1	1	1	3	1
46	4	3	3	2	3	3
47	2	2	2	2	2	2
51	2	2	2	2	1	2
52	3	3	3	3	3	2
53	4	4	4	3	4	4
54	2	1	2	2	2	2
56	3	3	1	2	2	2
57	5	2	4	4	5	4
58	3	2	2	3	2	3
59	4	3	3	3	3	3
60	3	2	3	2	4	3
61	4	3	3	4	3	3
62	2	5	1	3	2	5
平均値	3.019608	2.509804	2.176471	2.176471	1.980382	2.27451
分散	1.099608	0.934902	0.788235	0.708235	0.963137	0.454902
標準偏差	1.048622	0.966903	0.887826	0.841567	0.981396	0.674464
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	5	5	4	4	5	5
中央値	3	2	2	2	2	2
標準本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像9

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの楽しい
1	3	3	3	3	3	3
2	4	2	3	2	2	2
3	2	1	2	1	5	2
4	4	2	2	2	3	4
5	3	3	2	2	5	3
6	5	4	3	3	4	4
7	4	2	2	3	5	2
8	3	2	2	1	5	2
9	5	2	1	1	5	1
11	5	2	3	2	4	2
12	4	2	2	3	5	2
13	3	2	2	3	5	2
14	2	2	1	1	5	2
16	4	4	3	3	3	2
17	2	2	2	2	3	2
18	2	2	2	1	5	1
19	3	3	3	3	2	3
20	3	4	4	2	4	4
21	3	4	4	4	3	3
22	4	4	3	3	2	2
23	3	3	2	2	5	2
24	3	2	2	2	3	2
25	3	2	2	3	2	1
26	3	1	1	1	6	1
27	3	2	2	2	4	2
28	2	3	2	2	2	3
29	2	1	2	2	3	2
30	2	3	3	2	2	2
32	2	1	1	1	4	2
33	4	4	3	3	4	3
36	3	2	1	1	6	1
38	1	1	1	1	3	1
40	1	1	1	1	1	1
41	2	2	2	2	2	2
42	2	2	2	2	4	2
43	4	3	2	2	6	2
44	5	2	3	3	6	3
45	2	1	1	1	3	1
46	4	3	3	2	5	3
47	2	2	2	2	3	2
51	2	2	2	2	1	2
52	3	3	3	3	4	3
53	4	4	4	3	4	4
54	2	1	2	2	2	2
56	3	3	1	2	4	2
57	5	2	4	4	5	4
58	3	2	4	3	4	3
59	4	3	3	3	3	3
60	3	2	3	2	4	2
61	4	3	3	4	3	3
62	2	5	1	2	2	5
平均値	3.019608	2.509804	2.176471	2.274511	1.980392	2.274511
分散	1.095608	0.934902	0.788235	0.708235	0.659608	1.490196
標準偏差	1.046622	0.966903	0.887826	0.841567	0.812162	1.220736
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	5	5	4	4	6	5
最頻値	3	2	2	2	3	2
中央値	3	2	2	2	4	2
標本数	51	51	51	51	51	51

画像10

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの楽しい
1	4	4	4	3	5	4
2	5	4	5	4	5	5
3	4	3	5	3	4	4
4	3	6	3	2	5	3
5	4	5	4	3	4	4
6	5	6	5	3	4	4
7	4	4	4	2	5	5
8	5	5	4	3	5	4
9	5	5	4	2	3	4
11	3	3	3	4	2	2
12	4	5	4	4	4	4
13	2	5	4	2	3	4
14	1	6	1	1	2	3
16	5	5	5	5	5	5
17	5	5	4	4	4	4
18	5	5	4	3	4	5
19	6	6	5	4	2	4
20	2	5	5	4	4	5
21	4	5	4	4	4	3
22	3	4	2	3	6	4
23	5	5	5	5	5	5
24	3	5	2	3	2	3
25	5	4	2	1	1	5
26	6	6	4	6	6	6
27	5	5	2	2	3	5
28	3	4	4	3	2	4
29	3	3	2	2	2	3
30	3	3	3	2	2	3
32	2	5	1	1	1	2
33	3	4	5	4	3	3
36	6	6	5	1	4	5
38	2	2	1	1	2	2
40	6	6	1	1	1	1
41	3	4	2	2	3	2
42	1	4	2	2	2	2
43	4	6	3	3	4	3
44	6	6	5	4	6	5
45	4	5	5	4	6	4
46	4	4	4	3	5	4
51	2	3	2	2	5	5
52	6	6	6	4	4	4
53	5	4	4	3	4	4
54	2	5	2	2	3	2
56	3	4	2	2	3	3
57	2	4	1	2	6	2
58	5	5	5	4	5	5
59	5	5	5	4	4	4
60	5	5	6	4	5	3
61	4	5	4	5	2	4
62	1	6	1	3	2	5
平均値	3.882353	4.686275	3.54902	2.980392	3.470588	3.882353
分散	2.065882	0.979608	2.092549	1.459608	1.934118	2.185882
標準偏差	1.437318	0.989751	1.446565	1.208142	1.390776	1.478473
最小値	1	2	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6
最頻値	5	5	4	2	4	4
中央値	4	5	4	3	4	3
標本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像 1.1

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの楽しい
1	3	3	4	4	4	3
2	2	6	5	6	5	5
3	2	2	3	4	5	4
4	4	4	5	5	2	5
5	3	5	5	5	5	3
6	4	4	4	5	4	5
7	2	5	4	5	6	4
8	2	4	5	2	3	5
9	3	5	4	4	3	5
11	4	3	4	4	3	4
12	4	5	5	5	5	4
13	2	5	4	5	2	4
14	3	5	2	4	6	3
16	5	5	6	6	6	6
17	4	5	4	5	5	5
18	3	4	4	4	6	5
19	2	2	3	3	6	4
20	2	5	5	3	4	4
21	3	4	4	4	4	4
22	3	5	4	4	6	4
23	3	3	4	4	4	4
24	3	5	3	3	3	3
25	2	4	4	4	4	4
26	1	6	6	6	6	6
27	3	2	4	3	6	3
28	4	4	4	4	5	4
29	2	2	2	2	2	2
30	1	3	2	2	2	2
32	2	2	1	1	4	3
33	2	3	3	3	3	3
36	2	3	2	2	3	3
38	1	1	1	1	1	2
40	6	6	1	1	6	6
41	3	3	2	2	3	3
42	3	4	3	4	3	4
43	4	5	6	6	6	6
44	6	6	6	6	6	6
45	3	4	4	4	5	5
46	2	3	2	3	2	3
47	1	3	1	1	2	1
51	1	2	1	2	1	1
52	5	6	5	5	5	4
53	3	4	3	4	3	4
54	2	2	2	2	2	2
56	3	3	3	3	3	3
57	2	5	5	5	5	4
58	4	6	5	5	6	6
59	3	3	3	3	3	4
60	2	3	2	2	3	3
61	3	4	3	4	3	4
62	3	6	4	4	5	4
平均値	2.562745	3.901961	3.529412	3.72549	3.627451	3.921569
分散	1.360784	2.010196	1.894118	1.923137	1.838431	1.972649
標準偏差	1.166527	1.417814	1.376269	1.386772	1.355888	1.404475
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6
中央値	3	5	4	4	4	4
標本数	51	51	51	51	51	51

画像 1.2

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの楽しい
1	3	3	4	4	4	4
2	5	4	4	4	5	4
3	2	2	2	2	2	2
4	2	5	3	3	2	2
5	2	2	3	4	4	3
6	2	1	1	3	1	1
7	3	3	4	4	4	4
8	3	3	2	3	2	3
9	4	2	2	3	3	3
11	4	4	4	4	3	3
12	4	3	3	3	3	3
13	2	2	3	4	3	3
14	4	6	3	4	6	4
16	4	2	4	4	5	4
17	4	2	3	4	4	3
18	3	2	3	4	4	5
19	3	2	2	4	6	1
20	2	2	5	2	3	2
21	3	4	3	3	4	1
22	4	3	5	4	5	2
23	2	2	3	2	3	1
24	3	5	2	3	2	3
25	2	2	1	3	1	2
26	4	6	1	3	2	2
27	2	1	1	2	1	1
28	4	4	5	4	5	4
29	1	1	1	2	2	1
30	3	3	3	3	3	3
32	4	4	1	2	4	2
33	4	4	3	4	4	3
36	2	3	3	3	3	3
38	2	2	1	1	2	2
40	6	1	1	1	6	1
41	2	3	2	3	2	2
42	3	4	4	4	4	3
43	4	1	3	3	3	2
44	5	4	4	3	5	4
45	2	3	3	3	3	3
46	3	3	3	4	3	2
47	3	5	4	4	4	3
51	3	3	3	4	4	2
52	5	5	5	4	5	6
53	4	4	3	4	4	4
54	2	2	2	2	2	2
56	3	4	3	2	3	3
57	1	3	3	5	2	1
58	3	3	2	2	2	4
59	4	4	4	3	3	6
60	3	3	1	1	1	3
61	4	4	4	4	6	2
62	2	5	1	4	2	4
平均値	3.078431	3.196078	2.764706	3.156863	3.137255	3.607843
分散	1.113725	1.480784	1.543529	0.854902	1.520784	2.443137
標準偏差	1.055332	1.216875	1.242389	0.924609	1.232201	1.563054
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	5	5	6	6
中央値	3	3	3	4	4	3
標本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像13

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの多い
1	4	3	4	4	4	4
2	4	6	5	5	6	6
3	5	3	5	4	5	5
4	3	4	4	4	5	5
5	2	2	3	3	2	3
6	4	5	5	5	4	4
7	4	4	5	3	4	5
8	4	4	5	3	4	5
9	5	3	3	2	3	3
11	2	4	3	3	4	4
12	5	5	4	5	5	5
13	3	4	4	4	5	3
14	2	6	2	4	6	4
16	5	4	6	6	6	6
17	5	6	5	5	5	6
18	3	5	4	4	3	4
19	3	4	5	5	6	5
20	4	4	4	3	3	4
21	4	4	4	4	4	4
22	4	4	5	5	5	4
23	5	4	4	4	4	4
24	3	5	2	3	3	3
25	2	3	2	3	3	4
26	1	6	1	4	6	1
27	4	2	4	3	5	6
28	5	5	4	4	4	4
29	1	1	1	1	1	1
30	2	2	2	2	2	2
32	3	2	1	2	2	2
33	3	3	3	3	3	3
36	2	4	3	4	6	2
38	1	1	1	1	1	1
40	1	1	1	1	1	1
41	3	3	3	3	3	3
42	3	4	3	4	3	4
43	4	4	6	5	6	6
44	5	5	4	4	6	6
45	3	4	4	4	5	5
46	3	3	3	4	4	3
47	5	4	4	4	5	4
51	1	2	2	2	4	2
52	4	5	5	5	6	5
53	3	3	4	3	4	4
54	2	2	2	2	2	2
56	3	3	3	3	3	3
57	2	2	4	4	5	5
58	4	5	5	5	6	5
59	5	4	4	4	4	4
60	3	3	4	3	3	3
61	3	4	3	5	2	5
62	3	6	5	5	4	5
平均値	3.254902	3.705882	3.647059	3.764706	4.27451	3.784314
分散	1.473725	1.731765	1.832941	1.392941	1.623529	2.083137
標準偏差	1.213971	1.315965	1.353862	1.180229	1.274178	1.443308
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	5	6	6	6	6	6
中央値	3	4	4	4	5	4
標本数	51	51	51	51	51	51

画像14

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの多い
1	4	3	4	4	4	4
2	5	5	6	5	6	5
3	4	3	4	4	4	4
4	4	3	2	3	2	2
5	4	4	5	4	5	4
6	5	5	5	4	6	4
7	4	5	4	4	6	4
8	3	4	3	2	4	3
9	5	3	4	3	4	4
11	3	3	5	4	5	4
12	5	4	3	3	3	3
13	4	4	4	5	2	4
14	4	6	2	3	3	3
16	5	5	6	6	6	6
17	4	6	6	6	6	5
18	2	4	4	4	5	4
19	3	5	3	4	4	4
20	4	5	5	4	4	4
21	3	3	4	4	4	4
22	3	4	4	4	4	4
23	4	4	4	4	5	4
24	3	5	3	3	3	4
25	3	3	4	3	4	4
26	4	6	5	5	5	5
27	3	2	3	3	4	3
28	4	5	5	5	5	4
29	2	2	2	2	2	2
30	3	3	3	3	3	3
32	3	2	1	1	1	2
33	3	3	3	4	3	3
36	4	5	5	4	6	6
38	1	1	1	1	1	1
40	1	1	1	1	1	1
41	3	3	3	3	3	3
42	3	4	3	4	4	4
43	4	4	4	4	4	4
44	4	4	4	3	4	3
45	5	5	5	5	4	4
46	5	4	4	3	4	5
47	2	4	3	3	3	3
51	1	2	2	2	1	3
52	4	5	5	4	4	4
53	3	4	4	4	5	4
54	2	3	2	2	2	2
56	3	3	3	3	3	3
57	2	2	4	5	6	5
58	5	4	4	4	4	4
59	4	4	4	3	4	4
60	5	4	3	3	4	4
61	3	4	3	4	3	4
62	2	5	1	4	2	3
平均値	3.45098	3.784314	3.588235	3.54902	3.803922	3.843137
分散	1.212549	1.412549	1.647059	1.212549	1.520784	1.625882
標準偏差	1.101158	1.188507	1.283378	1.101158	1.233201	1.275101
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	5	6	6	6	6	6
中央値	4	4	4	4	4	4
標本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像15

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの多い	親しみの多い
1	4	2	3	2	4	3	3
2	5	2	3	2	2	3	4
3	3	2	2	3	3	3	3
4	5	2	2	2	1	6	2
5	3	3	2	3	2	3	3
6	5	4	4	4	2	6	2
7	4	4	4	5	4	3	4
8	4	4	4	4	4	3	4
9	6	1	2	2	1	6	1
11	4	3	3	3	4	4	3
12	4	2	2	2	3	5	2
13	4	3	2	2	3	5	3
14	3	6	2	3	2	5	2
16	4	5	4	4	4	4	3
17	4	2	2	1	2	5	1
18	4	3	3	3	4	4	4
19	5	4	2	1	1	5	2
20	5	3	2	2	4	5	3
21	4	4	3	3	2	4	2
22	3	3	3	3	3	4	3
23	4	4	4	4	4	4	4
24	3	5	2	3	2	3	3
25	4	2	3	4	3	3	3
26	6	6	6	6	5	6	6
27	3	3	3	3	2	4	2
28	4	4	4	4	4	4	3
29	2	2	2	2	2	2	2
30	2	2	2	2	3	4	2
32	2	1	1	1	2	3	2
33	3	3	3	3	3	3	3
36	5	3	1	1	2	6	2
38	1	1	1	1	1	2	1
40	1	1	1	1	6	1	6
41	3	2	2	2	2	2	3
42	3	4	3	3	3	3	3
43	5	4	3	4	3	4	2
44	5	4	3	3	5	4	2
45	5	5	5	5	6	6	5
46	5	4	5	4	5	5	5
47	2	3	2	3	3	3	3
51	1	3	2	2	1	3	3
52	4	4	5	4	4	5	4
53	5	4	4	3	5	2	4
54	2	1	2	2	2	2	2
56	4	3	3	3	3	4	3
57	4	3	3	3	2	5	2
58	6	2	2	3	5	1	6
59	3	3	3	3	5	2	3
60	3	3	3	3	6	4	4
61	4	4	3	3	3	4	3
62	2	3	1	2	3	3	2
平均値	3.72549	3.098039	2.784314	2.764706	2.980392	2.764706	3.039216
分散	1.563137	1.450196	1.292549	1.143529	1.699608	1.503529	1.619608
標準偏差	1.250255	1.204241	1.136603	1.068359	1.303369	1.226185	1.272638
最小値	1	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最頻値	4	3	2	2	3	5	3
中央値	4	3	3	3	3	4	3
標本数	51	51	51	51	51	51	51

画像16

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの多い	親しみの多い
1	3	4	4	4	5	4	4
2	3	5	6	5	5	5	5
3	5	5	5	5	5	3	5
4	5	5	5	4	5	6	3
5	3	3	4	4	4	2	4
6	4	4	5	4	4	5	4
7	2	2	2	2	2	3	3
8	2	3	4	4	4	2	3
9	3	4	3	4	4	5	4
11	4	4	3	3	3	3	4
12	3	4	4	4	4	5	4
13	4	4	4	4	5	3	4
14	3	5	2	4	5	2	4
16	4	5	6	6	6	6	6
17	5	5	6	6	6	5	5
18	2	4	5	4	4	4	4
19	3	5	5	5	6	3	5
20	3	5	5	4	5	5	5
21	3	4	4	4	4	5	4
22	3	5	4	4	4	5	4
23	3	4	3	3	3	4	3
24	3	5	3	2	2	3	4
25	3	3	3	4	2	2	3
26	5	6	6	6	6	6	6
27	3	2	4	4	4	4	4
28	3	4	4	4	4	3	5
29	2	2	2	2	2	2	2
30	2	2	2	2	2	2	2
32	2	2	1	1	1	2	3
33	2	3	3	4	3	3	3
36	3	5	5	5	6	6	6
38	1	1	1	1	1	2	1
40	6	6	6	6	6	6	6
41	2	2	2	2	3	2	3
42	5	4	3	3	3	4	4
43	4	3	3	3	4	4	3
44	4	5	5	3	5	2	5
45	3	4	4	4	4	3	4
46	5	3	5	5	5	5	5
47	1	3	1	1	1	4	1
51	3	5	5	4	5	3	4
52	4	5	5	5	5	3	4
53	3	4	5	5	5	2	5
54	2	2	3	2	2	2	2
56	3	3	3	3	3	3	3
57	2	2	4	5	4	5	4
58	3	6	5	5	6	2	5
59	3	3	3	3	3	3	4
60	3	3	3	2	3	4	4
61	3	5	3	4	3	5	4
62	3	6	3	4	3	4	4
平均値	3.156863	3.882353	3.647059	3.647059	3.803922	4.431373	3.941176
分散	1.134902	1.625882	2.072941	1.592941	1.880784	1.450196	0.906667
標準偏差	1.065318	1.275101	1.439771	1.262118	1.371417	1.204241	0.95219
最小値	1	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最頻値	3	5	5	4	5	5	3
中央値	3	4	4	4	4	5	4
標本数	51	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像17

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの深さ	楽しい
1	4	4	3	3	3	3	4
2	2	3	3	3	4	3	3
3	3	4	3	3	3	3	4
4	3	4	3	3	4	3	3
5	2	2	3	2	2	3	2
6	2	2	3	3	4	4	4
7	3	3	3	3	2	2	3
8	2	1	2	2	2	3	4
9	5	3	3	3	2	5	2
11	4	4	3	3	4	3	3
12	4	5	4	4	5	2	3
13	3	4	5	5	4	5	5
14	2	5	2	4	2	2	2
16	4	3	5	4	6	4	4
17	3	3	4	4	5	4	4
18	2	4	3	4	3	4	4
19	4	2	4	4	5	6	6
20	3	2	5	2	3	4	2
21	3	4	4	4	6	3	4
22	2	6	4	3	2	6	3
23	2	2	2	2	4	1	3
24	3	5	2	3	2	3	4
25	4	2	2	2	2	3	3
26	1	5	1	1	1	1	1
27	3	3	3	4	4	2	2
28	3	3	3	3	4	2	3
29	2	1	2	2	4	2	4
30	2	2	2	2	2	2	2
32	3	3	1	2	3	1	1
33	2	3	3	3	3	3	4
36	3	4	4	3	4	3	4
38	1	1	1	1	2	1	1
40	1	6	1	6	6	6	6
41	3	2	2	2	3	2	3
42	3	4	3	4	3	3	3
43	5	4	5	4	5	5	5
44	4	5	5	5	6	6	4
45	3	3	3	3	4	5	4
46	4	3	4	5	5	4	5
47	2	3	4	5	4	4	3
51	1	3	2	2	2	4	2
52	4	4	3	3	4	6	3
53	2	3	3	3	4	1	3
54	2	2	2	2	2	2	2
56	2	3	2	2	2	3	2
57	2	3	4	4	3	2	3
58	2	5	4	3	5	2	3
59	2	2	3	2	4	2	2
60	2	2	2	1	3	2	2
61	3	3	3	4	3	5	4
62	2	5	1	4	1	4	5
平均値	2.66667	3.35294	3.117647	3.117647	3.529412	3.098039	3.392157
分散	0.946667	1.512941	1.290196	1.225882	1.74118	1.443137	1.203137
標準偏差	0.972968	1.230017	1.135668	1.107196	1.306094	1.405033	1.096876
最小値	1	1	1	1	1	1	1
最大値	5	6	5	6	6	6	6
中央値	2	3	3	3	4	2	3
標準本数	51	51	51	51	51	51	51

画像18

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの深さ	楽しい
1	3	3	3	4	3	4	3
2	5	3	5	4	3	6	4
3	3	3	3	3	3	4	2
4	5	3	3	3	2	5	2
5	3	4	4	4	4	3	4
6	4	4	2	2	1	2	2
7	2	1	3	2	2	5	2
8	3	3	2	2	2	4	2
9	5	3	3	3	4	3	3
11	4	3	4	5	4	3	4
12	4	3	4	4	3	3	4
13	3	3	3	4	4	4	4
14	3	4	3	3	2	2	2
16	5	5	6	6	6	6	6
17	4	5	4	5	4	4	4
18	2	4	2	1	2	4	1
19	4	4	2	2	2	1	3
20	4	4	4	3	4	2	2
21	3	5	3	3	4	3	3
22	2	4	2	2	2	3	2
23	3	4	4	4	4	3	4
24	3	4	2	2	2	3	2
25	3	3	2	3	2	2	2
26	6	6	4	4	4	6	6
27	4	2	3	3	4	6	6
28	5	4	4	4	5	4	3
29	3	2	2	2	2	3	2
30	3	3	3	3	3	3	3
32	2	2	1	1	1	2	2
33	4	4	4	4	5	4	4
36	5	4	6	4	6	2	4
38	1	1	1	1	1	1	1
40	1	1	1	1	6	6	1
41	3	3	3	3	2	3	3
42	3	4	3	3	3	4	4
43	2	2	1	2	1	6	2
44	3	2	2	3	3	6	2
45	5	5	5	5	5	5	5
46	5	4	5	5	5	5	5
47	3	3	4	4	4	5	4
51	1	1	1	2	1	3	1
52	4	4	4	4	2	5	4
53	4	4	5	4	5	4	4
54	2	2	3	3	3	2	2
56	3	3	3	3	3	3	3
57	3	2	4	4	3	2	2
58	4	3	5	5	5	5	4
59	5	5	5	4	4	5	5
60	5	4	4	3	5	3	4
61	4	4	4	4	4	3	4
62	3	6	2	4	3	5	5
平均値	3.490196	3.392157	3.196078	3.215686	3.372549	3.27451	3.27451
分散	1.334902	1.403137	1.720784	1.412549	1.838431	1.963137	1.723137
標準偏差	1.15538	1.184541	1.311787	1.188507	1.355888	1.401112	1.316883
最小値	1	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6	6
中央値	3	4	4	4	4	3	4
標準本数	51	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像19

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない心地よい	親しみの多い
1	4	4	2	3	4	3
2	4	2	3	3	3	3
3	1	1	1	1	6	1
4	6	2	2	2	6	4
5	5	4	4	4	4	4
6	5	4	4	4	5	4
7	5	3	5	1	6	4
8	4	2	3	3	4	5
9	4	2	1	1	4	1
10	1	3	2	3	4	3
11	3	5	2	2	2	2
12	4	3	3	3	5	3
13	4	2	2	2	5	3
14	4	2	3	2	4	3
15	5	5	5	5	4	4
16	5	4	4	4	4	4
17	5	4	5	5	6	5
18	5	3	3	2	6	4
19	5	5	4	2	6	4
20	5	4	4	4	5	3
21	5	4	3	2	5	3
22	2	2	2	3	5	2
23	3	2	2	2	5	2
24	3	4	2	2	3	2
25	3	3	2	3	4	3
26	4	3	2	2	5	3
27	5	2	4	2	6	3
28	5	4	5	3	5	4
29	4	2	2	2	5	2
30	3	3	3	3	4	3
31	3	2	1	1	3	2
32	3	3	2	3	3	3
33	3	3	2	3	3	3
34	2	1	1	1	6	1
35	1	1	1	1	3	1
36	6	6	1	6	6	6
37	3	3	3	3	4	3
38	3	3	3	3	5	3
39	4	2	4	4	6	4
40	6	2	4	3	6	4
41	3	3	3	3	4	3
42	4	3	3	3	5	3
43	6	2	4	4	6	4
44	5	4	4	3	4	4
45	5	4	4	4	6	4
46	4	4	2	2	5	2
47	3	3	3	2	5	2
48	3	3	2	2	5	2
49	3	3	2	3	3	2
50	4	3	2	2	6	3
51	3	3	2	2	6	3
52	4	3	3	3	6	3
53	1	1	2	2	5	2
54	3	3	3	3	3	3
55	4	4	3	2	3	3
56	4	4	3	2	4	3
57	4	1	2	1	3	4
58	6	3	6	6	6	5
59	6	5	5	5	6	6
60	2	2	3	3	4	2
61	4	3	5	4	3	3
62	4	5	4	4	5	4
平均値	3.960784	3.2941176	2.686275	3.254902	2.980392	2.980392
分散	1.678431	1.52	1.536471	1.299608	1.407059	1.299608
標準偏差	1.295543	1.232883	1.239545	1.140003	1.186195	1.140003
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6
最頻値	4	3	2	2	5	3
中央値	4	3	3	3	5	3
標本数	51	51	51	51	51	51

画像20

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない心地よい	親しみの多い
1	4	4	4	3	4	4
2	3	5	3	4	3	3
3	3	2	3	3	4	3
4	2	5	2	2	2	3
5	3	3	3	3	2	4
6	2	2	1	2	2	1
7	3	4	4	4	4	4
8	4	3	2	2	3	3
9	5	1	1	1	1	1
10	4	3	3	3	3	3
11	4	2	3	4	5	4
12	4	2	3	3	4	4
13	4	4	3	3	4	4
14	3	4	2	3	5	4
15	3	3	2	4	2	3
16	3	3	2	4	2	3
17	4	2	1	2	1	2
18	5	3	4	4	5	4
19	4	4	3	3	5	5
20	3	2	4	2	3	2
21	3	4	3	4	3	3
22	3	5	3	3	3	3
23	4	4	4	4	5	4
24	3	5	2	2	2	3
25	4	2	2	2	2	3
26	4	2	1	1	1	1
27	4	2	2	2	2	2
28	3	3	2	3	2	3
29	2	2	2	2	2	2
30	3	3	3	4	3	4
31	3	2	1	2	4	1
32	3	3	3	3	3	3
33	4	4	3	4	4	4
34	4	4	3	4	5	4
35	5	4	2	2	3	3
36	4	4	3	4	4	4
37	1	1	1	1	1	1
38	1	1	1	1	1	1
39	3	3	3	3	3	3
40	3	3	3	3	3	3
41	3	3	3	3	3	3
42	3	3	3	3	3	3
43	4	2	2	2	1	6
44	4	3	2	2	2	5
45	4	4	4	3	4	4
46	5	4	2	2	2	3
47	3	3	3	3	3	3
48	3	3	2	2	4	2
49	3	3	2	2	2	3
50	3	2	2	2	2	2
51	3	2	2	2	2	2
52	3	2	2	2	2	2
53	4	4	3	3	1	4
54	2	2	2	2	2	2
55	3	3	2	2	1	5
56	3	3	2	2	2	2
57	3	2	3	3	3	2
58	3	2	2	2	1	5
59	2	2	2	1	2	2
60	3	2	2	2	4	2
61	5	3	4	3	1	5
62	2	5	1	4	1	2
平均値	3.254902	3.2431373	2.647059	2.686275	2.392157	3.490196
分散	0.873725	1.2	0.890196	0.939608	1.483137	1.454902
標準偏差	0.934733	1.095445	0.943502	0.969334	1.217841	1.206193
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	5	5	4	4	5	6
最頻値	3	2	2	3	2	3
中央値	3	3	2	3	3	3
標本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像21

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの楽しい
1	3	3	4	4	4	4
2	4	6	5	5	5	5
3	3	3	3	3	2	3
4	3	5	5	4	3	3
5	4	5	4	5	4	4
6	3	3	4	4	2	5
7	5	6	5	6	4	6
8	3	2	2	2	4	3
9	4	4	5	4	5	4
11	4	3	4	4	3	4
12	4	5	4	4	3	4
13	4	4	4	4	4	4
14	3	5	2	3	5	4
16	5	5	6	6	6	5
17	5	5	4	4	3	3
18	3	4	3	3	2	3
19	2	3	2	2	1	2
20	2	4	4	3	4	5
21	4	4	4	4	4	4
22	3	5	3	4	2	3
23	2	4	2	3	3	3
24	3	5	2	3	3	3
25	4	4	3	4	4	4
26	6	6	6	6	6	6
27	4	2	4	4	4	3
28	3	4	3	3	4	2
29	2	2	2	2	2	2
30	2	3	2	2	2	2
32	3	1	1	1	1	3
33	3	3	3	3	3	3
36	4	3	3	3	3	2
38	1	2	1	2	3	2
40	1	6	1	1	6	1
41	2	2	2	2	3	2
42	2	3	2	3	2	2
43	4	5	4	5	6	5
44	5	5	4	4	5	4
45	3	3	3	4	3	3
46	2	3	2	4	2	3
47	4	4	4	4	5	5
51	3	3	2	4	4	3
52	3	3	2	2	2	2
53	3	4	3	4	3	3
54	2	2	2	2	2	2
56	3	3	2	2	3	2
57	3	5	4	4	5	5
58	4	4	3	3	4	4
59	4	2	3	3	4	3
60	3	2	2	3	4	4
61	3	5	3	4	5	4
62	3	6	4	5	4	6
平均値	3.215686	3.784314	3.215686	3.411765	3.627451	3.450988
分散	1.052549	1.492549	1.72549	1.407059	1.614118	1.58431
標準偏差	1.025938	1.221699	1.313771	1.186195	1.270479	1.248371
最小値	1	2	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6
中央値	3	3	2	4	4	3
標本数	51	51	51	51	51	51

画像22

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの楽しい
1	3	3	3	3	4	4
2	5	4	4	3	3	4
3	3	2	2	3	2	2
4	4	3	3	3	1	3
5	3	3	3	3	3	3
6	3	4	2	3	4	2
7	4	5	5	5	6	5
8	3	2	1	2	3	4
9	4	3	1	2	3	3
11	3	4	4	4	3	4
12	4	3	3	4	4	4
13	4	4	4	4	3	4
14	3	4	2	3	4	3
16	4	5	4	4	4	4
17	4	5	4	5	4	5
18	4	3	4	4	4	4
19	3	4	3	3	2	3
20	5	4	2	2	3	2
21	3	4	3	3	2	3
22	3	3	2	2	2	2
23	4	3	4	4	4	4
24	3	4	2	2	2	2
25	4	4	3	2	3	3
26	3	4	2	2	2	2
27	3	2	3	2	4	3
28	2	3	2	2	3	2
29	2	2	2	2	2	2
30	3	3	3	3	3	3
32	2	2	1	1	4	1
33	4	3	4	4	4	3
36	4	4	4	3	4	4
38	1	1	1	1	1	1
40	1	1	1	1	1	1
41	2	2	2	2	2	3
42	4	4	3	4	4	4
43	5	4	3	3	3	3
44	5	3	3	3	3	3
45	4	4	4	4	5	4
46	5	3	4	4	4	4
47	3	3	4	4	4	4
51	3	3	4	2	4	3
52	3	2	2	2	2	2
53	4	4	4	4	4	5
54	2	1	2	2	2	2
56	3	3	2	2	2	2
57	3	2	4	5	3	5
58	4	3	2	2	4	3
59	4	3	3	3	4	4
60	3	2	3	4	3	3
61	4	3	4	4	4	4
62	4	6	4	4	4	4
平均値	3.392157	3.176471	2.901961	2.960784	3.196078	3.392157
分散	0.883137	1.108235	1.090196	1.118431	1.080784	1.040784
標準偏差	0.939754	1.052728	1.044125	1.057559	1.039608	1.020188
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	5	6	5	5	6	5
中央値	3	3	3	4	4	3
標本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像23

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの深さ
1	4	3	2	2	4	3
2	5	2	2	2	5	2
3	2	2	2	4	3	3
4	5	3	2	4	5	3
5	3	3	2	3	4	3
6	3	3	1	3	3	2
7	3	4	3	4	5	4
8	3	2	1	3	3	3
9	4	3	2	3	6	3
11	3	3	4	4	4	4
12	4	2	3	3	5	3
13	4	3	3	3	5	3
14	4	3	2	3	4	3
16	3	4	3	4	5	2
17	2	1	1	1	5	2
18	4	2	2	2	5	2
19	2	1	1	2	2	2
20	5	2	2	2	2	2
21	4	4	2	3	4	2
22	3	2	2	3	5	2
23	3	4	3	3	3	4
24	3	4	2	2	3	2
25	3	2	2	2	3	2
26	6	1	2	2	6	1
27	3	2	2	2	4	2
28	2	2	1	1	5	2
29	2	1	1	1	1	1
30	3	3	3	3	3	3
32	2	1	1	1	2	2
33	3	3	3	3	3	3
36	5	3	1	1	6	2
38	1	1	1	1	3	1
40	1	1	1	1	1	1
41	2	2	2	2	2	2
42	2	2	3	3	3	3
43	5	2	3	2	6	3
44	5	2	1	2	6	1
45	4	3	3	2	5	4
46	5	3	2	2	5	3
47	3	3	2	2	3	2
51	3	3	2	3	3	2
52	3	3	3	3	6	2
53	4	3	3	3	5	3
54	2	1	2	2	2	2
56	4	3	1	1	5	2
57	2	2	3	3	5	2
58	4	3	3	3	5	2
59	4	3	3	3	3	3
60	3	3	2	4	3	2
61	5	3	3	4	5	4
62	3	5	2	3	4	3
平均値	3.333333	2.568627	2.176471	2.333333	2.431373	2.098039
分散	1.306667	0.810196	0.748235	0.828667	0.890196	0.890196
標準偏差	1.143095	0.900109	0.865006	0.909212	0.943502	0.943502
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	5	4	4	6	4
中央値	3	3	3	3	3	3
標準本数	51	51	51	51	51	51

画像24

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの深さ
1	3	3	3	2	2	3
2	5	4	4	3	4	4
3	3	3	3	3	2	2
4	5	4	3	3	1	5
5	3	3	2	2	2	2
6	5	4	4	3	5	4
7	5	5	6	4	5	5
8	3	2	2	2	3	3
9	4	2	1	2	2	1
11	5	3	2	3	4	2
12	4	2	2	2	2	5
13	4	3	3	3	4	2
14	3	4	2	2	2	2
16	5	5	6	5	5	6
17	5	2	3	3	4	1
18	5	2	3	2	3	2
19	3	4	3	2	2	5
20	4	4	3	3	4	4
21	4	4	3	3	4	3
22	3	4	3	2	3	3
23	3	2	2	2	2	3
24	3	5	2	3	3	3
25	3	2	2	1	1	1
26	4	6	5	5	5	5
27	3	2	3	3	4	3
28	3	3	2	2	2	2
29	2	2	2	2	2	2
30	2	2	2	2	2	2
32	2	2	1	1	1	1
33	3	3	3	3	3	3
36	3	5	3	4	3	2
38	1	1	1	1	1	1
40	1	1	1	1	1	1
41	2	2	1	2	2	2
42	2	2	2	2	2	2
43	4	3	3	3	4	3
44	4	3	2	3	3	3
45	3	2	2	2	2	2
46	5	3	4	4	5	5
47	1	1	1	1	1	1
51	3	3	2	2	3	2
52	3	2	2	2	4	2
53	4	4	3	4	3	4
54	2	2	2	2	2	2
56	3	3	2	2	2	2
57	4	2	4	3	3	2
58	3	2	2	2	5	4
59	3	3	3	2	1	3
60	3	3	2	2	3	2
61	4	4	4	3	4	4
62	2	5	2	3	2	2
平均値	3.313725	2.980392	2.627451	2.490196	2.705882	2.372549
分散	1.219608	1.379608	1.278431	0.894902	1.251765	1.638431
標準偏差	1.104359	1.174567	1.130677	0.945993	1.118823	1.280012
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	6	5	5	6
中央値	3	3	3	3	3	3
標準本数	51	51	51	51	51	51

評価結果

画像25

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの獲やすい
1	3	3	3	3	3	3
2	3	5	3	4	6	3
3	3	2	2	2	4	2
4	2	3	3	4	2	2
5	2	3	3	3	4	3
6	2	1	1	2	1	1
7	3	4	4	2	3	5
8	3	4	2	2	2	2
9	4	3	3	3	2	3
11	4	4	3	4	4	3
12	3	4	3	4	3	3
13	3	3	4	4	2	3
14	2	3	2	3	1	2
16	4	4	6	4	6	4
17	3	3	2	2	2	3
18	2	4	3	4	3	3
19	2	2	2	2	3	3
20	2	2	5	2	2	4
21	3	4	3	4	3	3
22	3	5	4	4	4	4
23	2	3	2	2	4	3
24	3	5	2	3	2	3
25	2	2	1	1	1	1
26	4	4	1	3	4	3
27	2	2	2	3	2	1
28	2	2	1	2	1	4
29	2	3	3	3	3	3
30	3	3	3	3	3	3
32	4	3	1	1	3	1
33	3	4	4	3	4	4
36	1	5	3	3	2	3
38	1	1	1	2	1	1
40	1	1	1	1	1	1
41	2	2	1	2	2	2
42	2	3	2	3	2	3
43	3	3	2	3	1	3
44	3	2	1	2	1	5
45	2	2	2	3	2	2
46	2	3	2	4	2	3
47	4	4	4	4	5	4
51	2	2	2	2	2	2
52	2	2	2	3	2	2
53	4	3	4	3	3	4
54	2	2	2	2	2	2
56	2	3	2	2	3	2
57	2	2	3	2	5	3
58	2	5	3	3	2	2
59	2	2	2	3	4	2
60	2	2	4	3	2	2
61	2	4	3	4	3	4
62	2	5	1	3	2	5
平均値	2.529412	3.019608	2.54902	2.764706	2.705882	2.627451
分散	0.654118	1.259608	1.292549	0.663529	1.214902	1.038431
標準偏差	0.808775	1.122323	1.136903	0.814573	1.102226	1.019035
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	4	5	6	4	6	5
中央値	2	2	2	3	2	3
標本数	51	51	51	51	51	51

画像26

被験者NO	楽しい	生活感の住みたい	癒される	好き	違和感がない個性が心地よい	親しみの獲やすい
1	4	4	3	3	2	4
2	4	2	2	3	3	4
3	2	2	2	2	2	5
4	3	3	2	4	3	3
5	4	4	4	4	4	4
6	2	2	1	3	2	2
7	3	3	3	2	2	5
8	3	2	3	2	2	3
9	3	3	3	2	3	5
11	4	4	3	4	3	2
12	3	3	3	4	4	5
13	3	3	4	4	2	5
14	3	4	4	5	4	4
16	3	4	2	3	3	4
17	4	2	2	3	2	4
18	3	2	1	2	1	4
19	3	2	2	3	3	2
20	5	5	5	4	5	4
21	3	3	3	3	3	3
22	3	3	2	2	2	3
23	3	2	2	2	2	3
24	3	4	2	2	2	3
25	3	2	1	2	1	3
26	6	6	6	6	6	6
27	4	2	2	2	2	4
28	3	3	2	2	3	5
29	2	2	2	2	2	2
30	2	2	2	2	2	3
32	2	2	1	1	1	2
33	3	3	3	3	3	3
36	4	3	2	5	2	5
38	1	2	1	1	1	2
40	1	1	1	1	1	1
41	2	2	2	2	2	3
42	2	2	2	2	2	2
43	5	2	1	1	1	6
44	4	1	1	1	1	6
45	3	4	4	4	5	3
46	5	4	2	2	2	2
47	2	2	2	2	3	3
51	3	2	2	2	2	2
52	2	2	2	3	2	6
53	4	4	3	4	4	5
54	2	1	2	2	2	2
56	3	3	2	2	2	5
57	2	2	2	4	3	2
58	3	3	2	2	4	4
59	4	4	4	4	5	4
60	3	2	2	2	3	2
61	3	3	3	3	2	4
62	2	2	2	3	2	2
平均値	3.058824	2.764706	2.352941	2.72549	2.666667	2.392157
分散	1.016471	1.103529	1.072941	1.283137	1.226667	1.003137
標準偏差	1.008202	1.05049	1.035829	1.132756	1.10755	1.001567
最小値	1	1	1	1	1	1
最大値	6	6	6	6	6	6
中央値	3	3	2	2	2	4
標本数	51	51	51	51	51	51

iii 全被験者のデータを用いた分散分析結果

■一変量の分散分析「違和感がない」

1. 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.639*	.093	.000	-.862	-.416
	バルコニー	.308*	.093	.003	.085	.531
屋根	外壁	.639*	.093	.000	.416	.862
	バルコニー	.947*	.093	.000	.724	1.171
バルコニー	外壁	-.308*	.093	.003	-.531	-.085
	屋根	-.947*	.093	.000	-1.171	-.724

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	.912*	.093	.000	.689	1.135
	青	1.221*	.093	.000	.998	1.444
赤	ベージュ	-.912*	.093	.000	-1.135	-.689
	青	.309*	.093	.003	.086	.532
青	ベージュ	-1.221*	.093	.000	-1.444	-.998
	赤	-.309*	.093	.003	-.532	-.086

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. トーン

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	.471*	.093	.000	.248	.694
	低い	.614*	.093	.000	.391	.837
高い	同じ	-.471*	.093	.000	-.694	-.248
	低い	.143	.093	.371	-.080	.367
低い	同じ	-.614*	.093	.000	-.837	-.391
	高い	-.143	.093	.371	-.367	.080

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. 色相 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	1.553*	.171	.000	1.142	1.963
		青	2.187*	.172	.000	1.776	2.599
	赤	ベージュ	-1.553*	.171	.000	-1.963	-1.142
		青	.635*	.172	.001	.223	1.046
	青	ベージュ	-2.187*	.172	.000	-2.599	-1.776
		赤	-.635*	.172	.001	-1.046	-.223
屋根	ベージュ	赤	.414*	.172	.048	.002	.825
		青	.526*	.172	.007	.114	.938
	赤	ベージュ	-.414*	.172	.048	-.825	-.002
		青	.112	.172	1.000	-.299	.524
	青	ベージュ	-.526*	.172	.007	-.938	-.114
		赤	-.112	.172	1.000	-.524	.299
バルコニー	ベージュ	赤	.770*	.172	.000	.358	1.182
		青	.950*	.171	.000	.539	1.361
	赤	ベージュ	-.770*	.172	.000	-1.182	-.358
		青	.180	.172	.884	-.231	.591
	青	ベージュ	-.950*	.171	.000	-1.361	-.539
		赤	-.180	.172	.884	-.591	.231

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. 色相 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.294	.172	.259	-.117	.706
		バルコニー	.982*	.171	.000	.570	1.393
	屋根	外壁	-.294	.172	.259	-.706	.117
		バルコニー	.687*	.172	.000	.275	1.099
	バルコニー	外壁	-.982*	.171	.000	-1.393	-.570
		屋根	-.687*	.172	.000	-1.099	-.275
赤	外壁	屋根	-.844*	.171	.000	-1.255	-.434
		バルコニー	.199	.172	.739	-.212	.610
	屋根	外壁	.844*	.171	.000	.434	1.255
		バルコニー	1.043*	.172	.000	.632	1.455
	バルコニー	外壁	-.199	.172	.739	-.610	.212
		屋根	-1.043*	.172	.000	-1.455	-.632
青	外壁	屋根	-1.367*	.172	.000	-1.779	-.955
		バルコニー	-.256	.172	.409	-.667	.155
	屋根	外壁	1.367*	.172	.000	.955	1.779
		バルコニー	1.111*	.172	.000	.700	1.523
	バルコニー	外壁	.256	.172	.409	-.155	.667
		屋根	-1.111*	.172	.000	-1.523	-.700

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

6. トーン * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.306	.172	.223	-.105	.718
		低い	.065	.171	1.000	-.346	.476
	高い	同じ	-.306	.172	.223	-.718	.105
		低い	-.241	.172	.481	-.653	.170
	低い	同じ	-.065	.171	1.000	-.476	.346
		高い	.241	.172	.481	-.170	.653
屋根	同じ	高い	-.167	.172	.990	-.579	.244
		低い	.969*	.172	.000	.557	1.381
	高い	同じ	.167	.172	.990	-.244	.579
		低い	1.136*	.172	.000	.724	1.548
	低い	同じ	-.969*	.172	.000	-1.381	-.557
		高い	-1.136*	.172	.000	-1.548	-.724
バルコニー	同じ	高い	1.273*	.172	.000	.862	1.684
		低い	.808*	.172	.000	.397	1.220
	高い	同じ	-1.273*	.172	.000	-1.684	-.862
		低い	-.465*	.171	.020	-.876	-.054
	低い	同じ	-.808*	.172	.000	-1.220	-.397
		高い	.465*	.171	.020	.054	.876

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

7. トーン * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.782*	.172	.000	-1.194	-.371
		バルコニー	-.262	.172	.382	-.673	.149
	屋根	外壁	.782*	.172	.000	.371	1.194
		バルコニー	.521*	.172	.007	.109	.932
	バルコニー	外壁	.262	.172	.382	-.149	.673
		屋根	-.521*	.172	.007	-.932	-.109
高い	外壁	屋根	-1.256*	.172	.000	-1.668	-.844
		バルコニー	.705*	.172	.000	.294	1.116
	屋根	外壁	1.256*	.172	.000	.844	1.668
		バルコニー	1.961*	.171	.000	1.550	2.372
	バルコニー	外壁	-.705*	.172	.000	-1.116	-.294
		屋根	-1.961*	.171	.000	-2.372	-1.550
低い	外壁	屋根	.121	.172	1.000	-.290	.533
		バルコニー	.482*	.171	.015	.071	.892
	屋根	外壁	-.121	.172	1.000	-.533	.290
		バルコニー	.360	.172	.108	-.051	.772
	バルコニー	外壁	-.482*	.171	.015	-.892	-.071
		屋根	-.360	.172	.108	-.772	.051

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

8. 規則性 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

部位	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	なし	あり	-466*	.161	.004	-782	-.150
	あり	なし	466*	.161	.004	.150	.782
屋根	なし	あり	.673*	.161	.000	.357	.990
	あり	なし	-.673*	.161	.000	-.990	-.357
バルコニー	なし	あり	.059	.161	.715	-.258	.375
	あり	なし	-.059	.161	.715	-.375	.258

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

9. 規則性 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

規則性	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	外壁	屋根	-1.209*	.118	.000	-1.491	-.927
		バルコニー	.046	.118	1.000	-.236	.328
	屋根	外壁	1.209*	.118	.000	.927	1.491
		バルコニー	1.255*	.118	.000	.972	1.537
	バルコニー	外壁	-.046	.118	1.000	-.328	.236
		屋根	-1.255*	.118	.000	-1.537	-.972
あり	外壁	屋根	-.069	.186	1.000	-.515	.377
		バルコニー	.571*	.186	.007	.125	1.017
	屋根	外壁	.069	.186	1.000	-.377	.515
		バルコニー	.640*	.186	.002	.194	1.086
	バルコニー	外壁	-.571*	.186	.007	-1.017	-.125
		屋根	-.640*	.186	.002	-1.086	-.194

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

10. トーン * 色相

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	同じ	高い	.565*	.171	.003	.154	.976
		低い	.348	.172	.129	-.064	.759
	高い	同じ	-.565*	.171	.003	-.976	-.154
		低い	-.218	.172	.617	-.629	.194
	低い	同じ	-.348	.172	.129	-.759	.064
		高い	.218	.172	.617	-.194	.629
赤	同じ	高い	.554*	.172	.004	.143	.966
		低い	.669*	.172	.000	.257	1.080
	高い	同じ	-.554*	.172	.004	-.966	-.143
		低い	.114	.171	1.000	-.297	.525
	低い	同じ	-.669*	.172	.000	-1.080	-.257
		高い	-.114	.171	1.000	-.525	.297
青	同じ	高い	.293	.172	.267	-.119	.705
		低い	.826*	.172	.000	.415	1.238
	高い	同じ	-.293	.172	.267	-.705	-.119
		低い	.534*	.172	.006	.122	.945
	低い	同じ	-.826*	.172	.000	-1.238	-.415
		高い	-.534*	.172	.006	-.945	-.122

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

11. トーン * 色相

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	.809*	.172	.000	.397	1.220
		青	1.152*	.172	.000	.741	1.563
	赤	ベージュ	-.809*	.172	.000	-1.220	-.397
		青	.344	.172	.137	-.068	.756
	青	ベージュ	-1.152*	.172	.000	-1.563	-.741
		赤	-.344	.172	.137	-.756	.068
高い	ベージュ	赤	.798*	.171	.000	.387	1.209
		青	.880*	.172	.000	.468	1.291
	赤	ベージュ	-.798*	.171	.000	-1.209	-.387
		青	.082	.172	1.000	-.330	.493
	青	ベージュ	-.880*	.172	.000	-1.291	-.468
		赤	-.082	.172	1.000	-.493	.330
低い	ベージュ	赤	1.130*	.172	.000	.718	1.541
		青	1.631*	.172	.000	1.219	2.042
	赤	ベージュ	-1.130*	.172	.000	-1.541	-.718
		青	.501*	.171	.010	.091	.912
	青	ベージュ	-1.631*	.172	.000	-2.042	-1.219
		赤	-.501*	.171	.010	-.912	-.091

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

12. 規則性 * 色相

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	なし	あり	-.229	.161	.155	-.546	.087
	あり	なし	.229	.161	.155	-.087	.546
赤	なし	あり	-.195	.161	.226	-.511	.121
	あり	なし	.195	.161	.226	-.121	.511
青	なし	あり	.690*	.161	.000	.374	1.007
	あり	なし	-.690*	.161	.000	-1.007	-.374

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

13. 規則性 * 色相

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	ベージュ	赤	.895*	.118	.000	.613	1.177
		青	.761*	.118	.000	.479	1.043
	赤	ベージュ	-.895*	.118	.000	-1.177	-.613
		青	-.134	.118	.768	-.416	.149
	青	ベージュ	-.761*	.118	.000	-1.043	-.479
		赤	.134	.118	.768	-.149	.416
あり	ベージュ	赤	.929*	.186	.000	.483	1.375
		青	1.681*	.186	.000	1.234	2.127
	赤	ベージュ	-.929*	.186	.000	-1.375	-.483
		青	.752*	.186	.000	.306	1.198
	青	ベージュ	-1.681*	.186	.000	-2.127	-1.234
		赤	-.752*	.186	.000	-1.198	-.306

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析「楽しい」

1. 色相

へアごとの比較

従属変数: 楽しい

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	-.657*	.079	.000	-.846	-.467
	青	-.113	.079	.461	-.303	.077
赤	ベージュ	.657*	.079	.000	.467	.846
	青	.544*	.079	.000	.354	.733
青	ベージュ	.113	.079	.461	-.077	.303
	赤	-.544*	.079	.000	-.733	-.354

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. トーン

へアごとの比較

従属変数: 楽しい

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	-.227*	.079	.013	-.417	-.037
	低い	-.405*	.079	.000	-.595	-.216
高い	同じ	.227*	.079	.013	.037	.417
	低い	-.178	.079	.073	-.368	.011
低い	同じ	.405*	.079	.000	.216	.595
	高い	.178	.079	.073	-.011	.368

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 楽しい

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	-.697*	.146	.000	-1.046	-.348
		青	.024	.146	1.000	-.325	.374
	赤	ベージュ	.697*	.146	.000	.348	1.046
		青	.721*	.146	.000	.372	1.071
	青	ベージュ	-.024	.146	1.000	-.374	.325
		赤	-.721*	.146	.000	-1.071	-.372
屋根	ベージュ	赤	-.707*	.146	.000	-1.057	-.358
		青	-.416*	.146	.013	-.766	-.066
	赤	ベージュ	.707*	.146	.000	.358	1.057
		青	.292	.146	.138	-.058	.641
	青	ベージュ	.416*	.146	.013	.066	.766
		赤	-.292	.146	.138	-.641	.058
バルコニー	ベージュ	赤	-.566*	.146	.000	-.916	-.216
		青	.052	.146	1.000	-.297	.402
	赤	ベージュ	.566*	.146	.000	.216	.916
		青	.619*	.146	.000	.269	.968
	青	ベージュ	-.052	.146	1.000	-.402	.297
		赤	-.619*	.146	.000	-.968	-.269

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 楽しい

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^b	
						下限	上限
ページ	外壁	屋根	.194	.146	.554	-.156	.543
		バルコニー	.073	.146	1.000	-.276	.423
	屋根	外壁	-.194	.146	.554	-.543	.156
赤	外壁	バルコニー	-.120	.146	1.000	-.470	.230
		バルコニー	外壁	-.073	.146	1.000	-.423
	屋根	屋根	.120	.146	1.000	-.230	.470
青	外壁	屋根	.183	.146	.627	-.166	.532
		バルコニー	.204	.146	.485	-.145	.554
	屋根	外壁	-.183	.146	.627	-.532	.166
青	外壁	バルコニー	.021	.146	1.000	-.329	.371
		バルコニー	外壁	-.204	.146	.485	-.554
	屋根	屋根	-.021	.146	1.000	-.371	.329
青	外壁	屋根	-.247	.146	.275	-.597	.104
		バルコニー	.101	.146	1.000	-.248	.451
	屋根	外壁	.247	.146	.275	-.104	.597
青	外壁	バルコニー	.348	.146	.051	-.002	.698
		バルコニー	外壁	-.101	.146	1.000	-.451
	屋根	屋根	-.348	.146	.051	-.698	.002

推定周辺平均に基づいた

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. トーン * 色相

へアごとの比較

従属変数: 楽しい

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^b	
						下限	上限
ページ	同じ	高い	-.607*	.146	.000	-.956	-.258
		低い	-.834*	.146	.000	-1.184	-.484
	高い	同じ	.607*	.146	.000	.258	.956
赤	高い	低い	-.227	.146	.362	-.577	.123
		低い	同じ	.834*	.146	.000	.484
	低い	高い	.227	.146	.362	-.123	.577
赤	同じ	高い	-.066	.146	1.000	-.416	.283
		低い	-.009	.146	1.000	-.359	.340
	高い	同じ	.066	.146	1.000	-.283	.416
青	高い	低い	.057	.146	1.000	-.292	.406
		低い	同じ	.009	.146	1.000	-.340
	低い	高い	-.057	.146	1.000	-.406	.292
青	同じ	高い	-.008	.146	1.000	-.358	.343
		低い	-.373*	.146	.032	-.722	-.023
	高い	同じ	.008	.146	1.000	-.343	.358
青	高い	低い	-.365*	.146	.037	-.715	-.015
		低い	同じ	.373*	.146	.032	.023
	低い	高い	.365*	.146	.037	.015	.715

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

6. トーン * 色相

へアごとの比較

従属変数: 楽しい

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^b	
						下限	上限
同じ	ページ	赤	-1.112*	.146	.000	-1.462	-.762
		青	-.466*	.146	.004	-.816	-.117
	赤	ページ	1.112*	.146	.000	.762	1.462
高い	ページ	青	.646*	.146	.000	.295	.996
		青	ページ	.466*	.146	.004	.117
	赤	赤	-.646*	.146	.000	-.996	-.295
低い	ページ	赤	-.571*	.146	.000	-.920	-.222
		青	.133	.146	1.000	-.217	.483
	赤	ページ	.571*	.146	.000	.222	.920
低い	ページ	青	-.704*	.146	.000	-.354	1.054
		青	ページ	-.133	.146	1.000	-.483
	赤	赤	-.704*	.146	.000	-1.054	-.354
低い	ページ	赤	-.287	.146	.147	-.637	.062
		青	-.006	.146	1.000	-.355	.344
	赤	ページ	.287	.146	.147	-.062	.637
低い	ページ	青	.282	.146	.159	-.067	.631
		青	ページ	.006	.146	1.000	-.344
	赤	赤	-.282	.146	.159	-.631	.067

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析「個性がある」

1. 部位

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^b	
					下限	上限
外壁	屋根	.478*	.084	.000	.276	.679
	バルコニー	.001	.084	1.000	-.201	.202
屋根	外壁	-.478*	.084	.000	-.679	-.276
	バルコニー	-.477*	.084	.000	-.679	-.275
バルコニー	外壁	-.001	.084	1.000	-.202	.201
	屋根	.477*	.084	.000	.275	.679

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. 色相

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^b	
					下限	上限
ページ	赤	-1.262*	.084	.000	-1.464	-1.061
	青	-.937*	.084	.000	-1.139	-.735
赤	ページ	1.262*	.084	.000	1.061	1.464
	青	.325*	.084	.000	.124	.527
青	ページ	.937*	.084	.000	.735	1.139
	赤	-.325*	.084	.000	-.527	-.124

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. トーン

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^b	
					下限	上限
同じ	高い	-.529*	.084	.000	-.730	-.327
	低い	-.800*	.084	.000	-1.001	-.598
高い	同じ	.529*	.084	.000	.327	.730
	低い	-.271*	.084	.004	-.473	-.069
低い	同じ	.800*	.084	.000	.598	1.001
	高い	.271*	.084	.004	.069	.473

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. トーン * 部位

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^b	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	-.661*	.155	.000	-1.033	-.289
		低い	-.834*	.155	.000	-1.206	-.463
	高い	同じ	.661*	.155	.000	.289	1.033
屋根	高い	低い	-.173	.155	.797	-.545	.199
		低い	同じ	.834*	.155	.000	.463
	低い	高い	.173	.155	.797	-.199	.545
バルコニー	同じ	高い	-.168	.155	.836	-.540	.204
		低い	-.910*	.155	.000	-1.282	-.537
	高い	同じ	.168	.155	.836	-.204	.540
バルコニー	高い	低い	-.741*	.155	.000	-1.114	-.369
		低い	同じ	.910*	.155	.000	.537
	低い	高い	.741*	.155	.000	.369	1.114
バルコニー	同じ	高い	-.757*	.155	.000	-1.129	-.385
		低い	-.655*	.155	.000	-1.028	-.283
	高い	同じ	.757*	.155	.000	.385	1.129
バルコニー	高い	低い	.101	.155	1.000	-.271	.473
		低い	同じ	.655*	.155	.000	.283
	低い	高い	-.101	.155	1.000	-.473	.271

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. トーン * 部位

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	.338	.155	.088	-.034	.710
		バルコニー	-.027	.155	1.000	-.399	.345
	屋根	外壁	-.338	.155	.088	-.710	.034
		バルコニー	-.366	.155	.056	-.738	.007
	バルコニー	外壁	.027	.155	1.000	-.345	.399
		屋根	.366	.155	.056	-.007	.738
高い	外壁	屋根	.831*	.155	.000	.459	1.204
		バルコニー	-.123	.155	1.000	-.495	.250
	屋根	外壁	-.831*	.155	.000	-1.204	-.459
		バルコニー	-.954*	.155	.000	-1.326	-.582
	バルコニー	外壁	.123	.155	1.000	-.250	.495
		屋根	.954*	.155	.000	.582	1.326
低い	外壁	屋根	.263	.155	.272	-.109	.635
		バルコニー	.152	.155	.986	-.220	.523
	屋根	外壁	-.263	.155	.272	-.635	.109
		バルコニー	-.111	.155	1.000	-.484	.261
	バルコニー	外壁	-.152	.155	.986	-.523	.220
		屋根	.111	.155	1.000	-.261	.484

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

6. 規則性 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

部位	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	なし	あり	.478*	.146	.001	.193	.764
	あり	なし	-.478*	.146	.001	-.764	-.193
屋根	なし	あり	-.390*	.146	.008	-.676	-.104
	あり	なし	.390*	.146	.008	.104	.676
バルコニー	なし	あり	.120	.146	.412	-.167	.406
	あり	なし	-.120	.146	.412	-.406	.167

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

7. 規則性 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

規則性	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	外壁	屋根	.912*	.107	.000	.656	1.167
		バルコニー	.180	.106	.274	-.075	.435
	屋根	外壁	-.912*	.107	.000	-1.167	-.656
		バルコニー	-.732*	.106	.000	-.987	-.477
	バルコニー	外壁	-.180	.106	.274	-.435	.075
		屋根	.732*	.106	.000	.477	.987
あり	外壁	屋根	.043	.168	1.000	-.360	.447
		バルコニー	-.179	.168	.865	-.582	.225
	屋根	外壁	-.043	.168	1.000	-.447	.360
		バルコニー	-.222	.168	.562	-.626	.182
	バルコニー	外壁	.179	.168	.865	-.225	.582
		屋根	.222	.168	.562	-.182	.626

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

8. トーン * 色相

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	同じ	高い	-1.046*	.155	.000	-1.418	-.675
		低い	-.981*	.155	.000	-1.353	-.609
	高い	同じ	1.046*	.155	.000	.675	1.418
		低い	.065	.155	1.000	-.307	.438
	低い	同じ	.981*	.155	.000	.609	1.353
		高い	-.065	.155	1.000	-.438	.307
赤	同じ	高い	-.478*	.155	.006	-.850	-.106
		低い	-.505*	.155	.003	-.877	-.133
	高い	同じ	.478*	.155	.006	.106	.850
		低い	-.028	.155	1.000	-.399	.344
	低い	同じ	.505*	.155	.003	.133	.877
		高い	.028	.155	1.000	-.344	.399
青	同じ	高い	-.062	.155	1.000	-.435	.311
		低い	-.913*	.155	.000	-1.285	-.541
	高い	同じ	.062	.155	1.000	-.311	.435
		低い	-.851*	.155	.000	-1.223	-.478
	低い	同じ	.913*	.155	.000	.541	1.285
		高い	.851*	.155	.000	.478	1.223

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

9. トーン * 色相

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	-1.610*	.155	.000	-1.982	-1.238
		青	-1.288*	.155	.000	-1.660	-.916
	赤	ベージュ	1.610*	.155	.000	1.238	1.982
		青	.323	.155	.114	-.050	.695
	青	ベージュ	1.288*	.155	.000	.916	1.660
		赤	-.323	.155	.114	-.695	.050
高い	ベージュ	赤	-1.042*	.155	.000	-1.414	-.670
		青	-.304	.155	.152	-.676	.069
	赤	ベージュ	1.042*	.155	.000	.670	1.414
		青	.738*	.155	.000	.366	1.111
	青	ベージュ	.304	.155	.152	-.069	.676
		赤	-.738*	.155	.000	-1.111	-.366
低い	ベージュ	赤	-1.135*	.155	.000	-1.507	-.762
		青	-1.219*	.155	.000	-1.592	-.847
	赤	ベージュ	1.135*	.155	.000	.762	1.507
		青	-.085	.155	1.000	-.456	.287
	青	ベージュ	1.219*	.155	.000	.847	1.592
		赤	.085	.155	1.000	-.287	.456

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

10. トーン * 規則性

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

規則性	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	同じ	高い	-.866*	.106	.000	-1.121	-.611
		低い	-.780*	.107	.000	-1.036	-.525
	高い	同じ	.866*	.106	.000	.611	1.121
		低い	.086	.106	1.000	-.169	.341
	低い	同じ	.780*	.107	.000	.525	1.036
		高い	-.086	.106	1.000	-.341	.169
あり	同じ	高い	-.191	.168	.768	-.595	.212
		低い	-.819*	.168	.000	-1.223	-.416
	高い	同じ	.191	.168	.768	-.212	.595
		低い	-.628*	.169	.001	-1.032	-.224
	低い	同じ	.819*	.168	.000	.416	1.223
		高い	.628*	.169	.001	.224	1.032

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

11. トーン * 規則性

へアごとの比較

従属変数: 個性がある

トーン	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	なし	あり	-.143	.146	.328	-.428	.143
	あり	なし	.143	.146	.328	-.143	.428
高い	なし	あり	.532*	.146	.000	.246	.819
	あり	なし	-.532*	.146	.000	-.819	-.246
低い	なし	あり	-.182	.146	.214	-.468	.105
	あり	なし	.182	.146	.214	-.105	.468

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析「好き」.

1. 部位

へアごとの比較

従属変数: 好き

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.408*	.088	.000	-.620	-.197
	バルコニー	.142	.088	.321	-.069	.354
屋根	外壁	.408*	.088	.000	.197	.620
	バルコニー	.550*	.088	.000	.339	.762
バルコニー	外壁	-.142	.088	.321	-.354	.069
	屋根	-.550*	.088	.000	-.762	-.339

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. 色相

へアごとの比較

従属変数: 好き

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ページ	赤	.289*	.088	.003	.077	.500
	青	.632*	.088	.000	.420	.843
赤	ページ	-.289*	.088	.003	-.500	-.077
	青	.343*	.088	.000	.131	.554
青	ページ	-.632*	.088	.000	-.843	-.420
	赤	-.343*	.088	.000	-.554	-.131

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 好き

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ページ	赤	.798*	.162	.000	.409	1.188
		青	1.339*	.163	.000	.949	1.729
	赤	ページ	-.798*	.162	.000	-1.188	-.409
		青	.541*	.163	.003	.151	.931
	青	ページ	-1.339*	.163	.000	-1.729	-.949
		赤	-.541*	.163	.003	-.931	-.151
屋根	ページ	赤	-.199	.163	.666	-.589	.191
		青	-.065	.163	1.000	-.456	.326
	赤	ページ	.199	.163	.666	-.191	.589
		青	.134	.163	1.000	-.257	.524
	青	ページ	.065	.163	1.000	-.326	.456
		赤	-.134	.163	1.000	-.524	.257
バルコニー	ページ	赤	.267	.163	.303	-.123	.658
		青	.621*	.163	.000	.231	1.011
	赤	ページ	-.267	.163	.303	-.658	.123
		青	.354	.163	.090	-.036	.744
	青	ページ	-.621*	.163	.000	-1.011	-.231
		赤	-.354	.163	.090	-.744	.036

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 好き

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ページ	外壁	屋根	.392*	.163	.048	.002	.782
		バルコニー	.558*	.163	.002	.169	.948
	屋根	外壁	-.392*	.163	.048	-.782	-.002
		バルコニー	.166	.163	.921	-.224	.557
	バルコニー	外壁	-.558*	.163	.002	-.948	-.169
		屋根	-.166	.163	.921	-.557	.224
赤	外壁	屋根	-.605*	.163	.001	-.994	-.215
		バルコニー	.028	.163	1.000	-.362	.418
	屋根	外壁	.605*	.163	.001	.215	.994
		バルコニー	.633*	.163	.000	.242	1.023
	バルコニー	外壁	-.028	.163	1.000	-.418	.362
		屋根	-.633*	.163	.000	-1.023	-.242
青	外壁	屋根	-1.012*	.163	.000	-1.403	-.621
		バルコニー	-.159	.163	.983	-.549	.231
	屋根	外壁	1.012*	.163	.000	.621	1.403
		バルコニー	.852*	.163	.000	.462	1.243
	バルコニー	外壁	.159	.163	.983	-.231	.549
		屋根	-.852*	.163	.000	-1.243	-.462

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. トーン * 部位

へアごとの比較

従属変数: 好き

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.158	.163	.994	-.232	.548
		低い	-.149	.163	1.000	-.539	.240
	高い	同じ	-.158	.163	.994	-.548	.232
		低い	-.307	.163	.178	-.698	.083
	低い	同じ	.149	.163	1.000	-.240	.539
		高い	.307	.163	.178	-.083	.698
屋根	同じ	高い	-.193	.163	.705	-.584	.197
		低い	.381	.163	.058	-.009	.772
	高い	同じ	.193	.163	.705	-.197	.584
		低い	.575*	.163	.001	.184	.965
	低い	同じ	-.381	.163	.058	-.772	.009
		高い	-.575*	.163	.001	-.965	-.184
バルコニー	同じ	高い	.630*	.163	.000	.240	1.020
		低い	.264	.163	.316	-.126	.654
	高い	同じ	-.630*	.163	.000	-1.020	-.240
		低い	-.366	.163	.073	-.756	.024
	低い	同じ	-.264	.163	.316	-.654	.126
		高い	.366	.163	.073	-.024	.756

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

6. トーン * 部位

へアごとの比較

従属変数: 好き

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.468*	.163	.012	-.858	-.078
		バルコニー	-.153	.163	1.000	-.543	.237
	屋根	外壁	.468*	.163	.012	.078	.858
		バルコニー	.315	.163	.160	-.076	.706
	バルコニー	外壁	.153	.163	1.000	-.237	.543
		屋根	-.315	.163	.160	-.706	.076
高い	外壁	屋根	-.819*	.163	.000	-1.210	-.429
		バルコニー	.319	.163	.150	-.071	.709
	屋根	外壁	.819*	.163	.000	.429	1.210
		バルコニー	1.139*	.163	.000	.749	1.528
	バルコニー	外壁	-.319	.163	.150	-.709	.071
		屋根	-1.139*	.163	.000	-1.528	-.749
低い	外壁	屋根	.063	.163	1.000	-.327	.453
		バルコニー	.260	.163	.328	-.129	.650
	屋根	外壁	-.063	.163	1.000	-.453	.327
		バルコニー	.198	.163	.675	-.193	.588
	バルコニー	外壁	-.260	.163	.328	-.650	.129
		屋根	-.198	.163	.675	-.588	.193

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

7. トーン * 色相

へアごとの比較

従属変数: 好き

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ページ	同じ	高い	.070	.162	1.000	-.319	.460
		低い	-.220	.163	.533	-.610	.171
	高い	同じ	-.070	.162	1.000	-.460	.319
		低い	-.290	.163	.226	-.680	.101
	低い	同じ	.220	.163	.533	-.171	.610
		高い	.290	.163	.226	-.101	.680
赤	同じ	高い	.384	.163	.055	-.006	.774
		低い	.450*	.163	.017	.060	.840
	高い	同じ	-.384	.163	.055	-.774	.006
		低い	.066	.163	1.000	-.323	.456
	低い	同じ	-.450*	.163	.017	-.840	-.060
		高い	-.066	.163	1.000	-.456	.323
青	同じ	高い	.141	.163	1.000	-.250	.532
		低い	.266	.163	.308	-.124	.656
	高い	同じ	-.141	.163	1.000	-.532	.250
		低い	.125	.163	1.000	-.265	.515
	低い	同じ	-.266	.163	.308	-.656	.124
		高い	-.125	.163	1.000	-.515	.265

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
- a. 多重比較の調整: Bonferroni.

8. トーン * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 [¶]	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	-.039	.163	1.000	-.429	.351
		青	.446*	.163	.019	.056	.836
	赤	ベージュ	.039	.163	1.000	-.351	.429
		青	.485*	.163	.009	.094	.876
高い	ベージュ	赤	-.446*	.163	.019	-.836	-.056
		青	-.485*	.163	.009	-.876	-.094
	赤	ベージュ	.275	.163	.273	-.115	.664
		青	.517*	.163	.005	.127	.907
低い	ベージュ	赤	-.275	.163	.273	-.664	.115
		青	.242	.163	.412	-.148	.632
	赤	ベージュ	-.517*	.163	.005	-.907	-.127
		青	-.242	.163	.412	-.632	.148
低い	ベージュ	赤	.631*	.163	.000	.240	1.021
		青	.932*	.163	.000	.541	1.322
	赤	ベージュ	-.631*	.163	.000	-1.021	-.240
		青	.301	.163	.193	-.089	.690
青	ベージュ	-.932*	.163	.000	-1.322	-.541	
	赤	-.301	.163	.193	-.690	.089	

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

9. 規則性 * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 [¶]	
						下限	上限
ベージュ	なし	あり	-.198	.153	.195	-.498	.102
		なし	.198	.153	.195	-.102	.498
赤	なし	あり	-.117	.153	.443	-.417	.182
		あり	.117	.153	.443	-.182	.417
青	なし	あり	.621*	.153	.000	.321	.921
		あり	-.621*	.153	.000	-.921	-.321

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

10. 規則性 * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 [¶]	
						下限	上限
なし	ベージュ	赤	.248	.112	.079	-.019	.516
		青	.222	.112	.141	-.046	.489
	赤	ベージュ	-.248	.112	.079	-.516	.019
		青	-.027	.112	1.000	-.294	.241
	青	ベージュ	-.222	.112	.141	-.489	.046
		赤	.027	.112	1.000	-.241	.294
あり	ベージュ	赤	.329	.177	.187	-.094	.753
		青	1.041*	.177	.000	.618	1.465
	赤	ベージュ	-.329	.177	.187	-.753	.094
		青	.712*	.176	.000	.289	1.135
	青	ベージュ	-1.041*	.177	.000	-1.465	-.618
		赤	-.712*	.176	.000	-1.135	-.289

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析「住みたい」

1. 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 [¶]	
					下限	上限
外壁	屋根	-.342*	.087	.000	-.549	-.134
	バルコニー	.179	.087	.118	-.029	.387
屋根	外壁	.342*	.087	.000	.134	.549
	バルコニー	.520*	.087	.000	.312	.729
バルコニー	外壁	-.179	.087	.118	-.387	.029
	屋根	-.520*	.087	.000	-.729	-.312

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 [¶]	
					下限	上限
ベージュ	赤	.226*	.087	.028	.018	.434
	青	.546*	.087	.000	.338	.755
赤	ベージュ	-.226*	.087	.028	-.434	-.018
	青	.321*	.087	.001	.113	.528
青	ベージュ	-.546*	.087	.000	-.755	-.338
	赤	-.321*	.087	.001	-.528	-.113

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. トーン

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 [¶]	
					下限	上限
同じ	高い	.254*	.087	.010	.046	.462
	低い	.196	.087	.073	-.012	.403
高い	同じ	-.254*	.087	.010	-.462	-.046
	低い	-.059	.087	1.000	-.267	.150
低い	同じ	-.196	.087	.073	-.403	.012
	高い	.059	.087	1.000	-.150	.267

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. 色相 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 [¶]	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	.761*	.160	.000	.378	1.143
		青	1.237*	.160	.000	.854	1.621
	赤	ベージュ	-.761*	.160	.000	-1.143	-.378
		青	.476*	.160	.009	.093	.860
屋根	ベージュ	赤	-.237*	.160	.000	-1.621	-.854
		青	-.476*	.160	.009	-.860	-.093
	赤	ベージュ	-.319	.160	.139	-.702	.064
		青	-.175	.160	.826	-.559	.209
バルコニー	ベージュ	赤	.319	.160	.139	-.064	.702
		青	.144	.160	1.000	-.239	.528
	赤	ベージュ	.175	.160	.826	-.209	.559
		青	-.144	.160	1.000	-.528	.239
バルコニー	ベージュ	赤	.236	.160	.422	-.148	.620
		青	.577*	.160	.001	.194	.960
	赤	ベージュ	-.236	.160	.422	-.620	.148
		青	.341	.160	.099	-.042	.724
青	ベージュ	-.577*	.160	.001	-.960	-.194	
	赤	-.341	.160	.099	-.724	.042	

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. 色相 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 [¶]	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.489*	.160	.007	.106	.872
		バルコニー	.574*	.160	.001	.191	.957
	屋根	外壁	-.489*	.160	.007	-.872	-.106
		バルコニー	.085	.160	1.000	-.299	.468
赤	外壁	屋根	-.574*	.160	.001	-.957	-.191
		バルコニー	-.085	.160	1.000	-.468	.299
	屋根	外壁	-.591*	.160	.001	-.974	-.208
		バルコニー	.049	.160	1.000	-.334	.432
青	外壁	屋根	.591*	.160	.001	.208	.974
		バルコニー	.640*	.160	.000	.256	1.023
	屋根	外壁	-.049	.160	1.000	-.432	.334
		バルコニー	-.640*	.160	.000	-1.023	-.256
青	外壁	屋根	-.923*	.160	.000	-1.307	-.539
		バルコニー	-.086	.160	1.000	-.469	.297
	屋根	外壁	.923*	.160	.000	.539	1.307
		バルコニー	.837*	.160	.000	.453	1.220
バルコニー	外壁	.086	.160	1.000	-.297	.469	
	屋根	-.837*	.160	.000	-1.220	-.453	

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

6. トーン * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.158	.160	.972	-.226	.541
		低い	-.174	.160	.825	-.557	.208
	高い	同じ	-.158	.160	.972	-.541	.226
		低い	-.332	.160	.114	-.716	.051
屋根	同じ	高い	.174	.160	.825	-.208	.557
		低い	.332	.160	.114	-.051	.716
	高い	高い	-.141	.160	1.000	-.525	.242
		低い	.489*	.160	.007	.106	.873
バルコニー	同じ	高い	.141	.160	1.000	-.242	.525
		低い	.631*	.160	.000	.247	1.014
	高い	同じ	-.489*	.160	.007	-.873	-.106
		高い	-.631*	.160	.000	-1.014	-.247
バルコニー	同じ	高い	.746*	.160	.000	.363	1.129
		低い	.272	.160	.269	-.112	.655
	高い	同じ	-.746*	.160	.000	-1.129	-.363
		低い	-.474*	.160	.009	-.857	-.091
バルコニー	同じ	高い	-.272	.160	.269	-.655	.112
		低い	.474*	.160	.009	.091	.857

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

7. トーン * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.463*	.160	.012	-.846	-.080
		バルコニー	-.166	.160	.899	-.549	.217
	屋根	外壁	.463*	.160	.012	.080	.846
		バルコニー	.297	.160	.191	-.087	.681
高い	バルコニー	外壁	.166	.160	.899	-.217	.549
		屋根	-.297	.160	.191	-.681	.087
	外壁	屋根	-.762*	.160	.000	-1.146	-.379
		バルコニー	.422*	.160	.025	.039	.806
低い	屋根	外壁	.762*	.160	.000	.379	1.146
		バルコニー	1.185*	.160	.000	.802	1.568
	バルコニー	外壁	-.422*	.160	.025	-.806	-.039
		屋根	-1.185*	.160	.000	-1.568	-.802
低い	外壁	屋根	.201	.160	.629	-.183	.584
		バルコニー	.280	.160	.239	-.103	.663
	屋根	外壁	-.201	.160	.629	-.584	.183
		バルコニー	.080	.160	1.000	-.304	.463
低い	バルコニー	外壁	-.280	.160	.239	-.663	.103
		屋根	-.080	.160	1.000	-.463	.304

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

8. 規則性 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

部位	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	なし	あり	-.200	.150	.183	-.495	.094
		あり	.200	.150	.183	-.094	.495
屋根	なし	あり	.432*	.150	.004	.137	.726
		あり	-.432*	.150	.004	-.726	-.137
バルコニー	なし	あり	-.004	.150	.976	-.299	.290
		あり	.004	.150	.976	-.290	.299

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

9. 規則性 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

規則性	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	外壁	屋根	-.657*	.110	.000	-.921	-.394
		バルコニー	.081	.110	1.000	-.182	.344
	屋根	外壁	.657*	.110	.000	.394	.921
		バルコニー	.738*	.110	.000	.476	1.001
	バルコニー	外壁	-.081	.110	1.000	-.344	.182
		屋根	-.738*	.110	.000	-1.001	-.476
あり	外壁	屋根	-.026	.173	1.000	-.441	.390
		バルコニー	.277	.173	.333	-.139	.693
	屋根	外壁	.026	.173	1.000	-.390	.441
		バルコニー	.302	.174	.245	-.114	.718
	バルコニー	外壁	-.277	.173	.333	-.693	.139
		屋根	-.302	.174	.245	-.718	.114

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

10. トーン * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ページ	同じ	高い	.019	.160	1.000	-.363	.402
		低い	-.131	.160	1.000	-.515	.252
	高い	同じ	-.019	.160	1.000	-.402	.363
		低い	-.151	.160	1.000	-.534	.233
	低い	同じ	.131	.160	1.000	-.252	.515
		高い	.151	.160	1.000	-.233	.534
赤	同じ	高い	.495*	.160	.006	.112	.878
		低い	.382	.160	.051	-.001	.766
	高い	同じ	-.495*	.160	.006	-.878	-.112
		低い	-.113	.160	1.000	-.496	.270
	低い	同じ	-.382	.160	.051	-.766	.001
		高い	.113	.160	1.000	-.270	.496
青	同じ	高い	.248	.160	.366	-.136	.632
		低い	.336	.160	.108	-.047	.719
	高い	同じ	-.248	.160	.366	-.632	.136
		低い	.088	.160	1.000	-.296	.472
	低い	同じ	-.336	.160	.108	-.719	.047
		高い	-.088	.160	1.000	-.472	.296

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

11. トーン * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	ページ	赤	-.104	.160	1.000	-.487	.280
		青	.315	.160	.148	-.069	.698
	赤	ページ	.104	.160	1.000	-.280	.487
		青	.418*	.160	.027	.034	.802
	青	ページ	-.315	.160	.148	-.698	.069
		赤	-.418*	.160	.027	-.802	-.034
高い	ページ	赤	.372	.160	.060	-.011	.755
		青	.543*	.160	.002	.159	.927
	赤	ページ	-.372	.160	.060	-.755	.011
		青	.171	.160	.854	-.212	.555
	青	ページ	-.543*	.160	.002	-.927	-.159
		赤	-.171	.160	.854	-.555	.212
低い	ページ	赤	.410*	.160	.032	.026	.793
		青	.782*	.160	.000	.398	1.165
	赤	ページ	-.410*	.160	.032	-.793	-.026
		青	.372	.160	.060	-.011	.755
	青	ページ	-.782*	.160	.000	-1.165	-.398
		赤	-.372	.160	.060	-.755	.011

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

12. 規則性 * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ページ	なし	あり	-.178	.150	.236	-.473	.117
		あり	.178	.150	.236	-.117	.473
赤	なし	あり	-.145	.150	.335	-.439	.150
		あり	.145	.150	.335	-.150	.439
青	なし	あり	.550*	.150	.000	.255	.845
		あり	-.550*	.150	.000	-.845	-.255

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

13. 規則性 * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	ページ	赤	.209	.110	.171	-.054	.472
		青	.182	.110	.290	-.081	.445
	赤	ページ	-.209	.110	.171	-.472	.054
		青	-.027	.110	1.000	-.290	.236
	青	ページ	-.182	.110	.290	-.445	.081
		赤	.027	.110	1.000	-.236	.290
あり	ページ	赤	.243	.173	.486	-.173	.659
		青	.911*	.174	.000	.495	1.327
	赤	ページ	-.243	.173	.486	-.659	.173
		青	.668*	.173	.000	.252	1.084
	青	ページ	-.911*	.174	.000	-1.327	-.495
		赤	-.668*	.173	.000	-1.084	-.252

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析「心地よい」

1. 部位

へアごとの比較

従属変数: 心地よい

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.450*	.082	.000	-.646	-.254
	バルコニー	.161	.082	.149	-.035	.357
	外壁	.450*	.082	.000	.254	.646
バルコニー	外壁	.611*	.082	.000	.414	.807
	屋根	-.161	.082	.149	-.357	.035
	屋根	-.611*	.082	.000	-.807	-.414

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. 色相

へアごとの比較

従属変数: 心地よい

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	.434*	.082	.000	.238	.630
	青	.788*	.082	.000	.591	.984
赤	ベージュ	-.434*	.082	.000	-.630	-.238
	青	.353*	.082	.000	.157	.549
青	ベージュ	-.788*	.082	.000	-.984	-.591
	赤	-.353*	.082	.000	-.549	-.157

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. トーン

へアごとの比較

従属変数: 心地よい

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	.301*	.082	.001	.105	.497
	低い	.285*	.082	.002	.089	.481
高い	同じ	-.301*	.082	.001	-.497	-.105
	低い	-.016	.082	1.000	-.213	.180
低い	同じ	-.285*	.082	.002	-.481	-.089
	高い	.016	.082	1.000	-.180	.213

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 心地よい

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	.962*	.151	.000	.601	1.323
		青	1.547*	.151	.000	1.186	1.909
	赤	ベージュ	-.962*	.151	.000	-1.323	-.601
		青	.585*	.151	.000	.223	.947
	青	ベージュ	-1.547*	.151	.000	-1.909	-1.186
		赤	-.585*	.151	.000	-.947	-.223
屋根	ベージュ	赤	-.039	.151	1.000	-.401	.322
		青	.084	.151	1.000	-.278	.447
	赤	ベージュ	.039	.151	1.000	-.322	.401
		青	.124	.151	1.000	-.238	.486
	青	ベージュ	-.084	.151	1.000	-.447	.278
		赤	-.124	.151	1.000	-.486	.238
バルコニー	ベージュ	赤	.380*	.151	.036	.018	.742
		青	.731*	.151	.000	.370	1.092
	赤	ベージュ	-.380*	.151	.036	-.742	-.018
		青	.351	.151	.060	-.011	.713
	青	ベージュ	-.731*	.151	.000	-1.092	-.370
		赤	-.351	.151	.060	-.713	.011

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 心地よい

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.372*	.151	.042	.010	.733
		バルコニー	.627*	.151	.000	.265	.988
	屋根	外壁	-.372*	.151	.042	-.733	-.010
		バルコニー	.255	.151	.273	-.107	.617
	バルコニー	外壁	-.627*	.151	.000	-.988	-.265
		屋根	-.255	.151	.273	-.617	.107
赤	外壁	屋根	-.630*	.151	.000	-.991	-.269
		バルコニー	.045	.151	1.000	-.317	.406
	屋根	外壁	.630*	.151	.000	.269	.991
		バルコニー	.675*	.151	.000	.313	1.037
	バルコニー	外壁	-.045	.151	1.000	-.406	.317
		屋根	-.675*	.151	.000	-1.037	-.313
青	外壁	屋根	-1.091*	.151	.000	-1.454	-.729
		バルコニー	-.189	.151	.628	-.551	.172
	屋根	外壁	1.091*	.151	.000	.729	1.454
		バルコニー	.902*	.151	.000	.540	1.264
	バルコニー	外壁	.189	.151	.628	-.172	.551
		屋根	-.902*	.151	.000	-1.264	-.540

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

6. トーン * 部位

へアごとの比較

従属変数: 心地よい

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.278	.151	.197	-.084	.640
		低い	-.047	.151	1.000	-.408	.314
	高い	同じ	-.278	.151	.197	-.640	.084
		低い	-.325	.151	.094	-.687	.037
	低い	同じ	.047	.151	1.000	-.314	.408
		高い	.325	.151	.094	-.037	.687
屋根	同じ	高い	-.203	.151	.534	-.565	.158
		低い	.464*	.151	.007	.102	.826
	高い	同じ	.203	.151	.534	-.158	.565
		低い	.667*	.151	.000	.305	1.029
	低い	同じ	-.464*	.151	.007	-.826	-.102
		高い	-.667*	.151	.000	-1.029	-.305
バルコニー	同じ	高い	.828*	.151	.000	.466	1.190
		低い	.437*	.151	.012	.075	.799
	高い	同じ	-.828*	.151	.000	-1.190	-.466
		低い	-.391*	.151	.029	-.752	-.030
	低い	同じ	-.437*	.151	.012	-.799	-.075
		高い	.391*	.151	.029	.030	.752

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

7. トーン * 部位

へアごとの比較

従属変数: 心地よい

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.460*	.151	.007	-.821	-.098
		バルコニー	-.184	.151	.668	-.546	.178
	屋根	外壁	.460*	.151	.007	.098	.821
		バルコニー	.276	.151	.204	-.086	.638
	バルコニー	外壁	.184	.151	.668	-.178	.546
		屋根	-.276	.151	.204	-.638	.086
高い	外壁	屋根	-.941*	.151	.000	-1.303	-.579
		バルコニー	.366*	.151	.046	.004	.728
	屋根	外壁	.941*	.151	.000	.579	1.303
		バルコニー	1.307*	.151	.000	.946	1.669
	バルコニー	外壁	-.366*	.151	.046	-.728	-.004
		屋根	-1.307*	.151	.000	-1.669	-.946
低い	外壁	屋根	.051	.151	1.000	-.311	.413
		バルコニー	.300	.151	.140	-.061	.661
	屋根	外壁	-.051	.151	1.000	-.413	.311
		バルコニー	.249	.151	.299	-.113	.611
	バルコニー	外壁	-.300	.151	.140	-.661	.061
		屋根	-.249	.151	.299	-.611	.113

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

8. 規則性 * 部位

ペアごとの比較

従属変数: 心地よい

部位	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	なし	あり	-.345*	.142	.015	-.623	-.067
	あり	なし	.345*	.142	.015	.067	.623
屋根	なし	あり	-.458*	.142	.001	-.180	-.736
	あり	なし	.458*	.142	.001	.736	.180
バルコニー	なし	あり	.075	.142	.598	-.203	.353
	あり	なし	-.075	.142	.598	-.353	.203

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

9. 規則性 * 部位

ペアごとの比較

従属変数: 心地よい

規則性	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	外壁	屋根	-.852*	.104	.000	-1.100	-.603
		バルコニー	-.049	.103	1.000	-.297	.199
	屋根	外壁	.852*	.104	.000	.603	1.100
		バルコニー	.802*	.103	.000	.554	1.050
	バルコニー	外壁	.049	.103	1.000	-.199	.297
		屋根	-.802*	.103	.000	-1.050	-.554
あり	外壁	屋根	-.048	.164	1.000	-.440	.344
		バルコニー	.371	.164	.071	-.022	.763
	屋根	外壁	.048	.164	1.000	-.344	.440
		バルコニー	.419*	.164	.032	.026	.812
	バルコニー	外壁	-.371	.164	.071	-.763	.022
		屋根	-.419*	.164	.032	-.812	-.026

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

10. トーン * 色相

ペアごとの比較

従属変数: 心地よい

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	同じ	高い	.142	.151	1.000	-.219	.504
		低い	-.137	.151	1.000	-.498	.225
	高い	同じ	-.142	.151	1.000	-.504	.219
		低い	-.279	.151	.195	-.641	.083
	低い	同じ	.137	.151	1.000	-.225	.498
		高い	.279	.151	.195	-.083	.641
赤	同じ	高い	.527*	.151	.001	.165	.889
		低い	.462*	.151	.007	.100	.824
	高い	同じ	-.527*	.151	.001	-.889	-.165
		低い	-.065	.151	1.000	-.426	.296
	低い	同じ	-.462*	.151	.007	-.824	-.100
		高い	.065	.151	1.000	-.296	.426
青	同じ	高い	.233	.151	.369	-.129	.596
		低い	.528*	.151	.001	.167	.890
	高い	同じ	-.233	.151	.369	-.596	-.129
		低い	.295	.151	.153	-.067	.657
	低い	同じ	-.528*	.151	.001	-.890	-.167
		高い	-.295	.151	.153	-.657	.067

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

11. トーン * 色相

ペアごとの比較

従属変数: 心地よい

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	.107	.151	1.000	-.255	.468
		青	.536*	.151	.001	.174	.897
	赤	ベージュ	-.107	.151	1.000	-.468	.255
		青	.429*	.151	.014	.067	.791
	青	ベージュ	-.536*	.151	.001	-.897	-.174
		赤	-.429*	.151	.014	-.791	-.067
高い	ベージュ	赤	.491*	.151	.003	.130	.852
		青	.627*	.151	.000	.265	.988
	赤	ベージュ	-.491*	.151	.003	-.852	-.130
		青	.135	.151	1.000	-.226	.497
	青	ベージュ	-.627*	.151	.000	-.988	-.265
		赤	-.135	.151	1.000	-.497	.226
低い	ベージュ	赤	.705*	.151	.000	.343	1.067
		青	1.201*	.151	.000	.839	1.563
	赤	ベージュ	-.705*	.151	.000	-1.067	-.343
		青	.495*	.151	.003	.134	.857
	青	ベージュ	-1.201*	.151	.000	-1.563	-.839
		赤	-.495*	.151	.003	-.857	-.134

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

12. 規則性 * 色相

ペアごとの比較

従属変数: 心地よい

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	なし	あり	-.238	.142	.094	-.516	.041
	あり	なし	.238	.142	.094	-.041	.516
赤	なし	あり	-.215	.142	.129	-.493	.063
	あり	なし	.215	.142	.129	-.063	.493
青	なし	あり	.641*	.142	.000	.362	.919
	あり	なし	-.641*	.142	.000	-.919	-.362

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

13. 規則性 * 色相

ペアごとの比較

従属変数: 心地よい

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	ベージュ	赤	.423*	.103	.000	.175	.671
		青	.349*	.103	.002	.100	.597
	赤	ベージュ	-.423*	.103	.000	-.671	-.175
		青	-.075	.104	1.000	-.323	.174
	青	ベージュ	-.349*	.103	.002	-.597	-.100
		赤	.075	.104	1.000	-.174	.323
あり	ベージュ	赤	.445*	.164	.020	.053	.838
		青	1.227*	.164	.000	.834	1.619
	赤	ベージュ	-.445*	.164	.020	-.838	-.053
		青	.781*	.164	.000	.389	1.173
	青	ベージュ	-1.227*	.164	.000	-1.619	-.834
		赤	-.781*	.164	.000	-1.173	-.389

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析「親しみのある」

1. 部位

ペアごとの比較

従属変数: 親しみのある

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.382*	.086	.000	-.587	-.176
	バルコニー	.165	.086	.163	-.040	.371
屋根	外壁	.382*	.086	.000	.176	.587
	バルコニー	.547*	.086	.000	.341	.753
バルコニー	外壁	-.165	.086	.163	-.371	.040
	屋根	-.547*	.086	.000	-.753	-.341

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. 色相

ペアごとの比較

従属変数: 親しみのある

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	.282*	.086	.003	.077	.488
	青	.717*	.086	.000	.511	.923
赤	ベージュ	-.282*	.086	.003	-.488	-.077
	青	.434*	.086	.000	.229	.640
青	ベージュ	-.717*	.086	.000	-.923	-.511
	赤	-.434*	.086	.000	-.640	-.229

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. トーン

ペアごとの比較

従属変数: 親しみのある

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	.231*	.086	.021	.026	.437
	低い	.270*	.086	.005	.064	.476
高い	同じ	-.231*	.086	.021	-.437	-.026
	低い	.039	.086	1.000	-.167	.244
低い	同じ	-.270*	.086	.005	-.476	-.064
	高い	-.039	.086	1.000	-.244	.167

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. 色相 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	.761*	.158	.000	.383	1.140
		青	1.374*	.158	.000	.994	1.753
	赤	ベージュ	-.761*	.158	.000	-1.140	-.383
		青	.612*	.158	.000	.233	.992
	青	ベージュ	-1.374*	.158	.000	-1.753	-.994
		赤	-.612*	.158	.000	-.992	-.233
屋根	ベージュ	赤	-.220	.158	.493	-.600	.159
		青	.086	.159	1.000	-.294	.466
	赤	ベージュ	.220	.158	.493	-.159	.600
		青	.306	.158	.161	-.074	.686
	青	ベージュ	-.086	.159	1.000	-.466	.294
		赤	-.306	.158	.161	-.686	.074
バルコニー	ベージュ	赤	.306	.158	.162	-.074	.685
		青	.691*	.158	.000	.312	1.070
	赤	ベージュ	-.306	.158	.162	-.685	.074
		青	.385*	.158	.045	.006	.764
	青	ベージュ	-.691*	.158	.000	-1.070	-.312
		赤	-.385*	.158	.045	-.764	-.006

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. 色相 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.375	.158	.054	-.005	.754
		バルコニー	.545*	.158	.002	.166	.924
	屋根	外壁	-.375	.158	.054	-.754	.005
		バルコニー	.170	.158	.850	-.210	.550
	バルコニー	外壁	-.545*	.158	.002	-.924	-.166
		屋根	-.170	.158	.850	-.550	.210
赤	外壁	屋根	-.607*	.158	.000	-.986	-.228
		バルコニー	.089	.158	1.000	-.290	.469
	屋根	外壁	.607*	.158	.000	.228	.986
		バルコニー	.696*	.158	.000	.316	1.075
	バルコニー	外壁	-.089	.158	1.000	-.469	.290
		屋根	-.696*	.158	.000	-1.075	-.316
青	外壁	屋根	-.913*	.159	.000	-1.293	-.533
		バルコニー	-.138	.158	1.000	-.517	.241
	屋根	外壁	.913*	.159	.000	.533	1.293
		バルコニー	.775*	.158	.000	.395	1.154
	バルコニー	外壁	.138	.158	1.000	-.241	.517
		屋根	-.775*	.158	.000	-1.154	-.395

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

6. トーン * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.142	.158	1.000	-.237	.522
		低い	-.124	.158	1.000	-.502	.255
	高い	同じ	-.142	.158	1.000	-.522	.237
		低い	-.266	.158	.280	-.645	.114
	低い	同じ	.124	.158	1.000	-.255	.502
		高い	.266	.158	.280	-.114	.645
屋根	同じ	高い	-.068	.158	1.000	-.447	.311
		低い	.484*	.159	.007	.104	.864
	高い	同じ	.068	.158	1.000	-.311	.447
		低い	.552*	.158	.002	.172	.932
	低い	同じ	-.484*	.159	.007	-.864	-.104
		高い	-.552*	.158	.002	-.932	-.172
バルコニー	同じ	高い	.620*	.158	.000	.241	1.000
		低い	.450*	.158	.014	.070	.829
	高い	同じ	-.620*	.158	.000	-1.000	-.241
		低い	-.171	.158	.843	-.550	.209
	低い	同じ	-.450*	.158	.014	-.829	-.070
		高い	-.171	.158	.843	-.209	.550

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

7. トーン * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.514*	.158	.004	-.893	-.135
		バルコニー	-.185	.158	.727	-.564	.194
	屋根	外壁	.514*	.158	.004	.135	.893
		バルコニー	.329	.158	.114	-.051	.709
	バルコニー	外壁	.185	.158	.727	-.194	.564
		屋根	-.329	.158	.114	-.709	.051
高い	外壁	屋根	-.724*	.158	.000	-1.104	-.345
		バルコニー	.293	.158	.194	-.087	.672
	屋根	外壁	.724*	.158	.000	.345	1.104
		バルコニー	1.017*	.158	.000	.638	1.396
	バルコニー	外壁	-.293	.158	.194	-.672	.087
		屋根	-1.017*	.158	.000	-1.396	-.638
低い	外壁	屋根	.093	.158	1.000	-.286	.473
		バルコニー	.388*	.158	.043	.009	.767
	屋根	外壁	-.093	.158	1.000	-.473	.286
		バルコニー	.295	.158	.189	-.085	.674
	バルコニー	外壁	-.388*	.158	.043	-.767	-.009
		屋根	-.295	.158	.189	-.674	.085

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

8. 規則性 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

部位	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	なし	あり	-.230	.149	.122	-.521	.062
	あり	なし	.230	.149	.122	-.062	.521
屋根	なし	あり	.442*	.149	.003	.151	.734
	あり	なし	-.442*	.149	.003	-.734	-.151
バルコニー	なし	あり	.019	.149	.896	-.272	.311
	あり	なし	-.019	.149	.896	-.311	.272

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

9. 規則性 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

規則性	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	外壁	屋根	-.718*	.109	.000	-.978	-.457
		バルコニー	.041	.109	1.000	-.219	.301
	屋根	外壁	.718*	.109	.000	.457	.978
		バルコニー	.758*	.109	.000	.498	1.019
	バルコニー	外壁	-.041	.109	1.000	-.301	.219
		屋根	-.758*	.109	.000	-1.019	-.498
あり	外壁	屋根	-.046	.172	1.000	-.457	.366
		バルコニー	.290	.172	.275	-.122	.701
	屋根	外壁	.046	.172	1.000	-.366	.457
		バルコニー	.335	.172	.153	-.076	.747
	バルコニー	外壁	-.290	.172	.275	-.701	.122
		屋根	-.335	.172	.153	-.747	.076

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

10. トーン * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	同じ	高い	.016	.158	1.000	-.363	.395
		低い	-.115	.158	1.000	-.495	.264
	高い	同じ	-.016	.158	1.000	-.395	.363
		低い	-.132	.158	1.000	-.511	.248
	低い	同じ	.115	.158	1.000	-.264	.495
		高い	.132	.158	1.000	-.248	.511
赤	同じ	高い	.528*	.158	.003	.149	.907
		低い	.513*	.158	.004	.134	.892
	高い	同じ	-.528*	.158	.003	-.907	-.149
		低い	-.015	.158	1.000	-.394	.364
	低い	同じ	-.513*	.158	.004	-.892	-.134
		高い	.015	.158	1.000	-.364	.394
青	同じ	高い	.150	.159	1.000	-.230	.530
		低い	.412*	.158	.028	.033	.792
	高い	同じ	-.150	.159	1.000	-.530	.230
		低い	.262	.158	.294	-.117	.642
	低い	同じ	-.412*	.158	.028	-.792	-.033
		高い	-.262	.158	.294	-.642	.117

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

11. トーン * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	-.098	.158	1.000	-.477	.282
		青	.496*	.158	.005	.117	.876
	赤	ベージュ	.098	.158	1.000	-.282	.477
		青	.594*	.158	.001	.214	.974
	青	ベージュ	-.496*	.158	.005	-.876	-.117
		赤	-.594*	.158	.001	-.974	-.214
高い	ベージュ	赤	.414*	.158	.027	.035	.793
		青	.630*	.158	.000	.250	1.010
	赤	ベージュ	-.414*	.158	.027	-.793	-.035
		青	.216	.158	.518	-.164	.596
	青	ベージュ	-.630*	.158	.000	-1.010	-.250
		赤	-.216	.158	.518	-.596	.164
低い	ベージュ	赤	.531*	.158	.002	.151	.910
		青	1.024*	.158	.000	.644	1.403
	赤	ベージュ	-.531*	.158	.002	-.910	-.151
		青	.493*	.158	.006	.114	.872
	青	ベージュ	-1.024*	.158	.000	-1.403	-.644
		赤	-.493*	.158	.006	-.872	-.114

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

12. 規則性 * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	なし	あり	-.188	.149	.207	-.480	.104
		あり	.188	.149	.207	-.104	.480
赤	なし	あり	-.186	.149	.211	-.478	.105
		あり	.186	.149	.211	-.105	.478
青	なし	あり	.606*	.149	.000	.314	.898
		あり	-.606*	.149	.000	-.898	-.314

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

13. 規則性 * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	ベージュ	赤	.281*	.109	.029	.021	.542
		青	.320*	.109	.010	.059	.580
	赤	ベージュ	-.281*	.109	.029	-.542	-.021
		青	.038	.109	1.000	-.222	.299
	青	ベージュ	-.320*	.109	.010	-.580	-.059
		赤	-.038	.109	1.000	-.299	.222
あり	ベージュ	赤	.283	.172	.298	-.128	.695
		青	1.114*	.172	.000	.702	1.525
	赤	ベージュ	-.283	.172	.298	-.695	.128
		青	.830*	.172	.000	.419	1.242
	青	ベージュ	-1.114*	.172	.000	-1.525	-.702
		赤	-.830*	.172	.000	-1.242	-.419

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析「生活感のある」

1. 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 生活感のある

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.397*	.086	.000	-.603	-.191
	バルコニー	.018	.086	1.000	-.188	.224
屋根	外壁	.397*	.086	.000	.191	.603
	バルコニー	.415*	.086	.000	.209	.622
バルコニー	外壁	-.018	.086	1.000	-.224	.188
	屋根	-.415*	.086	.000	-.622	-.209

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 生活感のある

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	.423*	.086	.000	.217	.629
	青	.603*	.086	.000	.397	.810
赤	ベージュ	-.423*	.086	.000	-.629	-.217
	青	.180	.086	.108	-.026	.386
青	ベージュ	-.603*	.086	.000	-.810	-.397
	赤	-.180	.086	.108	-.386	.026

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. 色相 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 生活感のある

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	.807*	.158	.000	.427	1.186
		青	1.260*	.159	.000	.880	1.640
	赤	ベージュ	-.807*	.158	.000	-1.186	-.427
		青	.454*	.159	.013	.073	.834
	青	ベージュ	-1.260*	.159	.000	-1.640	-.880
		赤	-.454*	.159	.013	-.834	-.073
屋根	ベージュ	赤	.051	.159	1.000	-.329	.431
		青	-.012	.159	1.000	-.392	.369
	赤	ベージュ	-.051	.159	1.000	-.431	.329
		青	-.063	.159	1.000	-.443	.318
	青	ベージュ	.012	.159	1.000	-.369	.392
		赤	.063	.159	1.000	-.318	.443
バルコニー	ベージュ	赤	.411*	.159	.029	.031	.791
		青	.561*	.158	.001	.182	.941
	赤	ベージュ	-.411*	.159	.029	-.791	-.031
		青	.150	.159	1.000	-.230	.530
	青	ベージュ	-.561*	.158	.001	-.941	-.182
		赤	-.150	.159	1.000	-.530	.230

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. 色相 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 生活感のある

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.279	.159	.237	-.101	.659
		バルコニー	.383*	.158	.047	.003	.763
	屋根	外壁	-.279	.159	.237	-.659	.101
		バルコニー	.104	.159	1.000	-.276	.485
	バルコニー	外壁	-.383*	.158	.047	-.763	-.003
		屋根	-.104	.159	1.000	-.485	.276
赤	外壁	屋根	-.477*	.158	.008	-.856	-.097
		バルコニー	-.012	.159	1.000	-.392	.367
	屋根	外壁	.477*	.158	.008	.097	.856
		バルコニー	.464*	.159	.010	.084	.844
	バルコニー	外壁	.012	.159	1.000	-.367	.392
		屋根	-.464*	.159	.010	-.844	-.084
青	外壁	屋根	-.993*	.159	.000	-1.374	-.612
		バルコニー	-.316	.159	.140	-.696	.064
	屋根	外壁	.993*	.159	.000	.612	1.374
		バルコニー	.677*	.159	.000	.297	1.057
	バルコニー	外壁	.316	.159	.140	-.064	.696
		屋根	-.677*	.159	.000	-1.057	-.297

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. トーン * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 生活感のある

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.100	.159	1.000	-.280	.480
		低い	-.109	.158	1.000	-.489	.270
	高い	同じ	-.100	.159	1.000	-.480	.280
		低い	-.209	.159	.563	-.589	.171
	低い	同じ	.109	.158	1.000	-.270	.489
		高い	.209	.159	.563	-.171	.589
屋根	同じ	高い	-.202	.159	.608	-.582	.178
		低い	.299	.159	.180	-.082	.680
	高い	同じ	.202	.159	.608	-.178	.582
		低い	.501*	.159	.005	.121	.881
	低い	同じ	-.299	.159	.180	-.680	.082
		高い	-.501*	.159	.005	-.881	-.121
バルコニー	同じ	高い	.535*	.159	.002	.155	.915
		低い	.149	.159	1.000	-.231	.530
	高い	同じ	-.535*	.159	.002	-.915	-.155
		低い	-.386*	.158	.045	-.765	-.006
	低い	同じ	-.149	.159	1.000	-.530	.231
		高い	.386*	.158	.045	.006	.765

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

6. トーン * 部位

へアごとの比較

従属変数: 生活感のある

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.432*	.159	.019	-.812	-.052
		バルコニー	-.213	.159	.539	-.593	.167
	屋根	外壁	.432*	.159	.019	.052	.812
		バルコニー	.219	.159	.501	-.161	.600
	バルコニー	外壁	.213	.159	.539	-.167	.593
		屋根	-.219	.159	.501	-.600	.161
高い	外壁	屋根	-.734*	.159	.000	-1.115	-.354
		バルコニー	.222	.159	.484	-.158	.602
	屋根	外壁	.734*	.159	.000	.354	1.115
		バルコニー	.957*	.158	.000	.577	1.336
	バルコニー	外壁	-.222	.159	.484	-.602	.158
		屋根	-.957*	.158	.000	-1.336	-.577
低い	外壁	屋根	-.024	.159	1.000	-.404	.356
		バルコニー	.046	.158	1.000	-.334	.425
	屋根	外壁	.024	.159	1.000	-.356	.404
		バルコニー	.070	.159	1.000	-.310	.450
	バルコニー	外壁	-.046	.158	1.000	-.425	.334
		屋根	-.070	.159	1.000	-.450	.310

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析「美しい」

1. 部位

へアごとの比較

従属変数: 美しい

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.480*	.079	.000	-.671	-.290
	バルコニー	.086	.079	.838	-.105	.276
屋根	外壁	.480*	.079	.000	.290	.671
	バルコニー	.566*	.080	.000	.375	.757
バルコニー	外壁	-.086	.079	.838	-.276	.105
	屋根	-.566*	.080	.000	-.757	-.375

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. 色相

へアごとの比較

従属変数: 美しい

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	.510*	.079	.000	.320	.701
	青	.722*	.080	.000	.531	.912
赤	ベージュ	-.510*	.079	.000	-.701	-.320
	青	.212*	.079	.024	.021	.402
青	ベージュ	-.722*	.080	.000	-.912	-.531
	赤	-.212*	.079	.024	-.402	-.021

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. トーン

へアごとの比較

従属変数: 美しい

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	.152	.079	.168	-.039	.343
	低い	.274*	.079	.002	.084	.465
高い	同じ	-.152	.079	.168	-.343	.039
	低い	.122	.080	.375	-.069	.313
低い	同じ	-.274*	.079	.002	-.465	-.084
	高い	-.122	.080	.375	-.313	.069

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 美しい

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	-.766*	.146	.000	.415	1.117
		青	1.304*	.147	.000	.953	1.656
	赤	ベージュ	-.766*	.146	.000	-1.117	-.415
		青	.538*	.147	.001	.186	.889
	青	ベージュ	-1.304*	.147	.000	-1.656	-.953
		赤	-.538*	.147	.001	-.889	-.186
屋根	ベージュ	赤	.245	.147	.287	-.107	.596
		青	.344	.147	.058	-.008	.696
	赤	ベージュ	-.245	.147	.287	-.596	.107
		青	.099	.147	1.000	-.252	.451
	青	ベージュ	-.344	.147	.058	-.696	.008
		赤	-.099	.147	1.000	-.451	.252
バルコニー	ベージュ	赤	.520*	.147	.001	.168	.871
		青	.517*	.146	.001	.166	.868
	赤	ベージュ	-.520*	.147	.001	-.871	-.168
		青	-.002	.147	1.000	-.354	.349
	青	ベージュ	-.517*	.146	.001	-.868	-.166
		赤	.002	.147	1.000	-.349	.354

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 美しい

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.014	.147	1.000	-.337	.365
		バルコニー	.430*	.146	.010	.079	.782
	屋根	外壁	-.014	.147	1.000	-.365	.337
		バルコニー	.417*	.147	.014	.065	.768
	バルコニー	外壁	-.430*	.146	.010	-.782	-.079
		屋根	-.417*	.147	.014	-.768	-.065
赤	外壁	屋根	-.508*	.146	.002	-.859	-.157
		バルコニー	.184	.147	.630	-.167	.535
	屋根	外壁	.508*	.146	.002	.157	.859
		バルコニー	.692*	.147	.000	.340	1.043
	バルコニー	外壁	-.184	.147	.630	-.535	.167
		屋根	-.692*	.147	.000	-1.043	-.340
青	外壁	屋根	-.947*	.147	.000	-1.299	-.594
		バルコニー	-.356*	.147	.046	-.708	-.005
	屋根	外壁	.947*	.147	.000	.594	1.299
		バルコニー	.590*	.147	.000	.239	.942
	バルコニー	外壁	.356*	.147	.046	.005	.708
		屋根	-.590*	.147	.000	-.942	-.239

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析「癒される」

1. 部位

へアごとの比較

従属変数: 癒される

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.384*	.079	.000	-.573	-.195
	バルコニー	.096	.079	.672	-.093	.285
屋根	外壁	.384*	.079	.000	.195	.573
	バルコニー	.480*	.079	.000	.291	.669
バルコニー	外壁	-.096	.079	.672	-.285	.093
	屋根	-.480*	.079	.000	-.669	-.291

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. 色相

へアごとの比較

従属変数: 癒される

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	.476*	.079	.000	.287	.666
	青	.666*	.079	.000	.477	.856
赤	ベージュ	-.476*	.079	.000	-.666	-.287
	青	.190*	.079	.049	.001	.379
青	ベージュ	-.666*	.079	.000	-.856	-.477
	赤	-.190*	.079	.049	-.379	-.001

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

3. トーン

へアごとの比較

従属変数: 癒される

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	.257*	.079	.003	.068	.447
	低い	.285*	.079	.001	.096	.474
高い	同じ	-.257*	.079	.003	-.447	-.068
	低い	.027	.079	1.000	-.162	.217
低い	同じ	-.285*	.079	.001	-.474	-.096
	高い	-.027	.079	1.000	-.217	.162

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

4. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 癒される

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	1.011*	.145	.000	.663	1.360
		青	1.392*	.146	.000	1.043	1.741
	赤	ベージュ	-1.011*	.145	.000	-1.360	-.663
		青	.380*	.146	.027	.032	.729
	青	ベージュ	-1.392*	.146	.000	-1.741	-1.043
		赤	-.380*	.146	.027	-.729	-.032
屋根	ベージュ	赤	-.012	.145	1.000	-.361	.337
		青	.049	.146	1.000	-.300	.398
	赤	ベージュ	.012	.145	1.000	-.337	.361
		青	.061	.146	1.000	-.288	.410
	青	ベージュ	-.049	.146	1.000	-.398	.300
		赤	-.061	.146	1.000	-.410	.288
バルコニー	ベージュ	赤	.430*	.146	.010	.081	.779
		青	.558*	.145	.000	.209	.906
	赤	ベージュ	-.430*	.146	.010	-.779	-.081
		青	.128	.145	1.000	-.221	.477
	青	ベージュ	-.558*	.145	.000	-.906	-.209
		赤	-.128	.145	1.000	-.477	.221

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

5. 色相 * 部位

へアごとの比較

従属変数: 癒される

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.405*	.145	.016	.056	.754
		バルコニー	.568*	.145	.000	.219	.916
	屋根	外壁	-.405*	.145	.016	-.754	-.056
		バルコニー	.163	.146	.791	-.186	.512
	バルコニー	外壁	-.568*	.145	.000	-.916	-.219
		屋根	-.163	.146	.791	-.512	.186
赤	外壁	屋根	-.619*	.145	.000	-.967	-.270
		バルコニー	-.014	.145	1.000	-.362	.335
	屋根	外壁	.619*	.145	.000	.270	.967
		バルコニー	.605*	.146	.000	.256	.954
	バルコニー	外壁	.014	.145	1.000	-.335	.362
		屋根	-.605*	.146	.000	-.954	-.256
青	外壁	屋根	-.938*	.146	.000	-1.287	-.588
		バルコニー	-.266	.145	.202	-.615	.083
	屋根	外壁	.938*	.146	.000	.588	1.287
		バルコニー	.672*	.146	.000	.323	1.021
	バルコニー	外壁	.266	.145	.202	-.083	.615
		屋根	-.672*	.146	.000	-1.021	-.323

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

6. トーン * 部位

へアごとの比較

従属変数: 癒される

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.189	.145	.580	-.159	.538
		低い	-.072	.145	1.000	-.421	.276
	高い	同じ	-.189	.145	.580	-.538	.159
		低い	-.262	.146	.218	-.610	.087
	低い	同じ	.072	.145	1.000	-.276	.421
		高い	.262	.146	.218	-.087	.610
屋根	同じ	高い	-.136	.146	1.000	-.485	.213
		低い	.516*	.146	.001	.167	.865
	高い	同じ	.136	.146	1.000	-.213	.485
		低い	.652*	.146	.000	.303	1.001
	低い	同じ	-.516*	.146	.001	-.865	-.167
		高い	-.652*	.146	.000	-1.001	-.303
バルコニー	同じ	高い	.719*	.146	.000	.370	1.068
		低い	.411*	.146	.014	.062	.760
	高い	同じ	-.719*	.146	.000	-1.068	-.370
		低い	-.308	.145	.103	-.656	.041
	低い	同じ	-.411*	.146	.014	-.760	-.062
		高い	.308	.145	.103	-.041	.656

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

7. トーン * 部位

へアごとの比較

従属変数: 癒される

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.472*	.145	.004	-.820	-.123
		バルコニー	-.242	.145	.290	-.590	.107
	屋根	外壁	.472*	.145	.004	.123	.820
		バルコニー	.230	.146	.344	-.119	.579
	バルコニー	外壁	.242	.145	.290	-.107	.590
		屋根	-.230	.146	.344	-.579	.119
高い	外壁	屋根	-.797*	.146	.000	-1.146	-.448
		バルコニー	.288	.146	.144	-.061	.637
	屋根	外壁	.797*	.146	.000	.448	1.146
		バルコニー	1.085*	.145	.000	.736	1.433
	バルコニー	外壁	-.288	.146	.144	-.637	.061
		屋根	-1.085*	.145	.000	-1.433	-.736
低い	外壁	屋根	.117	.146	1.000	-.232	.466
		バルコニー	.242	.145	.290	-.107	.590
	屋根	外壁	-.117	.146	1.000	-.466	.232
		バルコニー	.125	.146	1.000	-.224	.474
	バルコニー	外壁	-.242	.145	.290	-.590	.107
		屋根	-.125	.146	1.000	-.474	.224

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

8. 規則性 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

部位	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	なし	あり	-.223	.137	.102	-.491	.044
	あり	なし	.223	.137	.102	-.044	.491
屋根	なし	あり	-.383*	.137	.005	-.114	.651
	あり	なし	.383*	.137	.005	-.651	-.114
バルコニー	なし	あり	-.001	.137	.994	-.269	.267
	あり	なし	.001	.137	.994	-.267	.269

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

9. 規則性 * 部位

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

規則性	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	外壁	屋根	-.687*	.100	.000	-.926	-.447
		バルコニー	-.015	.100	1.000	-.254	.224
	屋根	外壁	.687*	.100	.000	.447	.926
		バルコニー	.672*	.100	.000	.432	.911
	バルコニー	外壁	.015	.100	1.000	-.224	.254
		屋根	-.672*	.100	.000	-.911	-.432
あり	外壁	屋根	-.081	.158	1.000	-.459	.297
		バルコニー	.207	.158	.569	-.171	.585
	屋根	外壁	.081	.158	1.000	-.297	.459
		バルコニー	.288	.158	.205	-.091	.667
	バルコニー	外壁	-.207	.158	.569	-.585	.171
		屋根	-.288	.158	.205	-.667	.091

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

10. トーン * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	同じ	高い	.152	.145	.886	-.196	.500
		低い	-.082	.146	1.000	-.431	.267
	高い	同じ	-.152	.145	.886	-.500	.196
		低い	-.234	.146	.327	-.583	.115
	低い	同じ	.082	.146	1.000	-.267	.431
		高い	.234	.146	.327	-.115	.583
赤	同じ	高い	.517*	.145	.001	.168	.865
		低い	.554*	.146	.000	.205	.902
	高い	同じ	-.517*	.145	.001	-.865	-.168
		低い	.037	.145	1.000	-.311	.385
	低い	同じ	-.554*	.146	.000	-.902	-.205
		高い	-.037	.145	1.000	-.385	.311
青	同じ	高い	.104	.146	1.000	-.246	.453
		低い	.383*	.145	.026	.034	.732
	高い	同じ	-.104	.146	1.000	-.453	.246
		低い	.279	.146	.166	-.070	.628
	低い	同じ	-.383*	.145	.026	-.732	-.034
		高い	-.279	.146	.166	-.628	.070

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

11. トーン * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	.143	.145	.975	-.206	.492
		青	.528*	.145	.001	.179	.876
	赤	ベージュ	-.143	.145	.975	-.492	.206
		青	.384*	.146	.025	.035	.734
	青	ベージュ	-.528*	.145	.001	-.876	-.179
		赤	-.384*	.146	.025	-.734	-.035
高い	ベージュ	赤	.508*	.145	.001	.160	.856
		青	.479*	.146	.003	.130	.828
	赤	ベージュ	-.508*	.145	.001	-.856	-.160
		青	-.029	.146	1.000	-.378	.320
	青	ベージュ	-.479*	.146	.003	-.828	-.130
		赤	.029	.146	1.000	-.320	.378
低い	ベージュ	赤	.778*	.146	.000	.429	1.127
		青	.992*	.146	.000	.643	1.341
	赤	ベージュ	-.778*	.146	.000	-.127	-.429
		青	.214	.145	.424	-.134	.562
	青	ベージュ	-.992*	.146	.000	-.134	-.643
		赤	-.214	.145	.424	-.562	.134

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

12. 規則性 * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	なし	あり	-.142	.137	.299	-.410	.126
	あり	なし	.142	.137	.299	-.126	.410
赤	なし	あり	-.219	.137	.109	-.487	.049
	あり	なし	.219	.137	.109	-.049	.487
青	なし	あり	.519*	.137	.000	.250	.787
	あり	なし	-.519*	.137	.000	-.787	-.250

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

13. 規則性 * 色相

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	ベージュ	赤	.515*	.100	.000	.276	.754
		青	.336*	.100	.002	.097	.575
	赤	ベージュ	-.515*	.100	.000	-.754	-.276
		青	-.179	.100	.220	-.418	.060
	青	ベージュ	-.336*	.100	.002	-.575	-.097
		赤	.179	.100	.220	-.060	.418
あり	ベージュ	赤	.438*	.158	.017	.060	.816
		青	.997*	.158	.000	.618	1.375
	赤	ベージュ	-.438*	.158	.017	-.816	-.060
		青	.559*	.158	.001	.180	.937
	青	ベージュ	-.997*	.158	.000	-.1375	-.618
		赤	-.559*	.158	.001	-.937	-.180

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

iv 男女別の分析結果

■T 検定—男女による差異

グループ統計量

	性別	N	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差
楽しい	男	804	3.2400	.98473	.03473
	女	567	2.9841	1.29067	.05420
生活感のある	男	804	3.3197	1.08013	.03809
	女	567	3.0494	1.39953	.05877
住みたい	男	804	3.0547	1.09998	.03879
	女	567	2.6067	1.40374	.05895
癒される	男	804	3.1256	1.00702	.03551
	女	567	2.8131	1.33992	.05627
好き	男	804	3.1679	1.11390	.03928
	女	567	2.8854	1.45943	.06129
違和感がない	男	804	3.2910	1.47029	.05185
	女	567	3.0917	1.55422	.06527
個性がある	男	804	3.2164	1.25777	.04436
	女	567	3.0406	1.48732	.06246
心地よい	男	804	3.1555	1.10223	.03887
	女	567	2.9718	1.38234	.05805
親しみのある	男	804	3.2127	1.10508	.03897
	女	567	2.9612	1.42736	.05994
美しい	男	804	3.2052	1.06404	.03753
	女	567	3.1552	1.31876	.05538

独立サンプルの検定

	分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定							
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	標準誤差	下限	上限	
楽しい	29.275	.000	4.162	1369	.000	.25592	.06150	.13528	.37656	
生活感のある	33.444	.000	4.032	1369	.000	.27027	.06703	.13877	.40177	
住みたい	65.441	.000	6.617	1369	.000	.44802	.06771	.31520	.58085	
癒される	69.020	.000	4.929	1369	.000	.31257	.06341	.18817	.43697	
好き	58.680	.000	4.063	1369	.000	.28255	.06955	.14611	.41898	
違和感がない	.739	.390	2.414	1369	.016	.19933	.08257	.03737	.36130	
個性がある	11.589	.001	2.362	1369	.018	.17585	.07444	.02983	.32188	
心地よい	15.008	.000	2.733	1369	.006	.18369	.06722	.05182	.31557	
親しみのある	36.742	.000	3.673	1369	.000	.25149	.06847	.11718	.38580	
美しい	22.169	.000	3.517	1369	.000	.25149	.07150	.11118	.39179	

■一変量の分散分析—男性「違和感がない」

被験者間因子

	値ラベル	N
部位	1.00 外壁	269
	2.00 屋根	267
	3.00 バルコニー	268
色相	1.00 ベージュ	268
	2.00 赤	269
	3.00 青	267
トーン	1.00 同じ	268
	2.00 高い	268
	3.00 低い	268
規則性	1.00 なし	536
	2.00 あり	268

被験者間効果の検定

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	639.459 ^a	25	25.578	18.150	.000
切片	7678.506	1	7678.506	5448.449	.000
部位	128.819	2	64.410	45.703	.000
色相	179.039	2	89.519	63.520	.000
トーン	50.919	2	25.459	18.065	.000
規則性	1.393	1	1.393	.988	.320
部位 * 色相	48.018	4	12.004	8.518	.000
部位 * トーン	42.733	4	10.683	7.580	.000
部位 * 規則性	27.647	2	13.823	9.809	.000
色相 * トーン	18.407	4	4.602	3.265	.011
色相 * 規則性	14.588	2	7.294	5.176	.006
トーン * 規則性	5.884	2	2.942	2.087	.125
誤差	1096.436	778	1.409		
総和	10444.000	804			
修正総和	1735.896	803			

a. R2乗 = .368 (調整済みR2乗 = .348)

1. 部位

推定値

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	3.231	.080	3.075	3.388
屋根	3.849	.080	3.692	4.006
バルコニー	2.754	.080	2.597	2.911

ペアごとの比較

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.618*	.115	.000	-.892	-.343
	バルコニー	-.477*	.115	.000	-.203	.752
屋根	外壁	.618*	.115	.000	.343	.892
	バルコニー	1.095*	.115	.000	.819	1.371
バルコニー	外壁	-.477*	.115	.000	-.752	-.203
	屋根	-1.095*	.115	.000	-1.371	-.819

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	128.819	2	64.410	45.703	.000
誤差	1096.436	778	1.409		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の部位の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.998	.080	3.841	4.154
赤	3.093	.080	2.937	3.249
青	2.744	.080	2.587	2.900

ペアごとの比較

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	-.905*	.115	.000	-.630	1.179
	青	1.254*	.115	.000	.978	1.529
赤	ベージュ	-.905*	.115	.000	-1.179	-.630
	青	.349*	.115	.007	.074	.624
青	ベージュ	-1.254*	.115	.000	-1.529	-.978
	赤	-.349*	.115	.007	-.624	-.074

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	179.039	2	89.519	63.520	.000
誤差	1096.436	778	1.409		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の色相の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. トーン

推定値

トーン	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
同じ	3.642	.080	3.486	3.799
高い	3.234	.080	3.077	3.390
低い	2.958	.080	2.801	3.115

ペアごとの比較

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	-.409*	.115	.001	-.134	.684
	低い	.684*	.115	.000	.409	.959
高い	同じ	-.409*	.115	.001	-.684	-.134
	低い	.276*	.115	.050	.000	.551
低い	同じ	-.684*	.115	.000	-.959	-.409
	高い	-.276*	.115	.050	-.551	.000

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	50.919	2	25.459	18.065	.000
誤差	1096.436	778	1.409		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーンの単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table with columns: トーン (I) 部位, (J) 部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows include 外壁, 屋根, バルコニー for 低い, 高い, 同じ.

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

Table with columns: トーン, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows for 同じ, 高い, 低い.

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

8. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 違和感がない

Table with columns: 規則性 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows for なし, あり.

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table with columns: 部位 (I) 規則性 (J) 規則性, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows for 外壁, 屋根, バルコニー.

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

Table with columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows for 外壁, 屋根, バルコニー.

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

9. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 違和感がない

Table with columns: 規則性 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows for なし, あり.

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table with columns: 規則性 (I) 部位 (J) 部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows for なし, あり.

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

Table with columns: 規則性, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows for なし, あり.

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

10. トーン * 色相

推定値

従属変数: 違和感がない

Table with columns: トーン 色相, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows for 同じ, 高い, 低い.

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table with columns: 色相 (I) トーン (J) トーン, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows for ベージュ, 赤, 青.

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

Table with columns: 色相, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows for ベージュ, 赤, 青.

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

11. トーン * 色相

推定値

従属変数: 違和感がない

Table with columns: トーン 色相, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows for 同じ, 高い, 低い.

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table with 9 columns: トーン, (I)色相, (J)色相, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows include comparisons like 'トーン 高い ベージュ 赤'.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

Table with 7 columns: トーン, 対比, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows include 'トーン 高い 対比' and 'トーン 低い 対比'.

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

12. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 違和感がない

Table with 6 columns: 規則性, 色相, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows include 'なし ベージュ 赤', 'あり ベージュ 赤'.

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table with 9 columns: 色相, (I)規則性, (J)規則性, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows include 'ベージュ あり なし', '赤 あり なし'.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

Table with 7 columns: 色相, 対比, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows include 'ベージュ 対比', '赤 対比', '青 対比'.

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

13. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 違和感がない

Table with 6 columns: 規則性, 色相, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows include 'なし ベージュ 赤', 'あり ベージュ 赤'.

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table with 9 columns: 規則性, (I)色相, (J)色相, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows include 'なし ベージュ 赤', 'あり ベージュ 赤'.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

Table with 7 columns: 規則性, 対比, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows include 'なし 対比', 'あり 対比'.

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

一変量の分散分析 女性「違和感がない」

被験者間因子

Table with 5 columns: 部位, 色相, 値レベル, N. Rows include '部位 1.00 外壁', '色相 1.00 ベージュ'.

被験者間効果の検定

従属変数: 違和感がない

Table with 7 columns: ソース, タイプ, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows include '修正モデル', '部位', '色相', '規則性'.

a. R2乗 = .275 (調整済みR2乗 = .241)

1. 部位

推定値

従属変数: 違和感がない

Table with 5 columns: 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows include '外壁', '屋根', 'バルコニー'.

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table with 9 columns: (I)部位, (J)部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限). Rows include '外壁 屋根', 'バルコニー 外壁'.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2. トーン

推定値

トーン	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
同じ	2.766	.099	2.571	2.961
高い	2.956	.099	2.761	3.152
低い	3.171	.099	2.975	3.366

ペアごとの比較

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
					下限	上限
同じ	高い	-.190	.143	.550	-.534	.153
	低い	-.405*	.143	.014	-.748	-.061
高い	同じ	.190	.143	.550	-.153	.534
	低い	-.214	.143	.403	-.558	.129
低い	同じ	.405*	.143	.014	.061	.748
	高い	-.214	.143	.403	-.558	.129

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 楽しい	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	12.400	2	6.200	4.013	.019
誤差	835.738	541	1.545		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーンの単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. トーン * 色相

推定値

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ページ	2.062	.182	1.705	2.419
	赤	3.483	.182	3.126	3.840
	青	2.753	.182	2.396	3.110
高い	ページ	2.840	.182	2.483	3.197
	赤	3.292	.182	2.935	3.649
	青	2.737	.182	2.380	3.094
低い	ページ	3.181	.182	2.824	3.538
	赤	3.332	.182	2.975	3.689
	青	2.999	.182	2.642	3.356

ペアごとの比較

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
ページ	同じ	高い	-.778*	.264	.010	-1.411	-.145
		低い	-1.119*	.264	.000	-1.752	-.486
	高い	同じ	.778*	.264	.010	.145	1.411
		低い	-.341	.264	.588	-.974	.292
	低い	同じ	1.119*	.264	.000	.486	1.752
		高い	.341	.264	.588	-.292	.974
赤	同じ	高い	.190	.264	1.000	-.443	.823
		低い	.151	.264	1.000	-.482	.784
	高い	同じ	-.190	.264	1.000	-.823	.443
		低い	-.040	.264	1.000	-.673	.593
	低い	同じ	-.151	.264	1.000	-.784	.482
		高い	.040	.264	1.000	-.593	.673
青	同じ	高い	.016	.264	1.000	-.617	.649
		低い	-.246	.264	1.000	-.879	.387
	高い	同じ	-.016	.264	1.000	-.649	.617
		低い	-.262	.264	.963	-.895	.371
	低い	同じ	.246	.264	1.000	-.387	.879
		高い	.262	.264	.963	-.371	.895

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 楽しい	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページ	29.257	2	14.628	9.469	.000
赤	.898	2	.449	.291	.748
青	1.918	2	.959	.621	.538
誤差	835.738	541	1.545		

F値はトーンの変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

4. トーン * 色相

推定値

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ページ	2.062	.182	1.705	2.419
	赤	3.483	.182	3.126	3.840
	青	2.753	.182	2.396	3.110
高い	ページ	2.840	.182	2.483	3.197
	赤	3.292	.182	2.935	3.649
	青	2.737	.182	2.380	3.094
低い	ページ	3.181	.182	2.824	3.538
	赤	3.332	.182	2.975	3.689
	青	2.999	.182	2.642	3.356

ペアごとの比較

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
同じ	ページ	赤	-1.421*	.264	.000	-2.054	-.788
		青	-.690*	.264	.027	-1.323	-.057
	赤	ページ	1.421*	.264	.000	.788	2.054
		青	.730*	.264	.017	.097	1.363
	青	ページ	.690*	.264	.027	.057	1.323
		赤	-.730*	.264	.017	-1.363	-.097
高い	ページ	赤	-.452	.264	.260	-1.085	.181
		青	.103	.264	1.000	-.530	.736
	赤	ページ	.452	.264	.260	-.181	1.085
		青	.556	.264	.107	-.077	1.189
	青	ページ	-.103	.264	1.000	-.736	.530
		赤	-.556	.264	.107	-1.189	.077
低い	ページ	赤	-.151	.264	1.000	-.784	.482
		青	.183	.264	1.000	-.450	.816
	赤	ページ	.151	.264	1.000	-.482	.784
		青	.333	.264	.620	-.300	.966
	青	ページ	-.183	.264	1.000	-.816	.450
		赤	-.333	.264	.620	-.966	.300

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 楽しい	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	
トーン	44.887	2	22.444	14.528	.000	
同じ	誤差	835.738	541	1.545		
高い	対比	7.767	2	3.883	2.514	.082
	誤差	835.738	541	1.545		
低い	対比	2.478	2	1.239	.802	.449
	誤差	835.738	541	1.545		

F値は色相の変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 男性「個性がある」

被験者間因子			
	値ラベル		N
部位	1.00	外壁	269
	2.00	屋根	267
	3.00	バルコニー	268
色相	1.00	ページ	268
	2.00	赤	269
	3.00	青	267
トーン	1.00	同じ	268
	2.00	高い	268
	3.00	低い	268
規則性	1.00	なし	536
	2.00	あり	268

ヘアごとの比較

従属変数: 個性がある

Table with 7 columns: トーン, (I) 部位, (J) 部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

Table with 6 columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

7. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 個性がある

Table with 6 columns: 規則性, 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ヘアごとの比較

従属変数: 個性がある

Table with 8 columns: 規則性, (I) 部位, (J) 部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

Table with 6 columns: 規則性, 対比, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

8. トーン * 色相

推定値

従属変数: 個性がある

Table with 6 columns: トーン, 色相, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ヘアごとの比較

従属変数: 個性がある

Table with 8 columns: 色相, (I) トーン, (J) トーン, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

Table with 6 columns: 色相, 対比, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

9. トーン * 色相

推定値

従属変数: 個性がある

Table with 6 columns: トーン, 色相, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

6. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 個性がある

Table with 6 columns: 規則性, 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ヘアごとの比較

従属変数: 個性がある

Table with 7 columns: 部位, (I) 規則性, (J) 規則性, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for personality with columns for comparison, sum of squares, degrees of freedom, mean square, F value, and significance level.

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の部位の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

2 色相

推定値

従属変数: 個性がある

Table of estimated values for personality by color phase, including mean, standard error, and 95% confidence interval.

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

Pairwise comparison table for personality by color phase, showing mean differences, standard errors, and significance levels.

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for personality by color phase.

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の色相の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. トーン

推定値

従属変数: 個性がある

Table of estimated values for personality by tone, including mean, standard error, and 95% confidence interval.

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

Pairwise comparison table for personality by tone, showing mean differences, standard errors, and significance levels.

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for personality by tone.

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーンの単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

4. トーン * 規則性

推定値

従属変数: 個性がある

Table of estimated values for personality by tone and regularity, including mean, standard error, and 95% confidence interval.

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

Pairwise comparison table for personality by tone and regularity, showing mean differences, standard errors, and significance levels.

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for personality by tone and regularity.

F値はトーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 規則性

推定値

従属変数: 個性がある

Table of estimated values for personality by tone and regularity, including mean, standard error, and 95% confidence interval.

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

Pairwise comparison table for personality by tone and regularity, showing mean differences, standard errors, and significance levels.

推定周辺平均に基づいた

- * 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for personality by tone and regularity.

F値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 男性「好き」

被験者間因子

Table showing between-subject factors for male 'likes', including location, color phase, and tone.

被験者間効果の検定

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	167.847 ^a	25	6.714	6.305	.000
切片	7087.417	1	7087.417	6655.534	.000
部位	25.521	2	12.760	11.983	.000
色相	34.465	2	17.232	16.182	.000
トーン	6.158	2	3.079	2.891	.056
規則性	2.423	1	2.423	2.276	.132
部位 * 色相	32.332	4	8.083	7.591	.000
部位 * トーン	13.967	4	3.492	3.279	.011
部位 * 規則性	10.842	2	5.421	5.091	.006
色相 * トーン	5.434	4	1.359	1.276	.278
色相 * 規則性	17.970	2	8.985	8.437	.000
トーン * 規則性	.518	2	.259	.243	.784
誤差	828.485	778	1.065		
総和	9065.000	804			
修正総和	996.332	803			

a. R2乗 = .168 (調整済みR2乗 = .142)

1. 部位

推定値

従属変数: 好き

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	3.105	.069	2.969	3.240
屋根	3.413	.069	3.277	3.549
バルコニー	2.931	.069	2.794	3.067

へアごとの比較

従属変数: 好き

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.308*	.100	.006	-.547	-.069
	バルコニー	.174	.100	.242	-.065	.413
屋根	外壁	.308*	.100	.006	.069	.547
	バルコニー	.483*	.100	.000	.243	.722
バルコニー	外壁	-.174	.100	.242	-.413	.065
	屋根	-.483*	.100	.000	-.722	-.243

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	25.521	2	12.760	11.983	.000
誤差	828.485	778	1.065		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 好き

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	3.450	.069	3.314	3.586
赤	3.113	.069	2.978	3.249
青	2.885	.069	2.749	3.022

へアごとの比較

従属変数: 好き

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ページュ	赤	-.337*	.100	.002	-.098	.575
	青	.564*	.100	.000	.325	.804
赤	ページュ	-.337*	.100	.002	-.575	-.098
	青	.228	.100	.067	-.011	.467
青	ページュ	-.564*	.100	.000	-.804	-.325
	赤	-.228	.100	.067	-.467	.011

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	34.465	2	17.232	16.182	.000
誤差	828.485	778	1.065		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 好き

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ページュ	外壁	3.792	.126	3.544	4.040
	屋根	3.324	.127	3.075	3.574
	バルコニー	3.233	.127	2.984	3.482
赤	外壁	2.963	.126	2.715	3.211
	屋根	3.484	.126	3.236	3.732
	バルコニー	2.893	.127	2.644	3.142
青	外壁	2.559	.127	2.310	2.809
	屋根	3.431	.127	3.181	3.681
	バルコニー	2.666	.126	2.418	2.914

へアごとの比較

従属変数: 好き

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ページュ	赤	.829*	.183	.000	.390	1.269
		青	1.233*	.184	.000	.792	1.674
	赤	ページュ	-.829*	.183	.000	-1.269	-.390
		青	.404	.184	.085	-.037	.845
	青	ページュ	-1.233*	.184	.000	-1.674	-.792
		赤	-.404	.184	.085	-.845	.037
屋根	ページュ	赤	-.159	.184	1.000	-.600	.281
		青	-.106	.184	1.000	-.548	.336
	赤	ページュ	.159	.184	1.000	-.281	.600
		青	.053	.184	1.000	-.388	.494
	青	ページュ	.106	.184	1.000	-.336	.548
		赤	-.053	.184	1.000	-.494	.388
バルコニー	ページュ	赤	.340	.184	.196	-.102	.781
		青	.567*	.183	.006	.127	1.007
	赤	ページュ	-.340	.184	.196	-.781	.102
		青	.227	.184	.651	-.214	.668
	青	ページュ	-.567*	.183	.006	-1.007	-.127
		赤	-.227	.184	.651	-.668	.214

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

部位		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	49.844	2	24.922	23.403	.000
	誤差	828.485	778	1.065		
屋根	対比	.830	2	.415	.390	.677
	誤差	828.485	778	1.065		
バルコニー	対比	10.295	2	5.147	4.834	.008
	誤差	828.485	778	1.065		

F値は色相の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 好き

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ページュ	外壁	3.792	.126	3.544	4.040
	屋根	3.324	.127	3.075	3.574
	バルコニー	3.233	.127	2.984	3.482
赤	外壁	2.963	.126	2.715	3.211
	屋根	3.484	.126	3.236	3.732
	バルコニー	2.893	.127	2.644	3.142
青	外壁	2.559	.127	2.310	2.809
	屋根	3.431	.127	3.181	3.681
	バルコニー	2.666	.126	2.418	2.914

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

Table with 7 columns: 色相, (I)部位, (J)部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows include ベージュ, 赤, 青 color groups and 外壁, 屋根, バルコニー parts.

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

Table with 6 columns: 色相, 対比/誤差, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率. Rows for ベージュ, 赤, 青.

F値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 部位

推定値

従属変数: 好き

Table with 6 columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for 高い, 低い.

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

Table with 8 columns: 部位, (I)トーン, (J)トーン, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows include 外壁, 屋根, バルコニー parts.

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

Table with 6 columns: 部位, 対比/誤差, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率. Rows for 外壁, 屋根, バルコニー.

F値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

従属変数: 好き

Table with 6 columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for 高い, 低い.

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

Table with 8 columns: トーン, (I)部位, (J)部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows include 高い, 低い.

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

Table with 6 columns: トーン, 対比/誤差, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率. Rows for 高い, 低い.

F値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

7. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 好き

Table with 6 columns: 規則性, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for ない, あり.

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

Table with 8 columns: 部位, (I)規則性, (J)規則性, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for 外壁, 屋根, バルコニー.

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

ヘアごとの比較

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.119	.294	1.000	-.587	.826
		低い	-.212	.294	1.000	-.918	.495
	高い	同じ	-.119	.294	1.000	-.826	.587
		低い	-.331	.294	.784	-1.037	.376
屋根	同じ	高い	.212	.294	1.000	-.495	.918
		低い	.331	.294	.784	-.376	1.037
	高い	同じ	-.177	.294	1.000	-.884	.529
		低い	.386	.294	.569	-.320	1.093
バルコニー	同じ	高い	.177	.294	1.000	-.529	.884
		低い	.563	.294	.168	-.143	1.270
	高い	同じ	-.386	.294	.569	-1.093	.320
		低い	-.563	.294	.168	-1.270	.143

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	2.495	2	1.248	.648	.523
	誤差	1041.146	541	1.924		
屋根	対比	7.384	2	3.692	1.918	.148
	誤差	1041.146	541	1.924		
バルコニー	対比	16.318	2	8.159	4.239	.015
	誤差	1041.146	541	1.924		

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

トーン	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	外壁	2.690	.203	2.292	3.089
	屋根	3.341	.203	2.942	3.739
	バルコニー	2.894	.203	2.495	3.292
高い	外壁	2.571	.203	2.172	2.969
	屋根	3.518	.203	3.120	3.917
	バルコニー	2.129	.203	1.731	2.528
低い	外壁	2.902	.203	2.503	3.300
	屋根	2.955	.203	2.556	3.353
	バルコニー	2.846	.203	2.448	3.245

ヘアごとの比較

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.651	.294	.082	-1.357	.056
		バルコニー	-.204	.294	1.000	-.910	.503
		外壁	.651	.294	.082	-.056	1.357
	屋根	バルコニー	.447	.294	.388	-.259	1.154
		外壁	.204	.294	1.000	-.503	.910
		屋根	-.447	.294	.388	-1.154	.259
高い	外壁	屋根	-.947*	.294	.004	-1.654	-.241
		バルコニー	.442	.294	.401	-.265	1.148
		外壁	.947*	.294	.004	.241	1.654
	屋根	バルコニー	1.389*	.294	.000	.682	2.095
		外壁	-.442	.294	.401	-1.148	.265
		屋根	-1.389*	.294	.000	-2.095	-.682
低い	外壁	屋根	-.053	.294	1.000	-.759	.654
		バルコニー	.056	.294	1.000	-.651	.762
		外壁	.053	.294	1.000	-.654	.759
	屋根	バルコニー	.108	.294	1.000	-.598	.815
		外壁	-.056	.294	1.000	-.762	.651
		屋根	-.108	.294	1.000	-.815	.598

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

トーン	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	9.856	2	4.928	2.561	.078
	誤差	1041.146	541	1.924		
高い	対比	44.785	2	22.392	11.635	.000
	誤差	1041.146	541	1.924		
低い	対比	.262	2	.131	.068	.934
	誤差	1041.146	541	1.924		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 男性「住みたい」

被験者間因子		
部位	値ラベル	N
トーン	1.00	269
	2.00	267
	3.00	268
色相	1.00	268
	2.00	269
	3.00	267
トーン	1.00	268
	2.00	268
	3.00	268
規則性	1.00	536
	2.00	268

被験者間効果の検定

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	180.656 ^a	25	7.226	7.108	.000
切片	6620.809	1	6620.809	6512.524	.000
部位	31.867	2	15.934	15.673	.000
色相	29.114	2	14.557	14.319	.000
トーン	7.426	2	3.713	3.652	.026
規則性	.865	1	.865	.851	.357
部位 * 色相	28.611	4	7.153	7.036	.000
部位 * トーン	18.933	4	4.733	4.656	.001
部位 * 規則性	13.637	2	6.819	6.707	.001
色相 * トーン	3.060	4	.765	.753	.556
色相 * 規則性	10.916	2	5.458	5.369	.005
トーン * 規則性	1.106	2	.553	.544	.581
誤差	790.936	778	1.017		
総和	8474.000	804			
修正総和	971.592	803			

a. R2乗 = .186 (調整済みR2乗 = .160)

1. 部位

推定値

従属変数: 住みたい

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	3.002	.068	2.869	3.134
屋根	3.336	.068	3.203	3.469
バルコニー	2.794	.068	2.661	2.928

ヘアごとの比較

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.334*	.097	.002	-.567	-.100
	バルコニー	.207	.097	.100	-.026	.441
屋根	外壁	.334*	.097	.002	.100	.567
	バルコニー	.541*	.098	.000	.307	.775
バルコニー	外壁	-.207	.097	.100	-.441	.026
	屋根	-.541*	.098	.000	-.775	-.307

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	31.867	2	15.934	15.673	.000
誤差	790.936	778	1.017		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の部位の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 住みたい

Table with columns: 色相, 平均値, 標準誤差, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

ペアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table for pairwise comparison with columns: (I)色相, (J)色相, 平均値の差, 標準誤差, 有意確率, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table for ANOVA with columns: 対比, 誤差, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Table for interaction effects with columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

ペアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table for pairwise comparison with columns: 部位, (I)色相, (J)色相, 平均値の差, 標準誤差, 有意確率, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table for ANOVA with columns: 部位, 対比, 誤差, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Table for interaction effects with columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

ペアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table for pairwise comparison with columns: 色相, (I)部位, (J)部位, 平均値の差, 標準誤差, 有意確率, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table for ANOVA with columns: 色相, 対比, 誤差, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Table for interaction effects with columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

ヘアごとの比較

従属変数: 心地よい

Table with columns for color (色相), regularity (規則性), difference (差), standard error (標準誤差), significance (有意確率), and 95% confidence interval (差の95%信頼区間).

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 心地よい

Table with columns for color (色相), comparison (対比), square sum (平方和), degrees of freedom (自由度), mean square (平均平方), F value (F 値), and significance (有意確率).

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

13. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 心地よい

Table showing interaction effects between regularity (規則性) and color (色相) on the dependent variable '心地よい'.

ヘアごとの比較

従属変数: 心地よい

Table with columns for regularity (規則性), color (色相), difference (差), standard error (標準誤差), significance (有意確率), and 95% confidence interval (差の95%信頼区間).

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 心地よい

Table with columns for regularity (規則性), comparison (対比), square sum (平方和), degrees of freedom (自由度), mean square (平均平方), F value (F 値), and significance (有意確率).

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 女性「住みたい」

被験者間因子

Table showing between-subject factors: location (部位) and color (色相).

被験者間効果の検定

従属変数: 心地よい

Table showing tests of between-subject effects for location (部位) and color (色相).

a. R2乗 = .175 (調整済みR2乗 = .137)

1. 部位

推定値

従属変数: 心地よい

Table showing interaction effects between location (部位) and color (色相) on the dependent variable '心地よい'.

ヘアごとの比較

従属変数: 心地よい

Table with columns for location (部位), color (色相), difference (差), standard error (標準誤差), significance (有意確率), and 95% confidence interval (差の95%信頼区間).

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 心地よい

Table with columns for comparison (対比), square sum (平方和), degrees of freedom (自由度), mean square (平均平方), F value (F 値), and significance (有意確率).

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 心地よい

Table showing interaction effects between color (色相) and regularity (規則性) on the dependent variable '心地よい'.

ヘアごとの比較

従属変数: 心地よい

Table with columns for color (色相), regularity (規則性), difference (差), standard error (標準誤差), significance (有意確率), and 95% confidence interval (差の95%信頼区間).

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 心地よい

Table with columns for color (色相), comparison (対比), square sum (平方和), degrees of freedom (自由度), mean square (平均平方), F value (F 値), and significance (有意確率).

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

3. トーン

推定値

従属変数: 心地よい

Table showing interaction effects between color (色相) and tone (トーン) on the dependent variable '心地よい'.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

ANOVA table for 親しみのある with columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows include 外壁, 屋根, パルコニー.

F 値は色相の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

Table of mean values for color and location interaction. Columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table of pairwise comparisons for color and location interaction. Columns: 色相, (I)部位, (J)部位, 平均値の差, 標準誤差, 有意確率, and 差の95%信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

ANOVA table for color with columns: 色相, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

F 値は部位の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

Table of mean values for tone and location interaction. Columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table of pairwise comparisons for tone and location interaction. Columns: 部位, (I)トーン, (J)トーン, 平均値の差, 標準誤差, 有意確率, and 差の95%信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

ANOVA table for tone with columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

F 値はトーンが多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

7. トーン * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

Table of mean values for tone and location interaction. Columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table of pairwise comparisons for tone and location interaction. Columns: トーン, (I)部位, (J)部位, 平均値の差, 標準誤差, 有意確率, and 差の95%信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

ANOVA table for tone with columns: トーン, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

F 値は部位が多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

8. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

Table of mean values for regularity and location interaction. Columns: 規則性, 部位, 平均値, 標準誤差, and 95% 信頼区間 (下限, 上限).

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table of pairwise comparisons for regularity and location interaction. Columns: 部位, (I)規則性, (J)規則性, 平均値の差, 標準誤差, 有意確率, and 差の95%信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table with 7 columns: (I) トーン, (J) トーン, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率^a, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

Table with 6 columns: 対比誤差, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーン の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

Table with 6 columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table with 8 columns: 部位, (I) 色相, (J) 色相, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率^a, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

Table with 6 columns: 部位, 対比誤差, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

Table with 6 columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table with 8 columns: 色相, (I) 部位, (J) 部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率^a, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

Table with 6 columns: 色相, 対比誤差, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 男性 「生活感のある」

被験者間因子

Table with 3 columns: 部位, 値レベル, N

被験者間効果の検定

従属変数: 生活感のある

Table with 6 columns: ソース, タイプ III 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

a. R2乗 = .145 (調整済みR2乗 = .118)

1. 部位

推定値

従属変数: 生活感のある

Table with 5 columns: 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ヘアごとの比較

従属変数: 生活感のある

Table with 7 columns: (I) 部位, (J) 部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率^a, 差の 95% 信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

2 色相

推定値

従属変数: 生活感のある

色相	平均値	標準誤差	95%信頼区間	
			下限	上限
ページュ	3.475	.107	3.264	3.686
赤	2.948	.107	2.737	3.159
青	2.731	.107	2.521	2.942

ヘアごとの比較

従属変数: 生活感のある

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95%信頼区間 ^a	
					下限	上限
ページュ	赤	.526*	.154	.002	.155	.897
	青	.743*	.154	.000	.372	1.114
赤	ページュ	-.526*	.154	.002	-.897	-.155
	青	.217	.154	.482	-.154	.588
青	ページュ	-.743*	.154	.000	-1.114	-.372
	赤	-.217	.154	.482	-.588	.154

推定周辺平均に基づいた

* 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 生活感のある

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	44.193	2	22.096	12.247	.000
誤差	976.098	541	1.804		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の色相の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 生活感のある

色相	部位	平均値	標準誤差	95%信頼区間	
				下限	上限
ページュ	外壁	3.666	.196	3.280	4.052
	屋根	3.373	.196	2.987	3.758
	バルコニー	3.386	.196	3.000	3.772
赤	外壁	2.716	.196	2.331	3.102
	屋根	3.306	.196	2.921	3.692
	バルコニー	2.822	.196	2.436	3.208
青	外壁	2.304	.196	1.918	2.690
	屋根	3.285	.196	2.899	3.671
	バルコニー	2.605	.196	2.220	2.991

ヘアごとの比較

従属変数: 生活感のある

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95%信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ページュ	赤	.950*	.285	.003	.266	1.634
		青	1.362*	.285	.000	.678	2.047
	赤	ページュ	-.950*	.285	.003	-1.634	-.266
		青	.413	.285	.444	-.271	1.097
	青	ページュ	-1.362*	.285	.000	-2.047	-.678
		赤	-.413	.285	.444	-1.097	.271
屋根	ページュ	赤	.066	.285	1.000	-.618	.750
		青	.087	.285	1.000	-.597	.771
	赤	ページュ	-.066	.285	1.000	-.750	.618
		青	.021	.285	1.000	-.663	.705
	青	ページュ	-.087	.285	1.000	-.771	.597
		赤	-.021	.285	1.000	-.705	.663
バルコニー	ページュ	赤	.563	.285	.145	-.121	1.248
		青	.780*	.285	.019	.096	1.464
	赤	ページュ	-.563	.285	.145	-1.248	.121
		青	.217	.285	1.000	-.467	.901
	青	ページュ	-.780*	.285	.019	-1.464	-.096
		赤	-.217	.285	1.000	-.901	.467

推定周辺平均に基づいた

* 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 生活感のある

部位		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	43.411	2	21.706	12.030	.000
	誤差	976.098	541	1.804		
屋根	対比	.184	2	.092	.051	.950
	誤差	976.098	541	1.804		
バルコニー	対比	14.433	2	7.216	4.000	.019
	誤差	976.098	541	1.804		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 生活感のある

色相	部位	平均値	標準誤差	95%信頼区間	
				下限	上限
ページュ	外壁	3.666	.196	3.280	4.052
	屋根	3.373	.196	2.987	3.758
	バルコニー	3.386	.196	3.000	3.772
赤	外壁	2.716	.196	2.331	3.102
	屋根	3.306	.196	2.921	3.692
	バルコニー	2.822	.196	2.436	3.208
青	外壁	2.304	.196	1.918	2.690
	屋根	3.285	.196	2.899	3.671
	バルコニー	2.605	.196	2.220	2.991

ヘアごとの比較

従属変数: 生活感のある

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95%信頼区間 ^a	
						下限	上限
ページュ	外壁	屋根	.294	.285	.909	-.390	.978
		バルコニー	.280	.285	.976	-.404	.964
	屋根	外壁	-.294	.285	.909	-.978	.390
		バルコニー	-.013	.285	1.000	-.697	.671
	バルコニー	外壁	-.280	.285	.976	-.964	.404
		屋根	.013	.285	1.000	-.671	.697
赤	外壁	屋根	-.590	.285	.116	-1.274	.094
		バルコニー	-.106	.285	1.000	-.790	.578
	屋根	外壁	.590	.285	.116	-.094	1.274
		バルコニー	.484	.285	.269	-.200	1.168
	バルコニー	外壁	.106	.285	1.000	-.578	.790
		屋根	-.484	.285	.269	-1.168	.200
青	外壁	屋根	-.981*	.285	.002	-1.666	-.297
		バルコニー	-.302	.285	.871	-.986	.382
	屋根	外壁	.981*	.285	.002	.297	1.666
		バルコニー	.680	.285	.052	-.004	1.364
	バルコニー	外壁	.302	.285	.871	-.382	.986
		屋根	-.680	.285	.052	-1.364	.004

推定周辺平均に基づいた

* 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 生活感のある

色相		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページュ	対比	2.447	2	1.223	.678	.508
	誤差	976.098	541	1.804		
赤	対比	8.799	2	4.400	2.439	.088
	誤差	976.098	541	1.804		
青	対比	22.480	2	11.240	6.230	.002
	誤差	976.098	541	1.804		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 男性「癒される」

被験者間因子

部位	値ラベル	N
色相	1.00 外壁	269
	2.00 屋根	267
	3.00 バルコニー	268
トーン	1.00 ページュ	268
	2.00 赤	269
	3.00 青	267
規則性	1.00 同じ	268
	2.00 高い	268
	3.00 低い	268
性	1.00 なし	536
	2.00 あり	268

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

Table with columns for tone (①トーン, ②トーン), average difference, standard error, significance, and 95% confidence interval.

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

Table with columns for comparison (対比, 誤差), sum of squares, df, mean square, F value, and significance.

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーンの単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4 色相 * 部位

推定値

従属変数: 癒される

Table showing estimated values for color and location combinations, including average, standard error, and 95% CI.

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

Table with columns for location, color, average difference, standard error, significance, and 95% CI.

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

Table with columns for location, comparison, sum of squares, df, mean square, F value, and significance.

F値は色相の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 癒される

Table showing estimated values for color and location combinations, including average, standard error, and 95% CI.

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

Table with columns for color, location, average difference, standard error, significance, and 95% CI.

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

Table with columns for color, comparison, sum of squares, df, mean square, F value, and significance.

F値は部位の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 色相

推定値

従属変数: 癒される

Table showing estimated values for tone and color combinations, including average, standard error, and 95% CI.

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される

Table with columns for color, tone, average difference, standard error, significance, and 95% CI.

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

Table with columns for color, comparison, sum of squares, df, mean square, F value, and significance.

F値はトーンが多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

7. トーン * 色相

推定値

従属変数: 癒される

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ベージュ	3.322	.183	2.961	3.682
	赤	3.153	.183	2.792	3.513
	青	2.660	.183	2.300	3.021
高い	ベージュ	3.041	.183	2.681	3.402
	赤	2.496	.183	2.136	2.857
	青	2.502	.183	2.141	2.862
低い	ベージュ	3.438	.183	3.078	3.799
	赤	2.486	.183	2.125	2.846
	青	2.258	.183	1.898	2.619

ペアごとの比較

従属変数: 癒される

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	.169	.266	1.000	-.470	.808
		青	.661*	.266	.040	.022	1.300
	赤	ベージュ	-.169	.266	1.000	-.808	.470
		青	.492	.266	.195	-.147	1.131
	青	ベージュ	-.661*	.266	.040	-1.300	-.022
		赤	-.492	.266	.195	-1.131	.147
高い	ベージュ	赤	.545	.266	.123	-.094	1.184
		青	.540	.266	.129	-.099	1.179
	赤	ベージュ	-.545	.266	.123	-1.184	.094
		青	-.005	.266	1.000	-.644	.634
	青	ベージュ	-.540	.266	.129	-1.179	.099
		赤	.005	.266	1.000	-.634	.644
低い	ベージュ	赤	.952*	.266	.001	.313	1.591
		青	1.180*	.266	.000	.541	1.819
	赤	ベージュ	-.952*	.266	.001	-1.591	-.313
		青	.228	.266	1.000	-.411	.867
	青	ベージュ	-1.180*	.266	.000	-1.819	-.541
		赤	-.228	.266	1.000	-.867	.411

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

トーン		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	10.498	2	5.249	3.334	.036
	誤差	851.714	541	1.574		
高い	対比	8.720	2	4.360	2.770	.064
	誤差	851.714	541	1.574		
低い	対比	34.849	2	17.425	11.068	.000
	誤差	851.714	541	1.574		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

v 学習経験別の分析結果

■T 検定-学習経験の差異

グループ統計量					
学習経験	N	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	
楽しい	なし	702	3.0199	1.11001	.04189
楽しい	あり	669	3.2541	1.13518	.04389
生活感のある	なし	702	3.2279	1.27610	.04816
生活感のある	あり	669	3.1868	1.17843	.04556
住みたい	なし	702	2.7051	1.25037	.04719
住みたい	あり	669	3.0419	1.23499	.04775
癒される	なし	702	2.9046	1.18995	.04491
癒される	あり	669	3.0927	1.13350	.04382
好き	なし	702	2.9345	1.31218	.04952
好き	あり	669	3.1734	1.22468	.04735
違和感がない	なし	702	3.1467	1.52108	.05741
違和感がない	あり	669	3.2735	1.49297	.05772
個性がある	なし	702	2.9744	1.40182	.05291
個性がある	あり	669	3.3214	1.29133	.04993
心地よい	なし	702	3.0185	1.26669	.04781
心地よい	あり	669	3.1435	1.18513	.04582
親しみのある	なし	702	3.0285	1.28051	.04833
親しみのある	あり	669	3.1928	1.22115	.04721
美しい	なし	702	3.0912	1.20518	.04549
美しい	あり	669	3.2825	1.13702	.04396

被験者間効果の検定

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	487.711 ^a	25	19.508	12.529	.000
切片	6301.863	1	6301.863	4047.118	.000
部位	67.648	2	33.824	21.722	.000
色相	139.151	2	69.576	44.682	.000
トーン	30.673	2	15.336	9.849	.000
規則性	2.103	1	2.103	1.351	.246
部位 * 色相	54.539	4	13.635	8.756	.000
部位 * トーン	58.295	4	14.574	9.359	.000
部位 * 規則性	19.233	2	9.616	6.176	.002
色相 * トーン	13.757	4	3.439	2.209	.067
色相 * 規則性	21.821	2	10.910	7.007	.001
トーン * 規則性	1.082	2	.541	.348	.707
誤差	1001.230	643	1.557		
総和	8658.000	669			
修正総和	1488.942	668			

a. R2乗 = .328 (調整済みR2乗 = .301)

1. 部位

推定値

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	3.193	.092	3.013	3.373
屋根	3.720	.092	3.539	3.901
バルコニー	2.854	.092	2.674	3.035

へアごとの比較

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.527*	.132	.000	-.844	-.210
外壁	バルコニー	.338*	.132	.032	.022	.655
屋根	外壁	.527*	.132	.000	.210	.844
屋根	バルコニー	-.866*	.132	.000	-.548	1.183
バルコニー	外壁	-.338*	.132	.032	-.655	-.022
バルコニー	屋根	-.866*	.132	.000	-1.183	-.548

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	67.648	2	33.824	21.722	.000
誤差	1001.230	643	1.557		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の部位の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページュ	3.938	.092	3.757	4.118
赤	3.122	.092	2.942	3.302
青	2.708	.092	2.527	2.889

へアごとの比較

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ページュ	赤	-.816*	.132	.000	-.499	1.133
ページュ	青	1.230*	.132	.000	.912	1.547
赤	ページュ	.816*	.132	.000	-1.133	-.499
赤	青	-.414*	.132	.005	-.097	.731
青	ページュ	-1.230*	.132	.000	-1.547	-.912
青	赤	-.414*	.132	.005	-.731	-.097

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	139.151	2	69.576	44.682	.000
誤差	1001.230	643	1.557		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の色相の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

3. トーン

推定値

トーン	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
同じ	3.583	.092	3.403	3.763
高い	3.165	.092	2.984	3.345
低い	3.019	.092	2.839	3.200

へアごとの比較

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	-.418*	.132	.005	-.101	.736
同じ	低い	.564*	.132	.000	.247	.881
高い	同じ	.418*	.132	.005	-.736	-.101
高い	低い	.146	.132	.813	-.172	.463
低い	同じ	-.564*	.132	.000	-.881	-.247
低い	高い	-.146	.132	.813	-.463	.172

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

■一変量の分散分析 学習経験あり「違和感がない」

被験者間因子

	値ラベル	N
部位	1.00 外壁	224
部位	2.00 屋根	222
部位	3.00 バルコニー	223
色相	1.00 ページュ	223
色相	2.00 赤	224
色相	3.00 青	222
トーン	1.00 同じ	223
トーン	2.00 高い	223
トーン	3.00 低い	223
規則性	1.00 なし	446
規則性	2.00 あり	223

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

ANOVA table for color x location with 6 columns: 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率.

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーン の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 違和感がない

Table of estimated means for color x location with 6 columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限).

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table of pairwise comparisons for color x location with 11 columns: 部位, (I)色相, (J)色相, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 95%信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

ANOVA table for color with 6 columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率.

F値は色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 違和感がない

Table of estimated means for color x location with 6 columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限).

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table of pairwise comparisons for color x location with 11 columns: 色相, (I)部位, (J)部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 95%信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

ANOVA table for color with 6 columns: 色相, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率.

F値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

従属変数: 違和感がない

Table of estimated means for tone x location with 6 columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限).

ヘアごとの比較

従属変数: 違和感がない

Table of pairwise comparisons for tone x location with 11 columns: 部位, (I)トーン, (J)トーン, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 95%信頼区間 (下限, 上限).

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

ANOVA table for tone with 6 columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率.

F値はトーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

規則性	(I)色相	(J)色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95%信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	ページ	赤	.741*	.167	.000	.340	1.142
		青	.621*	.167	.001	.220	1.022
	青	ページ	-.741*	.167	.000	-1.142	-.340
		赤	-.120	.167	1.000	-.521	.282
	あり	ページ	-.621*	.167	.001	-1.022	-.220
		赤	-.120	.167	1.000	-.282	.521
あり	ページ	赤	.891*	.264	.002	.257	1.525
		青	1.838*	.265	.000	1.203	2.473
	赤	ページ	-.891*	.264	.002	-1.525	-.257
		青	-.947*	.264	.001	-.314	1.581
	青	ページ	-1.838*	.265	.000	-2.473	-1.203
		赤	-.947*	.264	.001	-1.581	-.314

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

規則性	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
なし	対比	35.322	2	17.661	11.342	.000
	誤差	1001.230	643	1.557		
あり	対比	75.184	2	37.592	24.142	.000
	誤差	1001.230	643	1.557		

F 値は色相の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

1. 部位

推定値

従属変数: 違和感がない

部位	平均値	標準誤差	95%信頼区間	
			下限	上限
外壁	2.981	.092	2.801	3.160
屋根	3.726	.092	3.547	3.906
バルコニー	2.703	.092	2.523	2.883

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95%信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.746*	.132	.000	-1.062	-.430
	バルコニー	.278	.132	.106	-.038	.594
屋根	外壁	.746*	.132	.000	.430	1.062
	バルコニー	1.024*	.132	.000	.708	1.339
バルコニー	外壁	-.278	.132	.106	-.594	.038
	屋根	-1.024*	.132	.000	-1.339	-.708

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	104.884	2	52.442	32.342	.000
誤差	1096.124	676	1.621		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の部位の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 違和感がない

色相	平均値	標準誤差	95%信頼区間	
			下限	上限
ページ	3.876	.092	3.696	4.056
赤	2.872	.092	2.692	3.051
青	2.662	.092	2.483	2.842

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

(I)色相	(J)色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95%信頼区間 ^a	
					下限	上限
ページ	赤	1.004*	.132	.000	.688	1.320
	青	1.214*	.132	.000	.898	1.530
赤	ページ	-1.004*	.132	.000	-1.320	-.688
	青	.209	.132	.336	-.106	.525
青	ページ	-1.214*	.132	.000	-1.530	-.898
	赤	-.209	.132	.336	-.525	.106

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	157.586	2	78.793	48.593	.000
誤差	1096.124	676	1.621		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の色相の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

3. トーン

推定値

従属変数: 違和感がない

トーン	平均値	標準誤差	95%信頼区間	
			下限	上限
同じ	3.532	.092	3.352	3.712
高い	3.009	.092	2.829	3.188
低い	2.870	.092	2.690	3.049

へアごとの比較

従属変数: 違和感がない

(I)トーン	(J)トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95%信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	.524*	.132	.000	.208	.839
	低い	.662*	.132	.000	.347	.978
高い	同じ	-.524*	.132	.000	-.839	-.208
	低い	.139	.132	.875	-.177	.455
低い	同じ	-.662*	.132	.000	-.978	-.347
	高い	-.139	.132	.875	-.455	.177

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 違和感がない

対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	45.684	2	22.842	14.087	.000
誤差	1096.124	676	1.621		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーンの単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 違和感がない

色相	部位	平均値	標準誤差	95%信頼区間	
				下限	上限
ページ	外壁	4.189	.167	3.860	4.517
	屋根	4.105	.167	3.777	4.434
	バルコニー	3.334	.167	3.005	3.663
赤	外壁	2.702	.167	2.373	3.030
	屋根	3.473	.167	3.144	3.802
	バルコニー	2.441	.167	2.112	2.769
青	外壁	2.052	.167	1.723	2.381
	屋根	3.601	.167	3.273	3.930
	バルコニー	2.334	.167	2.005	2.663

■一変量の分散分析 学習経験なし「違和感がない」

被験者間因子

	値ラベル	N
部位	1.00 外壁	234
	2.00 屋根	234
	3.00 バルコニー	234
色相	1.00 ページ	234
	2.00 赤	234
	3.00 青	234
トーン	1.00 同じ	234
	2.00 高い	234
	3.00 低い	234
規則性	1.00 なし	468
	2.00 あり	234

被験者間効果の検定

従属変数: 違和感がない

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	525.764 ^a	25	21.031	12.970	.000
切片	6139.670	1	6139.670	3786.448	.000
部位	104.884	2	52.442	32.342	.000
色相	157.586	2	78.793	48.593	.000
トーン	45.684	2	22.842	14.087	.000
規則性	.558	1	.558	.344	.558
部位 * 色相	41.033	4	10.258	6.326	.000
部位 * トーン	32.217	4	8.054	4.967	.001
部位 * 規則性	14.225	2	7.113	4.386	.013
色相 * トーン	9.879	4	2.470	1.523	.194
色相 * 規則性	8.080	2	4.040	2.491	.084
トーン * 規則性	.550	2	.275	.170	.844
誤差	1096.124	676	1.621		
総和	8573.000	702			
修正総和	1621.887	701			

a. R2乗 = .324 (調整済みR2乗 = .299)

6. トーン * 色相

推定値

従属変数: 個性がある

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ベージュ	1.793	.141	1.516	2.070
	赤	3.634	.142	3.356	3.912
	青	3.043	.142	2.765	3.321
高い	ベージュ	2.995	.141	2.718	3.272
	赤	3.937	.141	3.660	4.214
	青	3.186	.142	2.907	3.466
低い	ベージュ	2.828	.142	2.548	3.108
	赤	4.221	.141	3.944	4.498
	青	4.106	.141	3.829	4.382

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
ベージュ	同じ	高い	-1.202*	.204	.000	-1.693	-.712
		低い	-1.035*	.205	.000	-1.528	-.542
	高い	同じ	1.202*	.204	.000	.712	1.693
		低い	.167	.205	1.000	-.326	.660
	低い	同じ	1.035*	.205	.000	.542	1.528
		高い	-.167	.205	1.000	-.660	.326
赤	同じ	高い	-.303	.205	.419	-.795	.189
		低い	-.587*	.205	.013	-1.079	-.095
	高い	同じ	.303	.205	.419	-.189	.795
		低い	-.284	.204	.498	-.774	.207
	低い	同じ	.587*	.205	.013	.095	1.079
		高い	.284	.204	.498	-.207	.774
青	同じ	高い	-.143	.206	1.000	-.637	.351
		低い	-1.063*	.205	.000	-1.555	-.570
	高い	同じ	.143	.206	1.000	-.351	.637
		低い	-.920*	.205	.000	-1.412	-.427
	低い	同じ	1.063*	.205	.000	.570	1.555
		高い	.920*	.205	.000	.427	1.412

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

色相		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ベージュ	対比	44.716	2	22.358	20.271	.000
	誤差	709.222	643	1.103		
赤	対比	9.033	2	4.516	4.095	.017
	誤差	709.222	643	1.103		
青	対比	34.943	2	17.471	15.840	.000
	誤差	709.222	643	1.103		

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

7. トーン * 色相

推定値

従属変数: 個性がある

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ベージュ	1.793	.141	1.516	2.070
	赤	3.634	.142	3.356	3.912
	青	3.043	.142	2.765	3.321
高い	ベージュ	2.995	.141	2.718	3.272
	赤	3.937	.141	3.660	4.214
	青	3.186	.142	2.907	3.466
低い	ベージュ	2.828	.142	2.548	3.108
	赤	4.221	.141	3.944	4.498
	青	4.106	.141	3.829	4.382

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	-1.841*	.205	.000	-2.333	-1.349
		青	-1.250*	.205	.000	-1.742	-.758
	赤	ベージュ	1.841*	.205	.000	1.349	2.333
		青	.591*	.206	.013	.097	1.084
	青	ベージュ	1.250*	.205	.000	.758	1.742
		赤	-.591*	.206	.013	-1.084	-.097
高い	ベージュ	赤	-.942*	.204	.000	-1.433	-.451
		青	-.191	.205	1.000	-.684	.302
	赤	ベージュ	.942*	.204	.000	.451	1.433
		青	.751*	.205	.001	.258	1.244
	青	ベージュ	.191	.205	1.000	-.302	.684
		赤	-.751*	.205	.001	-1.244	-.258
低い	ベージュ	赤	-1.393*	.205	.000	-1.886	-.900
		青	-1.278*	.205	.000	-1.771	-.785
	赤	ベージュ	1.393*	.205	.000	.900	1.886
		青	.115	.204	1.000	-.376	.606
	青	ベージュ	1.278*	.205	.000	.785	1.771
		赤	-.115	.204	1.000	-.606	.376

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

トーン		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	92.918	2	46.459	42.121	.000
	誤差	709.222	643	1.103		
高い	対比	26.137	2	13.069	11.848	.000
	誤差	709.222	643	1.103		
低い	対比	62.411	2	31.206	28.292	.000
	誤差	709.222	643	1.103		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

■ 一変量の分散分析 学習経験なし「個性がある」

被験者間因子

部位	値レベル	N
色相	1.00 外壁	234
	2.00 屋根	234
	3.00 バルコニー	234
トーン	1.00 ベージュ	234
	2.00 赤	234
	3.00 青	234
規則性	1.00 同じ	234
	2.00 高い	234
	3.00 低い	234
	1.00 なし	468
	2.00 あり	234

被験者間効果の検定

従属変数: 個性がある

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	416.376 ^a	25	16.655	11.714	.000
切片	5488.729	1	5488.729	3860.306	.000
部位	37.094	2	18.547	13.044	.000
色相	140.663	2	70.332	49.465	.000
トーン	50.058	2	25.029	17.603	.000
規則性	.410	1	.410	.289	.591
部位 * 色相	7.705	4	1.926	1.355	.248
部位 * トーン	27.927	4	6.982	4.910	.001
部位 * 規則性	11.932	2	5.966	4.196	.015
色相 * トーン	16.269	4	4.067	2.861	.023
色相 * 規則性	1.333	2	.667	.469	.626
トーン * 規則性	12.547	2	6.274	4.412	.012
誤差	961.162	676	1.422		
総和	7588.000	702			
修正総和	1377.538	701			

a. R2乗 = .302 (調整済みR2乗 = .276)

1. 部位

推定値

従属変数: 個性がある

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	3.158	.086	2.990	3.326
屋根	2.603	.086	2.434	2.771
バルコニー	3.137	.086	2.969	3.305

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
					下限	上限
外壁	屋根	.556*	.123	.000	.260	.851
	バルコニー	.021	.123	1.000	-.274	.317
屋根	外壁	-.556*	.123	.000	-.851	-.260
	バルコニー	-.534*	.123	.000	-.830	-.238
バルコニー	外壁	-.021	.123	1.000	-.317	.274
	屋根	.534*	.123	.000	.238	.830

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for color with 1 degree of freedom and significant F value (.000).

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の部位の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 個性がある

Mean and 95% confidence interval for color (ベージュ, 赤, 青).

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

Pairwise comparison of color means (e.g., ベージュ vs 赤, 青).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for tone with 1 degree of freedom and significant F value (.000).

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の色相の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. トーン

推定値

従属変数: 個性がある

Mean and 95% confidence interval for tone (同じ, 高い, 低い).

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

Pairwise comparison of tone means (e.g., 同じ vs 高い, 低い).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for tone with 1 degree of freedom and significant F value (.000).

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーン の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

4. トーン * 部位

推定値

従属変数: 個性がある

Mean and 95% confidence interval for tone by location (e.g., 同じ 外壁, 高い 屋根).

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

Pairwise comparison of tone by location means.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for location with 1 degree of freedom and significant F value (.000).

F値はトーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 部位

推定値

従属変数: 個性がある

Mean and 95% confidence interval for tone by location (e.g., 同じ 外壁, 高い 屋根).

ペアごとの比較

従属変数: 個性がある

Pairwise comparison of tone by location means.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

ANOVA table for location with 1 degree of freedom and significant F value (.000).

F値は部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

10. トーン * 規則性

推定値

従属変数: 個性がある

トーン	規則性	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	なし	2.419	.106	2.212	2.626
	あり	2.701	.162	2.382	3.019
高い	なし	3.376	.106	3.169	3.583
	あり	2.761	.162	2.442	3.079
低い	なし	3.179	.106	2.972	3.387
	あり	3.359	.162	3.040	3.678

ヘアごとの比較

従属変数: 個性がある

規則性	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	同じ	高い	-.957*	.156	.000	-1.331	-.583
		低い	-.761*	.156	.000	-1.135	-.387
	高い	同じ	.957*	.156	.000	.583	1.331
		低い	.197	.156	.623	-.178	.571
	低い	同じ	.761*	.156	.000	.387	1.135
		高い	-.197	.156	.623	-.571	.178
あり	同じ	高い	-.060	.247	1.000	-.651	.532
		低い	-.658*	.247	.023	-1.250	-.067
	高い	同じ	.060	.247	1.000	-.532	.651
		低い	-.598*	.247	.046	-1.190	-.007
	低い	同じ	.658*	.247	.023	.067	1.250
		高い	.598*	.247	.046	.007	1.190

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

規則性		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
なし	対比	59.812	2	29.906	21.033	.000
	誤差	961.162	676	1.422		
あり	対比	12.397	2	6.198	4.359	.013
	誤差	961.162	676	1.422		

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

11. トーン * 規則性

推定値

従属変数: 個性がある

トーン	規則性	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	なし	2.419	.106	2.212	2.626
	あり	2.701	.162	2.382	3.019
高い	なし	3.376	.106	3.169	3.583
	あり	2.761	.162	2.442	3.079
低い	なし	3.179	.106	2.972	3.387
	あり	3.359	.162	3.040	3.678

ヘアごとの比較

従属変数: 個性がある

トーン	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	なし	あり	-.282	.213	.187	-.701	.137
	あり	なし	.282	.213	.187	-.137	.701
高い	なし	あり	.615*	.213	.004	.196	1.035
	あり	なし	-.615*	.213	.004	-1.035	-.196
低い	なし	あり	-.179	.213	.401	-.599	.240
	あり	なし	.179	.213	.401	-.240	.599

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 個性がある

トーン		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	2.482	1	2.482	1.746	.187
	誤差	961.162	676	1.422		
高い	対比	11.815	1	11.815	8.310	.004
	誤差	961.162	676	1.422		
低い	対比	1.005	1	1.005	.707	.401
	誤差	961.162	676	1.422		

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 学習経験あり「好き」

被験者間因子

部位	色相	トーン	規則性	値ラベル	N
1.00				外壁	224
2.00				屋根	222
3.00				バルコニー	223
1.00				ページ	223
2.00				赤	224
3.00				青	222
1.00				同じ	223
2.00				高い	223
3.00				低い	223
1.00				なし	446
2.00				あり	223

被験者間効果の検定

従属変数: 好き

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	147.737 ^a	25	5.909	4.449	.000
切片	5924.160	1	5924.160	4459.683	.000
部位	16.608	2	8.304	6.251	.002
色相	26.462	2	13.231	9.960	.000
トーン	3.502	2	1.751	1.318	.268
規則性	1.752	1	1.752	1.319	.251
部位 * 色相	26.435	4	6.609	4.975	.001
部位 * トーン	25.676	4	6.419	4.832	.001
部位 * 規則性	4.748	2	2.374	1.787	.168
色相 * トーン	5.863	4	1.466	1.103	.354
色相 * 規則性	9.999	2	4.999	3.764	.024
トーン * 規則性	1.083	2	.541	.407	.665
誤差	854.149	643	1.328		
総和	7739.000	669			
修正総和	1001.886	668			

a. R2乗 = .147 (調整済みR2乗 = .114)

1. 色相

推定値

従属変数: 好き

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページ	3.417	.085	3.250	3.584
赤	3.180	.085	3.014	3.346
青	2.873	.085	2.706	3.040

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ページ	赤	.237	.122	.157	-.056	.530
	青	-.544*	.122	.000	-.251	.838
赤	ページ	-.237	.122	.157	-.530	.056
	青	.307*	.122	.036	.014	.600
青	ページ	-.544*	.122	.000	-.838	-.251
	赤	.307*	.122	.036	-.600	-.014

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
誤差	854.149	643	1.328	9.960	.000

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の色相の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

2. トーン

推定値

従属変数: 好き

トーン	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
同じ	3.262	.085	3.096	3.429
高い	3.142	.085	2.975	3.308
低い	3.066	.085	2.899	3.233

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	.121	.122	.968	-.172	.414
	低い	-.196	.122	.324	-.096	.489
高い	同じ	-.121	.122	.968	-.414	.172
	低い	.075	.122	1.000	-.218	.369
低い	同じ	-.196	.122	.324	-.489	.096
	高い	-.075	.122	1.000	-.369	.218

推定周辺平均に基づいた

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
誤差	854.149	643	1.328	1.318	.268

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーン の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 好き

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ページ	外壁	3.727	.155	3.424	4.031
	屋根	3.320	.155	3.014	3.625
	バルコニー	3.204	.156	2.899	3.510
赤	外壁	3.085	.155	2.781	3.389
	屋根	3.456	.155	3.152	3.759
	バルコニー	3.000	.156	2.694	3.305
青	外壁	2.465	.156	2.160	2.771
	屋根	3.418	.156	3.111	3.724
	バルコニー	2.736	.155	2.432	3.040

ペアごとの比較

従属変数: 好き

部位	(I)色相	(J)色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ページ	赤	.642*	.224	.013	.104	1.181
		青	1.262*	.225	.000	.722	1.803
	赤	ページ	-.642*	.224	.013	-1.181	-.104
		青	.620*	.225	.018	.080	1.160
	青	ページ	-1.262*	.225	.000	-1.803	-.722
		赤	-.620*	.225	.018	-1.160	-.080
屋根	ページ	赤	-.136	.225	1.000	-.676	.404
		青	-.098	.226	1.000	-.640	.444
	赤	ページ	.136	.225	1.000	-.404	.676
		青	.038	.225	1.000	-.503	.579
	青	ページ	.098	.226	1.000	-.444	.640
		赤	-.038	.225	1.000	-.579	.503
バルコニー	ページ	赤	.205	.225	1.000	-.336	.746
		青	.468	.225	.112	-.071	1.007
	赤	ページ	-.205	.225	1.000	-.746	.336
		青	.264	.225	.726	-.276	.804
	青	ページ	-.468	.225	.112	-1.007	.071
		赤	-.264	.225	.726	-.804	.276

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	41.758	2	20.879	15.718	.000
	誤差	854.149	643	1.328		
屋根	対比	.515	2	.258	.194	.824
	誤差	854.149	643	1.328		
バルコニー	対比	5.809	2	2.904	2.186	.113
	誤差	854.149	643	1.328		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 好き

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ページ	外壁	3.727	.155	3.424	4.031
	屋根	3.320	.155	3.014	3.625
	バルコニー	3.204	.156	2.899	3.510
赤	外壁	3.085	.155	2.781	3.389
	屋根	3.456	.155	3.152	3.759
	バルコニー	3.000	.156	2.694	3.305
青	外壁	2.465	.156	2.160	2.771
	屋根	3.418	.156	3.111	3.724
	バルコニー	2.736	.155	2.432	3.040

ペアごとの比較

従属変数: 好き

色相	(I)部位	(J)部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
ページ	外壁	屋根	.408	.225	.211	-.132	.948
		バルコニー	.523	.225	.061	-.016	1.063
	屋根	外壁	-.408	.225	.211	-.948	.132
		バルコニー	.115	.225	1.000	-.425	.656
	バルコニー	外壁	-.523	.225	.061	-1.063	.016
		屋根	-.115	.225	1.000	-.656	.425
赤	外壁	屋根	-.371	.224	.297	-.909	.168
		バルコニー	.085	.225	1.000	-.454	.625
	屋根	外壁	.371	.224	.297	-.168	.909
		バルコニー	.456	.225	.130	-.084	.997
	バルコニー	外壁	-.085	.225	1.000	-.625	.454
		屋根	-.456	.225	.130	-.997	.084
青	外壁	屋根	-.953*	.226	.000	-1.495	-.410
		バルコニー	-.271	.225	.687	-.811	2.69
	屋根	外壁	.953*	.226	.000	.410	1.495
		バルコニー	.682*	.225	.008	.141	1.222
	バルコニー	外壁	.271	.225	.687	-.269	.811
		屋根	-.682*	.225	.008	-1.222	-.141

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

色相	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページ	対比	7.956	2	3.978	2.995	.051
	誤差	854.149	643	1.328		
赤	対比	6.177	2	3.088	2.325	.099
	誤差	854.149	643	1.328		
青	対比	25.069	2	12.535	9.436	.000
	誤差	854.149	643	1.328		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 部位

推定値

従属変数: 好き

トーン	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	外壁	3.065	.155	2.761	3.368
	屋根	3.525	.155	3.220	3.830
	バルコニー	3.197	.155	2.892	3.503
高い	外壁	2.983	.156	2.678	3.289
	屋根	3.784	.155	3.478	4.089
	バルコニー	2.658	.155	2.354	2.962
低い	外壁	3.230	.155	2.926	3.534
	屋根	2.884	.156	2.579	3.189
	バルコニー	3.085	.155	2.779	3.390

ペアごとの比較

従属変数: 好き

部位	(I)トーン	(J)トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	.082	.225	1.000	-.458	.622
		低い	-.165	.224	1.000	-.704	.373
	高い	同じ	-.082	.225	1.000	-.622	.458
		低い	-.247	.225	.821	-.787	.294
	低い	同じ	.165	.224	1.000	-.373	.704
		高い	.247	.225	.821	-.294	.787
屋根	同じ	高い	-.258	.225	.754	-.799	.282
		低い	.641*	.226	.014	.099	1.183
	高い	同じ	.258	.225	.754	-.282	.799
		低い	.900*	.225	.000	.359	1.440
	低い	同じ	-.641*	.226	.014	-1.183	-.099
		高い	-.900*	.225	.000	-1.440	-.359
バルコニー	同じ	高い	.539	.225	.051	-.001	1.079
		低い	.113	.225	1.000	-.428	.653
	高い	同じ	-.539	.225	.051	-1.079	.001
		低い	-.427	.225	.174	-.966	.113
	低い	同じ	-.113	.225	1.000	-.653	.428
		高い	.427	.225	.174	-.113	.966

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	1.658	2	.829	.624	.536
	誤差	854.149	643	1.328		
屋根	対比	22.434	2	11.217	8.444	.000
	誤差	854.149	643	1.328		
バルコニー	対比	8.507	2	4.253	3.202	.041
	誤差	854.149	643	1.328		

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

従属変数: 好き

Table with columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ペアごとの比較

従属変数: 好き

Table with columns: トーン, (I) 部位, (J) 部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

Table with columns: トーン, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

7. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 好き

Table with columns: 規則性, 色相, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ペアごとの比較

従属変数: 好き

Table with columns: 色相, (I) 規則性, (J) 規則性, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

Table with columns: 色相, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

8. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 好き

Table with columns: 規則性, 色相, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ペアごとの比較

従属変数: 好き

Table with columns: 規則性, (I) 色相, (J) 色相, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の 95% 信頼区間

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

Table with columns: 規則性, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 学習経験なし「好き」

被験者間因子

Table with columns: 因子, 値ラベル, N

被験者間効果の検定

従属変数: 好き

Table with columns: ソース, タイプ III 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率

a. R2乗 = .159 (調整済みR2乗 = .128)

1. 部位

推定値

従属変数: 好き

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	2.806	.088	2.633	2.978
屋根	3.314	.088	3.141	3.487
バルコニー	2.637	.088	2.464	2.810

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.509*	.127	.000	-.813	-.205
	バルコニー	.169	.127	.549	-.135	.473
屋根	外壁	.509*	.127	.000	.205	.813
	バルコニー	.677*	.127	.000	.373	.981
バルコニー	外壁	-.169	.127	.549	-.473	.135
	屋根	-.677*	.127	.000	-.981	-.373

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
誤差	46.545	2	23.273	15.495	.000
誤差	1015.342	676	1.502		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 好き

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.269	.088	3.096	3.442
赤	2.932	.088	2.759	3.105
青	2.556	.088	2.383	2.728

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	.338*	.127	.024	.034	.642
	青	.714*	.127	.000	.410	1.018
赤	ベージュ	-.338*	.127	.024	-.642	-.034
	青	.376*	.127	.009	.072	.680
青	ベージュ	-.714*	.127	.000	-1.018	-.410
	赤	-.376*	.127	.009	-.680	-.072

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
誤差	47.720	2	23.860	15.886	.000
誤差	1015.342	676	1.502		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 好き

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.593	.161	3.277	3.910
	屋根	3.213	.161	2.897	3.529
	バルコニー	3.001	.161	2.685	3.318
赤	外壁	2.645	.161	2.328	2.961
	屋根	3.474	.161	3.157	3.790
	バルコニー	2.677	.161	2.360	2.993
青	外壁	2.179	.161	1.863	2.495
	屋根	3.256	.161	2.939	3.572
	バルコニー	2.232	.161	1.916	2.548

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	.949*	.234	.000	.388	1.509
		青	1.415*	.234	.000	.854	1.975
	赤	ベージュ	-.949*	.234	.000	-1.509	-.388
		青	.466	.234	.140	-.095	1.026
	青	ベージュ	-1.415*	.234	.000	-1.975	-.854
		赤	-.466	.234	.140	-1.026	.095
屋根	ベージュ	赤	-.261	.234	.794	-.821	.300
		青	-.043	.234	1.000	-.603	.518
	赤	ベージュ	.261	.234	.794	-.300	.821
		青	.218	.234	1.000	-.343	.779
	青	ベージュ	.043	.234	1.000	-.518	.603
		赤	-.218	.234	1.000	-.779	.343
バルコニー	ベージュ	赤	.325	.234	.495	-.236	.885
		青	.769*	.234	.003	.209	1.330
	赤	ベージュ	-.325	.234	.495	-.885	.236
		青	.444	.234	.172	-.116	1.005
	青	ベージュ	-.769*	.234	.003	-1.330	-.209
		赤	-.444	.234	.172	-1.005	.116

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

部位	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	57.223	2	28.612	19.049	.000
誤差	1015.342	676	1.502		
屋根	2.153	2	1.076	.717	.489
誤差	1015.342	676	1.502		
バルコニー	16.421	2	8.210	5.466	.004
誤差	1015.342	676	1.502		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 好き

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.593	.161	3.277	3.910
	屋根	3.213	.161	2.897	3.529
	バルコニー	3.001	.161	2.685	3.318
赤	外壁	2.645	.161	2.328	2.961
	屋根	3.474	.161	3.157	3.790
	バルコニー	2.677	.161	2.360	2.993
青	外壁	2.179	.161	1.863	2.495
	屋根	3.256	.161	2.939	3.572
	バルコニー	2.232	.161	1.916	2.548

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.380	.234	.312	-.180	.941
		バルコニー	.592*	.234	.035	.031	1.152
	屋根	外壁	-.380	.234	.312	-.941	.180
		バルコニー	.212	.234	1.000	-.349	.772
	バルコニー	外壁	-.592*	.234	.035	-1.152	-.031
		屋根	-.212	.234	1.000	-.772	.349
赤	外壁	屋根	-.829*	.234	.001	-1.390	-.268
		バルコニー	-.032	.234	1.000	-.593	.529
	屋根	外壁	.829*	.234	.001	.268	1.390
		バルコニー	.797*	.234	.002	.236	1.358
	バルコニー	外壁	.032	.234	1.000	-.529	.593
		屋根	-.797*	.234	.002	-1.358	-.236
青	外壁	屋根	-1.077*	.234	.000	-1.638	-.516
		バルコニー	-.053	.234	1.000	-.614	.507
	屋根	外壁	1.077*	.234	.000	.516	1.638
		バルコニー	1.024*	.234	.000	.463	1.584
	バルコニー	外壁	.053	.234	1.000	-.507	.614
		屋根	-1.024*	.234	.000	-1.584	-.463

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

色相	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ベージュ	9.906	2	4.953	3.298	.038
誤差	1015.342	676	1.502		
赤	24.292	2	12.146	8.087	.000
誤差	1015.342	676	1.502		
青	40.563	2	20.282	13.503	.000
誤差	1015.342	676	1.502		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 好き

規則性	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	ベージュ	3.205	.108	2.992	3.418
	赤	2.816	.108	2.603	3.029
	青	2.876	.108	2.663	3.089
あり	ベージュ	3.333	.167	3.006	3.661
	赤	3.047	.167	2.720	3.374
	青	2.235	.167	1.908	2.563

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

色相	① 規則性 (J) 規則性		平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
	なし	あり				下限	上限
	ページ	なし				あり	-.128
赤	なし	あり	-.231	.219	.293	-.662	.200
青	なし	あり	-.641*	.219	.004	-1.072	-.210

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

色相	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページ	対比較	1	.513	.341	.559
	誤差	676	1.502		
赤	対比較	1	1.662	1.106	.293
	誤差	676	1.502		
青	対比較	1	12.821	8.536	.004
	誤差	676	1.502		

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 好き

規則性	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	ページ	3.205	.108	2.992	3.418
	赤	2.816	.108	2.603	3.029
	青	2.876	.108	2.663	3.089
あり	ページ	3.333	.167	3.006	3.661
	赤	3.047	.167	2.720	3.374
	青	2.235	.167	1.908	2.563

ヘアごとの比較

従属変数: 好き

規則性	① 色相 (J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
					なし	ページ
	赤	.329	.160	.121	-.055	.714
	青	-.389*	.160	.046	-.773	-.004
赤	ページ	-.060	.160	1.000	-.444	.325
	青	-.329	.160	.121	-.714	.055
青	ページ	.060	.160	1.000	-.325	.444
	赤	.286	.253	.776	-.322	.894
あり	赤	1.098*	.253	.000	.490	1.706
	青	-.286	.253	.776	-.894	.322
赤	ページ	.812*	.253	.004	.204	1.420
	青	-.1098*	.253	.000	-1.706	-.490
青	ページ	-.812*	.253	.004	-1.420	-.204
	赤					

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 好き

規則性	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
なし	対比較	2	5.130	3.416	.033
	誤差	676	1.502		
あり	対比較	2	15.191	10.114	.000
	誤差	676	1.502		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 学習あり「住みたい」

被験者間因子

部位	値	N
色相	1.00	224
	2.00	222
	3.00	223
トーン	1.00	223
	2.00	224
	3.00	222
規則性	1.00	446
	2.00	223

被験者間効果の検定

従属変数: 住みたい

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	181.373 ^a	25	7.255	5.570	.000
切片	5461.869	1	5461.869	4193.636	.000
部位	22.876	2	11.438	8.782	.000
色相	22.812	2	11.406	8.758	.000
トーン	4.944	2	2.472	1.898	.151
規則性	.788	1	.788	.605	.437
部位 * 色相	30.555	4	7.639	5.865	.000
部位 * トーン	32.121	4	8.030	6.166	.000
部位 * 規則性	11.478	2	5.739	4.406	.013
色相 * トーン	3.207	4	.802	.616	.652
色相 * 規則性	8.054	2	4.027	3.092	.046
トーン * 規則性	.427	2	.214	.164	.849
誤差	837.455	643	1.302		
総和	7209.000	669			
修正総和	1018.828	668			

a. R2乗 = .178 (調整済みR2乗 = .146)

1. 部位

推定値

従属変数: 住みたい

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	2.955	.084	2.790	3.119
屋根	3.314	.084	3.149	3.479
バルコニー	2.824	.084	2.659	2.990

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

① 部位 (J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a		
				下限	上限	
				外壁	屋根	-.360*
	バルコニー	.130	.121	.845	-.160	.420
屋根	外壁	.360*	.121	.009	.070	.649
	バルコニー	.490*	.121	.000	.199	.780
バルコニー	外壁	-.130	.121	.845	-.420	.160
	屋根	-.490*	.121	.000	-.780	-.199

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比較	22.876	2	11.438	8.782	.000
誤差	837.455	643	1.302		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 住みたい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページ	3.285	.084	3.120	3.450
赤	3.030	.084	2.865	3.194
青	2.778	.084	2.613	2.944

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

① 色相 (J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a		
				下限	上限	
				ページ	赤	-.255
	青	.507*	.121	.000	.216	.797
赤	ページ	-.255	.121	.104	-.545	.034
	青	.251	.121	.113	-.039	.541
青	ページ	-.507*	.121	.000	-.797	-.216
	赤	.251	.121	.113	-.541	.039

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比較	22.812	2	11.406	8.758	.000
誤差	837.455	643	1.302		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ページ	外壁	3.611	.153	3.310	3.912
	屋根	3.181	.154	2.879	3.484
	バルコニー	3.063	.154	2.760	3.365
赤	外壁	2.894	.153	2.593	3.194
	屋根	3.382	.153	3.081	3.683
	バルコニー	2.813	.154	2.511	3.116
青	外壁	2.359	.154	2.056	2.661
	屋根	3.379	.155	3.075	3.683
	バルコニー	2.597	.153	2.297	2.898

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns: 部位 (I)色相 (J)色相, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows include 外壁, 屋根, and バルコニー for 赤, 青, and ベージュ.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table with columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率. Rows include 外壁, 屋根, and バルコニー for 赤 and 青.

F値は色相の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Table with columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows include ベージュ, 赤, 青 for 外壁, 屋根, and バルコニー.

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns: 色相 (I)部位 (J)部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows include ベージュ, 赤, 青 for 外壁, 屋根, and バルコニー.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table with columns: 色相, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率. Rows include ベージュ, 赤, 青 for 对比 and 誤差.

F値は部位の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Table with columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows include 同じ, 高い, 低い for 外壁, 屋根, and バルコニー.

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns: 部位 (I)トーン (J)トーン, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows include 外壁, 屋根, and バルコニー for 同じ, 高い, 低い.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table with columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率. Rows include 外壁, 屋根, and バルコニー for 对比 and 誤差.

F値はトーンが多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Table with columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows include 同じ, 高い, 低い for 外壁, 屋根, and バルコニー.

■一変量の分散分析 学習経験なし「住みたい」

被験者間因子

	値ラベル	N
部位	1.00 外壁	234
	2.00 屋根	234
	3.00 バルコニー	234
色相	1.00 ベージュ	234
	2.00 赤	234
	3.00 青	234
トーン	1.00 同じ	234
	2.00 高い	234
	3.00 低い	234
規則性	1.00 なし	468
	2.00 あり	234

被験者間効果の検定

ソース	タイプ	Ⅲ 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル		143.462 ^a	25	5.738	4.073	.000
切片		4523.077	1	4523.077	3210.079	.000
部位		28.774	2	14.387	10.211	.000
色相		32.928	2	16.464	11.685	.000
トーン		8.251	2	4.126	2.928	.054
規則性		.923	1	.923	.655	.419
部位 * 色相		32.423	4	8.106	5.753	.000
部位 * トーン		11.577	4	2.894	2.054	.085
部位 * 規則性		2.214	2	1.107	.786	.456
色相 * トーン		14.038	4	3.510	2.491	.042
色相 * 規則性		10.009	2	5.004	3.552	.029
トーン * 規則性		4.009	2	2.004	1.422	.242
誤差		952.500	676	1.409		
総和		6233.000	702			
修正総和		1095.962	701			

a. R2乗 = .131 (調整済みR2乗 = .099)

1. 部位

推定値

従属変数: 住みたい

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	2.658	.085	2.491	2.826
屋根	2.985	.085	2.818	3.153
バルコニー	2.434	.085	2.266	2.601

ペアごとの比較

①) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.327*	.123	.024	-.621	-.032
	バルコニー	.224	.123	.204	-.070	.519
屋根	外壁	.327*	.123	.024	.032	.621
	バルコニー	.551*	.123	.000	.257	.846
バルコニー	外壁	-.224	.123	.204	-.519	.070
	屋根	-.551*	.123	.000	-.846	-.257

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	28.774	2	14.387	10.211	.000
誤差	952.500	676	1.409		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 住みたい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	2.953	.085	2.786	3.120
赤	2.754	.085	2.587	2.922
青	2.370	.085	2.202	2.537

ペアごとの比較

①) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	.199	.123	.317	-.096	.493
	青	.583*	.123	.000	.289	.878
赤	ベージュ	-.199	.123	.317	-.493	.096
	青	.385*	.123	.005	.090	.679
青	ベージュ	-.583*	.123	.000	-.878	-.289
	赤	-.385*	.123	.005	-.679	-.090

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	32.928	2	16.464	11.685	.000
誤差	952.500	676	1.409		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.333	.156	3.027	3.640
	屋根	2.788	.156	2.482	3.095
	バルコニー	2.737	.156	2.431	3.043
赤	外壁	2.532	.156	2.226	2.838
	屋根	3.218	.156	2.912	3.524
	バルコニー	2.513	.156	2.207	2.819
青	外壁	2.109	.156	1.803	2.415
	屋根	2.949	.156	2.642	3.255
	バルコニー	2.051	.156	1.745	2.358

ペアごとの比較

部位	①) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	-.801*	.226	.001	-.258	1.344
		青	1.224*	.226	.000	.681	1.767
	赤	ベージュ	-.801*	.226	.001	-1.344	-.258
		青	.423	.226	.186	-.120	.966
	青	ベージュ	-1.224*	.226	.000	-1.767	-.681
		赤	-.423	.226	.186	-.966	.120
屋根	ベージュ	赤	-.429	.226	.174	-.972	.113
		青	-.160	.226	1.000	-.703	.383
	赤	ベージュ	.429	.226	.174	-.113	.972
		青	.269	.226	.703	-.274	.812
	青	ベージュ	.160	.226	1.000	-.383	.703
		赤	-.269	.226	.703	-.812	.274
バルコニー	ベージュ	赤	.224	.226	.965	-.319	.767
		青	.686*	.226	.008	.143	1.229
	赤	ベージュ	-.224	.226	.965	-.767	.319
		青	.462	.226	.125	-.081	1.004
	青	ベージュ	-.686*	.226	.008	-1.229	-.143
		赤	-.462	.226	.125	-1.004	.081

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
屋根	対比	5.187	2	2.594	1.841	.160
	誤差	952.500	676	1.409		
バルコニー	対比	13.468	2	6.734	4.779	.009
	誤差	952.500	676	1.409		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.333	.156	3.027	3.640
	屋根	2.788	.156	2.482	3.095
	バルコニー	2.737	.156	2.431	3.043
赤	外壁	2.532	.156	2.226	2.838
	屋根	3.218	.156	2.912	3.524
	バルコニー	2.513	.156	2.207	2.819
青	外壁	2.109	.156	1.803	2.415
	屋根	2.949	.156	2.642	3.255
	バルコニー	2.051	.156	1.745	2.358

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.545*	.226	.049	.002	1.088
		バルコニー	.596*	.226	.026	.053	1.139
	屋根	外壁	-.545*	.226	.049	-1.088	-.002
		バルコニー	.051	.226	1.000	-.492	.594
	バルコニー	外壁	-.596*	.226	.026	-1.139	-.053
		屋根	-.051	.226	1.000	-.594	.492
赤	外壁	屋根	-.686*	.226	.008	-1.229	-.143
		バルコニー	.019	.226	1.000	-.524	.562
	屋根	外壁	.686*	.226	.008	.143	1.229
		バルコニー	.705*	.226	.006	.162	1.248
	バルコニー	外壁	-.019	.226	1.000	-.562	.524
		屋根	-.705*	.226	.006	-1.248	-.162
青	外壁	屋根	-.840*	.226	.001	-1.383	-.297
		バルコニー	.058	.226	1.000	-.485	.601
	屋根	外壁	.840*	.226	.001	.297	1.383
		バルコニー	.897*	.226	.000	.354	1.440
	バルコニー	外壁	-.058	.226	1.000	-.601	.485
		屋根	-.897*	.226	.000	-1.440	-.354

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

色相		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ベージュ	対比	12.020	2	6.010	4.265	.014
	誤差	952.500	676	1.409		
赤	対比	17.766	2	8.883	6.304	.002
	誤差	952.500	676	1.409		
青	対比	27.784	2	13.892	9.859	.000
	誤差	952.500	676	1.409		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ベージュ	2.853	.156	2.546	3.159
	赤	3.141	.156	2.835	3.447
	青	2.577	.156	2.271	2.883
高い	ベージュ	2.885	.156	2.578	3.191
	赤	2.519	.156	2.213	2.826
低い	ベージュ	2.301	.156	1.995	2.608
	赤	3.122	.156	2.815	3.428
	赤	2.603	.156	2.296	2.909
	青	2.231	.156	1.924	2.537

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
ベージュ	同じ	高い	-.032	.226	1.000	-.575	.511
		低い	-.269	.226	.703	-.812	.274
	高い	同じ	.032	.226	1.000	-.511	.575
		低い	-.237	.226	.885	-.780	.306
	低い	同じ	.269	.226	.703	-.274	.812
		高い	.237	.226	.885	-.306	.780
赤	同じ	高い	.622*	.226	.018	.079	1.165
		低い	.538	.226	.053	-.004	1.081
	高い	同じ	-.622*	.226	.018	-1.165	-.079
		低い	-.083	.226	1.000	-.626	.460
	低い	同じ	-.538	.226	.053	-1.081	.004
		高い	.083	.226	1.000	-.460	.626
青	同じ	高い	.276	.226	.671	-.267	.819
		低い	.346	.226	.379	-.197	.889
	高い	同じ	-.276	.226	.671	-.819	.267
		低い	.071	.226	1.000	-.472	.613
	低い	同じ	-.346	.226	.379	-.889	.197
		高い	-.071	.226	1.000	-.613	.472

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

色相		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ベージュ	対比	2.382	2	1.191	.845	.430
	誤差	952.500	676	1.409		
赤	対比	12.544	2	6.272	4.451	.012
	誤差	952.500	676	1.409		
青	対比	3.685	2	1.842	1.308	.271
	誤差	952.500	676	1.409		

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ベージュ	2.853	.156	2.546	3.159
	赤	3.141	.156	2.835	3.447
	青	2.577	.156	2.271	2.883
高い	ベージュ	2.885	.156	2.578	3.191
	赤	2.519	.156	2.213	2.826
低い	ベージュ	2.301	.156	1.995	2.608
	赤	3.122	.156	2.815	3.428
	赤	2.603	.156	2.296	2.909
	青	2.231	.156	1.924	2.537

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
同じ	ベージュ	赤	-.288	.226	.608	-.831	.254
		青	.276	.226	.671	-.267	.819
	赤	ベージュ	.288	.226	.608	-.254	.831
		青	.564*	.226	.039	.021	1.107
	青	ベージュ	-.276	.226	.671	-.819	.267
		赤	-.564*	.226	.039	-1.107	-.021
高い	ベージュ	赤	.365	.226	.320	-.178	.908
		青	.583*	.226	.030	.040	1.126
	赤	ベージュ	-.365	.226	.320	-.908	.178
		青	.218	.226	1.000	-.325	.761
	青	ベージュ	-.583*	.226	.030	-1.126	-.040
		赤	-.218	.226	1.000	-.761	.325
低い	ベージュ	赤	-.519	.226	.066	-.024	1.062
		青	.891*	.226	.000	.348	1.434
	赤	ベージュ	-.519	.226	.066	-1.062	.024
		青	.372	.226	.302	-.171	.915
	青	ベージュ	-.891*	.226	.000	-1.434	-.348
		赤	-.372	.226	.302	-.915	.171

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

トーン		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	8.762	2	4.381	3.109	.045
	誤差	952.500	676	1.409		
高い	対比	9.567	2	4.784	3.395	.034
	誤差	952.500	676	1.409		
低い	対比	22.056	2	11.028	7.827	.000
	誤差	952.500	676	1.409		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

7. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

規則性	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	ベージュ	2.902	.105	2.695	3.108
	赤	2.632	.105	2.426	2.839
	青	2.658	.105	2.452	2.864
あり	ベージュ	3.004	.162	2.687	3.321
	赤	2.876	.162	2.559	3.193
	青	2.081	.162	1.764	2.398

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
ベージュ	なし	あり	-.103	.213	.630	-.520	.315
		なし	.103	.213	.630	-.315	.520
赤	なし	あり	-.244	.213	.252	-.661	.174
		あり	.244	.213	.252	-.174	.661
青	なし	あり	.577*	.213	.007	.160	.994
		あり	-.577*	.213	.007	-.994	-.160

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

ANOVA table for color phase with columns for color phase, sum of squares, degrees of freedom, mean square, F value, and significance level.

F値は規則性の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

8. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

Interaction table for regularity and color phase, showing mean values and 95% confidence intervals for combinations of 'none' and 'present' regularity and 'blue', 'red', and 'green' colors.

ペアごとの比較

従属変数: 住みたい

Pairwise comparison table for regularity and color phase, showing differences between color phases (I and J) and their 95% confidence intervals.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

ANOVA table for regularity with columns for regularity, sum of squares, degrees of freedom, mean square, F value, and significance level.

F値は色相の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

■ 一変量の分散分析 学習経験あり「住みたい」

被験者間因子

Table of subject factors with columns for factor, value, and number of subjects (N).

被験者間効果の検定

従属変数: 住みたい

ANOVA table for subject effects, including main effects for location, color phase, and regularity, and their interactions.

a. R2乗 = .178 (調整済みR2乗 = .146)

1. 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Interaction table for location and color phase, showing mean values and 95% confidence intervals for combinations of 'none' and 'present' regularity and 'blue', 'red', and 'green' colors.

ペアごとの比較

従属変数: 住みたい

Pairwise comparison table for location and color phase, showing differences between locations (I and J) and their 95% confidence intervals.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

ANOVA table for location with columns for location, sum of squares, degrees of freedom, mean square, F value, and significance level.

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の部位の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 住みたい

Interaction table for color phase and regularity, showing mean values and 95% confidence intervals for combinations of 'none' and 'present' regularity and 'blue', 'red', and 'green' colors.

ペアごとの比較

従属変数: 住みたい

Pairwise comparison table for color phase and regularity, showing differences between color phases (I and J) and their 95% confidence intervals.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

ANOVA table for color phase with columns for color phase, sum of squares, degrees of freedom, mean square, F value, and significance level.

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の色相の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Interaction table for color phase and location, showing mean values and 95% confidence intervals for combinations of 'none' and 'present' regularity and 'blue', 'red', and 'green' colors.

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns: 部位, (I)色相, (J)色相, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table with columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率

F値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Table with columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns: 色相, (I)部位, (J)部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table with columns: 色相, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率

F値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Table with columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns: 部位, (I)トーン, (J)トーン, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限)

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table with columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F値, 有意確率

F値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

Table with columns: トーン, 部位, 平均値, 標準誤差, 95% 信頼区間 (下限, 上限)

ヘアごとの比較 従属変数: 住みたい

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.530	.223	.053	-1.065	.004
		バルコニー	-.187	.223	1.000	-.721	.348
	屋根	外壁	.530	.223	.053	-.004	1.065
		バルコニー	.344	.223	.373	-.193	.880
	バルコニー	外壁	-.187	.223	1.000	-.348	.721
		屋根	-.344	.223	.373	-.880	.193
高い	外壁	屋根	-.898*	.223	.000	-1.434	-.363
		バルコニー	.416	.223	.188	-.119	.951
	屋根	外壁	.898*	.223	.000	.363	1.434
		バルコニー	1.314*	.222	.000	.780	1.848
	バルコニー	外壁	-.416	.223	.188	-.951	.119
		屋根	-1.314*	.222	.000	-1.848	-.780
低い	外壁	屋根	.350	.223	.351	-.185	.885
		バルコニー	.161	.222	1.000	-.372	.695
	屋根	外壁	-.350	.223	.351	-.885	.185
		バルコニー	-.189	.223	1.000	-.724	.347
	バルコニー	外壁	-.161	.222	1.000	-.695	.372
		屋根	.189	.223	1.000	-.347	.724

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

トーン		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	7.589	2	3.795	2.914	.055
	誤差	837.455	643	1.302		
高い	対比	47.503	2	23.751	18.236	.000
	誤差	837.455	643	1.302		
低い	対比	3.217	2	1.608	1.235	.292
	誤差	837.455	643	1.302		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

7. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

規則性	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	外壁	2.829	.103	2.626	3.032
	屋根	3.627	.104	3.424	3.831
	バルコニー	2.746	.103	2.543	2.949
あり	外壁	3.080	.159	2.768	3.391
	屋根	3.001	.159	2.688	3.314
	バルコニー	2.903	.159	2.590	3.216

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

部位	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	なし	あり	-.250	.209	.231	-.661	.160
	あり	なし	.250	.209	.231	-.160	.661
屋根	なし	あり	.626*	.210	.003	.215	1.037
	あり	なし	-.626*	.210	.003	-1.037	-.215
バルコニー	なし	あり	-.157	.210	.453	-.569	.254
	あり	なし	.157	.210	.453	-.254	.569

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

部位		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	1.869	1	1.869	1.435	.231
	誤差	837.455	643	1.302		
屋根	対比	11.628	1	11.628	8.928	.003
	誤差	837.455	643	1.302		
バルコニー	対比	.734	1	.734	.564	.453
	誤差	837.455	643	1.302		

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

8. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

規則性	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	外壁	2.829	.103	2.626	3.032
	屋根	3.627	.104	3.424	3.831
	バルコニー	2.746	.103	2.543	2.949
あり	外壁	3.080	.159	2.768	3.391
	屋根	3.001	.159	2.688	3.314
	バルコニー	2.903	.159	2.590	3.216

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

規則性	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	外壁	屋根	-.798*	.153	.000	-1.165	-.430
		バルコニー	.084	.153	1.000	-.283	.450
	屋根	外壁	.798*	.153	.000	.430	1.165
		バルコニー	.881*	.153	.000	.515	1.248
	バルコニー	外壁	-.084	.153	1.000	-.450	.283
		屋根	-.881*	.153	.000	-1.248	-.515
あり	外壁	屋根	.079	.241	1.000	-.501	.658
		バルコニー	.177	.242	1.000	-.403	.757
	屋根	外壁	-.079	.241	1.000	-.658	.501
		バルコニー	.098	.242	1.000	-.483	.679
	バルコニー	外壁	-.177	.242	1.000	-.757	.403
		屋根	-.098	.242	1.000	-.679	.483

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

規則性		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
なし	対比	52.725	2	26.362	20.241	.000
	誤差	837.455	643	1.302		
あり	対比	.698	2	.349	.268	.765
	誤差	837.455	643	1.302		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

9. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

規則性	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	ページ	3.156	.103	2.953	3.359
	赤	3.008	.103	2.805	3.211
	青	3.039	.104	2.836	3.243
あり	ページ	3.415	.159	3.102	3.728
	赤	3.052	.159	2.740	3.363
	青	2.518	.159	2.205	2.830

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ページ	なし	あり	-.259	.210	.217	-.670	.152
	あり	なし	.259	.210	.217	-.152	.670
赤	なし	あり	-.044	.209	.833	-.454	.366
	あり	なし	.044	.209	.833	-.366	.454
青	なし	あり	-.522*	.210	.013	-.110	.933
	あり	なし	.522*	.210	.013	-.933	-.110

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

色相		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページ	対比	1.990	1	1.990	1.528	.217
	誤差	837.455	643	1.302		
赤	対比	.058	1	.058	.045	.833
	誤差	837.455	643	1.302		
青	対比	8.071	1	8.071	6.197	.013
	誤差	837.455	643	1.302		

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

10. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

規則性	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	ページ	3.156	.103	2.953	3.359
	赤	3.008	.103	2.805	3.211
	青	3.039	.104	2.836	3.243
あり	ページ	3.415	.159	3.102	3.728
	赤	3.052	.159	2.740	3.363
	青	2.518	.159	2.205	2.830

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	ページ	赤	.148	.153	.999	-.219	.515
		青	.116	.153	1.000	-.250	.483
	赤	ページ	-.148	.153	.999	-.515	.219
		青	-.032	.153	1.000	-.399	.336
	青	ページ	-.116	.153	1.000	-.483	.250
		赤	.032	.153	1.000	-.336	.399
あり	ページ	赤	.363	.242	.401	-.217	.943
		青	.897*	.242	.001	.316	1.478
	赤	ページ	-.363	.242	.401	-.943	.217
		青	.534	.241	.082	-.045	1.114
	青	ページ	-.897*	.242	.001	-1.478	-.316
		赤	-.534	.241	.082	-1.114	.045

推定周辺平均に基づいた
*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

規則性		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
なし	対比	1.358	2	.679	.521	.594
	誤差	837.455	643	1.302		
あり	対比	18.117	2	9.059	6.955	.001
	誤差	837.455	643	1.302		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 学習経験なし「住みたい」

被験者間因子

	値ラベル	N
部位		
1.00	外壁	234
2.00	屋根	234
3.00	バルコニー	234
色相		
1.00	ベージュ	234
2.00	赤	234
3.00	青	234
トーン		
1.00	同じ	234
2.00	高い	234
3.00	低い	234
規則性		
1.00	なし	468
2.00	あり	234

被験者間効果の検定

従属変数: 住みたい

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	143.462 ^a	25	5.738	4.073	.000
切片	4523.077	1	4523.077	3210.079	.000
部位	28.774	2	14.387	10.211	.000
色相	32.928	2	16.464	11.685	.000
トーン	8.251	2	4.126	2.928	.054
規則性	.923	1	.923	.655	.419
部位 * 色相	32.423	4	8.106	5.753	.000
部位 * トーン	11.577	4	2.894	2.054	.085
部位 * 規則性	2.214	2	1.107	.786	.456
色相 * トーン	14.038	4	3.510	2.491	.042
色相 * 規則性	10.009	2	5.004	3.552	.029
トーン * 規則性	4.009	2	2.004	1.422	.242
誤差	952.500	676	1.409		
総和	6233.000	702			
修正総和	1095.962	701			

a. R2乗 = .131 (調整済みR2乗 = .099)

1. 部位

推定値

従属変数: 住みたい

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	2.658	.085	2.491	2.826
屋根	2.985	.085	2.818	3.153
バルコニー	2.434	.085	2.266	2.601

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.327*	.123	.024	-.621	-.032
	バルコニー	.224	.123	.204	-.070	.519
屋根	外壁	.327*	.123	.024	.032	.621
	バルコニー	.551*	.123	.000	.257	.846
バルコニー	外壁	-.224	.123	.204	-.519	.070
	屋根	-.551*	.123	.000	-.846	-.257

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	28.774	2	14.387	10.211	.000
誤差	952.500	676	1.409		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 住みたい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	2.953	.085	2.786	3.120
赤	2.754	.085	2.587	2.922
青	2.370	.085	2.202	2.537

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	-.199	.123	.317	-.096	.493
	青	-.583*	.123	.000	-.289	.878
赤	ベージュ	.199	.123	.317	-.493	.096
	青	-.385*	.123	.005	-.090	.679
青	ベージュ	.583*	.123	.000	-.878	-.289
	赤	.385*	.123	.005	-.679	-.090

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	32.928	2	16.464	11.685	.000
誤差	952.500	676	1.409		

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.333	.156	3.027	3.640
	屋根	2.788	.156	2.482	3.095
	バルコニー	2.737	.156	2.431	3.043
赤	外壁	2.532	.156	2.226	2.838
	屋根	3.218	.156	2.912	3.524
	バルコニー	2.513	.156	2.207	2.819
青	外壁	2.109	.156	1.803	2.415
	屋根	2.949	.156	2.642	3.255
	バルコニー	2.051	.156	1.745	2.358

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	-.801*	.226	.001	-.258	1.344
		青	1.224*	.226	.000	.681	1.767
	赤	ベージュ	-.801*	.226	.001	-1.344	-.258
		青	.423	.226	.186	-.120	.966
	青	ベージュ	-1.224*	.226	.000	-1.767	-.681
		赤	-.423	.226	.186	-.966	.120
屋根	ベージュ	赤	-.429	.226	.174	-.972	.113
		青	-.160	.226	1.000	-.703	.383
	赤	ベージュ	.429	.226	.174	-.113	.972
		青	.269	.226	.703	-.274	.812
	青	ベージュ	.160	.226	1.000	-.383	.703
		赤	-.269	.226	.703	-.812	.274
バルコニー	ベージュ	赤	.224	.226	.965	-.319	.767
		青	.686*	.226	.008	.143	1.229
	赤	ベージュ	-.224	.226	.965	-.767	.319
		青	.462	.226	.125	-.081	1.004
	青	ベージュ	-.686*	.226	.008	-1.229	-.143
		赤	-.462	.226	.125	-1.004	.081

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁		42.581	2	21.290	15.110	.000
	誤差	952.500	676	1.409		
屋根		5.187	2	2.594	1.841	.160
	誤差	952.500	676	1.409		
バルコニー		13.468	2	6.734	4.779	.009
	誤差	952.500	676	1.409		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 住みたい

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.333	.156	3.027	3.640
	屋根	2.788	.156	2.482	3.095
	バルコニー	2.737	.156	2.431	3.043
赤	外壁	2.532	.156	2.226	2.838
	屋根	3.218	.156	2.912	3.524
	バルコニー	2.513	.156	2.207	2.819
青	外壁	2.109	.156	1.803	2.415
	屋根	2.949	.156	2.642	3.255
	バルコニー	2.051	.156	1.745	2.358

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns for color (色相), part (部位), and statistical values (average difference, standard error, significance, 95% CI).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table for ANOVA with columns for color (色相), comparison (対比), sum of squares, df, F value, and significance.

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

Table for interaction effect showing mean values for different combinations of tone and color.

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns for color (色相), tone (トーン), and statistical values (average difference, standard error, significance, 95% CI).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table for ANOVA with columns for color (色相), comparison (対比), sum of squares, df, F value, and significance.

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

Table for interaction effect showing mean values for different combinations of tone and color.

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns for tone (トーン), color (色相), and statistical values (average difference, standard error, significance, 95% CI).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

Table for ANOVA with columns for tone (トーン), comparison (対比), sum of squares, df, F value, and significance.

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

7. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

Table for interaction effect showing mean values for different combinations of regularity and color.

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Table with columns for color (色相), regularity (規則性), and statistical values (average difference, standard error, significance, 95% CI).

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

ANOVA table for '住みたい' with columns: 色相, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

F 値は 規則性の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

8. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 住みたい

Interaction table for '住みたい' showing mean values and 95% confidence intervals for combinations of 規則性 and 色相.

ヘアごとの比較

従属変数: 住みたい

Comparison table for '住みたい' showing pairwise differences between color categories and their 95% confidence intervals.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 住みたい

ANOVA table for '住みたい' with columns: 規則性, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 学習経験あり「親しみのある」

被験者間因子

Table of subject factors including 部位, 色相, トーン, and 規則性 with their respective levels and counts.

被験者間効果の検定

従属変数: 親しみのある

ANOVA table for '親しみのある' with columns: ソース, タイプ III 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

a. R2乗 = .199 (調整済みR2乗 = .168)

1. 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

Interaction table for '親しみのある' showing mean values and 95% confidence intervals for combinations of 部位 and 色相.

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Comparison table for '親しみのある' showing pairwise differences between location categories and their 95% confidence intervals.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

ANOVA table for '親しみのある' with columns: 色相, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 親しみのある

Interaction table for '親しみのある' showing mean values and 95% confidence intervals for combinations of 色相 and トーン.

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Comparison table for '親しみのある' showing pairwise differences between tone categories and their 95% confidence intervals.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

ANOVA table for '親しみのある' with columns: トーン, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率.

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

3. トーン

推定値

従属変数: 親しみのある

Interaction table for '親しみのある' showing mean values and 95% confidence intervals for combinations of トーン and 色相.

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	.088	.118	1.000	-.195	.371
	低い	.083	.118	1.000	-.200	.366
高い	同じ	-.088	.118	1.000	-.371	.195
	低い	-.005	.118	1.000	-.289	.278
低い	同じ	-.083	.118	1.000	-.366	.200
	高い	.005	.118	1.000	-.278	.289

推定周辺平均に基づいた

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	.873	2	.437	.352	.704
誤差	798.134	643	1.241		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内のトーンの単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.801	.149	3.507	4.094
	屋根	3.422	.150	3.127	3.717
	バルコニー	3.168	.150	2.873	3.463
赤	外壁	3.351	.149	3.058	3.645
	屋根	3.581	.149	3.287	3.874
	バルコニー	2.987	.150	2.692	3.283
青	外壁	2.367	.150	2.071	2.662
	屋根	3.334	.151	3.037	3.630
	バルコニー	2.579	.149	2.285	2.872

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	.449	.217	.116	-.071	.969
		青	1.434*	.218	.000	.912	1.957
		青	-.449	.217	.116	-.969	.071
	赤	ベージュ	.985*	.218	.000	.463	1.507
		青	-.434*	.218	.000	-1.957	-.912
		青	-.985*	.218	.000	-1.507	-.463
屋根	ベージュ	赤	-.158	.217	1.000	-.680	.364
		青	.089	.218	1.000	-.435	.612
		青	.158	.217	1.000	-.364	.680
	赤	ベージュ	.247	.218	.771	-.276	.770
		青	-.089	.218	1.000	-.612	.435
		青	-.247	.218	.771	-.770	.276
バルコニー	ベージュ	赤	.180	.218	1.000	-.343	.703
		青	.589*	.217	.021	.068	1.110
		青	-.180	.218	1.000	-.703	.343
	赤	ベージュ	.409	.217	.182	-.113	.931
		青	-.589*	.217	.021	-1.110	-.068
		青	-.409	.217	.182	-.931	.113

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	56.306	2	28.153	22.681	.000
	誤差	798.134	643	1.241		
屋根	対比	1.642	2	.821	.661	.517
	誤差	798.134	643	1.241		
バルコニー	対比	9.597	2	4.799	3.866	.021
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値は色相の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.801	.149	3.507	4.094
	屋根	3.422	.150	3.127	3.717
	バルコニー	3.168	.150	2.873	3.463
赤	外壁	3.351	.149	3.058	3.645
	屋根	3.581	.149	3.287	3.874
	バルコニー	2.987	.150	2.692	3.283
青	外壁	2.367	.150	2.071	2.662
	屋根	3.334	.151	3.037	3.630
	バルコニー	2.579	.149	2.285	2.872

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.378	.217	.247	-.144	.900
		バルコニー	.633*	.217	.011	.112	1.154
		バルコニー	-.378	.217	.247	-.900	.144
	屋根	外壁	.255	.218	.729	-.268	.777
		バルコニー	-.633*	.217	.011	-1.154	-.112
		バルコニー	-.255	.218	.729	-.777	.268
赤	外壁	屋根	-.229	.217	.872	-.750	.291
		バルコニー	.364	.217	.284	-.158	.886
		バルコニー	.229	.217	.872	-.291	.750
	屋根	外壁	.593*	.218	.020	.071	1.116
		バルコニー	-.364	.217	.284	-.886	.158
		バルコニー	-.593*	.218	.020	-1.116	-.071
青	外壁	屋根	-.967*	.218	.000	-1.492	-.443
		バルコニー	-.212	.217	.988	-.734	.310
		バルコニー	.967*	.218	.000	.443	1.492
	屋根	外壁	.755*	.218	.002	.233	1.277
		バルコニー	.212	.217	.988	-.310	.734
		バルコニー	-.755*	.218	.002	-1.277	-.233

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

色相	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ベージュ	対比	10.679	2	5.340	4.302	.014
	誤差	798.134	643	1.241		
赤	対比	9.374	2	4.687	3.776	.023
	誤差	798.134	643	1.241		
青	対比	26.896	2	13.448	10.834	.000
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値は部位の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

トーン	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	外壁	3.037	.149	2.743	3.330
	屋根	3.524	.150	3.229	3.819
	バルコニー	3.140	.150	2.845	3.435
高い	外壁	3.074	.150	2.779	3.369
	屋根	3.731	.150	3.436	4.026
	バルコニー	2.631	.150	2.338	2.925
低い	外壁	3.408	.150	3.114	3.701
	屋根	3.082	.150	2.787	3.377
	バルコニー	2.962	.150	2.667	3.257

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	同じ	高い	-.037	.217	1.000	-.559	.485
		低い	-.371	.217	.263	-.891	.149
		低い	.037	.217	1.000	-.485	.559
	高い	同じ	-.334	.218	.377	-.856	.189
		低い	.371	.217	.263	-.149	.891
		高い	.334	.218	.377	-.189	.856
屋根	同じ	高い	-.207	.218	1.000	-.730	.315
		低い	.442	.218	.130	-.082	.966
		低い	.207	.218	1.000	-.315	.730
	高い	同じ	.649*	.218	.009	.127	1.172
		低い	-.442	.218	.130	-.966	.082
		低い	-.649*	.218	.009	-1.172	-.127
バルコニー	同じ	高い	.509	.218	.059	-.013	1.031
		低い	.178	.218	1.000	-.345	.701
		低い	-.509	.218	.059	-1.031	.013
	高い	同じ	-.331	.217	.384	-.852	.190
		低い	-.178	.218	1.000	-.701	.345
		高い	.331	.217	.384	-.190	.852

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	4.397	2	2.199	1.771	.171
	誤差	798.134	643	1.241		
屋根	対比	11.501	2	5.750	4.633	.010
	誤差	798.134	643	1.241		
バルコニー	対比	7.008	2	3.504	2.823	.060
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値はトーンが多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

7. トーン * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

トーン	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	外壁	3.037	.149	2.743	3.330
	屋根	3.524	.150	3.229	3.819
	バルコニー	3.140	.150	2.845	3.435
高い	外壁	3.074	.150	2.779	3.369
	屋根	3.731	.150	3.436	4.026
	バルコニー	2.631	.150	2.338	2.925
低い	外壁	3.408	.150	3.114	3.701
	屋根	3.082	.150	2.787	3.377
	バルコニー	2.962	.150	2.667	3.257

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	外壁	屋根	-.487	.217	.076	-1.009	.035
		バルコニー	-.104	.217	1.000	-.625	.418
		外壁	.487	.217	.076	-.035	1.009
	バルコニー	外壁	.383	.218	.238	-.140	.907
		外壁	.104	.217	1.000	-.418	.625
		屋根	-.383	.218	.238	-.907	.140
高い	外壁	屋根	-.657*	.218	.008	-1.180	-.134
		バルコニー	.443	.218	.127	-.080	.965
		外壁	.657*	.218	.008	.134	1.180
	バルコニー	外壁	1.100*	.217	.000	.579	1.621
		外壁	-.443	.218	.127	-.965	.080
		屋根	-1.100*	.217	.000	-1.621	-.579
低い	外壁	屋根	.326	.218	.404	-.196	.848
		バルコニー	.445	.217	.122	-.076	.966
		外壁	-.326	.218	.404	-.848	.196
	バルコニー	外壁	.119	.218	1.000	-.403	.642
		外壁	-.445	.217	.122	-.966	.076
		屋根	-.119	.218	1.000	-.642	.403

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

トーン		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	6.891	2	3.445	2.776	.063
	誤差	798.134	643	1.241		
高い	対比	32.252	2	16.126	12.991	.000
	誤差	798.134	643	1.241		
低い	対比	5.600	2	2.800	2.256	.106
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

8. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

規則性	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	外壁	3.008	.101	2.810	3.206
	屋根	3.714	.101	3.515	3.913
	バルコニー	2.967	.101	2.769	3.165
あり	外壁	3.338	.155	3.034	3.642
	屋根	3.177	.156	2.871	3.482
	バルコニー	2.855	.156	2.550	3.161

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

部位	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	なし	あり	-.330	.204	.106	-.730	.071
	あり	なし	.330	.204	.106	-.071	.730
屋根	なし	あり	-.537*	.205	.009	-.136	.939
	あり	なし	.537*	.205	.009	-.939	-.136
バルコニー	なし	あり	.112	.205	.585	-.290	.513
	あり	なし	-.112	.205	.585	-.513	.290

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

部位		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	3.243	1	3.243	2.613	.106
	誤差	798.134	643	1.241		
屋根	対比	8.565	1	8.565	6.900	.009
	誤差	798.134	643	1.241		
バルコニー	対比	.370	1	.370	.298	.585
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

9. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

規則性	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	外壁	3.008	.101	2.810	3.206
	屋根	3.714	.101	3.515	3.913
	バルコニー	2.967	.101	2.769	3.165
あり	外壁	3.338	.155	3.034	3.642
	屋根	3.177	.156	2.871	3.482
	バルコニー	2.855	.156	2.550	3.161

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

規則性 (I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a		
					下限	上限	
なし	外壁	屋根	-.706*	.149	.000	-1.065	-.348
		バルコニー	.041	.149	1.000	-.317	.399
		外壁	.706*	.149	.000	.348	1.065
	バルコニー	外壁	.747*	.149	.000	.389	1.105
		外壁	-.041	.149	1.000	-.399	.317
		屋根	-.747*	.149	.000	-1.105	-.389
あり	外壁	屋根	.161	.236	1.000	-.405	.727
		バルコニー	.482	.236	.124	-.084	1.048
		外壁	-.161	.236	1.000	-.727	.405
	バルコニー	外壁	.321	.236	.522	-.246	.888
		外壁	-.482	.236	.124	-1.048	.084
		屋根	-.321	.236	.522	-.888	.246

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

規則性		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
なし	対比	39.284	2	19.642	15.824	.000
	誤差	798.134	643	1.241		
あり	対比	5.374	2	2.687	2.165	.116
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

10. トーン * 色相

推定値

従属変数: 親しみのある

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ベージュ	3.167	.149	2.873	3.460
	赤	3.578	.150	3.283	3.873
	青	2.956	.150	2.661	3.251
高い	ベージュ	3.519	.150	3.225	3.813
	赤	3.174	.149	2.880	3.468
	青	2.743	.151	2.447	3.040
低い	ベージュ	3.705	.151	3.408	4.002
	赤	3.167	.150	2.874	3.461
	青	2.580	.149	2.286	2.873

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	同じ	高い	-.352	.217	.314	-.873	.168
		低い	-.538*	.218	.041	-1.061	-.016
		高い	.352	.217	.314	-.168	.873
	高い	同じ	-.186	.218	1.000	-.709	.337
		低い	.538*	.218	.041	.016	1.061
		高い	.186	.218	1.000	-.337	.709
赤	同じ	高い	.404	.217	.191	-.118	.926
		低い	.410	.218	.179	-.112	.933
		高い	-.404	.217	.191	-.926	.118
	低い	同じ	.007	.217	1.000	-.514	.527
		低い	-.410	.218	.179	-.933	.112
		高い	-.007	.217	1.000	-.527	.514
青	同じ	高い	.213	.218	.990	-.311	.737
		低い	.377	.217	.252	-.145	.899
		高い	-.213	.218	.990	-.737	.311
	低い	同じ	.164	.218	1.000	-.359	.686
		低い	-.377	.217	.252	-.899	.145
		高い	-.164	.218	1.000	-.686	.359

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

色相		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ベージュ	対比	7.841	2	3.921	3.159	.043
	誤差	798.134	643	1.241		
赤	対比	5.790	2	2.895	2.332	.098
	誤差	798.134	643	1.241		
青	対比	3.741	2	1.870	1.507	.222
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

11. トーン * 色相

推定値

従属変数: 親しみのある

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ページ	3.167	.149	2.873	3.460
	赤	3.578	.150	3.283	3.873
	青	2.956	.150	2.661	3.251
高い	ページ	3.519	.150	3.225	3.813
	赤	3.174	.149	2.880	3.468
	青	2.743	.151	2.447	3.040
低い	ページ	3.705	.151	3.408	4.002
	赤	3.167	.150	2.874	3.461
	青	2.580	.149	2.286	2.873

ペアごとの比較

従属変数: 親しみのある

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
同じ	ページ	赤	-.411	.217	.177	-.933	.111
		青	.211	.217	1.000	-.311	.732
	赤	ページ	.411	.217	.177	-.111	.933
		青	.622*	.218	.014	.098	1.145
	青	ページ	-.211	.217	1.000	-.732	.311
		赤	-.622*	.218	.014	-1.145	-.098
高い	ページ	赤	.345	.217	.336	-.176	.866
		青	.776*	.218	.001	.253	1.298
	赤	ページ	-.345	.217	.336	-.866	.176
		青	.431	.218	.145	-.092	.953
	青	ページ	-.776*	.218	.001	-1.298	-.253
		赤	-.431	.218	.145	-.953	.092
低い	ページ	赤	.537*	.218	.042	.015	1.060
		青	1.125*	.218	.000	.603	1.648
	赤	ページ	-.537*	.218	.042	-1.060	-.015
		青	.588*	.217	.021	.067	1.109
	青	ページ	-1.125*	.218	.000	-1.648	-.603
		赤	-.588*	.217	.021	-1.109	-.067

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

トーン	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	10.440	2	5.220	4.205	.015
	誤差	798.134	643	1.241		
高い	対比	15.806	2	7.903	6.367	.002
	誤差	798.134	643	1.241		
低い	対比	33.175	2	16.588	13.363	.000
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

12. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 親しみのある

規則性	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	ページ	3.327	.101	3.128	3.525
	赤	3.246	.101	3.048	3.445
	青	3.116	.101	2.918	3.315
あり	ページ	3.600	.156	3.295	3.906
	赤	3.367	.155	3.062	3.671
	青	2.403	.156	2.098	2.708

ペアごとの比較

従属変数: 親しみのある

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ページ	なし	あり	-.274	.205	.181	-.675	.128
	あり	なし	.274	.205	.181	-.128	.675
赤	なし	あり	-.120	.204	.556	-.521	.280
	あり	なし	.120	.204	.556	-.280	.521
青	なし	あり	.713*	.205	.001	.312	1.115
	あり	なし	-.713*	.205	.001	-1.115	-.312

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

色相	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページ	対比	2.225	1	2.225	1.792	.181
	誤差	798.134	643	1.241		
赤	対比	.432	1	.432	.348	.556
	誤差	798.134	643	1.241		
青	対比	15.100	1	15.100	12.165	.001
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

13. 規則性 * 色相

推定値

従属変数: 親しみのある

規則性	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	ページ	3.327	.101	3.128	3.525
	赤	3.246	.101	3.048	3.445
	青	3.116	.101	2.918	3.315
あり	ページ	3.600	.156	3.295	3.906
	赤	3.367	.155	3.062	3.671
	青	2.403	.156	2.098	2.708

ペアごとの比較

従属変数: 親しみのある

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
なし	ページ	赤	.080	.149	1.000	-.278	.438
		青	.210	.149	.477	-.148	.568
	赤	ページ	-.080	.149	1.000	-.438	.278
		青	.130	.149	1.000	-.229	.489
	青	ページ	-.210	.149	.477	-.568	.148
		赤	-.130	.149	1.000	-.489	.229
あり	ページ	赤	.234	.236	.966	-.332	.800
		青	1.197*	.236	.000	.630	1.765
	赤	ページ	-.234	.236	.966	-.800	.332
		青	.964*	.236	.000	.398	1.529
	青	ページ	-1.197*	.236	.000	-1.765	-.630
		赤	-.964*	.236	.000	-1.529	-.398

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

規則性	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
なし	対比	2.511	2	1.256	1.012	.364
	誤差	798.134	643	1.241		
あり	対比	35.880	2	17.940	14.453	.000
	誤差	798.134	643	1.241		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 学習経験なし「親しみのある」

被験者間因子

部位	値ラベル	N
1.00	外壁	234
	屋根	234
	バルコニー	234
色相	ページ	234
	赤	234
	青	234
トーン	同じ	234
	高い	234
	低い	234
規則性	なし	468
	あり	234

被験者間効果の検定

従属変数: 親しみのある

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	183.180 ^a	25	7.327	5.126	.000
切片	5692.257	1	5692.257	3982.371	.000
部位	34.528	2	17.264	12.078	.000
色相	50.169	2	25.085	17.549	.000
トーン	21.559	2	10.779	7.541	.001
規則性	.377	1	.377	.264	.608
部位 * 色相	31.631	4	7.908	5.532	.000
部位 * トーン	8.430	4	2.108	1.474	.208
部位 * 規則性	3.644	2	1.822	1.275	.280
色相 * トーン	8.075	4	2.019	1.412	.228
色相 * 規則性	8.413	2	4.207	2.943	.053
トーン * 規則性	1.926	2	.963	.674	.510
誤差	966.250	676	1.429		
総和	7588.000	702			
修正総和	1149.430	701			

a. R2乗 = .159 (調整済みR2乗 = .128)

1. 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	2.881	.086	2.713	3.050
屋根	3.369	.086	3.200	3.537
バルコニー	2.811	.086	2.642	2.980

ペアごとの比較

従属変数: 親しみのある

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.487*	.124	.000	-.784	-.191
	バルコニー	.071	.124	1.000	-.226	.367
屋根	外壁	.487*	.124	.000	.191	.784
	バルコニー	.558*	.124	.000	.261	.854
バルコニー	外壁	-.071	.124	1.000	-.367	.226
	屋根	-.558*	.124	.000	-.854	-.261

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

Table with 5 columns: 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows for 対比 and 誤差.

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 親しみのある

Table with 5 columns: 色相, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for ベージュ, 赤, 青.

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table with 7 columns: (I)色相, (J)色相, 平均値の差(I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for ベージュ, 赤, 青 comparisons.

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

Table with 5 columns: 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows for 対比 and 誤差.

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

3. トーン

推定値

従属変数: 親しみのある

Table with 5 columns: トーン, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for 同じ, 高い, 低い.

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table with 7 columns: (I)トーン, (J)トーン, 平均値の差(I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for 同じ, 高い, 低い comparisons.

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

Table with 5 columns: 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows for 対比 and 誤差.

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の トーン の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

Table with 6 columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for ベージュ, 赤, 青 comparisons.

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table with 7 columns: 部位, (I)色相, (J)色相, 平均値の差(I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for 外壁, 屋根, パルコニー comparisons.

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

Table with 6 columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows for 外壁, 屋根, パルコニー comparisons.

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 親しみのある

Table with 6 columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for ベージュ, 赤, 青 comparisons.

ヘアごとの比較

従属変数: 親しみのある

Table with 7 columns: 色相, (I)部位, (J)部位, 平均値の差(I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows for ベージュ, 赤, 青 comparisons.

推定周辺平均に基づいた

- *. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 親しみのある

Table with 6 columns: 色相, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows for ベージュ, 赤, 青 comparisons.

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

一変量の分散分析 学習経験あり「美しい」

被験者間因子			
	値ラベル	N	
部位	1.00 外壁	224	
	2.00 屋根	222	
	3.00 バルコニー	223	
色相	1.00 ベージュ	223	
	2.00 赤	224	
	3.00 青	222	
トーン	1.00 同じ	223	
	2.00 高い	223	
	3.00 低い	223	
規則性	1.00 なし	446	
	2.00 あり	223	

被験者間効果の検定

従属変数: 美しい						
ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	
修正モデル	170.961 ^a	25	6.838	6.348	.000	
切片	6410.475	1	6410.475	5951.015	.000	
部位	28.341	2	14.171	13.155	.000	
色相	46.451	2	23.226	21.561	.000	
トーン	6.876	2	3.438	3.192	.042	
規則性	.002	1	.002	.002	.969	
部位 * 色相	21.592	4	5.398	5.011	.001	
部位 * トーン	13.042	4	3.261	3.027	.017	
部位 * 規則性	5.613	2	2.806	2.605	.075	
色相 * トーン	12.051	4	3.013	2.797	.025	
色相 * 規則性	5.047	2	2.524	2.343	.097	
トーン * 規則性	1.030	2	.515	.478	.620	
誤差	692.644	643	1.077			
総和	8072.000	669				
修正総和	863.605	668				

a. R2乗 = .198 (調整済みR2乗 = .167)

1. 部位

推定値

従属変数: 美しい					
部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間		
			下限	上限	
外壁	3.161	.076	3.011	3.311	
屋根	3.607	.077	3.456	3.757	
バルコニー	3.084	.076	2.933	3.234	

ペアごとの比較

従属変数: 美しい						
(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.446*	.110	.000	-.709	-.182
	バルコニー	.077	.110	1.000	-.186	.341
屋根	外壁	.446*	.110	.000	.182	.709
	バルコニー	.523*	.110	.000	.259	.787
バルコニー	外壁	-.077	.110	1.000	-.341	.186
	屋根	-.523*	.110	.000	-.787	-.259

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 美しい

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	28.341	2	14.171	13.155	.000
誤差	692.644	643	1.077		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 美しい

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ベージュ	3.684	.076	3.534	3.834
赤	3.187	.076	3.037	3.336
青	2.981	.077	2.830	3.131

ペアごとの比較

従属変数: 美しい

(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	-.497*	.110	.000	-.761	-.233
	青	-.703*	.110	.000	-.967	-.439
赤	ベージュ	.497*	.110	.000	-.233	-.761
	青	.206	.110	.183	-.057	.470
青	ベージュ	.703*	.110	.000	-.439	-.967
	赤	.206	.110	.183	-.470	-.057

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 美しい

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	46.451	2	23.226	21.561	.000
誤差	692.644	643	1.077		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 美しい

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.827	.139	3.553	4.100
	屋根	3.737	.140	3.462	4.012
	バルコニー	3.487	.140	3.212	3.762
赤	外壁	3.110	.139	2.837	3.383
	屋根	3.596	.139	3.322	3.869
	バルコニー	2.855	.140	2.580	3.130
青	外壁	2.546	.140	2.271	2.821
	屋根	3.487	.141	3.210	3.763
	バルコニー	2.909	.139	2.636	3.183

ペアごとの比較

従属変数: 美しい

部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	.717*	.202	.001	.232	1.201
		青	1.281*	.203	.000	.794	1.768
	赤	ベージュ	-.717*	.202	.001	-1.201	-.232
		青	-.564*	.203	.017	-.078	1.050
	青	ベージュ	-1.281*	.203	.000	-1.768	-.794
		赤	-.564*	.203	.017	-1.050	-.078
屋根	ベージュ	赤	.142	.203	1.000	-.344	.628
		青	.251	.203	.653	-.237	.739
	赤	ベージュ	-.142	.203	1.000	-.628	.344
		青	.109	.203	1.000	-.378	.596
	青	ベージュ	-.251	.203	.653	-.739	.237
		赤	-.109	.203	1.000	-.596	.378
バルコニー	ベージュ	赤	.632*	.203	.006	.145	1.120
		青	.578*	.202	.013	.092	1.063
	赤	ベージュ	-.632*	.203	.006	-1.120	-.145
		青	-.055	.203	1.000	-.541	.432
	青	ベージュ	-.578*	.202	.013	-1.063	-.092
		赤	.055	.203	1.000	-.432	.541

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 美しい

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁		43.212	2	21.606	20.058	.000
屋根	対比	1.649	2	.825	.766	.465
	誤差	692.644	643	1.077		
バルコニー	対比	12.879	2	6.439	5.978	.003
	誤差	692.644	643	1.077		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 美しい

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ベージュ	外壁	3.827	.139	3.553	4.100
	屋根	3.737	.140	3.462	4.012
	バルコニー	3.487	.140	3.212	3.762
赤	外壁	3.110	.139	2.837	3.383
	屋根	3.596	.139	3.322	3.869
	バルコニー	2.855	.140	2.580	3.130
青	外壁	2.546	.140	2.271	2.821
	屋根	3.487	.141	3.210	3.763
	バルコニー	2.909	.139	2.636	3.183

ヘアごとの比較

色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
						従属変数: 美しい	
ページュ	外壁	屋根	.089	.203	1.000	-.397	.576
		バルコニー	.340	.202	.280	-.146	.826
		屋根	-.089	.203	1.000	-.576	.397
	バルコニー	外壁	.250	.203	.652	-.236	.737
		外壁	-.340	.202	.280	-.826	.146
		屋根	-.250	.203	.652	-.737	.236
赤	外壁	屋根	-.486*	.202	.050	-.970	-.001
		バルコニー	.255	.203	.623	-.231	.742
		屋根	.486*	.202	.050	.001	.970
	バルコニー	外壁	.741*	.203	.001	.254	1.228
		外壁	-.255	.203	.623	-.742	.231
		屋根	-.741*	.203	.001	-1.228	-.254
青	外壁	屋根	-.941*	.204	.000	-1.429	-.452
		バルコニー	-.363	.203	.221	-.849	.123
		屋根	.941*	.204	.000	.452	1.429
	バルコニー	外壁	.577*	.203	.014	.091	1.064
		外壁	.363	.203	.221	-.123	.849
		屋根	-.577*	.203	.014	-1.064	-.849

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

色相		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページュ	対比	3.265	2	1.632	1.515	.221
	誤差	692.644	643	1.077		
赤	対比	14.867	2	7.434	6.901	.001
	誤差	692.644	643	1.077		
青	対比	23.403	2	11.701	10.863	.000
	誤差	692.644	643	1.077		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 部位

推定値

トーン	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
				従属変数: 美しい	
同じ	外壁	3.237	.139	2.964	3.510
	屋根	3.686	.140	3.411	3.960
	バルコニー	3.364	.140	3.089	3.639
高い	外壁	3.048	.140	2.773	3.323
	屋根	3.914	.140	3.639	4.189
	バルコニー	2.847	.139	2.574	3.121
低い	外壁	3.198	.139	2.924	3.471
	屋根	3.220	.140	2.945	3.495
	バルコニー	3.040	.140	2.765	3.315

ヘアごとの比較

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
						従属変数: 美しい	
外壁	同じ	高い	.189	.203	1.000	-.297	.675
		低い	.039	.202	1.000	-.446	.524
		高い	-.189	.203	1.000	-.675	.297
	低い	高い	-.150	.203	1.000	-.636	.337
		同じ	-.039	.202	1.000	-.524	.446
		高い	.150	.203	1.000	-.337	.636
屋根	同じ	高い	-.228	.203	.781	-.715	.258
		低い	.466	.203	.067	-.022	.954
		高い	.228	.203	.781	-.258	.715
	低い	高い	.694*	.203	.002	.207	1.181
		同じ	-.466	.203	.067	-.954	.022
		高い	-.694*	.203	.002	-1.181	-.207
バルコニー	同じ	高い	.516*	.203	.033	.030	1.003
		低い	.324	.203	.333	-.163	.811
		高い	-.516*	.203	.033	-1.003	-.030
	低い	高い	-.193	.202	1.000	-.678	.293
		同じ	-.324	.203	.333	-.811	.163
		高い	.193	.202	1.000	-.293	.678

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

部位		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	1.044	2	.522	.484	.616
	誤差	692.644	643	1.077		
屋根	対比	13.097	2	6.549	6.079	.002
	誤差	692.644	643	1.077		
バルコニー	対比	7.139	2	3.570	3.314	.037
	誤差	692.644	643	1.077		

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

トーン	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
				従属変数: 美しい	
同じ	外壁	3.237	.139	2.964	3.510
	屋根	3.686	.140	3.411	3.960
	バルコニー	3.364	.140	3.089	3.639
高い	外壁	3.048	.140	2.773	3.323
	屋根	3.914	.140	3.639	4.189
	バルコニー	2.847	.139	2.574	3.121
低い	外壁	3.198	.139	2.924	3.471
	屋根	3.220	.140	2.945	3.495
	バルコニー	3.040	.140	2.765	3.315

ヘアごとの比較

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
						従属変数: 美しい	
同じ	外壁	屋根	-.449	.203	.081	-.935	.038
		バルコニー	-.126	.203	1.000	-.613	.360
		屋根	.449	.203	.081	-.038	.935
	バルコニー	外壁	.322	.203	.340	-.166	.810
		外壁	.126	.203	1.000	-.360	.613
		屋根	-.322	.203	.340	-.810	.166
高い	外壁	屋根	-.866*	.203	.000	-1.353	-.379
		バルコニー	.201	.203	.967	-.286	.687
		屋根	.866*	.203	.000	.379	1.353
	バルコニー	外壁	1.067*	.202	.000	.581	1.552
		外壁	-.201	.203	.967	-.687	.286
		屋根	-1.067*	.202	.000	-1.552	-.581
低い	外壁	屋根	-.022	.203	1.000	-.508	.465
		バルコニー	.158	.202	1.000	-.327	.643
		屋根	.022	.203	1.000	-.465	.508
	バルコニー	外壁	.180	.203	1.000	-.307	.667
		外壁	-.158	.202	1.000	-.643	.327
		屋根	-.180	.203	1.000	-.667	.307

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

トーン		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	5.607	2	2.804	2.603	.075
	誤差	692.644	643	1.077		
高い	対比	33.818	2	16.909	15.697	.000
	誤差	692.644	643	1.077		
低い	対比	1.012	2	.506	.470	.625
	誤差	692.644	643	1.077		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 学習経験なし「美しい」

被験者間因子			
部位	値レベル	N	
色相	1.00	外壁	234
	2.00	屋根	234
	3.00	バルコニー	234
トーン	1.00	ページュ	234
	2.00	赤	234
	3.00	青	234
規則性	1.00	同じ	234
	2.00	高い	234
	3.00	低い	234
性	1.00	なし	468
	2.00	あり	234

被験者間効果の検定

Table with 6 columns: ソース, タイプ III 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows include 修正モデル, 切片, 部位, 色相, トーン, etc.

a. R2乗 = .178 (調整済みR2乗 = .148)

1. 部位

推定値

従属変数: 美しい

Table with 5 columns: 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows: 外壁, 屋根, バルコニー.

へアごとの比較

従属変数: 美しい

Table with 7 columns: (I) 部位, (J) 部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows: 外壁, 屋根, バルコニー.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 美しい

Table with 6 columns: 対比, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows: 対比, 誤差.

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 美しい

Table with 5 columns: 色相, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows: ベージュ, 赤, 青.

へアごとの比較

従属変数: 美しい

Table with 7 columns: (I) 色相, (J) 色相, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows: ベージュ, 赤, 青.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 美しい

Table with 6 columns: 対比, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows: 対比, 誤差.

各F値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 美しい

Table with 6 columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows: ベージュ, 赤, 青.

へアごとの比較

従属変数: 美しい

Table with 8 columns: 部位, (I) 色相, (J) 色相, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows: 外壁, 屋根, バルコニー.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 美しい

Table with 6 columns: 部位, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows: 外壁, 屋根, バルコニー.

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 美しい

Table with 6 columns: 色相, 部位, 平均値, 標準誤差, 95%信頼区間 (下限, 上限). Rows: ベージュ, 赤, 青.

へアごとの比較

従属変数: 美しい

Table with 8 columns: 色相, (I) 部位, (J) 部位, 平均値の差 (I-J), 標準誤差, 有意確率, 差の95%信頼区間 (下限, 上限). Rows: ベージュ, 赤, 青.

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 美しい

Table with 6 columns: 色相, 対比, 平方和, 自由度, 平均平方, F 値, 有意確率. Rows: ベージュ, 赤, 青.

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したへアごとの比較に基づいています。

■一変量の分散分析 学習経験あり「癒される」

	値ラベル	N
部位	1.00 外壁	224
	2.00 屋根	222
	3.00 バルコニー	223
色相	1.00 ベージュ	223
	2.00 赤	224
	3.00 青	222
トーン	1.00 同じ	223
	2.00 高い	223
	3.00 低い	223
規則性	1.00 なし	446
	2.00 あり	223

従属変数: 癒される						
ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	
修正モデル	194.007 ^a	25	7.760	7.512	.000	
切片	5641.531	1	5641.531	5461.077	.000	
部位	19.074	2	9.537	9.232	.000	
色相	47.052	2	23.526	22.773	.000	
トーン	4.844	2	2.422	2.345	.097	
規則性	1.037	1	1.037	1.004	.317	
部位 * 色相	32.740	4	8.185	7.923	.000	
部位 * トーン	21.428	4	5.357	5.186	.000	
部位 * 規則性	8.354	2	4.177	4.044	.018	
色相 * トーン	11.603	4	2.901	2.808	.025	
色相 * 規則性	14.594	2	7.297	7.064	.001	
トーン * 規則性	1.135	2	.568	.549	.578	
誤差	664.247	643	1.033			
総和	7257.000	669				
修正総和	858.254	668				

a. R2乗 = .226 (調整済みR2乗 = .196)

1. 部位

従属変数: 癒される					
部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間		
			下限	上限	
外壁	2.993	.075	2.847	3.139	
屋根	3.343	.075	3.196	3.490	
バルコニー	2.905	.075	2.758	3.052	

従属変数: 癒される						
(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
外壁	屋根	-.350*	.108	.004	-.608	-.092
	バルコニー	.088	.108	1.000	-.171	.346
屋根	外壁	.350*	.108	.004	.092	.608
	バルコニー	.438*	.108	.000	.179	.696
バルコニー	外壁	-.088	.108	1.000	-.346	.171
	屋根	-.438*	.108	.000	-.696	-.179

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	19.074	2	9.537	9.232	.000
誤差	664.247	643	1.033		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

2. 色相

従属変数: 癒される					
色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間		
			下限	上限	
ベージュ	3.478	.075	3.331	3.625	
赤	2.999	.075	2.852	3.145	
青	2.764	.075	2.617	2.912	

従属変数: 癒される						
(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ベージュ	赤	-.479*	.108	.000	-.737	-.221
	青	-.714*	.108	.000	-.973	-.455
赤	ベージュ	.479*	.108	.000	-.221	.221
	青	-.234	.108	.089	-.492	.024
青	ベージュ	.714*	.108	.000	-.455	.024
	赤	.234	.108	.089	-.024	.492

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	47.052	2	23.526	22.773	.000
誤差	664.247	643	1.033		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. 色相 * 部位

従属変数: 癒される						
色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間		
				下限	上限	
ベージュ	外壁	3.852	.136	3.584	4.120	
	屋根	3.409	.137	3.140	3.679	
	バルコニー	3.173	.137	2.904	3.443	
赤	外壁	2.841	.136	2.573	3.109	
	屋根	3.306	.136	3.038	3.574	
	バルコニー	2.849	.137	2.580	3.119	
青	外壁	2.286	.137	2.017	2.555	
	屋根	3.314	.138	3.043	3.584	
	バルコニー	2.694	.136	2.426	2.961	

従属変数: 癒される							
部位	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ベージュ	赤	1.011*	.198	.000	.536	1.485
		青	1.566*	.198	.000	1.089	2.042
	赤	ベージュ	-1.011*	.198	.000	-1.485	-.536
		青	-.555*	.198	.016	-.079	1.032
	青	ベージュ	-1.566*	.198	.000	-2.042	-1.089
		赤	-.555*	.198	.016	-1.032	-.079
屋根	ベージュ	赤	.103	.198	1.000	-.373	.580
		青	.096	.198	1.000	-.382	.574
	赤	ベージュ	-.103	.198	1.000	-.580	.373
		青	-.008	.198	1.000	-.484	.469
	青	ベージュ	-.096	.198	1.000	-.574	.382
		赤	.008	.198	1.000	-.469	.484
バルコニー	ベージュ	赤	.324	.199	.310	-.153	.801
		青	.480*	.198	.047	.004	.955
	赤	ベージュ	-.324	.199	.310	-.801	.153
		青	.156	.198	1.000	-.321	.632
	青	ベージュ	-.480*	.198	.047	-.955	-.004
		赤	-.156	.198	1.000	-.632	.321

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	66.154	2	33.077	32.019	.000
	誤差	664.247	643	1.033		
屋根	対比	.347	2	.173	.168	.845
	誤差	664.247	643	1.033		
バルコニー	対比	6.303	2	3.151	3.051	.048
	誤差	664.247	643	1.033		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

従属変数: 癒される						
色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間		
				下限	上限	
ベージュ	外壁	3.852	.136	3.584	4.120	
	屋根	3.409	.137	3.140	3.679	
	バルコニー	3.173	.137	2.904	3.443	
赤	外壁	2.841	.136	2.573	3.109	
	屋根	3.306	.136	3.038	3.574	
	バルコニー	2.849	.137	2.580	3.119	
青	外壁	2.286	.137	2.017	2.555	
	屋根	3.314	.138	3.043	3.584	
	バルコニー	2.694	.136	2.426	2.961	

従属変数: 癒される							
色相	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ベージュ	外壁	屋根	.442	.198	.078	-.034	.919
		バルコニー	.678*	.198	.002	.203	1.154
		屋根	-.442	.198	.078	-.919	.034
	屋根	外壁	-.442	.198	.078	-.919	.034
		バルコニー	.236	.199	.705	-.241	.713
		外壁	-.678*	.198	.002	-1.154	-.203
赤	外壁	屋根	-.465	.198	.057	-.940	.010
		バルコニー	-.008	.198	1.000	-.484	.468
		屋根	.465	.198	.057	-.010	.940
	屋根	外壁	.465	.198	.057	-.010	.940
		バルコニー	.457	.199	.085	-.020	.933
		外壁	.008	.198	1.000	-.468	.484
青	外壁	屋根	-.457	.199	.085	-.933	.020
		バルコニー	1.028*	.199	.000	-.506	-.549
		屋根	-.408	.198	.121	-.884	.069
	屋根	外壁	1.028*	.199	.000	-.549	-.506
		バルコニー	.620*	.198	.006	.144	1.096
		外壁	.408	.198	.121	-.069	.884
バルコニー	外壁	-.620*	.198	.006	-1.096	-.144	
	屋根						

推定周辺平均に基づいた
 * 平均値の差は .05 水準で有意です。
 a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される
色相 平方和 自由度 平均平方 F 値 有意確率
ページ 対比 誤差 12.490 643 6.245 6.045 .003
赤 対比 誤差 7.456 643 3.728 1.033 3.609 .028
青 対比 誤差 27.856 643 13.928 1.033 13.482 .000

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

5. トーン * 部位

推定値

従属変数: 癒される
トーン 部位 平均値 標準誤差 95%信頼区間
同じ 外壁 2.921 .136 2.653 3.189
屋根 3.471 .137 3.202 3.740
バルコニー 3.245 .137 2.975 3.514
高い 外壁 2.915 .137 2.646 3.184
屋根 3.667 .137 3.397 3.936
バルコニー 2.531 .136 2.263 2.799
低い 外壁 3.143 .136 2.875 3.411
屋根 2.892 .137 2.622 3.161
バルコニー 2.940 .137 2.671 3.209

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される
部位 (I) トーン (J) トーン 平均値の差 (I-J) 標準誤差 有意確率* 差の 95%信頼区間
外壁 同じ 高い 低い .006 .198 1.000 -470 .482
高い 同じ 低い -.006 .198 1.000 -482 .470
低い 同じ 高い .222 .198 .786 -253 .697
屋根 同じ 高い 低い -.195 .199 .975 -672 .281
高い 同じ 低い .195 .199 .975 -281 .672
低い 同じ 高い -.775* .199 .000 .298 1.252
バルコニー 同じ 高い 低い .713* .198 .001 .237 1.190
高い 同じ 低い -.304 .199 .378 -.172 .781
低い 同じ 高い -.713* .198 .001 -1.190 -237 .781

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される
部位 平方和 自由度 平均平方 F 値 有意確率
外壁 対比 誤差 1.778 643 .889 1.033 .860 .423
屋根 対比 誤差 16.981 643 8.491 1.033 8.219 .000
バルコニー 対比 誤差 13.453 643 6.727 1.033 6.512 .002

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

従属変数: 癒される
トーン 部位 平均値 標準誤差 95%信頼区間
同じ 外壁 2.921 .136 2.653 3.189
屋根 3.471 .137 3.202 3.740
バルコニー 3.245 .137 2.975 3.514
高い 外壁 2.915 .137 2.646 3.184
屋根 3.667 .137 3.397 3.936
バルコニー 2.531 .136 2.263 2.799
低い 外壁 3.143 .136 2.875 3.411
屋根 2.892 .137 2.622 3.161
バルコニー 2.940 .137 2.671 3.209

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される
トーン (I) 部位 (J) 部位 平均値の差 (I-J) 標準誤差 有意確率* 差の 95%信頼区間
同じ 外壁 屋根 -.550* .198 .017 -1.026 -.074
バルコニー -.324 .198 .309 -.800 .152
外壁 外壁 5.50* .198 .017 .074 1.026
バルコニー .226 .199 .767 -.251 .704
高い 外壁 屋根 .324 .198 .309 -.152 .800
バルコニー -.226 .199 .767 -.704 .251
外壁 外壁 -.751* .199 .001 -1.228 -.275
バルコニー .384 .199 .161 -.093 .860
屋根 外壁 .751* .199 .001 .275 1.228
バルコニー 1.135* .198 .000 .660 1.611
低い 外壁 屋根 -.251 .199 .617 -.225 .728
バルコニー .203 .198 .919 -.273 .678
外壁 外壁 -.251 .199 .617 -.728 .225
バルコニー -.049 .199 1.000 -.526 .428
バルコニー 外壁 -.203 .198 .919 -.678 .273
屋根 .049 .199 1.000 -.428 .526

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される
トーン 平方和 自由度 平均平方 F 値 有意確率
同じ 対比 誤差 8.036 643 4.018 1.033 3.890 .021
高い 対比 誤差 35.115 643 17.558 1.033 16.996 .000
低い 対比 誤差 1.870 643 .935 1.033 .905 .405

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

7. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 癒される
規則性 部位 平均値 標準誤差 95%信頼区間
なし 外壁 2.861 .092 2.680 3.042
屋根 3.611 .092 3.430 3.793
バルコニー 2.894 .092 2.713 3.075
あり 外壁 3.125 .141 2.847 3.402
屋根 3.075 .142 2.796 3.353
バルコニー 2.917 .142 2.638 3.195

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される
部位 (I) 規則性 (J) 規則性 平均値の差 (I-J) 標準誤差 有意確率* 差の 95%信頼区間
外壁 なし あり -.264 .186 .157 -.629 -.102
あり なし .264 .186 .157 -.102 .629
屋根 なし あり .537* .187 .004 .170 .903
あり なし -.537* .187 .004 -.903 -.170
バルコニー なし あり -.023 .187 .904 -.389 .344
あり なし .023 .187 .904 -.344 .389

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される
部位 平方和 自由度 平均平方 F 値 有意確率
外壁 対比 誤差 2.073 643 2.073 1.033 2.007 .157
屋根 対比 誤差 8.551 643 8.551 1.033 8.278 .004
バルコニー 対比 誤差 .015 643 .015 1.033 .015 .904

F 値は 規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

8. 規則性 * 部位

推定値

従属変数: 癒される
規則性 部位 平均値 標準誤差 95%信頼区間
なし 外壁 2.861 .092 2.680 3.042
屋根 3.611 .092 3.430 3.793
バルコニー 2.894 .092 2.713 3.075
あり 外壁 3.125 .141 2.847 3.402
屋根 3.075 .142 2.796 3.353
バルコニー 2.917 .142 2.638 3.195

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される
規則性 (I) 部位 (J) 部位 平均値の差 (I-J) 標準誤差 有意確率* 差の 95%信頼区間
なし 外壁 屋根 -.750* .136 .000 -1.077 -.423
バルコニー -.033 .136 1.000 -.360 .294
外壁 外壁 .750* .136 .000 .423 1.077
バルコニー .717* .136 .000 .391 1.044
高い 外壁 屋根 .033 .136 1.000 -.294 .360
バルコニー -.717* .136 .000 -1.044 -.391
あり 外壁 屋根 .050 .215 1.000 -.466 .566
バルコニー .208 .215 1.000 -.308 .725
外壁 外壁 -.050 .215 1.000 -.566 .466
バルコニー .158 .216 1.000 -.359 .675
バルコニー 外壁 -.208 .215 1.000 -.725 .308
屋根 -.158 .216 1.000 -.675 .359

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される
規則性 対比 誤差 平均平方 F 値 有意確率
なし 対比 誤差 40.028 643 20.014 1.033 19.374 .000
あり 対比 誤差 1.051 643 .525 1.033 .509 .602

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

9. トーン * 色相

推定値

従属変数: 癒される
トーン 色相 平均値 標準誤差 95%信頼区間
同じ ページ 3.388 .136 3.120 3.656
赤 3.332 .137 3.063 3.601
青 2.916 .137 2.647 3.185
高い ページ 3.425 .136 3.157 3.693
赤 2.900 .136 2.633 3.168
青 2.787 .138 2.517 3.058
低い ページ 3.621 .138 3.351 3.892
赤 2.764 .136 2.496 3.032
青 2.590 .136 2.322 2.857

ヘアごとの比較

従属変数: 癒される
色相 (I) トーン (J) トーン 平均値の差 (I-J) 標準誤差 有意確率* 差の 95%信頼区間
ページ 同じ 高い 低い -.037 .198 1.000 -.512 .438
高い 同じ 低い .037 .198 1.000 -.438 .512
低い 同じ 高い .233 .199 .723 -.244 .710
赤 同じ 高い 低い .432 .198 .090 -.044 .908
高い 同じ 低い -.568* .198 .013 .092 1.045
低い 同じ 低い -.432 .198 .090 -.908 .044
青 同じ 高い 低い .129 .199 1.000 -.349 .607
高い 同じ 低い -.327 .198 .301 -.150 .803
低い 同じ 高い -.327 .198 .301 -.803 .150

推定周辺平均に基づいた
* 平均値の差は .05 水準で有意です。
a. 多重比較の調整: Bonferroni.

色相		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページ	対比	1.638	2	.819	.793	.453
	誤差	664.247	643	1.033		
赤	対比	9.223	2	4.612	4.464	.012
	誤差	664.247	643	1.033		
青	対比	2.843	2	1.421	1.376	.253
	誤差	664.247	643	1.033		

F 値はトーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

10. トーン * 色相

トーン 色相		平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ページ	3.388	.136	3.120	3.656
	赤	3.332	.137	3.063	3.601
	青	2.916	.137	2.647	3.185
高い	ページ	3.425	.136	3.157	3.693
	赤	2.900	.136	2.633	3.168
	青	2.787	.138	2.517	3.058
低い	ページ	3.621	.138	3.351	3.892
	赤	2.764	.136	2.496	3.032
	青	2.590	.136	2.322	2.857

トーン	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
同じ	ページ	赤	.056	.198	1.000	-.420	.532
		青	.472	.198	.053	-.004	.948
	赤	ページ	-.056	.198	1.000	-.532	.420
		青	.416	.199	.111	-.062	.893
	青	ページ	-.472	.198	.053	-.948	.004
		赤	-.416	.199	.111	-.893	.062
高い	ページ	赤	.525*	.198	.025	.050	1.000
		青	.638*	.199	.004	.161	1.115
	赤	ページ	-.525*	.198	.025	-1.000	-.050
		青	.113	.199	1.000	-.364	.590
	青	ページ	-.638*	.199	.004	-1.115	-.161
		赤	-.113	.199	1.000	-.590	.364
低い	ページ	赤	.857*	.199	.000	.381	1.334
		青	1.032*	.199	.000	.555	1.508
	赤	ページ	-.857*	.199	.000	-1.334	-.381
		青	.174	.198	1.000	-.301	.649
	青	ページ	-1.032*	.199	.000	-1.508	-.555
		赤	-.174	.198	1.000	-.649	.301

推定周辺平均に基づいた

* 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

トーン		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	6.953	2	3.477	3.366	.035
	誤差	664.247	643	1.033		
高い	対比	12.173	2	6.087	5.892	.003
	誤差	664.247	643	1.033		
低い	対比	31.845	2	15.922	15.413	.000
	誤差	664.247	643	1.033		

F 値は色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

11. 規則性 * 色相

規則性 色相		平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	ページ	3.376	.092	3.195	3.557
	赤	2.872	.092	2.691	3.053
	青	3.119	.092	2.938	3.301
あり	ページ	3.581	.142	3.302	3.859
	赤	3.126	.141	2.848	3.403
	青	2.410	.142	2.131	2.688

色相	(I) 規則性	(J) 規則性	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
ページ	なし	あり	-.205	.187	.273	-.571	.162
		あり	-.205	.187	.273	-.162	.571
赤	なし	あり	-.254	.186	.172	-.620	.111
		あり	-.254	.186	.172	-.111	.620
青	なし	あり	-.710*	.187	.000	-.343	1.078
		あり	-.710*	.187	.000	-1.076	-.343

推定周辺平均に基づいた

* 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

色相		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページ	対比	1.245	1	1.245	1.205	.273
	誤差	664.247	643	1.033		
赤	対比	1.927	1	1.927	1.866	.172
	誤差	664.247	643	1.033		
青	対比	14.941	1	14.941	14.463	.000
	誤差	664.247	643	1.033		

F 値は規則性 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

12. 規則性 * 色相

規則性 色相		平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
なし	ページ	3.376	.092	3.195	3.557
	赤	2.872	.092	2.691	3.053
	青	3.119	.092	2.938	3.301
あり	ページ	3.581	.142	3.302	3.859
	赤	3.126	.141	2.848	3.403
	青	2.410	.142	2.131	2.688

規則性	(I) 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限
なし	ページ	赤	.504*	.136	.001	.177	.831
		青	.257	.136	.180	-.070	.583
	赤	ページ	-.504*	.136	.001	-.831	-.177
		青	-.248	.136	.209	-.575	.080
	青	ページ	-.257	.136	.180	-.583	.070
		赤	-.248	.136	.209	-.080	.575
あり	ページ	赤	.455	.215	.105	-.062	.971
		青	1.171*	.216	.000	.654	1.688
	赤	ページ	-.455	.215	.105	-.971	.062
		青	.716*	.215	.003	.200	1.232
	青	ページ	-1.171*	.216	.000	-1.688	-.654
		赤	-.716*	.215	.003	-1.232	-.200

推定周辺平均に基づいた

* 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

規則性		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
なし	対比	14.178	2	7.089	6.862	.001
	誤差	664.247	643	1.033		
あり	対比	31.014	2	15.507	15.011	.000
	誤差	664.247	643	1.033		

F 値は色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したヘアごとの比較に基づいています。

一変量の分散分析 学習経験なし「癒される」

部位	値ラベル	N
色相	1.00	234
	2.00	234
	3.00	234
トーン	1.00	234
	2.00	234
	3.00	234
規則性	1.00	468
	2.00	234
	3.00	234

被験者間効果の検定

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	156.009 ^a	25	6.240	5.042	.000
切片	5250.160	1	5250.160	4242.320	.000
部位	28.313	2	14.156	11.439	.000
色相	39.523	2	19.762	15.968	.000
トーン	14.682	2	7.341	5.932	.003
規則性	.086	1	.086	.070	.792
部位 * 色相	28.452	4	7.113	5.747	.000
部位 * トーン	12.366	4	3.092	2.498	.042
部位 * 規則性	2.328	2	1.164	.940	.391
色相 * トーン	12.016	4	3.004	2.427	.047
色相 * 規則性	4.037	2	2.019	1.631	.196
トーン * 規則性	2.652	2	1.326	1.072	.343
誤差	836.596	676	1.238		
総和	6915.000	702			
修正総和	992.605	701			

a. R2乗 = .157 (調整済みR2乗 = .126)

1. 部位

部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
外壁	2.796	.080	2.639	2.953
屋根	3.213	.080	3.056	3.370
バルコニー	2.693	.080	2.536	2.850

(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間	
					下限	上限
外壁	屋根	-.417*	.115	.001	-.693	-.141
	バルコニー	.103	.115	1.000	-.173	.379
屋根	外壁	.417*	.115	.001	.141	.693
	バルコニー	.519*	.115	.000	.243	.795
バルコニー	外壁	-.103	.115	1.000	-.379	.173
	屋根	-.519*	.115	.000	-.795	-.243

推定周辺平均に基づいた

* 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	28.313	2	14.156	11.439	.000
誤差	836.596	676	1.238		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 部位 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

2. 色相

推定値

従属変数: 癒される

色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
ページ	3.266	.080	3.109	3.423
赤	2.792	.080	2.635	2.949
青	2.644	.080	2.487	2.801

ペアごとの比較

従属変数: 癒される

① 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
ページ	赤	.474*	.115	.000	.198	.750
	青	.622*	.115	.000	.346	.898
赤	ページ	-.474*	.115	.000	-.750	-.198
	青	.147	.115	.601	-.129	.423
青	ページ	-.622*	.115	.000	-.898	-.346
	赤	-.147	.115	.601	-.423	.129

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	39.523	2	19.762	15.968	.000
誤差	836.596	676	1.238		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の 色相 の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

3. トーン

推定値

従属変数: 癒される

トーン	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
			下限	上限
同じ	3.129	.080	2.972	3.286
高い	2.790	.080	2.633	2.946
低い	2.783	.080	2.626	2.940

ペアごとの比較

従属変数: 癒される

① トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
					下限	上限
同じ	高い	.340*	.115	.010	.064	.616
	低い	.346*	.115	.008	.070	.622
高い	同じ	-.340*	.115	.010	-.616	-.064
	低い	.006	.115	1.000	-.270	.282
低い	同じ	-.346*	.115	.008	-.622	-.070
	高い	-.006	.115	1.000	-.282	.270

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
対比	14.682	2	7.341	5.932	.003
誤差	836.596	676	1.238		

各F 値は表示された他の効果の各水準の組合せ内の トーン の単純効果を検定します。このような検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

4. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 癒される

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ページ	外壁	3.543	.146	3.256	3.830
	屋根	3.173	.146	2.886	3.461
	バルコニー	3.082	.146	2.794	3.369
赤	外壁	2.530	.146	2.243	2.817
	屋根	3.293	.146	3.006	3.580
	バルコニー	2.552	.146	2.265	2.839
青	外壁	2.314	.146	2.027	2.602
	屋根	3.171	.146	2.884	3.458
	バルコニー	2.447	.146	2.160	2.734

ペアごとの比較

従属変数: 癒される

部位	① 色相	(J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
外壁	ページ	赤	1.013*	.212	.000	.504	1.522
		青	1.229*	.212	.000	.720	1.737
	赤	ページ	-1.013*	.212	.000	-1.522	-.504
		青	.216	.212	.927	-.293	.725
	青	ページ	-1.229*	.212	.000	-1.737	-.720
		赤	-.216	.212	.927	-.725	.293
屋根	ページ	赤	-.120	.212	1.000	-.629	.389
		青	.002	.212	1.000	-.507	.511
	赤	ページ	.120	.212	1.000	-.389	.629
		青	.122	.212	1.000	-.387	.631
	青	ページ	-.002	.212	1.000	-.511	.507
		赤	-.122	.212	1.000	-.631	.387
バルコニー	ページ	赤	.530*	.212	.038	.021	1.039
		青	.635*	.212	.009	.126	1.143
	赤	ページ	-.530*	.212	.038	-1.039	-.021
		青	.105	.212	1.000	-.404	.614
	青	ページ	-.635*	.212	.009	-1.143	-.126
		赤	-.105	.212	1.000	-.614	.404

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	47.386	2	23.693	19.145	.000
	誤差	836.596	676	1.238		
屋根	対比	.535	2	.268	.216	.806
	誤差	836.596	676	1.238		
バルコニー	対比	12.746	2	6.373	5.150	.006
	誤差	836.596	676	1.238		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

5. 色相 * 部位

推定値

従属変数: 癒される

色相	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
ページ	外壁	3.543	.146	3.256	3.830
	屋根	3.173	.146	2.886	3.461
	バルコニー	3.082	.146	2.794	3.369
赤	外壁	2.530	.146	2.243	2.817
	屋根	3.293	.146	3.006	3.580
	バルコニー	2.552	.146	2.265	2.839
青	外壁	2.314	.146	2.027	2.602
	屋根	3.171	.146	2.884	3.458
	バルコニー	2.447	.146	2.160	2.734

ペアごとの比較

従属変数: 癒される

色相	① 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
ページ	外壁	屋根	.370	.212	.245	-.139	.879
		バルコニー	.462	.212	.090	-.047	.970
	屋根	外壁	-.370	.212	.245	-.879	.139
		バルコニー	.092	.212	1.000	-.417	.601
	バルコニー	外壁	-.462	.212	.090	-.970	.047
		屋根	-.092	.212	1.000	-.601	.417
赤	外壁	屋根	-.763*	.212	.001	-1.272	-.254
		バルコニー	-.021	.212	1.000	-.530	.487
	屋根	外壁	.763*	.212	.001	.254	1.272
		バルコニー	.741*	.212	.002	.233	1.250
	バルコニー	外壁	.021	.212	1.000	-.487	.530
		屋根	-.741*	.212	.002	-1.250	-.233
青	外壁	屋根	-.857*	.212	.000	-1.366	-.348
		バルコニー	-.132	.212	1.000	-.641	.376
	屋根	外壁	.857*	.212	.000	.348	1.366
		バルコニー	.724*	.212	.002	.216	1.233
	バルコニー	外壁	.132	.212	1.000	-.376	.641
		屋根	-.724*	.212	.002	-1.233	-.216

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

色相	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ページ	対比	6.572	2	3.286	2.655	.071
	誤差	836.596	676	1.238		
赤	対比	20.777	2	10.389	8.394	.000
	誤差	836.596	676	1.238		
青	対比	23.426	2	11.713	9.465	.000
	誤差	836.596	676	1.238		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

6. トーン * 部位

推定値

従属変数: 癒される

トーン	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	外壁	2.941	.146	2.653	3.228
	屋根	3.340	.146	3.053	3.627
	バルコニー	3.107	.146	2.820	3.394
	高い	2.575	.146	2.288	2.862
高い	外壁	3.415	.146	3.128	3.702
	バルコニー	2.379	.146	2.091	2.666
低い	外壁	2.872	.146	2.585	3.159
	屋根	2.883	.146	2.596	3.170
	バルコニー	2.594	.146	2.307	2.881

ペアごとの比較

従属変数: 癒される

部位	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
						外壁	同じ
外壁	同じ	低い	.068	.212	1.000	-.440	.577
		高い	-.365	.212	.256	-.874	.143
	高い	同じ	-.297	.212	.485	-.806	.212
		低い	-.068	.212	1.000	-.577	.440
屋根	同じ	高い	-.297	.212	.485	-.806	.212
		低い	-.075	.212	1.000	-.584	.434
	高い	同じ	.457	.212	.094	-.052	.966
		低い	.075	.212	1.000	-.434	.584
バルコニー	高い	同じ	.532*	.212	.037	-.023	1.041
		低い	-.457	.212	.094	-.966	.052
	低い	同じ	-.532*	.212	.037	-1.041	-.023
		高い	.729*	.212	.002	.220	1.237
バルコニー	同じ	高い	.513*	.212	.048	.004	1.022
		低い	-.729*	.212	.002	-1.237	-.220
	高い	同じ	-.216	.212	.927	-.725	.293
		低い	-.513*	.212	.048	-1.022	-.004
低い	同じ	.216	.212	.927	-.293	.725	

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

部位	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
外壁	対比	4.155	2	2.078	1.679	.187
	誤差	836.596	676	1.238		
屋根	対比	9.135	2	4.568	3.691	.025
	誤差	836.596	676	1.238		
バルコニー	対比	15.425	2	7.713	6.232	.002
	誤差	836.596	676	1.238		

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

7. トーン * 部位

推定値

従属変数: 癒される

トーン	部位	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	外壁	2.941	.146	2.653	3.228
	屋根	3.340	.146	3.053	3.627
	バルコニー	3.107	.146	2.820	3.394
	高い	2.575	.146	2.288	2.862
高い	外壁	3.415	.146	3.128	3.702
	バルコニー	2.379	.146	2.091	2.666
低い	外壁	2.872	.146	2.585	3.159
	屋根	2.883	.146	2.596	3.170
	バルコニー	2.594	.146	2.307	2.881

ペアごとの比較

従属変数: 癒される

トーン	(I) 部位	(J) 部位	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
						同じ	外壁
バルコニー	-.167	.212	1.000	-.676	.342		
屋根	外壁	.400	.212	.180	-.109		.908
	バルコニー	.233	.212	.817	-.276		.742
高い	外壁	バルコニー	.167	.212	1.000	-.342	.676
		屋根	-.233	.212	.817	-.742	.276
	屋根	外壁	-.840*	.212	.000	-1.349	-.331
		バルコニー	.197	.212	1.000	-.312	.705
低い	外壁	バルコニー	.840*	.212	.000	.331	1.349
		屋根	1.036*	.212	.000	.527	1.545
	バルコニー	外壁	-.197	.212	1.000	-.705	.312
		屋根	-1.036*	.212	.000	-1.545	-.527
低い	外壁	バルコニー	-.011	.212	1.000	-.520	.498
		屋根	.278	.212	.572	-.231	.787
	バルコニー	外壁	.011	.212	1.000	-.498	.520
		屋根	.288	.212	.522	-.220	.797
低い	外壁	-.278	.212	.572	-.787	.231	
	バルコニー	-.288	.212	.522	-.797	.220	

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

トーン	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	4.436	2	2.218	1.792	.167
	誤差	836.596	676	1.238		
高い	対比	33.362	2	16.681	13.479	.000
	誤差	836.596	676	1.238		
低い	対比	2.945	2	1.473	1.190	.305
	誤差	836.596	676	1.238		

F 値は 部位 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

8. トーン * 色相

推定値

従属変数: 癒される

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ベージュ	3.398	.146	3.111	3.685
	赤	3.171	.146	2.884	3.458
	青	2.819	.146	2.532	3.106
高い	ベージュ	3.062	.146	2.775	3.349
	赤	2.571	.146	2.284	2.858
	青	2.735	.146	2.448	3.022
低い	ベージュ	3.338	.146	3.051	3.625
	赤	2.633	.146	2.346	2.920
	青	2.379	.146	2.091	2.666

ペアごとの比較

従属変数: 癒される

色相	(I) トーン	(J) トーン	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a	
						下限	上限
						ベージュ	同じ
低い	.060	.212	1.000	-.449	.569		
高い	-.335	.212	.342	-.844	.173		
高い	同じ	-.276	.212	.582	-.784		.233
	低い	-.060	.212	1.000	-.569		.449
	高い	.276	.212	.582	-.233		.784
赤	同じ	高い	.600*	.212	.014	.092	1.109
		低い	.538*	.212	.034	.030	1.047
		高い	-.600*	.212	.014	-1.109	-.092
	高い	同じ	-.062	.212	1.000	-.571	.447
		低い	-.538*	.212	.034	-1.047	-.030
		高い	.062	.212	1.000	-.447	.571
青	同じ	高い	.083	.212	1.000	-.426	.592
		低い	.440	.212	.115	-.069	.949
		高い	-.083	.212	1.000	-.592	.426
	高い	同じ	.357	.212	.279	-.152	.866
		低い	-.440	.212	.115	-.949	.069
		高い	-.357	.212	.279	-.866	.152

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

従属変数: 癒される

色相	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
ベージュ	対比	3.526	2	1.763	1.424	.241
	誤差	836.596	676	1.238		
赤	対比	12.008	2	6.004	4.852	.008
	誤差	836.596	676	1.238		
青	対比	6.020	2	3.010	2.432	.089
	誤差	836.596	676	1.238		

F 値は トーン の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

9. トーン * 色相

推定値

従属変数: 癒される

トーン	色相	平均値	標準誤差	95% 信頼区間	
				下限	上限
同じ	ベージュ	3.398	.146	3.111	3.685
	赤	3.171	.146	2.884	3.458
	青	2.819	.146	2.532	3.106
高い	ベージュ	3.062	.146	2.775	3.349
	赤	2.571	.146	2.284	2.858
	青	2.735	.146	2.448	3.022
低い	ベージュ	3.338	.146	3.051	3.625
	赤	2.633	.146	2.346	2.920
	青	2.379	.146	2.091	2.666

ペアごとの比較

従属変数: 癒される

トーン (I) 色相 (J) 色相	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^a	差の 95% 信頼区間 ^a		
				下限	上限	
同じ	ベージュ 赤	.226	.212	.857	-.282	.735
	ベージュ 青	-.579*	.212	.019	.070	1.088
	赤 ベージュ	-.226	.212	.857	-.735	.282
	赤 青	.353	.212	.290	-.156	.861
	青 ベージュ	-.579*	.212	.019	-1.088	-.070
	青 赤	-.353	.212	.290	-.861	-.156
高い	ベージュ 赤	.491	.212	.062	-.017	1.000
	ベージュ 青	.327	.212	.371	-.182	.836
	赤 ベージュ	-.491	.212	.062	-1.000	.017
	赤 青	-.165	.212	1.000	-.673	.344
	青 ベージュ	-.327	.212	.371	-.836	.182
	青 赤	.165	.212	1.000	-.344	.673
低い	ベージュ 赤	.705*	.212	.003	.196	1.214
	ベージュ 青	.959*	.212	.000	.451	1.468
	赤 ベージュ	-.705*	.212	.003	-1.214	-.196
	赤 青	.254	.212	.693	-.255	.763
	青 ベージュ	-.959*	.212	.000	-1.468	-.451
	青 赤	-.254	.212	.693	-.763	.255

推定周辺平均に基づいた

*. 平均値の差は .05 水準で有意です。

a. 多重比較の調整: Bonferroni.

=1変量検定

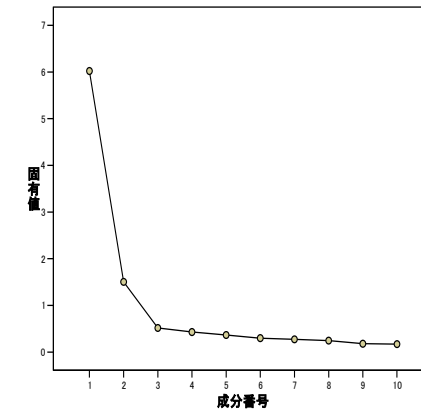
従属変数: 癒される

トーン	対比	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
同じ	対比	9.377	2	4.688	3.788	.023
	誤差	836.596	676	1.238		
高い	対比	6.891	2	3.446	2.784	.062
	誤差	836.596	676	1.238		
低い	対比	27.205	2	13.602	10.991	.000
	誤差	836.596	676	1.238		

F 値は 色相 の多変量効果を検定します。この検定は推定周辺平均間で線型に独立したペアごとの比較に基づいています。

■ 因子分析 学習経験あり

因子のスクリーンプロット



回転後の成分行列^a

	成分		
	1	2	3
心地よい	.870	.029	.262
好き	.868	.220	.169
住みたい	.863	.128	.212
美しい	.855	.018	.174
癒される	.830	.006	.276
違和感がない	.822	-.196	.239
親しみのある	.747	.107	.374
個性がある	-.118	.903	-.143
楽しい	.265	.779	.335
生活感のある	.454	.062	.848

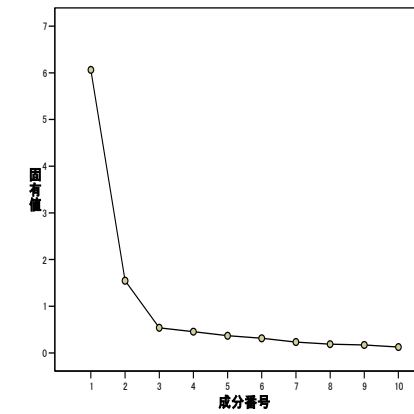
因子抽出法: 主成分分析

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 4 回の反復で回転が収束しました。

■ 因子分析 学習経験なし

因子のスクリーンプロット



回転後の成分行列^a

	成分		
	1	2	3
美しい	.857	.285	.045
心地よい	.834	.383	.047
好き	.774	.423	.226
違和感がない	.756	.430	-.187
住みたい	.663	.508	.288
生活感のある	.303	.853	.054
癒される	.528	.735	.105
親しみのある	.603	.618	-.055
個性がある	-.203	.009	.911
楽しい	.434	.099	.782

因子抽出法: 主成分分析

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 4 回の反復で回転が収束しました。